

増進に關し追つて取極めをなすべき旨の文書を三國間に交換し、
に、いづれも正式確認を完了、歴史的會議は圓滿裡に終止符を打
つた。

一月二十日帝國政府が居中調停の申入れを行ひ、右に基いて兩
國間に停戰協定締結せられたる後、二月七日第一回公式會議を開
いて以來正に三十三日目である、この短期間にかゝる難事業が、
一月三十一日サイゴン帝國軍艦上における複雑多岐な國際場裡に
あつてかくも圓滿なる妥結をあげたことは帝國政府の公正妥當な
る調停斡旋と、佛、泰兩國政府の互讓精神の結晶によるものであ
り本調停案の受諾によつて一步誤れば大事に至らんとした紛争も
こゝに解決を見るに至り、兩國間に和平親和の關係が回復さるる
とともに帝國と兩國との共存共榮の強靱なる紐帶は一段と強化さ
れた次第である。それは大東亞の安寧靜謐、ひいては世界平和への
確乎たる一礎石に外ならない。兩國のため更に大にして世界人類
のため慶祝措く能はざる所以である。殊に日夜大東亞共榮國確立
に精進しつゝある帝國としては東南アジア地域の靜謐安寧確保が
その第一要件なるにも鑑み、本調停成立がこの聖戰完成途上正に
竿頭一步を進め得たることは日本外交の勝利としてその意義は高
く評價さるべきものである。

なほその間英米は自家の願劣なる心事をもつて濫りに幻影を描
き、我國を誣ひるに名を調停に藉りて利を收めんとするものとな
し、調停成立を極力阻害せんと企てたが、これ等の策謀は盡く雲

煙霧消し、こゝにさしもの難問題も目出度く解決したのは、我が
方の態度が公明正大であつたからである。

日泰日佛間の特殊關係樹立増進へ 最終調停會議終了後情報
局では左の如き日、佛、泰三國共同コンミュニケを發表した。

三國共同コンミュニケ (情報局發表三月十二日午後四時)

今回東京に於て開催せられたるタイ國、佛領印度支那間國境紛
争調停會議は、去る二月七日第一回公式會議を以て開始せられ
爾後三回の非公式會議の外、連日個別會議を重ね、調停者側の
斡旋により、漸次双方意見の接近を圖りたる結果、大體妥結の
見透を得たるを以て、調停國は同月二十四日、第四次非公式會
議の席上調停案を提出し、爾來兩當事國に對し同案受諾方勸説
し來れるところ今般佛・タイ兩國政府は、右調停案を基礎とし
これに若干の修正を加へたるものを受諾し、十一日午後四時調
停條項に署名を了したり、調停條項左の通り。

(イ)佛國は一九〇四年二月十三日のフランス國、シヤム國間協
約第二條に定められたるバクライ並にバツタンバン、ブルサツ
ト兩州の州境以北シエムレアブ、バツタンバン兩州境の南端グ
ラン・ラツク湖に接する地點より經度線に沿ひ北上し十五Gの
緯度線との交會點に至り、右交會點より緯度線に沿ひ東向し、
メコン河に達する線以北のメコン河右岸の土地をタイ國に割讓
す、但しスツン・トレン對岸小地域は佛印側に留保す。
(ロ)前記の割讓地域は、全地域を非武装地帯とし、且つ佛蘭西

國民及び佛領印度支那人は全地域において入國、居住、營業に
付タイ國民と絶對平等待遇を享有す。

(ハ)タイ國政府はルアン・プラバン對岸三角地帯におけるルア
ン・プラバン王室御陵を尊敬し、その保存參拜等に關し便宜を
供與す。

(ニ)メコン河境界は、最深部河底の原則により之を定むるも、
コン及びブコン二島嶼はタイ國主權の下に兩國の共同管理とし
同兩島嶼における從來の佛側施設は佛國に屬す。

尙右署名に際し、日本側は前記調停條項による紛争解決の決定
的性質を保障し、佛タイ側より大東亞に於ける平和の維持、特
に日タイ日佛間の特殊緊密關係の樹立、また増進に關聯し追て
取極めを爲すべき趣旨を明にしたる文書をそれぞれ日タイ、日佛
間に取り交したり。

かくして佛・タイ兩國間に友好平和關係恢復せらるると共に關
係三國の紐帶益々強化せられるに至るべし。

註(イ)項に「十五Gの緯度線との交會點」とあるが、十五Gと
は北緯十五度の意味ではなく、フランス獨得の地球物理学上の
用語であつて、實際は北緯十三度四分附近に相當する。

東亞平和維持に關する三國取極め 十一日の泰、佛印紛争調
停最終會議席上日泰、日佛間に相互に大東亞平和維持に關する公
文が交換され、十二日正午情報局からその全文を發表された。公
文はいづれも書翰の形式で、日佛間は、松岡外務大臣發アンリ大

使宛一、アンリ大使發松岡外務大臣宛一、また日泰間は、一、松岡
外務大臣發ワンワイ殿下宛一、ワンワイ殿下發松岡外相宛の都合
四通となつてゐる。日佛間の交換文内容は松岡外相からアンリ大
使宛書翰において

一、帝國政府は今次調停案による解決を佛國政府に保障し
一、他方帝國政府は佛國政府が大東亞における平和の維持、特
に帝國および佛領印度支那間における善隣友好關係の樹立なら
びに經濟的緊密關係の増進に努力され、かつ日本に對し直接ま
たは間接に對抗するが如き性質の政治上、經濟上または軍事上
の協力を豫見する何等の協定または了解をも佛印に關し第三國
と締結するの意思なきことを宣言するを疑はない。

旨を表示し、これに答へて佛國側からアンリ大使發松岡外相宛書
翰をもつてフランス政府はこれを宣言することを闡明し、かつフ
ランス政府は帝國政府が十五年八月三十日兩國間に取極められた
佛印の領土ならびに主權尊重に關する協定および爾後の軍事取極
めの嚴格なる遵守を確保されんことを期待する旨を表示した。ま
た日泰間については松岡外相發ワンワイ殿下宛書翰において日佛
間と同様の趣旨を申入れ泰國政府はフランス政府同様これを宣言
し、かつ十五年六月締結の日泰友好親條約の嚴格なる遵守確保
を期待する旨を述べた。なほ松岡外相發書翰において帝國政府は
佛泰兩國とも前記帝國政府の保障ならびに佛泰兩國の宣言は後日
佛泰兩國間に紛争解決の條約成立と同時に正式文書により確認さ

るべきものと了解する旨を明記し、従つて後日さらに正式文書の交換が行はれるわけとなつた。

日泰、日佛間の取極めは、泰・佛印紛争調停條項が大東亞圈内の紛争を鎮靜し安定靜謐を期するに對し、さらに一步を進めた積極的意義をもつものといひ得る。すなはち日佛印間には十五年八月卅日の松岡アンリ協定により、帝國政府は佛印の領土ならびに主權を尊重すると同時に、佛印は帝國の支那事變遂行に協力する旨を約し、これにもとづき特にわが軍の佛印進駐となり、かつ交渉中の日、佛印經濟會議の開催となつたわけである。一方日泰關係は十五年六月十二日締結十二月二十三日成立の日泰友好和親條約により緊密關係を強化したが、今回泰、佛印國境紛争調停成立を機に日佛印、日泰間の善隣友好關係ならびに經濟的緊密關係の増進に努力すると同時に、帝國の利益に反するが如き第三國間の政治上、經濟上または軍事上の協定または了解を結ばぬことを約したもので、これにより今後大東亞共榮圈の確立を阻害するがごとき英米の策動を封じ得ることになり、東亞人の手による大東亞共榮圈の樹立に、極めて重要な礎石を築いたものである。

松岡大臣發アンリ大使宛書翰 以書翰啓上致候陳者大東亞に於ける平和の維持は帝國政府の最重要するところ有之從て帝國政府は帝國との間に千九百四十年八月三十日の協定に依り更に緊密と爲りたる特殊關係を有する佛領印度支那が當事者と爲れる紛争の發展を憂慮を以て注視し來り候

帝國政府は大東亞に於ける平和の維持の見地に立ち且又前記協定を成立せしむるに至りたる平和的且友好的精神を想起し、佛領印度支那、タイ國間紛争を終止せしむるの目的を以て佛、タイ兩國政府に對し居中調停を申入れ候依て帝國政府は佛國政府が無條件に受諾すべきものとして別紙調停案を提案致候佛國政府にしてこれを受諾せらるるにおいては帝國政府は右調停案による本件紛争の解決が決定的にして且變更し得ざるものなることを佛國政府に對し保障するの用意有之候

他方帝國政府は佛國政府が大東亞における平和の維持特に帝國及佛領印度支那間における善隣友好關係の樹立並に經濟的緊密關係の増進に努力せられ且日本國に對し直接又は間接に對抗するが如き性質の政治上、經濟上又は軍事上の協力を發見する何等の協定又は了解をも佛領印度支那に關し第三國と締結するの意思なきことを宣言すべきことを疑はざるもの有之候
前記の帝國政府の保障並に佛國政府の宣言は後日佛國・タイ國間紛争解決の爲の條約成立と同時に正式文書に依り確認せらるべきものと了解致候

本大臣は茲に重て閣下に向て敬意を表し候 敬具
アンリ大使發松岡大臣宛書翰 以書翰啓上致候陳者本日附貴翰を以て貴大臣は左記を御通報相成候(往翰文挿入)
本使は右御通報を敬承致すとともに佛國政府が局地的情勢よりするも將又武運よりするも未だタイ國政府と自由に交渉し且締

結せられたる條約の利益を放棄せざるを得ざる立場に在らざるにも拘らず現下の事態において日本國政府の懇請に従ふの用意ある旨閣下に對し通報するの光榮を有し候佛國政府は大東亞における平和の維持を常に顧念しかつ未だ曾て右平和を擾亂するがごときことを企圖したることなき處別紙調停案を受諾することとに依り千九百四十年八月三十日の協定の基本精神に對する其の忠誠を再び立證致すものに有之候右の精神に基き且又其の極東に於ける屬地を第三國間の紛争に捲込むが如き一切の約束を回避せんことを希望し佛國政府は日本國に對し直接又は間接に對抗するが如き性質の政治上、經濟上又は軍事上の協力を發見する何等の協定又は了解をも佛領印度支那に關し第三國と締結するの意思なきことを宣言致候佛國政府は日本國政府が千九百四十年八月三十日の協定及爾後の軍事取極の嚴格なる遵守を確保せられんことを期待致すものに有之候、本使は茲に重て貴大臣に向て敬意を表し候敬具

松岡大臣發アンリ大使宛書翰 以書翰啓上致候陳者大東亞に於ける平和の維持は帝國政府の最重要するところ有之從て帝國政府は帝國との間に千九百四十年六月十二日の條約に依り更に緊密と爲りたる特殊關係を有するタイ國が當事者と爲れる紛争の發展を憂慮を以て注視し來り候

帝國政府は大東亞に於ける平和の維持の見地に立ち且又前記條約を成立せしむるに至りたる平和的且友好的精神を想起し、タ

東京調停會談

イ國佛領印度支那間紛争を終止せしむるの目的を以てタイ、佛兩國政府に對し居中調停を申入れ候依て帝國政府はタイ國政府が無條件に受諾すべきものとして別紙調停案を提案致候タイ國政府にして之を受諾せらるるにおいては帝國政府は右調停案による本件紛争の解決が決定的にして且變更し得ざるものなることをタイ國政府に對し保障するの用意有之候
他方帝國政府はタイ國政府が大東亞における平和の維持特に帝國及タイ國間に於ける善隣友好關係の樹立並に經濟的緊密關係の増進に努力せられ且日本國に對し直接又は間接に對抗するが如き性質の政治上、經濟上又は軍事上の協力を發見する何等の協定又は了解をも第三國と締結するの意思なきことを宣言すべきことを疑はざるもの有之候
前記の帝國政府の保障並にタイ國政府の宣言は後日タイ國佛國間紛争解決の爲の條約成立と同時に正式文書に依り確認せらるべきものと了解致候

本大臣は茲に重て閣下に向て敬意を表し候 敬具
アンリ大使發松岡大臣宛書翰 以書翰啓上致候陳者本日附貴翰を以て貴大臣は左記を御通報相成候(往翰文挿入)
本使は右御通報を敬承致すと共にタイ國政府が局地的情勢よりするも將又武運よりするも未だ之を餘儀なくせられざるにも拘らず現下の事態に於て日本國政府の懇請に従ふの用意ある旨閣下に對し通報するの光榮を有し候タイ國政府は大東亞に於ける

平和の維持を常に顧念し且未だ曾て右平和を擾亂するが如きことを企圖したることなき處別紙調停案を受諾することに依り千九百四十年六月十二日の條約の基本精神に對する其の忠誠を再び立證致すものに有之候右の精神に基き且又、第三國間の紛争に捲込まれるが如き一切の約束を回避せんことを希望しタイ國政府は日本國に對し直接又は間接に對抗するが如き性質の政治上經濟上又は軍事上の協力を豫見する何等の協定又は了解をも第三國と締結するの意思なきことを宣言致候なほタイ國政府は日本國政府が千九百四十年六月十二日の條約の嚴格なる遵守を確保せられんことを期待致すものに有之候

本全權は茲に重て貴大臣に向て敬意を表し候 敬具

國境畫定委員會 東京會談成立について、今回佛印より讓渡される地帯については紛争當事國たる泰、佛印ならびに調停國たる日本より委員が選定され、國境畫定委員會が紛争現地に開催され、この委員は新に畫定される國境を實地に調査して國境畫定事務ならびに割讓地帯に惹起さるべき種々の問題の處理にあたることとなつた。

割讓地域概観

ルアン・プラバン地區

ラオスの北西部にルアン・プラバン、バクセを貫流するメコン河の右岸地域でルアン・プラバン王國の一部である。安南、カンボジアが一國家を示す言葉であるのに反してラオスは單に安南、カンボジア、タイ、ビルマ、雲南と

一九〇四年の條約によりフランスに割讓された地域であり、住民は泰族が主で南部にはカンボジア人も居住してゐるが人口の密度はこゝも稀薄である。原野を利用して牛馬が放牧されて居り、その皮革の生産が主要産業であるが、一部には棉花が栽培され煙草、麻も生産されてゐる。氣候、雨量ともに棉花の栽培には好適であるが、現在のところ人口少く勞働力も不足し品種の改良も緊急事である。

カンボジア北部地區

紀元九世紀より十六世紀にわたりカンボジアにはクメール王朝が榮え、その在りし日の文化の面影を今日アンコールにとどめて同地を訪問する人々を讚嘆させてゐるが現在のカンボジアは當時のクメール王國の名残である。

このカンボジア王國に對する宗主權の争奪はフランス・泰間に長い間争奪されたが、一八八四年のフランス・カンボジア間の條約でカンボジアは全くフランスの保護國と化したもので現在首都プノンペンにカンボジア王および政府が存在するといへ、全く儀禮上の存在に過ぎない。なほ西部のバツタンバン、シエムレアアは地圖の上ではカンボジアの一部として取扱はれてゐるものの、この部分は一九〇七年に至り佛泰間の條約でフランスに割讓されたものであり、カンボジアの他の部分とは政治的事情を異にしてゐる。今回泰に割讓された部分には山嶽地帯に一部モイ族が居住するといへ主としてカンボジア人が分布して居り割讓される地帯の人口の推計も目下のところ不可能であ

境を接する地理的名稱に過ぎず、地域内には雑多の土人公領が存在し、ルアン・プラバンもその一つであり、フランス人はその領主と保護條約を設定してゐるのである。今回泰に返還される地域は一九〇四年の條約によりフランスに宗主權を讓渡した部分であり、その地域に山脈が走りメコン河とメナム河の分水嶺をなし最高峰アークムは二、一〇〇メートルに達してゐる。また主として五〇〇メートル内外の高原地帯であり雨量も毎年一、〇〇〇乃至一、五〇〇ミリを示し、毎年六、七月は雨期に當る。密林地帯が多く良質のチーク材を産出し、北部からは石炭を産する。また象も多数住んで居り地方税として象頭税が課せられてゐるほどである。この地域一帯は原始林多く交通不便な上にフランス側の調査研究も不十分であり地下の礦物資源等も埋藏されてゐるものと推定されてゐるが何等開發の緒についてゐない。ルアン・プラバンの對岸メコン河の彎曲地帯にはルアン・プラバン王國の祖先代々の墳墓が存在し居り、同地區の泰國割讓はフランス側の好まぬところである。ラオス一帯は住民がすこぶる稀薄であるが、同地方もその例にもれず、住民の大部分は泰族に屬し山嶽地帯にはモイ族が居住、野蠻人で狩獵を業としてゐるが性質はすこぶる温順である。

バクセ地區

ラオスの南西部バクセに面するメコン河の右岸地區である。土地は大體平坦であるが一部は密林で、密林ならざる部分は原野であり、耕作されてゐる面積は狭い。こゝも

るが、現在泰國內に住むカンボジア人と合はせて兩人は完全に佛泰の行政下に分屬せられることになつた。現在までの國境線にはダングレク山脈が主要部分を形成し、他の部分には國境線の不明瞭な地點も多々あつたが今回は地圖上に一線を畫することとなつたので國境確定事業は容易な業ではない。

バツタンバン州

バツタンバン州はかつてタイが征服し、

自國に併呑してゐたが、一九〇七年にいたり佛國に割讓したものでありカンボジア人も三十萬に達し、州内には未墾地も多いが中央部には立派な水田もあり、周圍部にはレンカイ石、サファイア等も産し原野に水牛が多く、産業的に恵まれてゐると同時にその一部はトニレサツプ(大きな湖)に面し軍事上重要な地帯でもある。

メコン河中の島々

従來佛印と泰との國境中メコン河に面

する部分は同河の右岸をもつて國境と定められてゐたので河中の島はフランスに屬してゐたが今回國際法の規定通り河の最深部をもつて國境とすると改訂されたので、多數の島々が泰國に歸屬することゝなつた。バクセ地區の東南部のコン島およびコーン島は特に佛印側に屬することになつたが、コン島は人口一萬に達し隅々まで開墾され煙草、麻等を産出する。なほコン島の周圍の島々の数は四千に達してゐる。

六 最近の經濟情勢

貿易は依然英依存 一九二八年以降不況續きのタイ國貿易も一九三四—三五年より米、錫、ゴム等の値上りにより漸次好轉しつつある。

タイ國累年貿易(單位 1,000 パート)

年 度	輸 入	輸 出	出 超
1931	155,099	161,519	6,510
1932	99,909	134,207	34,298
1933	89,497	152,523	63,026
1934	92,963	144,079	51,106
1935	101,727	172,595	70,868
1936	108,754	158,218	49,464
1937	110,044	184,361	74,317
1938	111,824	169,493	57,668
1939	129,630	204,422	74,792

一九三八—三九年の輸入を主要品別に見ると綿織製品一八、七五八、〇〇〇パート、金屬製品二一、八三〇、〇〇〇パート、機械類七、六五三、〇〇〇パート、織糸四、六三二、〇〇〇パート、燈油三、九〇四、〇〇〇パート、ベンジン三、七八二、〇〇〇

〇パート、砂糖三、六五〇、〇〇〇パート、罐詰ミルク三、六三二、〇〇〇パート、電氣材料三、〇五三、〇〇〇パート、以下液體燃料、煙草、自動車、藥品、野菜、紙、化學製品、穀粉、重油の順序となつてをり、加工品が輸入額の上で七割一分八厘の壓倒的地位を占めてゐる。輸出においては米が首位を占め九七、四一九、〇〇〇パート、ついで錫及び錫鑛の三〇、八一四、〇〇〇パート、ゴム二五、一二三、〇〇〇パート、チーク六、六九四、〇〇〇パート以下鹽魚、獸皮、鹽、乾榴梿子、ステックラックの順序で、輸出貿易が少數の商品に偏してゐるのに反し輸入は國內工業未發達のため原料品の輸入極めて少く、殆ど製造品によつて占められてをり、その種類も極めて多岐に互つてゐることは植民地的性格を帯びる經濟界の實相を物語つてゐる。

つぎに貿易相手國別にみると輸入は一九三八—三九年において輸入總額中シンガポール一割五分四厘、日本一割四分七厘、イギリス一割一分七厘、香港一割二厘、ベナン九分一厘、ドイツ六分五厘、インド五分九厘、アメリカ四分六厘、蘭印四分三厘、支那四分、オランダ二分五厘の順序で、シンガポール及び香港からの輸入が仲繼貿易によるものであるとしてもイギリス本國及び屬領の輸入額に占める割合は非常に大きい。相手國別輸出額はシンガポール二割四分七厘、ベナン一割八分四厘、香港一割四厘、アメリカ八分六厘、日本六分四厘、イギリス五分四厘、ドイツ四分三厘、インド二分六厘、オランダ二分五厘の順序でイギリス及びそ

の屬領はタイ國輸出を殆ど獨占する形となつてゐる。

大戦と貿易の衰退

世界大戦のタイ國貿易に與へた影響は、タイ米の對歐洲輸出の減退と歐洲製品の輸入困難が擧げられる。米は船腹の不足、ドイツの對英海上封鎖によるもので、佛印の如く死活問題にまでは發展してゐないがこれが轉換策として日本及び支那への輸出に關心を高めてゐる。歐洲製品の輸入困難も主として船舶不足によるもので、ドイツ、イギリス、シンガポールからの輸入減退は特に目立つてゐるが、これに代つてアメリカ製品の輸入激増は注目すべきものがある。大戦後の日本との關係をみると、戦前日本は輸入においてシンガポールについて二位を占めてゐたが、戦争の深刻化とともに益々優位の趨勢を加へバンコック貿易斡旋所調査によると一九四〇年一月より五月まで日本からの輸入額は一一、〇〇〇、〇〇〇パートにて第一位を占め第二位の印度を三、〇〇〇、〇〇〇パート引離してゐる。

諸産業の國營開始

産業方面を見れば、中心をなすものは依然米作で、全住民の八割以上が耕作に從來し、作付面積は全耕地の九割七分に當つてゐる。

一九三九年設立された政府直營のタイ米穀會社は資本金一五〇萬パート、タイ國最大の産業たる米について華僑に對抗して米の買付、精米、輸出を一貫して取扱ふが、現在同社の精米數量は全タイ米の四分の一を占めてゐる。その他米穀會社と同様の主旨の下に設立された政府直營の會社ではセメント工場、精油所、砂糖

最近の經濟情勢

工場、製紙工場、織布工場、チーク製材工場、醸造工場等がいづれも活躍してゐる。

最近タイ國産業の特徴として錫とゴムの躍進が目立ち、その輸出が輸出總額に占める割合も漸次大きくなつてゐるが、なほ米は一九三八年において四割七分六厘を占めて壓倒的地位にある。一方ゴム栽培業は政府の奨励によつて近時發達し、その輸出は輸出總額の二割を占むるに至つた。棉花栽培は前世界大戦前は主要産業の一つであつたが栽培技術の貧困と世界不況の影響で他國に壓倒されて衰退し最近政府は恢復策を講じつつあるもまだ國內需要を満足に至つてゐない。鑛産で注目すべきは錫で、一九三八年の産額は二一、九五六噸、その輸出額は總輸出額の二割八分に當り米について第二位を占めてゐる。その他タンゲステン、アンチモニー、石炭、鐵、銅、金、銀、鉛、マンガン等埋藏あるものとされてゐるが未だ十分なる調査開發をみてゐない。その他工業は頗る貧弱で精米製材を除いては殆どみるべきものがない。

英資本の優越

ちなみにタイ經濟界におけるイギリス勢力を見れば同國における外債總額一三、六三〇、〇〇〇ポンドのうち一一二五萬ポンド、即ち八三%はイギリスによつて占められ、イ國におけるイギリス系資本の支配は絶對的といはねばならぬ。貿易においても輸出は六割から七割、輸入は五割から六割をそれぞれポンド・ブロックに依存してゐる。このためタイ政府はポンド證券四、〇〇〇萬パート、銀行預金八、〇〇〇萬パート、計一億

二千萬バートを在英資金に當て、大戦勃發後ポンド貨の下落に備へて國內金保有高九七、〇〇〇、〇〇〇バートのうち二二、〇〇〇、〇〇〇バートを割いてアメリカにイヤマーケットしたもの、なほイギリスのタイにおける金融上の地位は牢固たるものがある。即ち國內銀行たる國家貯蓄銀行、タイ商業銀行の二行は完全にイギリスの支配下にあり、更に香港上海銀行、チャータード銀行、有利銀行を經營、チーク伐採業に二二、〇〇〇、〇〇〇ポンド、錫に七、〇〇〇、〇〇〇ポンドを投資し、精米所、海運、機械工業その他あらゆる方向に進出し、大藏省に英人顧問を入れしめ財政に關與する等飽くなき勢力を握つてゐる。

華僑に彈壓政策 つぎに華僑の勢力をみるにイギリスの勢力が大規模な資本投下を通じて伸びてゐるに對し、華僑は零細な資本を以て商業及び工業、金融、農業の各方面に互つて國民生活に根強く喰入つてゐる。在外總華僑七、八〇〇、〇〇〇人中タイ在住華僑はその約三分の一の二、五〇〇、〇〇〇に上り全國八〇〇ヶ所の精米所の殆ど全部を經營して、米の買付、精米、輸出を一貫して行ひ、タイ國産業の中樞たる米作に對して實權を握つてゐる他、一千ヶ所の製材所を始めマツチ、氷、電燈、赤糖、菓子、罐詰、燈油、椰子油、石鹼、煙草、化粧品、鋳物、硝子、製罐、家具等輕工業乃至家庭工業は凡て華僑の獨占するところとなつてゐる。革命以來國民精神に燃えるタイ國にとつてかかる商工業全般に互る華僑の支配的勢力は堪へ得ざるところであり政府は支那

事變發生後華僑の國防獻金による巨額の金流出、日貨排斥の暴狀など漸次露骨化するや、斷乎華僑斷壓の方針を探り、抗日分子ならびに大口獻金者の檢擧、學校閉鎖、華僑出版物の發行禁止、入國税の増徴、看板税の新設等強硬政策をとるに至つた。しかしかかる政府の強硬態度にも拘らず華僑の勢力は依然として根強くタイ國經濟界に深く喰入つてをり、日貨排斥運動は却つてインド商人の進出を來すにも拘らず一貫して行はれてゐる。

七 國防力の充實

タイ國の義務兵役制は一九一七年確立し一九三三年の兵役令によつて現役、第一豫備役、第二豫備役、第三豫備役等細目に關する規定の改正を行つたが、一九三九年の現行陸海軍國防管區改正條令によると、陸軍はバンコック、プラチンブリー、ナコンラーチャシーマー、ナコンサワン、ラヂャブリーの五管區に分れ、海軍はスマットブラカリン、スマットサコーン、スマットソントラムを含む第一、ジョルブリー、ラヤンを含む第二の管區に分れる。

一九三二年革命以來タイ國は軍備の強化を計り國防豫算の如き逐年増加を來してゐるが、殊に最近前國防大臣ルアン・ピアンが總理に就任して以來その指導の下に極力國防力の充實に努力してゐる。タイ現在の陸軍編制は明瞭でないが、一九三六年公表によ

ると近衛歩兵以外に騎兵三大隊、砲兵八分隊、工兵二大隊、野戰衛生隊五隊よりなり兵員數約二七、〇〇〇名と見積られる。空軍は三大隊を四大隊に擴張中で、將來更に五大隊に強化される模様である。飛行機數は大體三〇〇機を越すものと見られる。海軍は一九三五—三六年以降六年計畫を以て擴張中であるが、一九三九年現有勢力は一萬トン巡洋艦二隻、八インチ砲搭載海防艦二隻、驅逐艦一隻、護送艦二隻、水雷艇一五隻、水雷發動艇八隻、その他砲艦、巡洋艦及び機雷敷設艦一七隻となつてをり、大戦前の一五隻から短日月に五〇隻に擴大強化したのをみてもその軍備擴張熱の一端が窺はれる。

佛領インド支那

一 事變當初の敵性

露骨な對日敵性 明治四十年日佛條約成立以後しばらく、フランスは對日接近政策をとり、極東における安定勢力たる日本に頼つて極東權益の保全と伸張に努めてきたが、滿洲事變を契機とする東亞の日本、歐洲においてはドイツ、イタリアの新興國が現状打破を叫んで立上るに及んで從來の態度を一變、ダエルサイエ體制、九國條約體制維持を目標に英米とともに、民主主義戰線の一翼をなして來た。この關係は佛領インド支那の政策にも當然反映し、フランスは從來の對日態度を一變、英米と歩調を合せてその海軍力に頼つて極東植民地の安全を計るに至つた。支那事變はフランスのこの態度を明白ならしむるもので、即ちフランスは英米と並んで援蔣陣營を形成し雲南ルートを通ずる援蔣物資の輸送、トンキン、アロン灣、カムラン灣、廣州灣、西沙群島の軍事的要地を利用しての對日牽制、在留華僑の排日運動への協力、日本既得權益の壓迫等々、支那事變を繞つてフランスが佛印を通じて示した對日敵性態度は頗る露骨なものがあつた。

昭和十二年七月支那事變が勃發するや我が國は支那に對する列

國の動向、特に英米佛の民主主義國家の援蔣態度に深甚なる關心をよせ、フランスが佛印を通じて公然と援蔣物資を輸送するを認むるや再三警告を發してその停止を要求した。フランスは我が屢次の抗議にも拘らず佛印の援蔣行爲は事實無根なりと言を左右にして應ぜず、遂に十月わが政府は援蔣禁絶の強硬抗議を駐佛杉村大使をして正式にフランス政府に提出フランスの確約を得たのであつた。しかしながら蔣政權援助によつて自國の權益を擁護し得るとのフランスの迷夢はなかく深く、かつ佛領インド支那當局と本國政府の間における政策の不一致もあり、佛印を通じてなされる援蔣行爲は、フランス政府の禁止確約にも拘らず益々露骨となり、昭和十三年十月わが軍の廣東占領によつて南支沿岸一帯の封鎖がますます強化されるに及び、援蔣據點としての佛印の重要性は倍加し、以後フランスが佛印を通じてなした行動は眼に餘るものがあつた。

佛印ルートの重要性 いはゆる援蔣ルートはわが南支作戦が成功を遂げて以來、西北赤色ルート、ビルマ・ルートとハイフォトンよりハノイ、老開、河口、昆明を經由重慶に達する佛印ルートの三線のみとなつたが、この前二者は鐵道によらぬ陸路輸送のため輸送に多大の困難を感じるに反し、佛印ルートは佛印國境老開から昆明を結ぶ滇越鐵道によつてその輸送力は一ヶ月一萬七、八千トン重慶輸送量中の七割を占め重慶政府抗戦力に對し最大の寄與をなしてゐた。なほこの他、佛印ルートとして無視できないも

のハイフォトン・ランソン・寧明・南寧への自動車道路、ハイフォトン・ランソン・ドンダン・龍州の自動車道路がありドンダン、カオバンより陸路百色へ通ずる道路、カオバンより水路龍州へ通ずる輸送路等それぞれ相當の活躍をなしてゐたのである。

西沙群島の占領 昭和十四年二月、わが海南島上陸決行に先だつてこの方面の風雲が急を告げるに及び、昭和十三年六月フランスは英佛軍事會議をシンガポールに開催、わが南進に備へて、フランスは英國と共同して佛印を極東防備の戰略基地たらしめることに意見一致し、同七月四日西沙島を占領、引き続きカムラン灣を圍繞する廣範な地域に土地收用令を適用してこれを要塞化しトンキン、アロン灣の軍港設備強化、廣州灣を根據地とする極東派遣艦隊の大演習等、海南島包圍の態形を整へて猛烈な對日牽制政策にでてきた。西沙群島の占領に對してわが政府は七月七日、抗議を提出、昭和十二年九月になされた領土權は主張するが支那事變繼續中は國際關係を考慮してこれを占領せずとのフランス政府聲明に反するものであつて日本は默認し得ずとの警告を與へたがフランス政府は肯んじようとしなかつた。かかる英佛必死のわが南進阻止工作があつたにも拘らずわが軍は斷乎昭和十四年二月海南島を占領するに至つた。

わが既得權益壓迫 フランスの敵性態度はかくの如き援蔣行爲、自國植民地防衛の方面だけでなく、積極的に佛印内部におけるわが正當なる既得權益の壓迫、日本商品の排斥等にも現はれて

事變當初の敵性・皇軍進駐とその影響

ゐる。即ち昭和十三年九月二十四日、日本向佛印産鐵、マンガンの輸出禁止、昭和十四年三月一日、佛本國及び植民地への輸入日本品に對し原産地證明書要求等がそれである。

特に後者は中間搾取的存在として牢固たる地盤を有する華僑の猛烈なる排日貨運動及び日本人迫害の策動を默過するどころか、佛印當局の積極的援助を意味するものに他ならぬ。また支那政府代表として宋子文が西南方面の利權貸與を好餌として中國銀行の佛印進出を策するや、佛印當局はこれに應じて同支店のハノイ設置を許可し、自國銀行以外にかつて許さなかつた爲營業務の取扱ひを行はしめ、在住華僑の經濟的地盤の上に支那法幣の維持を側面的に援助する等、佛領インド支那の日本に對する敵性はあらゆる方面に現はれ、よしそれが本國政府と植民地の政治的不一致、あるひは一部經濟的勢力の策動によるものにあつたにせよ、東亞新秩序の建設を目差して聖戰を遂行する日本にとつてかかる敵性態度は到底許さるべくもなかつた。昭和十四年九月勃發した歐洲大戰はこの歪められたる日佛印關係の是正に絶好の機會を與へることになつたのである。

二 皇軍進駐とその影響

本國降伏の致命的影響 一九三九年九月歐洲大戰勃發するや全力を大戰遂行に捧げたフランスは佛印に對しては現状維持策を

講ずると共に全能力を發揮して戰時資材の補給を圖つた。即ち大戦直後佛印兵力の倍加を實現、一部をタイ國境に集結するとともに日本の南進に備へて一九四〇年六月タイ國に迫つて不侵略條約を締結、イギリスと共同防衛陣を敷く一方、國內にあつては重要戰時資材たるゴム、錫の増産に乗り出し、全輸送能力を擧げて本國に補給する方法を講じた。しかし歐洲における大戦の深刻化とともに佛印當初の計畫は悉く覆へされ、昭和十五年に入つて、デンマーク、ノルウェー、オランダ、ベルギーを席巻した獨軍の猛進と六月十日イタリアの參戰によつて遂にフランスは抗し得ず對獨軍獨降伏となるや、從來傳統的に佛印が採つた極端なる本國中心主義政策、ひいては東亞における佛印の地位に根本的な變更を來すに至つた。しかしこれを決定的なものたらしめたのは皇軍の歴史的佛印進駐である。

援蔣禁絶を要求 大戦勃發後においても佛印は援蔣政策を改めないのみか、ますます露骨となり、軍需品の輸送のみでなく重慶蔣政権の情報蒐集據點と化し、昆明、敘州、重慶間及び重慶、成都間の二つの鐵道建設に協力する等佛印の敵性態度は日本の事變處理完遂の見地から、もはや看過し得ない事態を醸すに至り遂に六月十二、十六の兩日南支軍當局は續けて佛印の援蔣事實を指摘して『酷暑、悪疫及び頑敵と戦ひつゝ、重慶政府の軍需品補給路遮断に任ずること一年有半、この間佛印より輸入される軍需品に對しては佛印當局に注意を促したことも數々であるがその敵性行

爲は何等の反省をみざるのみならずわが軍の目前ですす／＼露骨に行はれるやうな形勢がある。かくの如き無反省なる状態を續ける以上我々は蔣政権打倒の第一歩として先づ佛印の敵性を一掃しなければならぬ』と斷乎たる決意を含めた談話を發表、つゞいて十八日、フランスの對獨降伏による植民地の歸屬問題と佛印の援蔣行爲に對するわが方針を決定するため四相會議を開催、翌十九日この決定に基き、獨伊兩國に對し『東亞の安定勢力をもつて任ずる日本は佛印の軍事經濟兩方面における現状並に將來に關して非常なる關心を有するものである』と佛印の歸屬問題に關し日本の意向を正式に申入れをなす一方アンリ駐日佛大使を通じて援蔣即時停止に必要な措置をとり、かつその實績を監視するため日本から検査員を派遣する旨の強硬要求を提出した。

わが要求を容認 これに對しフランス政府は翌二十日正式回答を齎し
一、佛國は既に十七日にガソリン、トラクタ等の對支輸送を禁止して來たが十九日から更に廣範圍な物資の輸送を禁絶した。
一、しかしこれが實績を見るために具體的方法としては
(イ)フランス政府は日本側から軍人外交官等から成る相當大規模な現地検査員を派遣することを承認する。
(ロ)在現地検査員はハノイ、ハイフォン、老開、諒山等の各要所に常駐し税關吏立會ひの上で滯貨並に物資輸送の状況を調査する。

(ハ)右検査員が要求する場合佛印當局は滯貨の統計その他必要な資料を隨時提出する。

と我が要求を全面的に承認、こゝに西原少將を委員長とする日本監視團一行は二十九日東京を出發佛印に赴き、續いて七月十五日圓山大佐を首班とする廣州灣援蔣ルート監視團も現地に進駐、ここに援蔣ルート完封の歴史的事業は開始された。

現地交渉と東京會談 わが佛印監視團の派遣によつて支那事變發生以來佛印の敵性發揮による紛争は一段落をつけたのであるが、これは結局、佛印當局が東亞における日本の指導的地位を認識して日本の事變處理に協力を示したものと見える。しかしこの協力たるやいはば消極的協力であつてわが國は東亞新秩序建設の大目標の下に更に進んで佛印をして積極的に協力させる必要があつた。西原監視團委員長は佛印着任後直ちに交渉に入り二十九日カトルー總督との第一回會見において日本が事變處理上佛印において必要とする軍事上の便宜を供與することを要求、交渉は極めて友好的に進められた。七月二十日フランス・ダイシー政府はカトルー總督を越權行爲ありとして罷免したが代つて任命された極東艦隊司令官ジャン・ド・カトルー總督も友好的精神をもつて前總督の政策を踏襲する旨を言明して交渉は再開された。しかしながらこの間、英米及び重慶側の策動が漸次露骨となり當初友好的雰囲気のうちに進められた交渉も遂に遷延に遷延を重ねるに至つたため西原委員長は七月二十八日ハノイ發東上、關係當局と打合せの

結果、一と先づ交渉を東京に移すことになり、八月上旬松岡外相とアンリ駐日佛大使との間に會談が開かれ紆餘曲折を経て二十五日やうやくにして協定原則が成立、これによつて西原委員長は直ちに佛印に歸任しマルタン軍司令官との間に交渉を進め九月四日兩者の間に原則協定が成立し正式調印をなした。

皇軍進駐と進駐 翌五日引續き細目協定に入つたところ七日朝に至り佛印側は意外にも誤解に基く些細なる事件を口實として交渉打ち切りを一方的に宣言し三箇月に互る努力も水泡に歸したかの眼があつたが、我が方は終始一貫して嚴然たる態度をもつて臨み十三日やうやく交渉再開の段取りとなり、日本軍隊の進駐、駐屯地、進駐路、兵力、輸送方法に關する細目交渉に入つた。一方わが交渉委員は最悪の場合に備へて在留邦人の總引揚げ準備を完了したが二十二日に至りわが強硬態度に佛印當局は遂に屈して完全なる意見の一致を見るに至り、翌二十三日皇軍は北部支那國境より平和的進駐を開始し佛印の誤解に基く一部衝突を排除してトキン平野に堂々軍を進めたのであつた。皇軍佛印進駐の意義は進駐開始當日、日佛兩政府の共同聲明にある如く、日本の對支作戰遂行のために佛印側が軍事上の便宜を供與するにあり、日本は南支作戰を更に遠く佛印にまで延長して支那事變解決のために重大な意義をもつに至つた。佛印當局にとつては本國の對獨降伏後におけるベタン、ド・ゴール兩政權の軋膝下にあつて然もよく英米の策動を排し、日本と手を握つて東亞共榮圈内に自己の活路を

見出すに至つたことは極めて意義深いものといはねばならぬ。皇軍の進駐後における佛印は政治的に經濟的に文化的に極めて親日傾向をとりつゝある。

タイの失地回復要求 歐洲大戰勃發後フランスはイギリスと結んで極東における現状維持策を圖り前述の如くタイ國と不侵略條約を結んだのであるが、民族意識に目覺めつゝあつたタイ國は虎視眈々失地回復の機を窺ひ、昭和十五年六月フランスがドイツに降伏するや好機至れりとして佛印西南部の失地返還を要求、十月佛印の拒否するところとなつて遂に兩國軍隊は西南部ラオス、カンボジア國境において衝突を惹起した。佛印當局は現地交渉委員會を設けて紛争處理を企圖したが纏らず、紛争は激化する傾向を示し、この間英米、特に大戰勃發後イギリスに代つて東亞の守護たらんとするアメリカは種々策動し、一方、皇軍の進駐後サイゴン地方にあつて暗躍を續けるド・ゴール政權一派の動向も極めて注目されるに至つたので昭和十六年一月遂に日本は起つて居中調停の申入れをなし、佛印、タイ兩國もこれに應じ二十九日よりサイゴン洋上の日本軍艦内において停戦交渉を開始し三十一日に至り兩國の意見一致をみ、停戦協定が調印され、こゝに前年十一月以來の兩國紛争は一應戰闘行爲の中止となり、兩國代表は次いで東京に開かれた會談に臨んだ。(タイの部参照)

農業について重要なのは鑛業で、ホンゲイ無煙炭として知られる世界有数の良質炭の他、錫、亜鉛等を出してゐる。工業は精米業が交趾支那の堤岸市、トンキンのハノイ、ハイフオン、南定、カンボジアのプノンペン諸都市を中心として僅かに近代的工業として發達してゐるに止り、その他には小規模な醸造、製絲、織物、製糖、セメント工業等が行はれてゐるのみである。即ち佛領インド支那の産業は完全なる農業國の域を脱しきれず、米、ゴム、玉蜀黍等の豊富な農産物とこれに次では石炭、錫、亜鉛、金、鐵等の鑛産資源を以てフランス本國工業原料品ならびに食糧品の供給地として重要な役割を果しつゝ極端な本國中心主義を取つてゐた。

發展を妨げる原因 かかる産業資源を背景とする佛印の貿易がまた本國利益中心主義によつて緊縛されて來たことはいふまでもない。佛領インド支那は一八八七年フランス本國の一般税率を適用されアンナン、トンキン、交趾支那、カンボジアを含めて一つの關稅區域に統一されたが、爾來佛印當局は本國製品を除く他國商品に對して排他的關稅を課し、また數量割當制を採用して輸入の防遏にとめたのであつた。したがつて佛印貿易においては一、輸出は食糧品、工業原料を主とするに對し輸入は専ら工業完成品によつて占められてゐること

一、輸出相手國は極東諸國が多數であるのに對し輸入の大部分はフランス本國品であること

貿易政策の轉換

三 貿易政策の轉換

極端な本國中心主義 佛領インド支那の産業で最も重要なものは農業、特に米作である。傳統的土人農業として栽培法は極めて幼稚なのに拘らず年々多額の生産は國內需要を滿たし、残り全産額の約三〇％は輸出され輸出總額において壓倒的割合を占め佛印經濟の基準をなしてゐる。

佛印の農産物 (1939) (單位1000噸)

品目	産額
米	7,000
玉蜀黍	600
護謨	40
珈琲	2.5
茶	15
煙草	14
甘蔗	60
椰子	25
落花生	12
胡椒	3.5
棉花	1.1

佛印の鑛産物 (1937) (單位噸)

品目	産額
石炭	2,308,000
錫	2,602
亜鉛	11,000
タングステン	580
鐵	10,017
マンガン	3,429
アンチモニー	1,080
金	130
銀	110
磷	22,200
粉末磷	20,300
ボーキサイト	7,000

一、在留華僑の本國送金、フランス人官吏の俸給或は退職金、商業益金及び事業配當等巨額の本國送金、本國政府の強制割當金、本國市場で募集された公債の償却等、年々莫大な金額の流出は極端に輸出超過を強要してゐること

以上三つの事實が特徴としてあげられると同時にこの特徴が佛領インド支那自體の發展を阻害する大きな極端となつてゐたのである。

巨額の農産物輸出 いまこの關係を貿易の内容について検討して見よう。先づ輸出入を商品別に見ると、輸出で最も多額を占めるのは米で、一九三七年の輸出額一、〇九三、八〇〇、〇〇〇フラン、輸出總額の四二％に當り、これについてはゴムと玉蜀黍で各々四六五、六〇〇、〇〇〇フラン、輸出總額に占める割合はそれぞれ一八％、以下石炭九一、二〇〇、〇〇〇フラン(三・五％)鑛物金屬類八〇、四〇〇、〇〇〇フラン(三・一％)、水産物七五、五〇〇、〇〇〇フラン(二・九％)の順序となつてゐる。

佛印の輸出貿易で農産物の占める割合は壓倒的で、米、ゴム、玉蜀黍を合せると實に輸出總額の七八・八％に當り、これが輸出額の多少は一に佛印の國民經濟の死活問題であるといつても差支へない。輸入では織物類が首位を占め一九三七年の輸入額三七〇、二〇〇、〇〇〇フラン、輸入總額の二三・四％に當る。これについては金屬加工品一六六、四〇〇、〇〇〇フラン(一〇・四％)金屬類一三七、六〇〇、〇〇〇フラン(八・七％)綿絲類七五、

佛印の對外貿易(單位百萬フラン)

年 度	輸 出	輸 入	差 額
1931	1,123	1,290	-167
1932	1,018	968	+ 50
1933	1,014	911	+103
1934	1,044	909	+135
1935	1,298	901	+397
1936	1,682	980	+702
1937	2,594	1,562	+1,032
1938	2,844	1,947	+897
1939	3,495	2,382	+1,113

六〇〇、〇〇〇フラン(四・七%) 紙類六九、二〇〇、〇〇〇フラン(四・四%) 石油類六七、二〇〇、〇〇〇フラン(四・二%) 棉花五二、九〇〇、〇〇〇フラン(三・五%) 化學製品四八、一〇〇、〇〇〇フラン(三・一%) 自動車三八、二〇〇、〇〇〇フラン(二・四%) 等

が重要で、輸入は殆ど全部完成品によつて占められてをり、かつその種類も輸出と異り多種目に互つてゐる。

本國依存主義の清算 續いて相手國別貿易を見ると、輸出入においてフランス本國の占める地位は壓倒的で、一九三七年の貿易額は總貿易額の五二・八%に當り、他の追隨を許さない。次で香港一%、シンガポール七・六%、アメリカ六・九%、支那五・四%、日本四・二%の順序である。輸入相手國では同じくフランス本國が斷然多く輸入總額の五三・五%を占め、ついで香港八・六%、支那七・四%、蘭領東インド四・四%、シンガポール三・

佛印の對日貿易(單位1000圓)

年	輸 出	輸 入	出 超
1935	15,010	4,200	10,990
1936	20,151	4,679	15,454
1937	27,012	4,624	22,388
1938	29,301	3,182	17,119
1939	26,651	1,981	24,670

七%、アメリカ三・三%、日本三・一%となつてゐる。佛領インド支那の貿易はかくの如く本國に強度に依存してをりこれがため佛印經濟はいまは原始的農業經濟の域を脱し得ないのみならず、極端なる本國利益中心主義の政策は佛印をして完全に本國の獨占市場を形成せしめ、搾取の對象に甘んずるの餘儀なきに至らしめてゐた。しかるに今次歐洲大戰におけるフランス本國の對獨降伏は一方東亞においてわが國を中心とする東亞共榮圈の設定といふ新情勢の展開と相俟つて從來の本國中心主義を放棄して對本國關係に重大なる變化を來しつゝある。一九四一年フランス本國政府が佛印に對して關稅自主權を與へたことはかかる情勢の現はれにほかならぬ。

對日貿易の現状

讀つて日本と佛領インド支那との貿易關係を見ると、佛印から日本への輸出品は石炭、ゴム、米、麥、砂糖等が多く、日本からの輸入品では繰綿、絹織物、生糸、人絹織物、陶磁器等が多いが、日本の佛印貿易に占める地位は前述の如く極めて低く輸出においては第六位、輸

入においては第七位、貿易額も輸出四・二%、輸入三・一%を占めるにすぎない。フランス本國は佛印をして自國製品の獨占市場たらしむべく、自國品と對立する日本工業品の進出を怖れて禁止的關稅を課するほか、種々の輸入防遏手段を講じたため日本は常に片貿易の不利な状態に置かれてゐたのである。一九三一年以降佛印對日本内地の貿易額を示せば前表の如くである。

大戰から貿易衰退

この表によつてみると、日本が輸出景氣を謳歌した昭和七年以降においてさへ對佛印輸出の不振は挽回されず、却つて佛印は對日輸出を増加して年々出超を續けてゐる。この間昭和七年(一九三二年)五月十三日に初めて通商協定が成立し日本の輸出品は最低稅率または中間稅率の適用を受けることとなつたが、事實上は協定成立後連續的に稅率の引上げが行はれ日本製品の進出は絶えず阻止せられてきたのであつた。

しかるに今次歐洲大戰後はフランス本國品の輸入は圓滑を缺きこれが供給を日本に仰ぐべく迫られてをり、一方佛印の農産物の對佛本國輸出も激減して輸出市場を専ら東洋市場に求めざるを得なくなつてゐる。いま佛印の對本國輸出狀況を一九三九年一月から八月までの戰前と、同年九月より翌年四月までの戰後それぞれ八ヶ月間に互り米、玉蜀黍、石炭、コブラについて見ると、米は戰前の四一三、〇〇〇噸が戰後は一〇四、〇〇〇噸と約四分の一に、玉蜀黍は一九七、〇〇〇噸が六五、〇〇〇噸と三分の一に、石炭は一四八、〇〇〇噸が二三、〇〇〇噸と約六分の一に、コ

ラは九〇、〇〇〇噸が二〇、〇〇〇噸と約四分の一に、いづれも激減してゐる。かかる情勢からしても佛印は貿易關係においても從來の本國中心主義から離れて必然的に東洋諸國、特に日本と支那とに深く結びつかざるを得ない現状にある。

ドクレー總督の聲明

ドクレー前佛印總督は「新情勢下における佛印貿易の進路」と題する聲明書を發表し「一九三九年の戰爭は佛印の對本國依存傾向に全面的動搖を招來し、戰爭の初めに流布された一般輿論に反して佛印の本國に對する輸送は早くも重量貨物の輸送に課せられたる運賃障害によつて總數では減衰を示し、現在の環境は新しい視角から佛印をして一時的に歐洲市場、殊に本國市場を抛擲して太平洋諸國への販路開拓が喫緊の課題である」として佛印の對外貿易の方向を明かにし、日本との關係については

「重要産物については佛印は幸にも本國に代り日本に販路を得べく農産物の對日輸出は最近相當に増加してをり、佛印の經濟的危機は日本によつて救はれたといへよう。從來から日本は石炭、鐵礦、鹽等の好き顧客であつたし、將來は、亞鉛、燐鐵等も大に對日輸出の可能性がある。しかし佛印の日本向け輸出の發展はこれに對應する輸入の増加を伴はねばならないのであつて、佛印は日本から綿、絹、人絹織物、硝子、化學製品、小間物等の輸入を期待する。しかして以上の如き佛印と日本との緊

密なる經濟關係の實現は何よりも先づ兩國の通商協定政策に俟たねばならぬ』

と結論し、その將來に重大な示唆を與へてゐる。

日佛印東京會談 從來佛印において日本製品が禁止的關稅を賦課されるに至つたのは日本が米穀法を實施して外米輸入の制限禁止を行つて以來のこと、日本の最近の情況は戰時食糧品として不可欠の米を始め高度國防國家の建設に必要な重要物資を佛印に仰ぐ必要性を生じてをり、佛印もまた本國製品に代る日本商品の輸入を求めざるを得ない状態にあり、日佛印經濟提携の必然性は疑ひないところである。されば東亞共榮圈の一環としての佛印と日本の經濟提携を目的とする日佛印會商は昭和十五年十月わが松宮大使と佛印代表の間にハノイにおいて開始され、十六年一月からは東京に舞臺を移して續行、すでに佛印米の買付交渉は成立を見た。

タイと國境紛争 佛領インド支那とタイとの國境紛争、並にわが居中調停による停戦、その後の東京會談については「タイ」の部参照。

英領マレー

一 大戦とマレーの地位

極東防衛の據點 東半球英帝國圏における最大の軍事據點たるシンガポール軍港の所在地であり、一方世界首位を誇る錫及びゴムの産地として、英領マレーの地位は今大戦とともにいよいよ重要性を加へるに至つた。

イギリスは一九三九年二月わが海南島占領の直後四月二十日香港、マレー、オーストラリア、ニューギニアの軍事専門家を出席せしめて太平洋防備會議を開催（オーストラリアの部参照）わが南進政策に對抗して東洋の各自治領、植民地共同して極東防禦作戰の樹立を計ると同時に英米佛共同の太平洋防備計畫を議題に上提した。しかも歐洲の緊迫せる情勢を前にイギリスとしては對樞軸國に國力の全部を集中して備へる必要から極東植民地の防衛のためには米佛、特にアメリカ海軍の共同防衛陣參加を熱望した。日本の海南島進出によつて直ちに佛領インド支那が危険に曝されるに至つたフランスはこの申出を應諾、有事に際して太平洋上のフランス領土をイギリス軍事當局の自由使用に委ねる旨イギ

大戦とマレーの地位

リス側に傳達した。

英佛軍事專家會談 よつて六月十二日シンガポール及び香港の英軍司令官は「歐洲における英佛の緊密なる協力に鑑みフランス極東艦隊司令長官ドクター提督、インド支那駐屯軍最高指揮官マルタン將軍、フランス空軍參謀ドグエズ大佐に對しこの地方においてとられつゝある防備手段及び防禦工事を検討せんがため六月末シンガポールに出向かれたしと招請狀を發した」と共同聲明を發表、英佛參謀將校六〇名がシンガポールに參集し英佛協力を具體的に審議した。この會議によつて取極められた事項は

- 一、イギリス植民地とフランス屬領内の連絡を確保するため兩國代表をもつて組織される太平洋防禦會議を常設すること
- 一、今後あらゆる軍需品の自給自足と太平洋防禦を共同的に組織すること
- 一、フランスは香港、シンガポールの中に位する佛印カムラシを要塞化し英佛艦隊の根據地たらしめるほか佛印領諸海港佛領ニューカレドニアをイギリスの自由使用に委ねること
- 一、オーストラリアにおける飛行機製作不足を補ふためフランスは佛印ハノイ飛行機工場を擴張して英佛空軍の強化を圖る
- 一、等で英佛協力作戰によつてイギリスはオーストラリアからニューギニア、佛領インド支那を経て香港に至る線をもつて強固な對日防備陣を設けることになつたのである。

一九三九年九月一日ドイツのポーランド進撃を契機とし歐洲第

二次大戦が勃發するや英領マレーの役割は、他のいづれの植民地におけると同じく自己防衛に任ずると共に經濟的には重要資源の増産を確保し、全力を擧げて本國を救援するにあつた。特に英領マレーは東亞防衛の根據地たるシンガポールを有し領内産業には世界最大の生産額を誇るゴム、錫等重要軍需資源を有するだけにその任務は極めて重かつた。大戦勃發以來英領マレーがとつたすべての政策が前記二點に集中されたことはいふまでもない。

シ軍港の防備増強 不落を誇るシンガポール軍備強化は大戦勃發と共に更に拍車を加へ、インド駐屯軍よりの大量移駐、英領マレーにおける義勇兵の募集と強制訓練、特に空軍の擴張に重點が置かれ、アメリカから大型爆撃機を購入した他、イギリス本國からも萬全の輸送陣を張り、更にオーストラリアは飛行機製作の全能力を擧げてシンガポール防備機の補給を行つた。また飛行場の擴張、新設、軍港の補強工作に大童の活動を續けたことは、これがため大量の労働者が高率賃銀を以て動員された結果、平和産業労働者が賃銀値上げを叫んでストライキ續出し、その鎮壓に當局が苦惱した経緯をみても容易に想像される。一九四〇年に入つて歐洲戦争が益々深刻化すると同時に極東における情勢も六月英佛兩國に對する援將ルートの即時禁絶要求、佛印のわが監視員派遣に次でイギリスもビルマ・ルートの一時封鎖を約したものの、日本における英人スパイの大量檢挙に對しイギリスは報復手段に出で八月五日シンガポールにおいては小林同盟支局長の逮捕を皮

切りに九月二十二日には領事館員ほか邦人六名を檢擧する等いよいよ緊迫性を加へた。この事件に關し日本政府は領事館の不法檢案、館用金庫の封印等暴戾なる行爲に對し抗議を試みたがイギリス政府は領事館は準外交機關で治外法權を有せず、日本人逮捕はシンガポール要塞に對するスパイ事件として十分の確證をもつてゐると回答、その後ロンドンにおける數次の交渉にも遂に誠意を示さなかつた。

米と共同作戦へ 日英間のこの緊迫情勢は九月二十四日皇軍の歴史的佛印進駐となるや益々拍車を加へ、マレー政廳は直ちに『民間防衛團の組織完了と共に食糧貯蔵に對し完全管理の處置をとつた。歐洲人の義勇軍徵集は依然繼續され、訓練を施されてゐる』と發表、自領内の戦時體勢を整へると同時に日獨伊三國同盟締結以來極度に對日態度を硬化したアメリカと結んで太平洋における英米共同作戦をもつて日本に備へるに至つた。

フランスの對獨軍獨降伏によつて歐洲で全く孤立化したイギリスは對獨伊戦に全力を注がざるを得ない情勢から極東におけるアメリカの援助を早急に實現する必要に迫られ九月上旬駐米ロシア英大使、ケーシー・漢大使を通じルーズヴェルト大統領、ハル國務長官と太平洋における英米軍事協調を折衝した。この會談について、ハル國務長官は『國際情勢のすべての分野につき打明けて情報交換したまでで、シンガポール問題も話題に上つたがこれに關して何等具體的折衝は行つてゐない』と問題のシンガポール使

用權許與説を否定した。

極東の共同防衛 ワシントン官邊の意向はこれにつき『イギリス政府はアメリカ海軍當局に對しシンガポール軍港使用を申し入れたがアメリカは特に日本に與へる影響を考慮して目下慎重に提議の檢討を行つてゐる。英米濠三國會談はいまのところ瀬踏みの限度であるが、瀬踏みと交渉とは紙一重であるから、會談が國防問題の全面に互つてゐるとはいへシンガポールに會談の重點が置かれてゐる』と傳へ、また十二月二十四日バトラー英外務次官は下院において『イギリス政府は極東において英米兩國が共同利害を有するあらゆる問題についてアメリカ政府と接觸を保つてゐる』と説明したのち、『あらゆる問題とは海軍問題、共同防衛をも含む』と説明を加へ、シンガポールのアメリカ租借を暗示してをり、また事實アメリカは日本がイギリスに對しビルマ・ルートの禁絶を要求するやこれに反對聲明を發し、石油層鐵の對日輸出許可制を實施し、その後いくばくもなくして航空用ガソリンの禁輸を行つた如き或は皇軍の佛印進駐に對する露骨なる牽制工作等當時アメリカの極東における態度は極めて密接にイギリスと結びついてをり、特に英米濠三國會談後における南太平洋のカントン・エンダベリー兩島租借、バルミラ島及びロイズ島の海軍根據地建設等ハワイ、シンガポールを結ぶ諸島嶼への軍事的進出はアメリカの極東進出を雄辯に物語り、已にアメリカのシンガポール租借を否定する餘地もない。

極東防衛司令部新設

かくて東洋のジブラルタルとしてオーストラリア艦隊極東艦隊を兩翼に、印度洋艦隊を背後に控へイギリス最大の前進根據地を誇るシンガポールは一月十三日極東防衛司令部の新設を見、初代司令長官にボナム空軍大將を任命、艦隊主義と空軍主義を併行して眞に極東防衛陣の根據地としての地位を固めつつあり、更に今またアメリカ海軍の参加によつて日本の南進に對抗して積極攻勢に出る態勢をとるに至つたのである。

對米輸出の激増

戦時下における英領マレーの經濟的役割についてみるに、その最大産業は前述の如く軍需資材として戦時下不可欠のゴムと錫である。ゴムは一九三四年より、錫は一九三一年よりそれぞれ國際制限協定によつてその生産ならびに輸出を割當てられることになつたが、その産額は世界總額に對し年々ゴムは約四八%、錫は約五四%に相當し、世界最大を誇つてゐる。大戦勃發するやイギリスはマレー在住英人の領外退出を禁止したが、これはマレーゴムの七〇%を經營し、錫に獨占的投資を行つて勢力を有する英人の引揚げによつて重要資材の減産を恐れたがために他ならぬ。歐洲大戦によつて齎らされた世界需要の増大に備へて不況對策として設けられ前記生産制限は逐次緩和され、領内二大産業の増産積極策が講ぜられ、その産額は擧げてイギリス本國ならび米佛の自國陣營に輸送された。特にアメリカへはその狂奔的な買付計畫に對應して戦前に數倍する數量が輸出されマレーのゴムと錫は本國の武器購入に必要なドル貨の有力なる供給源となつてゐる。

アメリカ依存 一九四〇年七月一日アメリカはゴム錫及びマンガンを貯蔵するため資本金各五百萬ドルのゴム貯蔵會社及び金屬貯蔵會社を設置しゴム十五萬噸錫七千五百萬噸の買付計畫を發表するやこれに呼應してマレーの下半年ゴム輸出割當は八五%錫は七月より一ヶ年間一三〇%といふ高率割當が決定され、かくて大戦によつて歐洲市場を失つたマレーのアメリカ依存は益強化されつゝある。

英領マレーの貿易のアメリカ依存度を一九三九年の數字によつてみると、マレーにおいてはゴムの總輸出額に占める割合は五割錫は二割、兩者併せると總輸出額の七割を占める状態であるが、このうちゴムの五割、錫の七割をアメリカに輸出してをり、さらに前記買付計畫によつて引續き需要の増大はアメリカ依存度を益益強化し、一九四〇年に入るとマレーの對米輸出月額は急激に膨脹してきた。また一九三九年度アメリカのゴム、錫の輸入割當をみるとゴムは英領マレー五六・八%、蘭印二七・六%、セイロン七・四%、佛印五・五%、その他二・七%となつてをり、錫は英領マレー六六・七%、イギリス一五・三%、蘭印七・六%、香港六・二%、その他四・二%で、アメリカのゴム錫は英領マレーを筆頭に全面的に表南洋に依存してゐるといつてよい。一九四〇年アメリカのゴム、金屬貯蔵會社が大規模なる買付工作を開始するやイギリスはマレー領内はもとより蘭印、佛印、タイ國に凡ゆる勢力を利用して獨占的買上げを行ひ、その大部分をアメリカに

供給してをりかくて極東情勢の緊迫は太平洋における英米の軍事的協調とともに緊密なる經濟的合作をも實現し南進日本の勢力に對して堅固なる防衛陣を形成してゐるのである。

二 ゴム、錫産業の活況

好調の對外貿易 英領マレーの貿易は一九三三年から引續き出超を示してゐるが、毎年輸出品中最高額を占めるのはゴムで、一九三八年における輸出額は二七二、九八〇、〇〇〇ドルに上つた。これについては錫でその額は九六、三三九、〇〇〇ドル、自動車用ガソリン三五、四九七、〇〇〇ドル、米一三、三八九、〇〇〇ドル、コブラー二、四九四、〇〇〇ドル、石油一二、一六八、〇〇〇ドル、アンカナット一〇、四四六、〇〇〇ドル、液體燃料八、三八八、〇〇〇ドル、乾鹽魚七、四六八、〇〇〇ドル、鐵礦七、三五七、〇〇〇ドル、パイナップル罐詰七、二六三、〇〇〇ドル、椰子油六、二四〇、〇〇〇ドル、ココナツ五、六四七、〇〇〇ドル、棉花四、一一六、〇〇〇ドル等が重要であつた。

輸入では一九三八年においてゴムの七四、三三三、〇〇〇ドルが筆頭で、米五三、八二二、〇〇〇ドル、自動車用ガソリン四五、七六一、〇〇〇ドル、鐵礦三〇、〇五八、〇〇〇ドル、棉花二一、四七一、〇〇〇ドル、機械類二一、〇二六、〇〇〇ドル、液體燃料一九、二九六、〇〇〇ドル、煙草一六、二七一、〇〇〇ドル、弱を占め、以下イギリス一〇一、九七九、〇〇〇ドル（一割六分四厘強）英領領八八、六五九、〇〇〇ドル（一割六分強）、タイ八五九九、〇〇〇ドル（一割五分四厘強）支那二三、九二二、〇〇〇ドル（四分三厘強）の順序である。

マレー貿易の特徴 以上一九三八年におけるマレー貿易の内容を検討すればその特徴と思はれるのは第一にマレー二大産業たるゴムと錫が輸出額において絶對的地位を占めてゐることである。即ちゴムは四割六分九厘、錫は一割六分六厘に當り、兩者を合すると實に輸出總額の六割三分五厘となりマレー經濟の繁榮の鍵を握つてゐるといつても過言でない。

特徴の第二は、商品別輸出入をみた場合明かなる如く、輸入品の多くはマレーを通じて再輸出されてゐる點で、マレーは佛印、タイ、蘭印地方のゴム、錫その他農産物を歐洲市場へ送り、かつ歐洲工業製品を極東市場に輸送する通商路の仲繼地として重要な地位を占めてゐることである。したがつてシンガポールを中心にした航路は四通八達、全世界に及びイギリス極東の關門として西のメズとならんで重要な役割を果してゐる。

特徴の第三はマレーの貿易が徹底的に英米に依存してゐる點である。即ちイギリスは屬領をも含めて輸出二割七分一厘、輸入三割二分四厘をそれぞれ占め、貿易額において二割九分七厘に當るアメリカは輸入において占める割合は未だ少いが輸出においては約三割を占めマレー輸出貿易に極めて高い地位を握りしかしてこ

英領マレーの貿易（單位千ドル）

年 度	輸 出	輸 入	出超及入超
1931	406,289	458,265	51,976(入超)
1932	324,771	380,771	56,000(同)
1933	371,434	349,863	21,571(出超)
1934	568,487	471,435	97,052(同)
1935	583,986	478,924	105,062(同)
1936	638,768	512,900	125,868(同)
1937	897,121	679,913	217,108(同)
1938	581,554	559,410	32,144(同)
1939	750,194	628,142	132,052(同)
1940	747,955	564,301	183,654(同)

(1940年は8月まで累計)

石油一六、一一五、〇〇〇ドル、砂糖九、八二九、〇〇〇ドル等が主要品である。

最高は對米輸出 輸出相手國で壓倒的地位にたつものはアメリカで、一九三八年における對米輸出額は一七一、〇〇〇、〇〇〇ドルで總輸出額の二割九分四厘に上つた。これについてはイギリスの八一、〇五四、〇〇〇ドル（一割五分六厘強）、英領領六七、二一九、〇〇〇ドル（一割一分五厘強）日本五三、八八八、〇〇〇ドル（九分三厘強）等である。輸入相手國では蘭印が最も重要で總額一四七、八二二、〇〇〇ドルに達し總輸入額の二割六分四厘

の傾向は大戦勃發後益々高められてゐる。

大戦と貿易統制 一九三九年歐洲大戦勃發後英領マレーにおいては直ちに戦時緊急命令としてポンド貨以外の國よりの輸入に對し制限品目或は禁止品目を制定する一方、輸出に對しても強固な統制を加へた。一九四〇年に入つてからは歐洲における戰禍擴大とともに歐大陸向輸出は全滅の形となり、この喪失額總計は戰前の數字によると月額一千万ドルと見積られるが、一方アメリカへの輸出は同國の戦時資材蓄積方針から急激に増加し歐洲市場の喪失を補つて餘りあるものがあつた。七月アメリカが設置したゴム貯蔵會社及び金屬貯蔵會社の内容は

ゴム貯蔵會社は國際ゴム管理委員との協定により、ゴム十五萬噸をニューヨークC.I.F價格、一ポンド當り一八セント乃至二〇セントで買付けを行ひ、資本金は復興金融會社及び民間業者の各半額出資による他、復興會社から六千五百萬ドルの金融を受ける。

金屬貯蔵會社は國際錫委員會との協定により、アメリカ諸港におけるC.I.F價格一ポンド當り五〇セントで錫七千五百噸の買付けを行ふ。錫その他の金屬の購入のため復興金融會社から一億ドルの貸付を受ける。

で、このアメリカ側發表に呼應してマレーの下半年期ゴム輸出額當八五%、錫は七月より向ふ一年間一三〇%といふ高率配當が決定されたことは前述の如くである。

輸出貿易の活況

かくてマレーのアメリカ依存は益々強化されつゝあり一九四〇年一月から八月までの對米輸出は額三三三、〇一四、〇〇〇ドルに上りすでに戦前一ヶ年分をはるかに突破した。更にイギリス、カナダ、オーストラリアへの輸出も著しく増加し、一九四〇年の輸出貿易は英米依存の強化によつて前年に比し約五割増を示した。これは輸入にも反映して七月までの輸入累計は四九四、五一一、〇〇〇ドル、前年同期に比し三割の増加を示したが、これは主として蘭印、タイよりの粗製ゴム及び錫鐵の輸入増加によるものである。

對日貿易の近況

つぎに對日貿易を見るにマレーはゴム、錫鐵を主として自動車用ガソリン、揮發油等を輸出し、日本から綿布を筆頭に鋼鐵、絹製品、人絹及び人絹製品、石炭、化學製品護謨製品を輸入してゐるが、一九三二年のオタワ協定以後イギリス商品に對する特惠的取扱ひを擴大する一方、輸入税の引上げにより日本の綿布、人絹は從價三割乃至八割の關稅を課せられ、更に支那事變の影響で英領マレー在任華僑の日貨排斥運動と歐洲大戦勃發後の輸入禁止制限令によつて日本よりの輸入額は著しく減じ一九三八年は一二、〇〇〇、〇〇〇ドル、一九三九年は一二、四〇〇、〇〇〇ドルであつた。これを對日輸出一九三八年の五三、八八〇、〇〇〇ドル、一九三九年の七六、七三三、〇〇〇ドルと比較すると著しく片貿易に偏してゐるといはなければならぬ。日本への輸出の主流をなすものはゴム及び錫で一九三九年においてゴムは二二、六三一、〇〇〇ドル、錫は一六、一〇二、〇〇〇

一九四〇年第三四半期英領マレー國別輸出統計(單位千ドル)

	七 月		八 月		九 月	
	1940	1939	1940	1939	1940	1939
イギリス	15,479	7,341	24,333	8,061	13,736	7,463
アメリカ	47,819	22,770	42,541	24,783	61,133	27,915
フランス	4	2,980	—	4,714	—	1,914
蘭領東インド	3,143	3,851	2,662	3,176	3,067	3,631
イタリア	0	1,032	—	1,309	—	221
タイ	1,244	984	1,493	1,056	1,344	996
サラワク	1,625	1,027	1,392	863	1,208	969
ドイッ	0	2,980	—	1,381	—	59
インド	1,930	1,595	1,494	1,696	1,933	2,788
オーストラリア	2,245	1,129	2,524	1,490	746	1,152
日本		5,244		4,603		4,580
總 額	92,726	59,498	92,939	62,018	98,097	59,801

ゴム、錫産業の活況

一九四〇年第三四半期英領マレー國別輸入統計(單位千ドル)

	七 月		八 月		九 月	
	1940	1939	1940	1939	1940	1939
イギリス	7,119	8,492	9,059	9,929	12,416	6,908
アメリカ	1,568	1,087	3,596	1,315	4,313	1,876
フランス	255	225	49	240	—	173
蘭領東インド	31,215	15,381	22,802	13,172	23,484	16,592
イタリア	83	236	4	214	—	81
タイ	10,824	11,177	12,907	8,986	10,118	10,072
サラワク	4,511	3,697	2,415	2,312	3,242	3,131
ドイッ	7	1,092	6	1,089	—	307
オーストラリア	1,484	1,357	1,674	1,359	1,505	911
インド	1,565	1,623	2,940	1,375	2,258	1,402
日本		1,369			953	948
總 額	71,106	54,325	69,790	51,039	71,739	51,569

日本生ゴム輸入相手國別統計
(各年度とも第一四半期 單位噸)

	1938	%	1939	%	1940	%
英領マレー	7,605	52.2	3,143	31.5	3,543	22.0
蘭領東インド	3,465	23.8	2,508	25.1	5,230	32.5
總輸入	14,569	100	9,994	100	16,101	100

○ドルに上つてゐる。日本のゴム、錫は従来主としてマレーに依存してゐたが支那事變を契機としてこの依存度を漸次緩和してゐる。ただ近年重視されるのはマレーの鐵礦で、その地理的位置から今日利用しうるのは日本のみで、日本鐵礦、石原鐵礦の進出により事變前我が國鐵礦使用の四割を供給してゐた。

分強を占めた。ゴムの生産は一九三四年六月一日以來國際ゴム生産協定の制限下におかれるに至つたが、今次歐洲大戰勃發後は制限を緩和して増産を行ひ専らアメリカに向け輸出してゐる。また

ゴムと並んで世界一位を誇る錫は品位極めて優秀で含有量七〇%以上のものすらある。最近ではゴムと同じく國際協定によつて生産が制限されてゐるが今次大戰の影響で錫の需要増大したためゴムと同じく制限を緩和して増産に拍車を加へてゐる。一九三八年における生産高はマレー聯邦が、四一、〇七七噸、マレー非聯邦が二〇、〇五七噸、海峽植民地が一三三噸、合計四三、二四七噸で一九三九年における對米輸出高は五六、七九六噸に上り、今次大戰以來英領マレーの錫はゴムとともに英帝國の最も大切な米國下ル貨の供給源となつてゐる。

三 支那事變と華僑の勢力

根強い華僑勢力 英領マレーにおいてイギリスは九二六、〇〇〇、〇〇〇ドルを投資し列國全投資額の九〇%を握つて絕對的地位を占め英領マレーの二大産業たるゴム、錫を獨占してゐるもの、一方在住華僑の勢力は侮り難いものがある。マレーと華僑の關係は極めて古く華僑が最初にこの地に渡來したのが魏朝時代といはれてゐるだけイギリスがマレーを領有した當時華僑の經濟的勢力はマレー全土に伸びゴム、錫の開発は既にその手によつて行はれてゐた。

入國阻止も無効 支那事變以後は避難民の群が殺到しマレー政廳當局は一九三七年二月より一箇年間の渡航者數を男六〇〇〇名に限るとし入國を制限し、更に一九三八年一月一日以降は男三〇〇〇名と半減する一方、女は五〇〇名と初めて女子渡航者の制限を行ひ華僑入國の阻止に努めたにも拘らず、事變の進展と共に避難者は益々増大、一九三八年に入つてから月々の華僑渡航者は二萬人に上り遂に華僑人口はマレー人を抜いて第一位を占めるに至つた。即ち一九三八年十二月末現在のマレー人口は五、二七八、八六六人で、このうち華僑は二、二二〇、二四四人約四二%を占め、更に一九三九年六月の推定によると總人口五、四四四、八八三人、このうち華僑は二、三三〇、二〇五人でマレー人の二、二五九、三三一人を凌ぎ第一位を占めてゐる。

勢動な抗日運動 支那事變勃發するやマレー在留の華僑はその經濟的勢力を利用して猛烈な抗日運動に移り、一九三七年八月シンガポールに籌賑祖國民大會を結成、南洋華僑に對する工作の本部として活動を開始した。こゝにシンガポールは南洋華僑に對する故國運動の策源地となり、獻金、獻品、宣傳、排日貨等、事變を契機とする諸種の華僑運動は凡てここを中心として展開されるに至つた。それだけに地元たる英領マレー内は猛烈を極め、排日團體の策動は無智な華僑を煽動して諸所に暴動が勃發、ためにマレー政廳は排日運動がマレー治安に及ぼす影響を慮り、惡質な排日華僑の檢挙に乗り出したが、殆ど効果なく運動は事變の進展とともに益々激化した。

籌賑運動のローガンとして掲げられたものは、一、日貨を賣買せず、日人と往來せず、二、日人漢奸の宣傳に迷はず敵人の反宣傳文字を見ず、三、節約、獻金、籌賑會の籌賑協助に努力し貯へあれば之を投じ、力量あるなれば之を出して目的を達成せん——の三項目で、シンガポールの本部を中心に各地に設けられた籌賑會はこれが實踐に移つたのである。

討汪運動も始まる 英領マレー内における救國運動の主なるものを見ると、先づ宣傳運動で、これがために演説、戲劇、歌謠

かくの如くマレー人口の第一位を占める華僑は經濟的領域においてのみ活躍し、政治的野心を有せざるところからマレー當局は從來極めて寛大な態度をもつて臨んだ結果、彼等の經濟的地盤は牢固として抜く能はざるものがある。土人は専ら傳統的に農業に専心し、歐洲人は錫、ゴムなど大規模經營を要する近代的産業に力を注いでゐるマレーにあつては、第一に商業は全く華僑の獨占するところとなつてゐる。彼等は土人から農産物を求め、外地へ賣捌き、また歐米の工業製品を輸入販賣し、商業を介して土民に小口金融を行ひその生産にまで干渉し、また歐米人の手の及ばぬ小資本經營の鑛工業にまで進出し中間搾取的存在として大勢力を握つてゐる。一九三八年における華僑のゴム植付面積は全植付面積の一七%に當り、同年錫の生産高また全部の三八%に上つてゐる。

支那事變と華僑の勢力

新聞、その他出版物等あらゆる機關が動員された。即ち籌賑會本部は連續的に講演會を開き、各地の青年層、あるひは劇團は籌賑遊藝會を組織、歌謡方面においても抗日思想を主題とし、新聞出版物は戦況を自己に有利に捏造して放送する等、大童となつて一般華僑に呼びかけたのであるが、一九三八年十二月汪精衛の重慶脱出つゞいて親日政權樹立以來は専ら討汪運動に集中した。この宣傳運動と共に一九三八年五月蔣政權が國民精神總動員運動を宣實するや、マレー籌賑會も直ちにこれを發動し、抗戰建國の任務と稱して華僑の日貨排斥を強要し、これに應ぜざるものは漢奸の名をもつて暴力を振ふなど過激な行動をとつた。また獻金、獻品運動も猛烈で、事變以來マレー籌賑會は一ヶ月一、三三七、〇〇〇元募集を目標に活潑な運動を展開する一方、度々獻品募集を行つた。その成果については正確なる判断を下し得ないが獻金は事變以來毎月豫定額を突破してゐると籌賑會は發表してをり、かつ一九三八年全南洋華僑に對して行はれた冬衣募集運動においては英領マレーは一ヶ月にして豫定の十二萬點に達したと報じてゐる。その他滇緬公路從業工夫として三〇〇〇名の華僑派遣、慰勞施療團の派遣等も行はれた。

日貨排斥から苦境に かかる救國運動の展開につれて當初排日の高熱に浮かされた一般華僑もその後事變の長期化、蔣政權の頹勢とともに次第に冷却の一途を辿り、特に行きすぎた日貨排斥の繼續によつて日本商品を主として取扱つて商業を獨占してゐた

一般華僑の生活は極めて苦境に陥り、抗日團體への怨嗟が高まつてゐる。

四 シンガポールの防備強化

完成した大要塞 『東洋のジブラルタル』として極東海面におけるイギリス海軍最大の據點たるシンガポール軍港の英米共同使用は既に現實の問題となつてゐるが一九二一年日英同盟廢棄の直後着工し天文學的數字に近い巨費を投じた大要塞が完成したのは一九三七年。ハワイ眞珠灣、ジブラルタルと並んで世界最強を誇る防備振りは陸海空の三方面に周到な施設が窺はれる。陸軍兵力は大戦前約七〇〇〇名と見積られたが歐洲大戦勃發後はインド駐屯兵の派遣によつて更に増強されてゐる。これらの陸兵は全島要塞といはれるシンガポール島に立籠り射程三十二軒乃至四十八軒に及ぶ一六乃至一八インチ砲や林立する高射砲の操作に當り、その重砲陣はアメリカのパナマ防衛陣と並び稱せられる。空軍はセレーターに根據地を置きブレンハイム爆撃機やサンダーランド飛行艇等の新鋭を含む二中隊以上を有し、この新鋭飛行艇は二〇〇〇餘軒の航續力をもつて支那海を脅かさうとしてゐる。平時シンガポールが英蘭兩國航空幹線の中心點として英本國及びインドと連絡し更にオーストラリア始め太平洋諸島、香港に伸びてゐるの鑑みても戦時における空軍基地としての重要性が認められる。

萬全の艦艇修理施設 かくてイギリスは一九四〇年十一月軍ポングールに極東防衛司令部を新設し初代長官としてボバム空シ大將を任命、いよ／＼防備強化に乗出した。英海軍の前進根據地として極東艦隊の常駐港であるシンガポールのもつ最大の誇りは大艦隊の修理、補給に必要なあらゆる近代的設備を具備してゐる點にある。海軍基地は空軍基地とともにジョホール水道側に建設されて強力に防備され、一九三七年二月に完成した世界第二位の大乾ドック、イギリス本國から曳航した大浮ドックを備へて現在の最大主力艦の修理を行ひ得ると共に戦艦數隻を横付けにし得る七〇〇メートルの埠頭、一〇〇萬トンの重油貯藏タンクを備へてゐる。かかる施設を有するシンガポール軍港の英米共同使用は同軍港が持つ地理的優位を利用して英領マレー、蘭印、オーストラリア、ニューギランド、インド、ビルマ等東半球英プロットの最大軍略地點とし、更にアメリカの對日馬蹄型包圍陣型の一端の終點として、ます／＼その重要性を高めてゐる。

蘭領東印度

一 本國喪失後の地位

國際的地位一變ず オランダ本國は國際的勢力において微弱なため國際的葛藤に對しては常に中立性を主張してゐたが、この點は蘭印にあつても同様であつた。しかし事實において本國はイギリス勢力の影響下にあり、蘭印も投資においては本國人投資を除けばイギリス人の投資が最も多く、取引においてもシシガポールその他アジア、オーストラリア等のイギリス系商人との取引が多いのでイギリス勢力の影響を最も強く受けてゐる。中立性の主張とは要するに從來の關係を維持して新しい變動の渦中に入るのを避けんとする意味のものと解される。一九三九年九月第二次歐洲戰爭が勃發すると共に、オランダは直ちに參戰はしなくともイギリス側に近い立場に置かれ、また蘭印も本國及び英佛兩國との貿易額が増加して、これらの戰時的需要に應じ、兩者の關係を濃くしてゐる。しかも本國が遂に國外に立ち續けることが出来ず、一九四〇年五月ドイツ軍に占領されて、その女皇と政府は本國を捨ててイギリスに逃避するに至り、こゝに蘭印の國際的立場は全く一變することゝなつた。

從來、蘭印はオランダの植民地であるといつても地域が非常に隔たり、事實上本國の保護を多く期待することが出来ず、たゞ本國が國際的に安全であれば、その及ぶ限りにおいて蘭印も安全を望み得たのみであり、却て經濟的には蘭印は本國に對して非常に寄與してゐた。のみならずオランダは蘭印統治以來熱帯農業等の開發において他の諸國のそれに劣らざる成功を収めたが、その利益は十分に本國に吸収して來たのである。それが本國を占領し盡されるに及んで、本國にある銀行、商社等はいづれも本據を蘭印に移して漸くその存続を圖るやうになり、蘭印は愈々それ獨自の立場において進まなければならなくなつてゐるのである。

アメリカ依存増大 本國が占領されて以來は、本國と蘭印との間は通信も殆ど杜絶し、況んや貿易關係は斷たれ、ただイギリスと取引を續けてゐるに過ぎない。一方從來の如く、日本との貿易は依然多いのみならず、アメリカとは從來は蘭印特産物の輸出市場であつて、アメリカ品の輸入が少かつたのが、輸入の激増を見てゐる。それも機械類、航空機、武器類であり、その他の一般物資も歐洲よりの輸入減少がアメリカ品によつて大分補はれて、アメリカとの關係が擴大してゐるのが注目される。即ち一九四〇年上半期(七月まで)の蘭印貿易を蘭印政府經濟部發表によつて見ると、輸出總額が五四〇、〇〇〇、〇〇〇ギルダ、輸入總額は二九〇、〇〇〇、〇〇〇ギルダで、前年同期に比して輸出入とも非常な激増であり、この内、日蘭印間は對日輸出は二三、七二

五、〇〇〇ギルダで前年同期の一、二、一、九三、〇〇〇ギルダに比し飛躍的に増加し、日本からの輸入も前年同期より二〇%の増加で四四、八三二、〇〇〇ギルダに上つてゐる。また米蘭印間の貿易は、對米輸出は前年度七七、四四〇、〇〇〇ギルダの約二倍で、一六六、六六八、〇〇〇ギルダに上り、アメリカからの輸入は三五、七〇五、〇〇〇ギルダから五七、六九一、〇〇〇ギルダへと躍進してゐる。

海軍充實に必死

また蘭印の國防は近年に至つて海軍の強化が圖られ、一九三九年において八、〇〇〇トン級巡洋艦三隻が主力であつたのが、その後輕巡洋艦二隻、潜水艦四隻、水雷艇一二隻を建造してゐる。また歐洲開戦後は更に増強を企て、一九四〇年四月に至り、二七、〇〇〇トン級巡洋艦三隻及び補助艦建造、バタヴィア、スラバヤの海軍施設計畫に關する二八三、〇〇〇、〇〇〇ギルダの海軍増強案を決定した。これは一九四四年に最初の巡洋艦竣工を始めとして一九四六年に完成する計畫であるが、既に各國の造船能力に餘力がなく、またその經費において蘭印財政として頗る無理なものである。それも蘭印自體の國防としては、もつと小さい中型級の巡洋艦が適するものを、シンガポールのイギリス海軍と協同する目的のためにかやうな案を立てたものと見られる。國民參議會にこの案が附議された時に土人側の國民派は棄權して採決に加はらなかつたと報じてゐる。また空軍の擴張も圖つてゐるが、航空機は全部アメリカから買つてを

り、また同十月可決された一九四一年度豫算の中、國防費は二九五、〇〇〇、〇〇〇ギルダと總豫算の約半額を占めてゐる。蘭印の國防費は、一九三六年が五八、〇〇〇、〇〇〇ギルダ、三九年が一四七、〇〇〇、〇〇〇ギルダで、四〇年が二七六、〇〇〇、〇〇〇ギルダ、四一年が前記二九五、〇〇〇、〇〇〇ギルダと急激に増加してゐる。

二 對日關係の新展開

有田外相が意向宣明

歐洲においてオランダの存立が危急と見られると共に蘭印の立場が問題になつたので、一九四〇年四月十五日、わが有田外相は左の如き談話を發表して日本の見解を表明した。

日本は南洋諸地方、なかんづく蘭印と經濟的に有無相通の緊密なる關係にあり、他方これら諸地方と他の東亞諸國との間の經濟關係もまた相當密接なものである。要するに日本及びこれ等諸國並に諸地方はいづれも相倚り相授けて共に東亞の繁榮に寄與しつつある次第であるが、若し歐洲の戰禍がオランダに波及し諸君の言ふが如く(新聞記者團の質問に對し)蘭印がその影響を受くることとならば、有無相通、共存共榮の維持増進に支障を來すのみならず、東亞の平和及び安定の上よりも好ましからざる事態となるであらう。叙上の見地より帝國政府は歐洲

戦争の激化に伴ひ蘭印の現状に何等かの變更を來すが如き事態の發生については深甚なる關心を有するものである。

ハル長官も聲明 これに對しアメリカのハル國務長官も四月十七日左の如く聲明した。

余は蘭領東インドの現状維持に關する日本政府の關心を表明した有田外相の聲明を興味を以て讀んだ。蘭領東インドの地位に關する如何なる變更も多數國家の權益に直接の影響を與へるものである。蘭領東インドは全太平洋の國際關係において極めて重要であり、(中略)同諸島はまた全世界の通商上にも重要な要素である。同諸島はゴム、錫、キニーネ、コブラ等極めて重要な商品の世界産額の大きな部分を産出する。アメリカを含む多數の國家は實質的にこれら物資中あるものの供給を同諸島に依存してゐるのである。平和的手段以外の方法で蘭領東インドの内政に干渉すること、または同地域の現状に變更を加へることとは常に蘭領東インド地域のみならず、全太平洋地域に互る安定、平和並に安全の大義に有害な影響を及ぼすであらう。この結論は既に全世界に互つて認められ、且つアメリカもこれを明確に支持するところの公理を基調とするものであるが、この公理は一九〇八年十一月三十日、日米兩國間に交換された覺書中にも具體的に表現されてゐる。(後略)

日本牽制を意圖 これは有田外相の談話と大體同じやうな表現を用ひてゐるが、日本側の表明を機會に、その言葉をとつて日

本を牽制せんと意圖したものであり、また蘭印から必需品の供給を確保せんとしたものである。次で同十六日、オランダ政府もその立場からわが政府に申入れて

「…右日本政府の態度につき謝意を表示するとともに、オランダ政府は現在において蘭印の保護を何國にも依頼しをらずまた將來もこれを他國に依頼せざるべきこと、及び何國よりの保護の申出若しくは干渉ありとも拒否すべき決意を表明した…」(帝國外務省情報部長談)

しかるに續いて五月十日ドイツ軍はオランダ、ベルギー、リユクサンブルルに進入し、即日オランダの首都ヘーグを占領し、十四日にはオランダ軍がドイツ軍に降伏したので事態は一變した。そこで有田外相は閣議の決定に基き、改めて蘭印の現状維持につきオランダ及びその他關係各國に申入れた。

帝國現状維持を要望 帝國政府はさきにオランダに戦争の波及すべき場合を慮り、去る四月十五日蘭領東インドの現状に何等かの變更を來すが如き事態の發生について深甚なる關心を有する旨の態度を表明し、且つオランダ政府に右の次第を通告したるに、オランダ政府は如何なる場合にも右現状維持の方針を變更せざるの決意を表明するところあつたが、今回愈々職局がオランダに波及するに至りたるを以て本十一日午後有田外務大臣より在京オランダ國公使の來訪を求めオランダ政府が蘭印問題に關する右決意を堅持すべきことを期待する旨申入れる一

方、在京英、獨、佛、各交戰國代表に對しても帝國の本問題に對する關心について注意を喚起した。なほアメリカ及びイタリアの兩中立國代表者に對しても帝國が關係交戰國政府に右の如き申入れをなせる旨参考として通報した。(帝國外務省情報部長談)

これに對しハル・アメリカ國務長官も『現状維持の原則を守る』と再聲明した。しかるに十日に至りフランス軍が蘭領の西インド諸島のキュラソー、アルバ兩島に上陸したので日本は同東インドに關心を有する立場からオランダ及び英佛兩國に抗議的質問を發したところ、駐日クレイギー・イギリス大使より『蘭印に對する日本政府の關心に全然同感で…イギリスは同島に關し干渉するが如き何等の意圖を有するものに非ずといふ旨を答へた。また十五日には駐日オランダ公使はわが外務省に書面を以て『今後蘭領東インドの外交事務に關する限り蘭印總督の指揮監督に服することとなつた』と通告した。

アメリカ依存深まる その後世界情勢は急速度に展開し、フランスの降伏、イタリアの參戰等により、獨伊勢力のヨーロッパ大陸制覇が濃厚となり、イギリスは愈々アメリカに依存することが深くなつた。フランスの降伏により佛領インド支那の立場も從來とは自ら異なるものになつた。即ち世界の形勢は獨伊を中心とする歐洲圈、アメリカを中心とする兩米諸國及び英國諸領地の圈ソヴェト圈等に大別される徴候が顯著になり、これらに對して東

亞の諸國も地理的、人文的に相近接するものが一團となつて相協力して行くべき形勢に置かれて來たのである。そこで六月二十九日有田外相はラジオを通して左の如く放送した。

有田外相放送 わが國華國以來の理想は萬邦をして各々その所を得しむるに在る。わが外交方針もまたこの理想に基くもので…東亞の諸國と南洋諸地方とは地理的にも、歴史的にも民族的にも、はたまた経済的にも極めて密接なる關係にあり、互に相倚り相扶け有無相通じて共存共榮の實を擧げ、以て平和と繁榮とを増進すべき自然の運命を有するのである。故にこれらの地域を一括して互助相關の關係に立つ分野となし、その安定を圖ることが當然の歸結と思はれる。かくの如く部分的に公正なる平和を建設しこれを集大成して世界全般の公正なる平和を建設せんとする考へは歐米諸國においても存するのである。しかしてこの思想はそれらの分野における安定勢力を豫想するものであり、かかる勢力を中心としてその分野内における諸民族が共存共榮と安定とを確保すると同時に、各分野は他の分野の政治的文化的及び經濟的特色を尊重し有無相通じ、しかも互に相侵さず協力することを以てその内容とするものである。これに對し、ハル・アメリカ國務長官は、さきにドイツに對してモンロー主義維持を申入れたのに對するドイツの反駁に應へてモンロー主義を説明しながら『他の地域においてもこれと同様のことが唱道されてゐるやうに見受けられるが、それとは過去におい

ても今日においても似てゐない」とて暗に論難してをり、またルーズヴェルト大統領も、秘書を通じて「たとへば佛領インド支那はアジアの勢力範圍に屬する故にその處分はアジア人の間で決すべく、これに對してはアメリカ政府は發言を要求しない。しかしながら關領インドはアメリカの國防と權益に關するが故にその處分については發言權を要求する」旨をのべてゐた。

松岡外相共榮を力説 七月には近衛内閣が成立したが、同内閣は八月一日基本國策要綱を發表して「現下の外交は大東亞の新秩序建設を根幹とし」と述べ、また同日松岡外相は談話において次の如く述べた。

私は年來皇道を世界に宣布することが皇國の使命であると主張して來たものでありますが、國際關係より皇道を見ますれば、それは要するに各國民、各民族をして各その處を得せしむることに歸着すると信ずるのであります。即ち我國現前の外交方針としてはこの皇道の大精神に則り、先づ日滿支をその一環とする大東亞共榮圈の確立を圖るにあらねばなりません。これが總て力強く皇道を宣布し公正なる世界平和の樹立に貢獻する道程に上る所以であります。しかしわが國民はこの道程に横はるところの有形無形一切の障礙を排除するはもとより、更に進んで我に同調する友邦と提携、不退轉の勇猛心を以て、天より課せられたる我が民族の理想と使命の達成を期すべきものと堅く信じて疑はぬものであります。

小林使節を派遣

即ち東亞共榮圈の理念がここにいよいよはつきり樹てられたもので、越えて九月には小林商工大臣を特派使節として關印に派遣し日本との提携を協議させた。會談中日獨伊三國同盟が締結されたが、日本側から「三國同盟條約の存在する」と否とに拘らず、日本は日蘭間の友好的關係を維持増進されることを衷心希望し、三國同盟により些かも影響を受けざるべきことを信ずる。日本の希望するところは「一に隣接國との共存共榮に他ならない」と正式に表明し、會談の一つの主題である石油問題について諒解を遂げた。その後間もなく小林使節は歸國したが、政府はこれに代つて改めて元外務大臣芳澤謙吉を特派使節として派遣し昭和十六年に入つて會談を續行することになった。關印政府はこの會談中にもその國民參議會で「關印の特産物市場としては日本が最も前途有望な市場である」といつてゐるが、小林使節が歸國の途についた翌日、同政府の情報部長リットマンはラジオで「わが祖國は心から同盟國の側にある、しかも關印はどこまでもオランダ王國の一部である。いま日本と會商してゐるのは純經濟的性質のものである云々」と述べてゐる。これより先き五月六日に關印がガスバル島の近海にあつた邦人漁船に關印海軍飛行機から射撃し、わが抗議によつて陳謝し、その後も邦人一名が關印兵士六名より毆打された事件、日章旗を凌辱した事件等が起つてをり關印政府は陳謝してゐるが、不穩な空氣がただよつてゐた。

戒嚴令と爲替管理

關印では五月オランダ本國がドイツ軍の

侵入を受けると共に直ちに戒嚴令を布き、外國爲替管理令を布いた。續いて從來關印はそのギルダー貨をドルにリンクしてゐたのを、ドルとポンドリンクの二本建となし、ポンド・ブロックの諸國との取引にはギルダー、ポンド爲替公定相場によつて取引することにした。

日本との經濟提携については六月末有田外相がラジオ放送を行つた頃、關印で生産する重要物資例へば石油、錫、ゴム、ボーキサイト、ニッケル礦、クロム鐵礦等の日本への輸入を確保すべく駐日オランダ公使と交渉し、基本方針は決定してその數量や取引等につき具體的交渉に着手してゐたので、これが小林使節の派遣によつて發展したものである。

爲替決済を圖建て

爲替問題について横濱正金銀行とジャワ銀行との間にバタヴィアで交渉が進められ十二月二十四日協定が成立し、日蘭印間の爲替決済を圖建で行ふことになり、從來の煩雜な狀態を脱し相互の貿易を一層便宜に且緊密にすることに成つた。その要項左の如し。

日蘭印銀行間金融協定要項

- 一、横濱正金銀行はジャワ銀行に關印貨勘定を、ジャワ銀行は横濱正金銀行に關印貨勘定を夫々設定す。
- 二、ジャワ銀行が關印貨資金を必要とする場合には横濱正金銀行は何時にても之を供給し、又横濱正金銀行が關印貨資金を必要とする場合にはジャワ銀行は何時にても之を供給す。

關印經濟の國際的地位

- 三、本協定締結當時ジャワ銀行が保有する關印貨資金及び横濱正金銀行が保有する關印貨資金は第一項のそれらの勘定に繰入を認む。
- 四、第一項の兩勘定の殘高はこれを相殺することを得。
- 五、横濱正金銀行の關印貨勘定またはジャワ銀行の關印貨勘定の殘高が一定額を超過したときはその超過金額は何時にてもこれを米貨に轉換することを認む。
- 六、本協定は明年（昭和十六年）一月一日より一ヶ年有効とする但し協定兩銀行の協議により三ヶ月の豫告を以て終了せしむることを得。

（追記）昭和十六年二月一日、ロンドンよりの入電はロンドンにあるオランダ政府は駐日オランダ公使に訓令して「オランダ政府並に關印政府は如何なる國家の指導の下においても東亞新秩序に關印を參加協力せしめんとする提案は、これを拒否するものである」旨日本政府に通達するやう命じたと傳へられる旨を報じた。しかしわが國の既定方針には變りがないことをわが外務省當局は言明してゐる。

三 關印經濟の國際的地位

關印の世界的產物 關印の世界的產物を見れば規那は世界生産額の約八九%を占め、ゴムは三三%を占めてゐる。またカボツ

蘭印輸出入總額

年度	輸出		輸入		出超	
	金額	數量	金額	數量	金額	數量
1934	526	9,002	294	1,583	232	7,419
1935	464	9,362	274	1,638	190	7,724
1936	552	9,757	282	1,607	270	8,150
1937	949	11,390	498	1,992	451	9,398
1938	665	10,961	485	1,998	180	8,963
1939	746	12,067	519	2,057	227	10,010

(單位金額百萬ギルダー 數量千瓩)

視されるのである。錫はまた二〇%を占め蘭印、英領マレー等に偏つて他に少いので重視されてゐる。蘭印經濟が注目されるのはその貿易に現れる世界市場的地位にある。

即ち別表によつて見ると漸く不況を脱却した蘭印の貿易は一九

クは世界市場における輸出量の八二%を輸出し胡椒は同じく八〇%を、茶は一九%を占めてゐる。

錫産物では石油と錫が重要視されるが、石油は世界總産額の二・八%を産するにすぎないものゝ、アメリカのそれが六〇%以上も占めて餘りに偏つてゐるところから世界第六位の蘭印の石油も重

蘭印の主な輸出入品 (1939年度) (單位金額百萬ギルダー 數量千瓩)

輸出品	輸出		輸入品	輸入	
	金額	數量		金額	數量
ゴム	196	420	飲食料品、嗜好品	86	601
香料	29	148	鑛物及び同製品	12	449
薬味	11	67	化學品、醫藥染料、塗料	49	251
薬材	49	891	化粧品	3	37
コ	78	1,606	土器、陶磁器	4	23
合油種子、植物性油脂	26	35	硝子及び同製品	3	30
砂糖	9	289	木村、キルク、什器等	123	148
タバコ	57	83	絲、織物、紐及び同工作品、裝身具	16	86
茶	19	138	紙及び同製品	59	308
強織維	28	895	金屬及び同製品	33	25
其他植物性産物	159	7,036	車輛及び同部分品	61	57
石油同製品鑛物性燃料	57	403	機械、樂器、ランプ、時計、武器類		
鑛石、卑金屬類					

三七年に至り急激に膨脹したが、これは數年間の沈滞によつて品薄になつてゐたためと、當時早くも歐洲に戰爭不安が漲つてその準備的買付が行はれたためである。一九三八年はその反動で減少したが、一九三九年は遂に第二次歐洲戰爭が始つた年で再び取引高を増大した。しかし蘭印の恒常の出超もその間數量においては輸出入の膨脹につれて膨脹してゐるが、金額においては寧ろ減つてゐるのは注目される。戰爭の影響による價格の昂騰が蘭印の主要輸出品なる原料品よりも、主要輸入品なる工業製品の方に強く現はれたためと、戰時的需要の多いやうな品物を蘭印も買急いだためである。

王産はゴムと石油 主なる輸出入品を一九三九年度の實數によつて概観すると輸出ではゴムが英領マレーと共に特産物として輸出品中の金額が最も多く、また石油は價格の昂騰と需要の増加が著しく、鑛石類に含まれる錫、錫鑛も多い。また砂糖、茶、植物性油脂及びその原料等は舊來多額を占めてゐる。輸入品では綿糸布、衣服等の衣料織維品が首位にあり、次には米、麥を含む飲食料品である。化學藥品、肥料等と機械、武器等の高度工業製品が多きを占めてゐるのは已むを得ない。たゞこの輸出入品を比較して見ると、輸出には熱帯性の特産的植物品と鑛産物が主であり一方にこれを生産する人口の生活必需品は衣食料品ともに多額に輸入してゐることが見受けられる。さうしてその結果輸入總金額の八九割乃至四五割といふ高率の出超を續けてゐるのである。輸

蘭印經濟の國際的地位

出品中の代表的なものを取つて年度の變遷を見ると、農産物の首位を占めた砂糖は輸出減退の傾向著しく、次にゴムは不況時代の減退を盛り返して再び旺な需要を見るに至り、金額に於て砂糖を凌駕してゐる。石油は金額も殖えてゐるが數量の激増が目立つ。砂糖は各國の生産高が殖えて特産的性質が乏しくむり、ゴムは尙特産的強味を持つてゐること、石油の戰時的需要の増大等によるものである。

次にこれを取引國別に見ると、オランダ本國は輸入品の仕出國としては金額において首位を占めるが、それは蘭印からの輸出金額よりは少い。輸出仕向先としてはアメリカが金額において最も多くアメリカからの輸入はその割合に少い。次にはシンガポールの仲繼貿易市場に對する輸出が多く、日本とは輸出よりも輸入が金額においてかなり多い。

オランダ本國との貿易 不況前に比べれば減少し、殊に輸入が激減してゐるが、近年輸出が減つて輸入がまた殖える傾向を示し、それが歐洲開戦後は交通の困難によつて急減し、次いで本國がドイツ軍に占領されるに及んで直接の連絡が出来なくなつた。輸出の主なるものは砂糖で毎年八萬トンのジャワ糖をオランダが買取る義務を負ふやうになつてから急増し、規那は薬用以外のものは減少し、錫の増加があつた。輸入の増加には國別割當による品目でオランダよりの輸入割當の増加によるものが多く、鑛酸、硫安、綿製品等が殖えてゐた。

インド

一 憲法實施後の政情

インド統治條令實施 一九二七年サイモン委員會の出現以來懸案のインド新憲法、即ち一九三五年のインド統治條令 (GOVERNMENT OF INDIA ACT, 1935) は遂に一九三七年四月一日を以て實施された。イギリス側はこれを以て『永久的インド憲法』と稱したがインド人はこれを全く期待に反した『奴隸憲法』なりとして、既にその草案發表以來、國民會議派を主體とした反對運動が續けられて來た。

この新憲法の規定は原則を要約すれば次の如きものである。

- 一、インド聯邦制 總數六百に及ぶ大小の王侯領 (INDIAN STATES) と英領インド (BRITISH INDIA) とを一括してインド聯邦を確立する (英領インドには知事を置く十一州と政務長官を置く六地方が含まれる)
 - 二、州自治制 従来の半責任政治形態たる二重政治制 (ダイアキリー制) を廢止し、各州に完全な自治制を施す
- その結果聯邦並に州に責任内閣制が設けられ、聯邦には二院制より成る立法議會が開かれ、州には州立議會が開けられる

六、商業上の差別待遇の防止 イギリス商工業に損害を與へる如き法律實施を防止し、イギリス資本家の獨占的地位を保障すること

七、總督支配下の各部門の行政にとつて障礙となる事項 總督は『特殊責任事項』の規定によつて、議會の協賛を経ることなく、法律的效力を有する任意の條令を發布し、また必要と認めれば議會の審議を停止せしめることが出來、またその議決を否認し得る、中央豫算の八割五分の決定權は議會に無く總督の手中にある

全面的反對運動起る 完全獨立のために闘つて來たインド民族運動がこのやうな憲法に満足しなかつたのは當然である。インド産業資本家の利益を代表する會議派もその漸進主義に拘らず、多數派たる地位を以て強硬なる反對を續けた。

この反對は憲法の全面的否認を中核とするが、憲法の主目的たる聯邦制及び州自治制に對するそれらの反對論も闘争の主題となつて來た。かゝる『奴隸憲法』に對して、インドの憲法はインド國民の手によつて完全に作り得るから、そのために憲法制定會議を召集せよとの要求が一九三六年十二月會議派のフェーズブール大會においてジャワハール・ネールによつて提案された。この案は英領インド各州及び王侯領において成年者を選挙民として普通選挙を施行し、選出された代表によつて英政府から全然干渉を受けることなくインド憲法の草案を作成する全權を附與された

憲法實施後の政情

が、國防、外交、宗教等はすべて國王を代表する總督の『留保部門』として議會は關與し得ない。また總督及び州知事には、『特殊責任事項』の規定により廣汎なる獨裁的權限が附與された。

インド國民がこれを以て『奴隸憲法』と稱する通り、この條令によつてイギリスは從來より以上にインドを強力に支配することを得るに至つた。自治は名目のみで事實上總督の獨裁的權力が強化されたことはインド國民が『パンを求めて石を與へられた』かの前大戰後のモンタギュー・チェルムスフォード憲法と何等異るところはなかつたのである。

總督が如何に廣汎なる權限を與へられたかはその『特殊責任事項』の内容を検討すれば明かである。即ち

- 一、治安の維持 インド側から見ればこれは獨立運動に對する彈壓權を意味する
- 二、財政及び信用の安定 植民地インドよりの搾取と、イギリスの投下資本の擁護を目的とする
- 三、少數民族の法律上の利益の擁護 民族的、宗教的の反目抗争をかゝる大義名分の蔭にかくれて激化せしめる
- 四、官吏の權利及び特權の保障 いふまでもなく英人官僚の權力の強化
- 五、各王侯領の權利擁護 イギリス統治に忠實なる王侯領諸王の領内人民に對する權力を擁護するもの

大規模な憲法制定會議の開催を要求したものである。

會議派はこの憲法制定會議のための選挙權を廣汎な大衆層に與へることによつて、大衆の力を有効に結合せしめ、またイギリス政府の傀儡たる王侯領治下の臣民の意思表明をもこの公開選挙を通じて行はしめようと企圖したのである。ジンナーを盟主とする回教徒聯盟その他の會議派に反感を有する黨派のみはこの案に對して全面的に反對を表明したが、他は多少の修正を加へるにしても同派と意見を同じくし自主的憲法制定會議開催を要求してゐる。これに對してイギリスは依然としてインドの政治的進歩について責任を有するものはイギリス政府のみとの見解を持して來た。

聯邦制採用の理由 聯邦制は王侯領と英領インド各州とを一丸とするものであるが、イギリスがこの制度を採用した理由は、從來よりイギリスの庇護の下に封建的特權を享受し、民主主義化せる各州とは異なり、完全にイギリスに隸屬せる王侯領を以てインド民族運動に對する一つの障壁たらしめ、これを自己の利益のために、廣汎に利用する可能性を得んがためである。聯邦制による聯邦議會兩院の議席に現れた王侯領と英領インド各州の對立は左の如くである。

	上院	下院
英領インド	一五六(六〇%)	二五八(六七%)
王侯領	一〇四(四〇%)	一一五(三三%)

この上院の四割、下院の三割三分を占める王侯領議員はすべて

普通選挙に依らず各王侯の指名である。然るに英領インドから選出される上院議員は財産資格等を伴ふ制限選挙法により地主、資本家等の保守派に占められ、下院は州議會を通じての被選制の上に分割選挙法によつて議席は各階層例へば、回教徒、シーク教徒等の宗派別にまた地主、英人等に分割されてゐるので絶大多數黨の出現することは絶對に不可能とされてゐる。従つてイギリス側の命のまゝに動く王侯領議員は一體となつて上下兩院に多數派を形成し英領インド選出の上院議員は保守派、特權階級としてイギリスの利益に奉仕し、唯一の下院における民族代表は何等議決勢力を形成し得ないのである。これは巧妙なるイギリスの分割統治の一方である。會議派の反對理由は上記の如き點に集中されたが、回教徒聯盟を中心とする回教徒は例の宿命的なる回印相剋の觀念からヒンヅー教徒に對する少數派たる地位を強調して、ヒンヅー教徒の支配下に立つことを拒否してゐる。特に英領インド自治州に會議派内閣が成立して以來激化するに至り、またこの回印相剋の間にイギリスは巧みに乘じてゐる。

王侯領側の危惧 王侯領側は根本的に聯邦制に對して拒否することはないが、聯邦制の成立によつて王侯達が現在享有する廣汎なる政治的、經濟的特權を剝奪されたり、制限されることを極端に恐れ、むしろイギリスの統治下に立つて現状を維持せんことを希つて居り、殊に從來から會議派の王侯領に對する攻勢(例へばラヂョート王國問題)と英領インドにおける會議派の絶對優勢

による民主主義の濫漫を嫌つてゐる。

聯邦制實施延期 この聯邦制は憲法に規定された通り、聯邦の確立を見るには聯邦に参加した王侯領の人口の總計が全王侯領人口の過半数に達することを必要とされるため未だ實施を見ず、一九四〇年四月より漸く實施と決定してゐるが歐洲戰爭の勃發とともにイギリスはかゝる議論多き聯邦制の實施によつて危機を誘致することを恐れ、無期延期を言明した。

従つて新憲法中實施を見てゐるのは州自治に關する部分のみである。從來の二重政治制が撤廢されたとはいへこの州自治も總督と知事に與へられた特殊權力のため單に名目上のみ自治が與へられてゐるに過ぎないので、會議派は一九三七年初頭の新憲法による第一回州議會選挙の直前まで新憲法絶對反對の根本方針を持續して州自治制にも反對であつたが、既に當時非協力政策を放棄してゐた結果、一部急進派を除いて總選挙に参加し、合法的手段を以て新憲法反對運動を遂行すべく同派の長老ガンヂーに一切の處理を委ねた。ガンヂーは出來得る限りイギリス側と協調して、一致點を見出さうと努力し、かゝる『奴隸憲法』の下においてもなほインド國民の地位改善を策する方途を發見しようとした。

會議派州議院に大勝 英領インド十一州の各州議會選挙は一九三七年二月に行はれた。會議派は、(一)憲法會議開催、(二)小作制度の改革及び農村負擔の是正、(三)八時間労働制及び義務教育の實施、その他社會政策の斷行、(四)政治犯人の待遇改善等のス

ローガンを掲げて選挙闘争を行ひ、その結果十一州中の六州、即ちマドラス、ボンベイ、ビハール、オリッッサ、聯合、中央の諸州において絶對多數を占め、アッサム、ベンガルの兩州及び西北國境州でも大勝を博した。イギリス側にとつてこれは相當の痛手であつた。第一にこれら九州は産業的、商業的、文化的に最重要な地域であり、第二にこれら九州の人口は二億二千萬といふ多數に上るからである。

會議派の大勝とともに當然少くとも絶對多數の六州には會議派の内閣成立が豫測されてゐたところ、會議派は總督並に州知事に對して、『新憲法規定』の特殊責任事項に基いて州大臣の意に反對し特別權能を行使せずといふ保障を要求したが容れられなかつたため、六州において内閣組織を拒絶し、六州には少數派内閣が成立するに至つた。しかしながらこれら少數派内閣に依る州政治は當然混亂を來し政府は狼狽して會議派との妥協を計り、遂に七月に至り前記六州に會議派内閣成立し、續いてアッサム及び西北國境州にも同派内閣の成立を見、こゝに英領インドにおける新憲法運用上の不安は一應解消するに至つた。

會議派内閣の施政 しかし『永遠の反對黨』たりし會議派が爲政者の立場に立つて果して從來の主張を實踐に移し、圓滑に政務を運行し得るかについて注目されたが、會議派内左派の不滿は已むを得ずとして、或る程度の革新政策は成功を収めたと思はれる。もともと州政府組織に反對して來た左派急進分子は會議派内

閣の穏和化を指摘し會議派内部の左右抗争は激化するに至つた。一九三八年二月聯合州及びビハール州の兩州で、會議派内閣は四十一名の政治犯人釋放令を發したが、兩州知事は、總督の命に基き釋放令實施を拒否し、總督と會議派との正面衝突の危機が傳へられた。これも會議派急進分子の指導による行動であつたが、首腦部は總督と妥協し、總督の調停に委ねるに至つてやうやく危機を切抜け得た。

更に同年四月にはオリッッサ州で知事の賜暇歸國中、會議派州大臣の下僚たる同州英人主税官をインド政府が知事代理に任命したため會議派の反感を買ひガンヂーを始め會議派の強硬反對を招いたが、この危機も妥協によつて解消した。

ボース、ネールの衝突 會議派幹部のかくの如き妥協的穏和態度に對して一九三八年の會議派議長たる急進派の巨頭シュバースボースは慍然せず、對英妥協反對、全國的不服従運動を主張したがガンヂー、ネール等はこれに反對し、一九三九年度議長にボースが再び一般大衆の與望を擔つて當選するや遂に一九三九年二月廿二日會議派の最高執行機關たる常任委員會の委員十五名中十二名までが連袂辭職を斷行し、三月十日の運用委員會はボース議長不信任案を可決、その後一時ガンヂー派とボース派との妥協を見たが四月廿九日常任委員の任命に關して兩派の意見衝突しボースは議長を辭任し新議長には一九三四年度の議長たりしラヂョンドラ・ブラサドが就任した。ブラサドの穏和政策に對抗してボースは會

議派内の左派急進分子を糾合して前衛派を結成し、三月トリブリの會議派年次大會の席上六ヶ月の期限付對英最後通牒案を提出、(一)一九三五年インド統治條令の廢止、(二)憲法制定會議召集、(三)イギリスと平等の立場に立つ同盟國たることを承認すべしとなした。

一方ガンヂーはその出生地たるラヂコート王國で封建的な王侯の自覺を促すべく政治改善闘争を開始し一九三九年三月二日最後通牒を突き付けハンガー・ストライキに出たが、五月に至り闘争は完全にガンヂー派の失敗に歸したため、ボース一派の勢力が大いに伸長される機會を得、党内の青年層はすべてボースを推して急進的行動に出でんとしたが、そのため會議派實行委員會はボース懲戒の決議を行ひ、ベンガル州國民會議派委員會議員の資格喪失並に今後三ヶ年如何なる會議委員にも選舉される資格なしとの黨宣言を發表し、こゝに會議派指導部の右翼化と青年層の急進化といふ二つの潮流は表面化し、會議派は憂慮すべき事態に陥つた。このトリブリの年次大會を機とする會議派の危機は實に一九三〇年より三一年にかけての第一回市民的不服従運動展開の結果總督令に依つて會議派が非合法を宣告され、全印に騒擾を捲起した當時の危機にも比較し得られる。ガンヂーも自らデレンマに陥つたことを自認し、労働者、農民、中産階級と會議派指導者との連繫は失はれんとして昏迷状態に入りつゝあつた。インドは實にかくの如き情勢の中に今次大戰の段階へ無理に追込まれるに至つ

たのである。

二 大戰勃發後の政情

一九三九年九月三日インド皇帝を兼ねるイギリス國王の對獨宣戰布告に依つてインドは今次大戰の交戦國となつた。既に一九三九年前半期において歐洲情勢の險悪化は戰爭勃發を不可避ならしめたため、同年五月會議派は運用委員會においてインドの資源をインド人の同意なしに戰爭に利用することに對し絶對反對の決議を行つたが、一方インド政府も同年十月を以て満了するインド下院の年期を一ヶ年延長することを八月に布告し、かゝる重大危局に總選舉を行ふことによつて激化する反英勢力を立法議會内に導入する危険を回避する方策を採つた。

大戰協力を要請 イギリス本國の對獨宣戰布告と共に英帝國自治領はいづれも對獨宣戰を布告したが、インドはその特殊の立場から自治領と同一行動を取らなかつた。しかるにイギリス政府はその參政機關を通じてインド人の意向を無視して參戰せしめ、九月四日、リンリスゴ副王兼總督はインド國民に對獨戰に對してイギリス本國に協力方を要請した。同時にインド政府はインド防衛緊急令、インド條令修正案、州政府の權限制限法等を急速に公布して治安維持に遺憾なきを期し、更に同日總督は會議派の長老としてガンヂーを、翌五日回教徒聯盟議長としてジンナーを夫

議長にはインド總督が當る旨を聲明した。

夫シムラに招致し、對英協力を要望した。從來より親英的態度を持し來つたジンナーは總督の懇望通り回教徒聯盟の協力を約したが、ガンヂーは「何等かの諒解または協定を遂げ得る立場にゐない」旨を回答して辭去し、會議派のこれに對する態度は九月十五日を以て終了した會議派運用委員會の緊急會議において明かにされ、イギリスが擁護せんとする民主主義に對しては支持を惜しまざるも、インドの參戰か否かはインド自らこれを決定する旨を宣言した。リンリスゴ總督はかゝる事態を解決すべくその後も屢屢會議派領袖と會見折衝を重ねたが、十月上旬開かれた會議派大會はイギリス政府に對し、一、戰爭目的を明示すること、二、印度獨立の宣言、を要求するに至り、一方回教徒聯盟は回教徒に對する待遇の公平その他回教徒の保護に關する七ヶ條の要求を提出した。

リ總督白書を發表 こゝにリンリスゴ總督は英領インド並に王侯領代表者五十二名の意見を聴取した結果、解決案として十月十七日を以て白書を發表、

- 一、戰爭終了後必要あらばイギリス政府はインド各方面の代表者と共に全面的に協議し、インド聯邦組織をはじめ憲法的地位の全面的再検討のため會議を開催する用意あり
- 二、戰時中、インド政府はインド有力政黨及び藩王の代表者を以て構成する戰時評議會を組織し、インド國民の戰爭遂行及びこれに關聯する諸問題について輿論の統一を圖る。なほ評議會

この聲明も會議派の不滿を解消せず、ガンヂーはこれを以て、「イギリスの常套手段たる分割統治なり」とし、ネールは「會議派がさしのべた友好の手を傷けるもの」と批判し、十月二十二日會議派運用委員會はイギリス帝國主義に抗議するため自治州の會議派内閣に對し即時辭職を要請する決議をなし、八州の州内閣はこの決議に従つて總辭職を行ふこととなり、先づ十月三十日にマドラス、聯合の二州、翌卅一日にボンベイ、ビハールの二州で内閣が辭職を斷行、残りの中央、オリッサ、アッサム、西北國境の四州もこれに續いた。この局面打開のためリンリスゴ總督は會議派からガンヂー、ネール、ブラサドの三氏、回教徒聯盟からジンナーを招いて廿九日以来ニュー・デリーで協議を續けたが、會議派と回教徒聯盟とは依然意見が對立し、兩派協力によるイギリス本國援助に關し會議派側が主張した條件たる、すべての階級、すべての利益を代表する立憲議會の設置要求も、總督によつてこの對立を理由として拒否された。イギリス本國においても十一月七日ゼットランド、インド事務大臣は下院において、「國民會議派の提案はインドに於ける宗教的、社會的、少數民族を危殆に陥れるものである」と述べて、この要求を明白に拒否する態度に出た。この回教徒聯盟の態度は依然として回教徒自身の國內的立場會議派の絶對多數勢力に對する不滿に由来するもので、一九三九

年末にはその態度はかなり硬化し示威運動、暴動等が頻發するに至つた。

なほ第三黨たる國民自由聯盟は從來イギリス側の御用政黨の如く見られて來たが、十月十七日の白書に對して不滿を表明し、インド參戰に關し條件として、現在以上にインド人を參政せしむるかまたは中央政府の樹立を容認すべきであると決議した。

參政反對と罷業續發 かゝる政治情勢の背景として大戦開始以來戰爭景氣による物價騰貴のための生活難等から労働者、農民間には不穩氣分横溢し、政治的色彩を持ち特に參政反對の罷業が續發し、ボンベイの如き九萬人參加の貨銀値上闘争が勃發しカルカッタその他各地にも波及する有様で、インド政府は發布したばかりのインド防衛緊急令によつて強引な大量逮捕を行はねばならなかつた。

大戦第二年の一九四〇年に入つてリンリスゴ―總督は二月三日にジンナー、五日ガンデーと會見して、獨立問題は大戦終結後考慮すべしとするイギリス政府の公約を強調したが、妥協を見るに至らず、ガンデーは依然「インドの將來はインド人自らこれを決定する」といふ原則を固執し續けた。

二月十五日會議派は一九四〇年度の議長選舉を行ひ、回教徒のマウラナ・アザッドが漸進派の力で絶對多數を以て當選した。これは一つには左右兩派の抗争を續ける會議派内において急進左派に對しても人氣が悪くない點から推擧されたのであるが、同時に

ヒンヅ―教徒の集團と看做された會議派に回教徒の議長を迎へることによつて回教徒との提擧が目論まれた點もあつたこと勿論である。しかしアザッドは回教徒聯盟を微温的なりとして脱退して會議派に合流した経歴を有するため、反つて會議派と回教徒聯盟との關係は悪化するに至つた。

反革闘争運動始まる アザッド新議長の下に會議派年次大會は三月十九日ラムガールに開催され、一、宣戰否認、二、帝國主義的目的を有する歐洲戰爭不介入、を決議して對英非協力を強化し、回教徒の協力を希望した。左派からは即時不服從運動開始の要求があつたが、ガンデー等漸進派は時期尙早としてこれを押へた。しかし急進派は收まらず、前衛派首領ボースの指導下に四月六日より國民闘争週間を開始し、アザッド議長もまた同日アラハバードでこの運動を激勵する意味の演説を行ひ、會議派はガンデーの意思に先んじて反英不服從運動に入るに至つた。

次いで四月十八日ワルダに開かれた會議派運用委員會もラムガール年次大會以後の情勢の進展に應じて不服從運動開始を正式に決議した。漸進派がこの決議を採擇するに至つたのは、國民闘争週間開始に際してインド政府が急進派並に左翼反英分子の大量檢擧を行つたため硬化せざるを得なかつた事情もあるが、イギリスが北歐でドイツと苦闘しつつある時、反英運動は一段前進を示したのである。

三 大戦下の政治情勢

英、寶庫死守の決意 ドイツ軍の電撃戰による白蘭席巻の成功はイギリスを未曾有の危機に陥れ、續いてイタリヤの參戰、フランスの單獨降伏となつてイギリスにとつて生命の絆たる「英帝國路線」即ち「インドへの道」もまた危険に曝されるに至つた。一九四〇年六月より七月にかけて、インドの反英抗争は益々激化した。同時にイギリス政府がこの危機を迎へて飽くまで寶庫インドを死守せんとし、その態度を一層強硬化したことは英印關係に一轉機を畫するものとして注目に値する。

反英抗争運動は吾人は廢墟と化したイギリス本國から獨立を欲するものではなく暫く戦局の進展を見定めるまで待たうといふ六月一日のガンデーの忠告を無視して、九日には前衛派のボースが、「ヒンヅ―教徒ならびに回教徒の共同要求に鑑み、完全なる主權を有するインド臨時政府の樹立」を提唱し、更に同月十五日ワルダに開かれた運用委員會は革命的的遂行のためには、飽くまで彼等の行動を合法主義の埒内に引止めようとするガンデーと袂別する旨を決議した。會議派の指導權は漸進派から左派ネールの手に移つた。この左派の勝利、ガンデーの敗北は、大戦以來歐洲市場の閉塞によつて不況に悩むインド土着産業資本家（特に紡績業）と、物價統制にも拘らず昂騰する生活費に苦しむ大衆とに

共通する利害關係が必然的に反英となりこれが急進インテリ層を代表するネール一派と結び付いたために齎されたものである。

反英勢力に大躍進 この情勢に對してインド政府は六月二十九日總督とガンデーとの第三回公式會見に始まり、七月九日にはヒンヅ―マハサバ黨（ヒンヅ―教徒團體）の代表サバルカルとの會見に終る各代表との會談によつて解決點を見出さんとし、イギリスの植民地統治においては異例とすべき統治機構への參加を要請したが、六度ガンデーは意見決裂して引上げ、政府は遂に會議派以下の反英勢力に一大彈壓を加ふべきことを決意するに至つた。開戦と共に發布された戦時下の緊急治安維持法たるインド防衛緊急令が現實に發動され、七月二日には前衛派指導者ボースが逮捕され、十一日にはカクザール黨の一齊檢擧（回教徒の復興運動であるが、一九四〇年に入り活潑なる反英運動を展開、パンジヤブの回教寺院に立籠つて騒擾を續け、インド最大の軍隊徵募地方を不安ならしめたによる）を見、九月に入つてはネールさへ檢擧されるに至り、同月末には前衛派のみで一萬名以上、労働組合、農民組合を合算すれば二二、五〇〇名以上が投獄された。

この大彈壓の嵐は反英抗争に大頓挫を來さざるを得なかつた。既に檢擧開始直後の七月二十七日の全印大會ブーナー會議においては、僅か一ヶ月前のワルダ運用委員會がラムガール年次大會より一步前進して決定した闘争手段をいよ／＼大衆行動に移さんとしたネールの提議を黙殺するが如き態度に出た。ワルダにおいて

躍進した左派は早くもこゝに轉落を餘儀なくされた。明かにこれは彈壓の影響であるが他方ワルダにおいて左派と結び付いた産業資本家の裏切りも重大な原因をなした。英帝國路線切斷の危機に直面した六月以降、インドの自給自足、對英軍需品提供を目的とする國防計畫の恩恵を蒙つて活氣づいた土着産業資本家は、イギリスの戰爭目的に奉仕することが自己に有利であることを感知すると共に當然反動的に走つたのである。無産階級の利益を代表せずして、産業資本家の利益を階級的基礎とする會議派がこの動向に従はざるを得ないことも必然であつた。

ガンヂー再び出馬 かくて九月十七、十八兩日の會議派運用委員會においてガンヂーの再出馬が要請され、ガンヂーはこれを承諾して再び會議派の指導權を掌握し、『今後何を爲すべきであるかは余も知らない、然し諸君の爲すべからざることは明かである、即ち諸君は非暴力運動を余一人に限定して、諸君が行つてはならないのである』と宣した。これによつてワルダにおける一歩前進は再びラムガル決議へ後退を餘儀なくされ、イギリス側は彈壓を通じて一應反英勢力の撃退に成功したのである。

會議派の右傾とともに、第二黨たる回教徒聯盟の動向を見るにこれもインド大衆の輿望を擔つて獨立運動の先頭に立つものではなかつた。一方において親英的態度を信奉しつゝ、聯邦制實施に對して、または參戰問題においてしきりに少數黨たる自己の政治的保障のみを求めて結局回教徒の利益擁護に終始する態度は全印

の國民的支持を得るに至らない。指導者たるジンナーは一九三九年末會議派と回教徒聯盟との共同戰線案が進行中、自治州における會議派内閣の總辭職問題が起つたのを機會として、十二月二十二日の回教徒大會において、インドが會議派の支配より解放される好機なりと決議し、また少數黨問題にからんでインドをインド教徒の國と回教徒の國に分割し、獨立運動自體も地域的に二分しようといふ所謂バルキスタン・スキームを主張し、一九四〇年三月のラホール大會で議決する等、あくまで會議派勢力に對抗して反英協同戰線、獨立運動陣營を分裂せしめたが、これは常にイギリスに乗ずる間隙を提供してゐたのである。

ジンナーの親英傾向 ジンナーはインド中央立法參議會の議員たりしこともある老練な法律家であるが、民主主義的統治形態が無智蒙昧なインド大衆に適せずと主張し、會議派を飽くまでヒンズー教徒の集團と看做してゐる。しかしインド全人口の三分の二がヒンズー教徒であることを見ればジンナーの會議派に對する非難は當つてゐない。またジンナーの政治的立場は回教徒中の商業資本家の利益を代表してゐるために親英的傾向を取らざるを得ないのである。ジンナーの弱點はまた回教徒全體の主張を代表してゐないといふことである。殊に一九四〇年四月廿七日デリーに開催された全印回教徒會議にはマジリス・イ・アトラル、ジャミヤトウール・ウラマ・イ・ヒンド、全印モミン會議その他多數的回教徒團體が代表者を送つて、回教徒聯盟の大戦下における

反動性を指摘して、同聯盟が回教社會の意見を代表せずとして、憲法制定會議に賛成投票を行ひ、會議派支持を表明した。しかも彼等は會議派の議長で回教徒たるアザッドの主宰するアザッド・コンファレンスに投じ、こゝにおいてはヒンズー、回教兩黨の提攜が強化されつゝある。従つて回教徒聯盟は今や既に解體過程に入りつゝありと見られてゐる。

自治領待遇を公約 一九四〇年八月八日、リンリスゴード總督はイギリス政府の態度を表明する聲明を發しインド國民の支持を確保せんとした。即ち戦後インドを大英帝國の他の自治領と對等の地位に置くことを約し同時に戦時中インドが英帝國の一環としての義務に忠實ならんことを要望し行政會議(VICEROY'S CO-UNCIL)の擴充と國防諮問會議(WAR ADVISORY COUNCIL)の創設を發表し協力を要請した。この二つの會議はいづれもインド國防組織の強化を目指すものでインド行政の最高機關たる行政會議にはインド各黨派の指導者を参加せしめて舉國一致形態を整へ、戦後問題を協議するための中心的組織體たる國防諮問會議には王侯領代表及びインド各階層の利益代表を包含して、いづれも戦時下のインド統治と、對英協力に關する輿論の統一を策したものであつた。

會議派はこの聲明に對しては依然としてイギリスの偽善政策なりとして、インド人による憲法制定會議の要求を堅持したが、憲法制定會議に關してはこの總督聲明は同會議の開催を見るために

はインドはイギリスのために義務を忠實に履行することを必要とする」と稱して、少數黨問題を引合ひに出し全印を完全に強力で代表する組織が生れた暁には喜んで許與しようといふ、暗に會議派は全印輿論を代表するものに非ざる旨を指摘してゐる。

インド事務相の不満 この總督聲明によつて提示された行政會議及び國防諮問會議に對してならんインド側の協力が得られなかつたことは十一月二十日に公表された白書によつて總督も認め、遺憾の意を表明したが、同日イギリス下院においてアメリカ・インド事務大臣はインド總督が行政會議にインド各派の代表者の参加を求めたのは單に助言者としてではなく、國務大臣の資格を以て要請したものであると聲明し、インド國務の重要な部門に責任を有する國務大臣の資格を指導者達に與へ、しかも行政會議においてはイギリス側代表よりもインド側代表の數を實質上多數とすることをさへ提議したにも拘らず、協力の得られなかつたことを遺憾とした。またアメリカはこれを以てインドは將來の獨立への重大な機會を逸し去るものとし、憲法會議への前進もかゝる状態では不可能であり、インドは速かに社會各階層の一致を以て獨立の前提條件とすべしとして、會議派が總督に對し非協力的態度を採つてゐることに對し、會議派は『すべてか、しからずんば無』の極端な主張をなすが、會議派の『すべて』は決して全インドを代表するに非ずと攻撃し戦時下對英反抗を企てるネールの逮捕は當然なりと聲明した。

不服従運動始まる この議會演説に對して會議派は依然頑強に解決點は會議派の主張が通過された場合にのみ存し、少勢派問題を云々する間は問題の解決は不可能であると主張した。今やボースなく、ネールなき會議派を指導して進むことを餘儀なくされたガンデーは十月十五日再び非暴力不服従運動の開始を聲明し、特に言論の自由の獲得を闘争のスローガンとし、自由に語ることによつて戦争非協力思想の宣傳を行はんとしつゝあり、インド人の軍需工場就業拒否、戦争委員会への協力拒否等を勸説しつゝあるが、現在では會議派勢力の減退が感ぜられてゐる。

インドは今やイギリスの長期抗戦に備へて對英軍需品補給地としての役割を課せられ、前大戦當時雨後の筍の如く勃發した土着産業資本は註文の洪水の中に戦争景氣に躍りつゝある現狀にあることは次節に述べる通りである。かゝる現狀においてはかつてワルダ運用委員会直後軍需景氣の萌芽を見て矢庭に反動化した産業資本家が最大の顧客たるイギリスに對して反抗を中止することは當然の成行であるから、彼等を背景とする會議派勢力の退潮もまた必然のことと推知されるのである。従つて問題はこの軍需景氣のさ中に労働強化と物價騰貴と、イギリスの戦時下彈壓とに苦しむインド大衆が果して如何に起上るかに懸つてをる。

大轉換期到来か として彼等が起上る際に從來よりインド大衆運動の障害を成して來た複雑極まる構成を有するインド社會制度の歴史的罫絆を脱却することが可能であるか否かもインド獨立

運動の重要な鍵として再登場するに至るであらう。殊に第一次大戦中より戦後にかけてのイギリスの帝國主義的抑壓の強化はインドにおける飢饉、疫病の猖獗と相俟つて大衆の苦痛を倍加し、遂にインド産業の各部門に罷業闘争の展開を見るに至り、インド民族運動の階級化といふ一時期を畫したことを想起するならば、今次大戦を契機として再び一大轉換期の來るべきことも考へられるのである。特に現下のソ聯邦はコミンテルンをして獨立運動に喰込み、その指導下に反英闘争を激化せしめつゝあるとも傳へられ、労働者のみならず、著しく遅れてゐる農民運動もまた農村の極度の貧困から階級的運動に入りつゝある點から見ても、大衆の動向に對しては注目を必要とする。

四 インドの戦時役割

輸出入の統制實施 第一次大戦當時インドのイギリス援助は諸王侯領が先頭に立つて人的物質的資源の大量供給を實行したがる参考のためこゝに概数を掲げれば、

- 一、インド兵對外出兵數 一、四五〇、〇〇〇人
- 二、對英軍資金援助 約三〇〇、〇〇〇、〇〇〇ポンド
- 三、戦線向け發送した裝備並に食糧等の金額 約八〇、〇〇〇、〇〇〇ポンド
- 四、黄麻、麻袋、衣類等の供給

で、この他原料、半製品の聯合國側供給も莫大の數字を示した。

この前大戦の經驗に徴してイギリスは再びインドの資源を動員しようとした。先づ大戦勃發と共に戦時經濟政策として對英貨以外の外貨實を二〇、〇〇〇、〇〇〇ルビー以下に制限する爲替管理を發動し、一九三九年九月廿五日には武器、彈藥等廿七品目の輸出を禁止し、カルシウム、タングステン等基本的軍需資材六十品目の輸出を軍需局の統制下に置くと共に、一九四〇年五月には輸入の領域にも統制範圍を擴大し、ゴム製品以下百三十餘品目の許可制を實施しひたすら軍需資材の敵國流入を防止し、敵國の外貨獲得を妨害する方策に出た。同時に總額二億ルビーに上る軍備擴張を行つた。

しかし一九四〇年六月、前述の戦況によるイギリスの苦戦、イタリヤの参戦に加へてドイツの東南歐進出、ソ聯の南下氣構へ等も手傳つて、イギリス本土とインドとを繋ぐ英帝國生命線が切斷の危機に至るやイギリスの對印經濟政策に重大な轉換が齎された。即ちこの危機以前においてイギリスがインドに要求したものは第一次大戦の際と同様その植民地役割の忠實なる遂行であつたのであるが、地中海ルートに切斷によつてインドを含む極東全英プロットの孤立化が豫想されてからは、インドは東洋英領土中比較的高度に工業化された國として右英プロット内の自給確立策に對して指導的地位に立つことを要求されたのである。

自給自足經濟確立へ

インドの基本的工業は輕工業であり、その第一位を占めるものは纖維工業で、工場労働者數の五七%を占めてゐる。しかしインド産業の總生産の總價値のうち、製造工業の占める割合は僅かに八%に過ぎず、しかもこの總生産の四〇%は纖維工業に、二七%は食品工業に屬し工業的發展がさほど高度に達してゐないことを現してゐるが、しかし東洋各英領中では上位に位してゐる。そしてこの工業分野にインド土着資本が投下した資本總額は全投下資本量十八億ルビーの約半額を占め、イギリス資本と額においては對等である。かゝる土着資本は額においてイギリスの資本額と同等に達しながらも、從來は完全にイギリス資本に依存してゐたのである。今後もそれから全然脱却する事は不可能であるにしても、かゝる如き自給確立によつて、インドは從來の植民地的役割を揚棄するものであると共に、またイギリスがその傳統的統治政策の拋棄を餘儀なくされるわけである。イギリスは從來『世界の工場』として植民地における土着産業の勃興がイギリス本土と競争的立場を招來することを歓迎せずインドにおいても土着産業は常に壓迫され、僅かに前大戦中本國の必要のためにやうやく發展の餘地を與へられたのである。それが一轉してインドに自給自足經濟の確立が要求され、イギリスのための廣義軍需品の製造工場たる役割を課せられたのである。このイギリスの要求を満すためには一、平和産業の救濟、二、技術員の動員、三、重工業の自給計畫が樹立された。第一に平和産業救濟間

題が取上げられた理由は開戦直後の政府の経済方針が平和産業を犠牲として軍需優先を實行したため、インド産業の跛行状態が甚しくなり自給経済の障害となり、また歐洲市場の閉塞によつてインド産業が受けた打撃は開戦後八ヶ月間に既に三億ルビーと推算され一九四〇年五月初旬には深刻な金融恐慌を現出したので、政府は先づ金融恐慌を解決する必要に迫られ、平和産業の全面的建直しを企てた。この対策として本國よりミッドランド銀行總裁サー・アレクサンダー・ロヂャー一行の経済使節團が到着し、紡績業者、皮革工業等に大量の軍需注文を發して救済を試み、歐洲市場の閉塞に伴ふ國內滞貨の處分にも盡力した。

重工業の擴充 次に重工業の自給計畫は製鐵工業と化學工業に重點が置かれ、軍擴計畫に伴つて需要が急増するため、新たに計上された五千八百萬ルビーの軍需工場擴張費もその中九百萬ルビーは基本的な製鐵工業に投資された。

インドの鐵生産額の増加(單位一、〇〇〇トン)

鐵	一九三一—一四	一九三八—三九
鋼	三〇五	一、五七五
鐵	四九	九三五

自給計畫に基いてインドに百一種の新興工業が勃興した旨政府は發表したが、その主なるものは左の通りである。

- 一、既に生産を開始せるもの、
- 金屬—銅、眞鍮、ニッケル

化學製品—クロロホルム、枸橼酸、カルシウム、乳酸鹽、重炭酸加里、カオリン、タンニン酸、酸化亜鉛、硫酸等
油類—航空機用滑油、エンヂン・オイル
その他—塗料、醫療機械の部分品

一、準備中のもの
曹達灰以下の重化學製品、電球、航空用スピリット
精密機械の入手難 右の如くその自給計畫は相當高度の産業化を目指して居るが、精密工業の基礎を缺くインドが戦時下資材難の折柄、如何にこの計畫を實行するかは大問題である。既に精密機械の入手難と技術員の不足に直面し、一九四〇年六月には技術者四千名を強制動員し更に今後の動員の權利を確保し、また技術者養成を計畫せざるを得なかつた。

しかしインド經濟の近代化にとつて最大の障害はインド産業の本質が農業であり、労働者も半農的性質を帯びること、更に土地所有の形態が封建的な農村協同體であることである。イギリス資本家はインドの工業人口は全人口の七分に過ぎぬことを擧げて産業豫備軍の豊富さを樂觀してゐるが、恐らくかゝる樂觀は傳統的障害の前に崩壊を餘儀なくされるであらう。

◇デリー會議 (東方補給會議)

このやうなインドの工業國家への轉換を裏書き、推進せしめるが如く開催されたのが、一九四〇年十月二十五日より十一月末に

及んだデリー會議である。東アフリカ總督會議に出席したスエズ以東及び以南の英領諸國代表にインド政府が招請狀を發して東方補給會議 (The Eastern Group Supply Conference) を開催したもので、リンリスゴウ總督の言明に依れば會議の目的は「スエズ以南及び以東の英領諸國が經濟的一體となつて軍需資材の自給自足を樹立し、進んで過剰生産物のイギリス本國への提供が可能なるや否やを検討し生産及び商品交換の計畫を樹立せんとする」にあつた。

蘭印代表も出席 参加せる英領諸國はオーストラリア、ニュー・ジールランド、南アフリカ、インド、ビルマ、セイロン、南ローデシア、東アフリカ、香港、マレー、パレスチナの十一で、これに蘭印がオヴザヴァーとして出席し、滯印中のローヂャー一行の經濟使節團が加はり、實に全英帝國構成部分の三分の二と委任統治領一つが加はり、参加植民地の住民總計は五億に達するといふ大掛りなもので、まさに「インドにおける英帝國會議」とアメリカ・インド事務大臣が誇稱するだけの規模を備へたものである。

會議の動機が前述の地中海ルートの危険性増大及び護衛艦の配備減少等による輸送障害に對して中東諸國が地中海通過の輸送路を避け、スエズ以東の諸國より補給を受けることを打合せるためであつたことは多言を要しないが同時にこれが極東の事態にも關聯し、我が共榮圈確立の方針に對し飽くまでイギリスの極東勢力の維持を計らうとする意圖を包蔵してゐることは、インド事務大

臣も十一月二十日の下院において言明してをり特に注目されねばならない。

同會議が自給計畫を實施せんとする範圍は左の如くである。
一、直接軍需物資(各参加領土が支給する義務を有する國防部隊の直接必需額)

- イ、(一)武器(各種自動車を含む)、(二)被服、裝備並に彈藥貯藏、(三)機械類貯藏、(四)精密機械、(五)藥品、醫療器具
- (六)食糧品、(七)石油、潤滑油その他油脂、(八)建築設備、(九)航空機
- ロ、上記並に他の工業用に必要なる原料及び半製品

二、間接軍需物資(國民の必需品、それに關係ある商工業の必需品)

將來への禍根包蔵 インドにとつてはこの會議がインド政府のイニシアテヴによつて開催された點に特別の意義を持つものであり、参加領土中最高度の産業國としてインドが今次大戰に積極的に補給基地の役割を遂行せんとする決意を抱いてゐると同時にインド政府がこれによつてインドの大英帝國内における政治的地位の向上、事實上オーストラリア、南アフリカ等の聯邦と相伍して英帝國の計畫に參畫する資格の獲得をインド國民に誇示せんとする下心のあることも觀取されるのである。

果してこのデリー會議がインドの自給計畫とともにインド國防産業の建設に成功するか否かは興味ある問題である。特にインド

が工業化にとつて不可欠な石油、石炭の二大資源に不足してゐる現狀において、一方最も必要とするインド人自身の全面的協力が克ち得られない場合においては計畫通りの成果を期待することは困難であらう。また萬一インドの工業化が成功した曉には戦後イギリス資本と土着資本との相剋は必至と見ねばならず、更に民族産業の勃興は民族運動の勃興を招く危険があり、現在のイギリスのこの苦肉策は將來の禍根となる可能性が甚だ多い。

五 インド防衛計畫

ミュンヘン會議の危機の直後イギリスは早くもチャットフィールド卿を首班とする専門委員會をインドに派遣して、戰爭勃發の際インドを外國の侵入より防衛すると共に、國內騒擾に對し安全ならしめるための防衛計畫を立案せしめ一九三九年九月五日に發表、直ちにこれを實行に移してゐた。これによつてまづインド國內における大規模な武力叛亂は發生せぬものと見込み、インド駐屯の英兵及びインド兵の三分の一をシンガポール、スエズ地帯に移駐して英帝國路線の防備を嚴ならしめた。

戰爭勃發とともに總額二億ルビの軍備擴充を行ひこれをもつて現有兵力の四倍擴張案を計畫した。同案の内容は左の通りである。

陸軍——現有兵力二十八萬(常備二十四萬、豫備四萬)の中、

歐洲戦線に送つた數萬を除き、第一期計畫として五萬二千名を増員、合計三十二萬名とする。

空軍——現有八ヶ中隊(三千八百八十名)を四倍とする。

海軍——現有船艦十九隻の二倍半擴張。

機械化部隊——カナダ式裝甲車を中心とする擴充。

軍用自動車的大量生産——一九四〇年六月の轉機以來インド政府は先づ國防組織體制を整へるべく政治組織を強化したが、更にベンガル砲兵隊を中心とする機械化部隊の擴充を開始し、機械化輸送部隊の車輛數は五千臺から一躍三萬五千臺に増加され、一九四一年度には更に十割増加する旨發表されて居る。一ヶ年二萬五千臺の軍用自動車を生産するためにゼネラル・モーターズ及びフォードのインド支社は組立工場を擴張しつゝあるが他方インドにおける航空機生産のため資本金五千萬ルビのインド航空機製造會社が米人指導下にバンガロールに工場を建設中と傳へられる。また十ヶ所に新設された飛行士養成所では一年間に三百名の操縦士と二千名の機關士の養成が行はれ空軍擴充に備へてゐる。イギリス側の發表數字は額面通り受取り得ないとしても、今や本土と隔離されんとするインドをソ聯、ドイツ等の侵略より護り、更にデリー會議で課せられた中東方面、更に極東の事態に備へてのこれら各方面への補給のためあつて防衛計畫は目下拍車をかけられてゐる。

六 日印貿易關係

一九三三年の第一次日印會商による一九三四年の日印通商條約の成立、一九三六年の第二次日印會商による一九三七年の日印通商協定及び日印協定の成立に引續き、第三次日印會商は一九三九年十月二十六日よりデリーで開催された。第二次日印協定の實績は左表の如く印棉買付量は第一年度は協定量百五十萬俵を遙かに突破し、第二年度は支那事變の發生に伴ふ統制強化により著しく減少したが第一年度繰越量を加算すれば百五十萬俵を超過してゐる。

印棉輸入額	
第一年度(昭和十二年、一九三七年)	一、九〇八、〇〇〇俵
第二年度(昭和十三年、一九三八年)	一、二七二、〇〇〇俵
これに對して綿布輸出は第一年度は不振であるが第二年度には左の如く挽回した。	
綿布輸出額	
第一年度(一九三七年)	三一九、九五四、〇〇〇ヤード
第二年度(一九三八年)	四六五、八五二、〇〇〇ヤード

高關稅の障害 しかし協定による品種別割當が著しくわが方に不利となつたため、對印輸出死藏數量の甚しき増加を來した。これは一つには英綿の受ける特惠關稅に比し日本綿布が極めて高

率を賦課されたためでもある。

日英關稅比較

生 地	イギリス綿布	日本綿布
捺 染	從價一五%	從價五〇%
その他	從價一七%半	從價五〇%
	從價一五%	從價五〇%

かくの如く數字的に見れば第二次協定實績は表面上やゝ満足し得る状態であるが、精細に検討すれば日本側には品種別割當率の不合理、關稅の高率より齎される死藏數量の増加があり、インド側としては支那事變以來制約された日本の印棉買付數量激減に對する不滿がある。かゝる對立に加へて一九三九年三月英印間に新協定の調印を見て、イギリスは少くとも五億ヤードの對印綿布輸出を確保し、インドをして義務的にランカシャー製品を購入せしめんとした。かゝる政策はインド土着綿業資本の激怒を買ふことは不可避であるため、イギリスは日本の對印綿布輸出を抑へ、日本の犠牲においてインド紡績業者の不滿緩和を計らうとした。

第三次日印會商 第三次日印會商はかゝる困難なる情勢に直面してその對策を實現すべき使命を帯びて開催された。即ちイギリスの印棉買付量に比して甚だしく均衡を失する日本の印棉買付量の引下げとともに對印綿布輸出最高量の引上げ、關稅の引下及び割當比率の改善を要求すべく期待された。會商の經過を簡單に記せば、まづ一九三九年十月二十六日開會後十一月廿一日に至りイ

インド政府代表サー・アラン・ロイド中央歳入局長よりインド側の態度を表明する正式提案がなされ、十二月八日には日本側の提案が日本政府代表若松カルカッタ総領事より提出され、一九四〇年に入り初會商は一月十五日に開かれたが、關稅引下げ、割當比率の更改にインド側は反對し印棉買付基準に對しては反つて増額を要求し、對印輸入割當削減を主張する等の對立を示した。

二月十二日の第七回會談において日本側の最後の修正案が提出されたが、何等回答なく三月廿三日の第八回會談において、同月末日を以て日印通商協定附屬議定書の期限満了となるに拘らず新協定の妥結を見ざるため暫定的取極めを行ふことに決定した。

これによれば、一、日本側は四月一日以降も引續き對印綿輸出統制を行ふことを適當と認め妥結に至るまで自發的に年三億ヤードを基礎として最高四億ヤードの範圍内で、また品種別についても多少の改訂を加へ、統制することとする。二、インドからは年百萬俵の基準により印棉買付を行ふ、といふことになつた。

會商つひに停頓 日本側はこの暫定取極めに満足せず、正式協定の成立につき會談再開方を要望したが、インド側は一九四〇年五月以後の歐洲戦局の急轉によるイギリス本國の危機、ひいてはインドの地位に及ぼす變化等から對外通商方針確立の見透しが至難となり、第三次日印會商は事實上休會状態のまゝ一九四一年に入つた。

かかる経過をたどつて日印貿易改善の機會は停頓状態に入るこ

とを餘儀なくされた。

一方前節に述べた如くイギリスの危機に直面してインドの自給計畫樹立に伴ひ、インド自身の經濟戰時編成替の必要が生ずるに至つたことは日印貿易の現状改善に一大障害を齎すものと見られる。

その一例としてインド政府は一九四〇年六月十八日付を以て六十八品目に對し五月廿七日以降の積出貨物は絶対に輸入を禁止する旨を發表した。この輸入禁止品中日本關係では燕麥その他年三百四十萬圓程度の打撃を蒙ることとなる。

またインド政府は輸出に關しても全面的制限に乗出し、インド準備銀行の承認を得たる外國爲替によるものみに限定して一九四〇年七月二日より實施した。この措置によりインド政府は外貨獲得のため輸出品に對する決済を協定磅貨により裁定せる米弗を中心として行はれるものと推測され今後の印棉輸入にとつて極めて不利な状態が現出されることとなつた。

日滿向麻類禁輸 更にインド政府は十一月七日より日滿向け麻原料及び麻製品の輸出の禁止を發表したが、これは麻の軍需品としての重需性と麻工場の操業擴張から見ると全く對日經濟壓迫手段と解する外ない。

インドが英帝國の一環としてかくの如き對日經濟攻勢を露骨に現して來たことは國際情勢の推移に伴ふ新情勢として注目に値する。

インド累年貿易額 (單位百萬ルピー)

	輸入	輸出		差出	引超
		總額	内自國品		
昭和 4/5	2,408	3,179	3,108	771	
5/6	1,648	2,256	2,205	608	
6/7	1,264	1,605	1,559	341	
7/8	1,326	1,355	1,323	29	
8/9	1,154	1,497	1,463	343	
9/10	1,323	1,552	1,512	229	
10/11	1,344	1,643	1,605	299	
11/12	1,252	2,024	1,961	772	
12/13	1,738	1,892	1,809	157	
13/14	1,523	1,628	1,692	105	
14/15	1,653	2,136	2,040	484	

昭和12年度以降はビルマを除く

インド國別貿易額 (單位百萬ルピー)

	輸出		輸入	
	昭和13/14	14/15	昭和13/14	14/15
英 帝 國	847.2	1128.7	885.4	930.7
英 本 國	(549.3)	713.0	(467.3)	(416.0)
セイロン	(50.9)	(63.7)	(11.8)	(14.7)
海峽植民地	(20.4)	(26.2)	(41.1)	(48.2)
ビルマ	(100.3)	(123.1)	(241.7)	(318.1)
日 本	145.8	139.7	154.3	192.3
ア メ リ カ	138.6	244.0	97.7	149.2
ド イ ツ	75.8	19.6	129.4	66.9
ベ ル ギ ー	40.5	27.7	29.2	25.5
フ ラ ン ス	61.5	79.7	13.9	14.5
計(その他とも)	1627.3	2136.4	1523.4	1652.7

インド輸出品 (單位百萬ルピー)

	昭和 13/14	14/15
穀類	77.4	50.9
内 小 麥	(24.8)	...
紅 茶	234.0	262.9
皮 革 類	38.4	41.2
礦 油	14.9	22.8
油 糟	30.1	20.3
採 油 用 種 子	150.9	119.0
内 落 花 生	(99.3)	...
亞 麻 子	(44.0)	...
棉 花	238.6	310.5
黃 麻	133.5	198.5
羊 毛	29.9	323.3
鞣 革	47.6	77.9
綿 製 品	47.9	85.8
ガ ン ー 囊	124.6	487.6
ヘ シ ア ン 布	133.0	...
計(その他とも)	1627.7	2136.4

インド輸入品 (單位百萬ルピー)

	昭和 13/14	14/15
穀類及び豆類	137.6	218.1
内 脱 穀 米	(11.3,7)	...
礦 油	146.7	186.2
綿 花	85.1	80.6
化 學 製 品	30.6	75.0
藥 品 類	25.7	...
コ ー ル タ ー 染 料	26.1	46.7
電 氣 器 具 類	33.2	28.8
機 械 類	190.5	153.7
内 電 氣 機 械	(37.2)	...
紡 績 機 械	(37.9)	...
鐵 鋼 及 び 同 製 品	66.6	60.7
非 鐵 金 屬	41.6	47.4
紙 類	27.8	41.1
船 車 類	66.8	68.7
自 動 車	21.7	...
綿 絲 及 び 同 製 品	141.5	140.5
内 綿 織 物	(102.7)	...
人 絹 同 製 品	23.4	60.8
計(その他とも)	1523.4	1652.7

オーストラリア

一 英帝國の『資産』へ

歐洲大戰の發展が新たな段階を齎らしてイギリスがその本土から後退を餘儀なくされる場合、その寶庫インドを中心として南アフリカ、ビルマ、マレー、太平洋を一環とする東半球英帝國を編成してこれに據らんとする可能性が濃化して來た折柄、その住民中九十九パーセントを白人が占め、更にその九十パーセントまでがイギリス人の子孫であり従つて本國への忠誠の念において自治領中首位を占め、しかも廣大な土地と莫大な資源とを擁し、戰略的に見るも英米合作による太平洋作戦遂行上絶好の策源地たる資格を具へるオーストラリアこそは最も信頼するに足る避難所たるを失はない。従つてイギリスは歐洲情勢の急迫と共に、從來オーストラリアの最大缺陷と見られてゐた重工業の確立に懸命の努力を傾け、オーストラリアをして東半球ブロッツへの軍需品、食糧の供給所たらしめんとし、こゝに英帝國の『貸借対照表』中、從來常に『負債』の地位に甘んじてゐたオーストラリアは今大東亞の機に一躍『資産』の部に飛躍せんとしをり、他方、わが大東亞圏内の外郭的存在としての地位も輕視するを許さない。

英帝國の資産へ・外交政策の轉換

二 外交政策の轉換

メンジース内閣成る 不況對策に失敗した労働黨内閣の後を受けて一九三二年十二月統一オーストラリア黨のライオンズ黨首が地方黨と提携の下に内閣を組織し一九三九年に至つたが同年四月ライオンズ黨首相急逝と共に同黨のメンジースが首相に推され引續き地方黨と結びつゝ一九四一年に入つた。即ち内閣の實體は一九三二年來存續してゐるものと見て差支へないがメンジース首相は組閣と共に外交政策の轉換を表明、東京とワシントンとにオーストラリアとしては最初の公使館を設置する旨を發表した。從來外交に關しては全面的な英本國依存主義を取つてゐた同國としては畫期的な傾向で、各方面の注目を惹いたが首相は一九三九年五月十六日シドニーにおける最初の公開演説において、英本國との依然たる協力方針を明らかにすると共に日米兩國との友交關係促進を強調、日本と抗爭する意なく、共に太平洋の平和確保に當らんとする意向を宣明し、なほ

吾人はオーストラリアが太平洋國家群の一、しかもその主要國たるの事實を忘却しては國家としてのわが運命を理解し得ぬ。余ならびに閣僚はこの事實に立脚し新たなる太平洋政策を探るべく、特に日本、支那、關印、佛印、アメリカの諸國との友交促進に關し新たなる機構を形成、この上に永遠の友誼を樹立せ

んことを期する。とて、特に對日關係については日本の友情を獲得するためにはわが方としても何等かの代償を贈らなければならない。と、親善外交を説いた。

駐日公使にレーサム かくて駐日、駐米初代公使の人選に關し慎重な考慮を拂つた結果一九三九年十二月十六日駐米公使に職相リチャード・ケーシーを任命、アメリカは折返し一九四〇年一月八日クラレンス・ガウスを駐米公使に決定した。更に駐日公使としては去る昭和九年親善特使として日本を訪れた最高法院長サー・ジョン・レーサムを起用するに決し、同公使は一九四〇年十二月着任した。

ケーシー駐米公使は太平洋における英米提携論者、親英排獨論者として知られ、またガウス駐米公使は外交官生活の大部分を上海、厦門、天津、奉天、濟南等支那各地で送り上海總領事から起用された極東通であり、レーサム駐日公使は法律、哲學の造詣深く、屢々内閣にも列し、パリ平和會議、國際聯盟總會等國際會議の経験もあり、メルボルンに設立された日濠協會の初代會長に擧げられ現在に及んでゐるオーストラリアにおける知日派の代表として知られてゐる。かく駐日、駐米兩初代公使は何れも所謂大物公使であり、人選に當つて慎重な考慮が拂はれたことを知る。

三 國防計畫の擴充

ライオンズ内閣はワシントン諸條約の空文化、我が國の國際聯盟脫退、滿洲事變等を契機として太平洋集團保障規定が影薄き存在となつたのに鑑み一九三四年より三七年に亘る國防三年計畫を樹立し、總豫算二、〇〇〇、〇〇〇ポンドを以て國防力増強に力めると共に、一九三七年五月ロンドンにおける英帝國會議の席上ライオンズ首相は太平洋諸國間の不侵略協定を提唱したがイデン英外相の氣乗薄のため立消えとなるや、歐洲における情勢の緊迫、支那事變勃發による極東の新事態に對應するため一九三七年八月、三七年八月年度の國防費に一一、五三一、〇〇〇ポンドを計上し「通商線の擁護並に濠本土防衛のため最大限の努力を拂ふと共にイギリス本國、特に海軍との協力を緊密化する」旨聲明した。

第二次三年計畫 更に一九三八年三月、獨逸合邦を直接の動因としたイギリス本國の國防計畫と相應じ、國防第二次三年計畫を發表、三八一四一年度に繼續國防費四三、〇〇〇、〇〇〇ポンドを計上した。この豫算は

經常的支出	一八、二〇〇、〇〇〇ポンド
新規擴充費	二四、八〇〇、〇〇〇
内 空 軍	八、八〇〇、〇〇〇
海 軍	七、七五〇、〇〇〇

- 特に海軍關係では
- 一、シドニー(六、八三〇トン)型巡洋艦二隻購入
 - 二、スループ二隻、沿岸防備艦三隻建造
 - 三、海軍人員千五百名増加
 - 四、主要海港、特にダーウインをシンガポールの補助港として防空、潛艦防備施設増強
 - 五、第一線軍用機一九八臺増加

一九三八年九月ミュンヘン協定により歐洲の情勢は一時緩和されたが、支那事變によるわが南進政策への關心がいよゝ高まると共に、歐洲の動向も豫測を許さない形勢にあるため、ライオンズ内閣は三八一九年度の國防費として一六、七九六、〇〇〇ポンドを計上、販賣税、所得税の増徴を斷行したが、十二月に入るや先の總額四三、〇〇〇、〇〇〇ポンドの國防三年計畫を更に擴充六三、〇〇〇、〇〇〇ポンドに増額、首相は十二月十四日アデレードにおける募兵演説においてオーストラリアはその歴史上初めて戰爭區域に入らんとしてゐる。何時かは知らず、次の數年間わが國土への攻撃に對して戦はねばならなくなるであらう。と國民に訴へると共に、各州の積極的協力を求め、港灣、ドック飛行場、軍用道路、鐵道擴充等に全力の傾注方を要請した。**独自の國防體制** 一九三九年を迎へると共にますます急迫す

る歐洲の情勢に照し、イギリス本國が戰爭に捲き込まれる場合、オーストラリアとしては到底本國の救援を求め得ないことが明瞭となつたため、オーストラリア独自の國防體制を整へる必要に迫られ、本國と協力の下にてこの方向に向つて懸命の努力が拂はれることとなつた。志願制義勇軍は第二次三年計畫實施と共に三萬五千名から四萬二千名に増加されたが、更に七萬名に増加を見、一九三九年三月に至つて募集を完了した所、またこれを八萬二千名に増強すると共に常備軍を毎年二千名づつ増加し、一九四四年までに一萬名に増員することとなつた。

空軍擴充計畫 國防計畫進展と共に飛行機の自給が切望されてゐたが製作施設は一九三八年秋以來著しく充實され、一九三九年一月イギリス本國より航空使節團が來濠、製作状況を視察の結果は満足すべき程度と發表され、三月二十四日首相は

聯邦並にイギリス本國政府は航空使節團の進言に基づきオーストラリア國內で軍用機製造を開始すると聲明、一九四〇年中に最初の製作をなし、一九四二年までに四百機を完成すると言明、同時に英米より多量の購入計畫をも發表した。アメリカ側の報道によれば一九四一年五月までに五千六百機を濠に提供する契約といはれてゐる。かくて一九四〇年三月二十七日にはオーストラリアで製作した最初の高級練習機ワイラウェイ一號の試験飛行が行はれた。大戦参加と共に濠政府は英帝國を打つて一九とする帝國空軍訓練計畫に参加、本格的の擴充に

豫想されるオーストラリア本土への攻撃は北又は東北から爲さるべく、従つて同方面の島嶼の知識は國防計畫樹立上絶対必要であり、敵の接近とその勢力構成を逸早く知ることが近代戦術の不可欠の要素とすればニュー・ギニアを支配するものは濠洲を支配する

としてバブアに水上機基地を要求した。

主管大臣を任命 聯邦政府はここに同地の管理を外務省より移し補助大臣の專管事項とすることとなり、ハリソンを主管相に任命すると共に同地開發のため特別委員會を開設、委員長にF・W・エグルストンを推した。第二次國防三年計畫樹立と共にバブアの要港モレスビーにおける陸海空軍の基地建設費を計上

一、常備防衛には陸軍が當る

二、水上機部隊を常置す

三、巡洋艦が行動し得る施設をなす

とし、同時に木曜島に飛行場設置を決定した。ハリソン主管相は國防計畫遂行上、バブアと委任統治區域の併合統治の可能性を指摘したが、一九三九年五月活動を開始した委員會は調査の結果併合統治反對を決議した。

なほ聯邦政府はオーストラリアが石油を悉く蘭印及びアメリカに依存してゐる情勢を憂慮し、舊獨逸時代ドイツが同地で石油試験を行った事實に鑑み、大規模な油田調査を開始し、この意味からも將來は注目されてゐる。一方アメリカの對日馬蹄型攻圍態勢

強化に連れてモレスビーは有力な基地の一として重視されるに至つた。

四 軍需工業の躍進

軍需省を新設 第一次、第二次國防計畫の主要目的の一は軍需工業の確立、軍需品自給にあつたが、その擴充は相當の成績を示した。即ち一九三七―八年には工場従業員は前年に比し三五、〇〇〇名を増して、一九三九年二月現在五五九、一六〇名、生産價格も一七八、〇〇〇、〇〇〇ポンドから一九六、〇〇〇、〇〇〇ポンドに上昇した。一九三九年二月産業科學研究所は重要原料の全面的調査を行ひ、輸入に待つべき原料の種類、範圍、輸入杜絶の場合の對策等を調査したが、メンジース首相は四月組閣と共に軍需省を新設、ケーシー蔵相を兼務せしめた。ケーシー軍需相は就任に當つて、同省の目的を

オーストラリアをして産業的に自給せしめ、輸入品の束縛を脱し、外國よりの攻圍に堪へ得る經濟的地位に置く

とし、オーストラリア國內のみならず、太平洋上の英領各地への軍需品供給を實現するため、軍艦、商船、航空機その他大砲、高射砲、機銃、火藥、各種彈藥、装甲板、ガスマスク等生産の指導を開始した。全國民の能力強制登録は同年三月實施されたが需品相は五月國防的意義を有する各種産業の生産能力並に内容の強制登

録令を公布、總動員體制を整備した。

初めて飛行機製作

重工業擴充の現はれとして、一九三九年三月オーストラリアで初めて製作した飛行機である高級練習機ワイラウエイ第一號の試験飛行が行はれ、引續き生産機構整備の結果一九四〇年九月の發表によれば、デ・ハヴィランド練習機は一日二機、ワイラウエイ高級練習機はコモンウェルス航空機會社によつて一日一機の割合で生産されるに至つた。

一九三九年五月九日には、オーストラリアとして最初の鋼鐵輸出が行はれ、合計八千二百噸がニュー・キャッスルからイギリス本國へ向け積出され、更に十五萬乃至十七萬噸を輸出するため二十隻以上の船舶の備船契約が七月締結された。なほ聯邦政府は一九三九年十二月、自動車製造奨励金として一、五〇〇、〇〇〇ポンドの支出を決定、同月自動車用機關及び車臺生産のため資本金百萬ポンドの新會社がオーストラリア・コンソリデーテッド工業會社によつて設けられ、また航空機用發動機製作のため資本金百萬ポンドの會社がシドニーに設けられることとなつた。一方造船方面でも驅逐艦スループの他、一萬二千噸級の商船建造が計畫され造船所の擴充が行はれた。

従業員十五萬 かくて、一九四一年半ば頃までに軍需品製造關係の従業員は航空機の一萬名を加へて八萬名、原料供給に従事するもの七萬名、計十五萬名に上る豫想で、一九三八―九年中オーストラリアに活動した工場は二六、九四一に上り、前年に比し五

四六工場を増加した。これ等工場の工員数は三八―九年度に五六五、〇〇〇名で、一九二六―七年の不況時を超えること一一三、〇〇〇名である。三八―九年度の工員中女工は一五二、五一五名で、割合は子女二〇〇名に對し男子二七一となつてゐる。また同年度中、右工場の生産高は五〇〇、四〇〇、〇〇〇ポンドで、一九二八―九年の四二〇、〇〇〇、〇〇〇ポンドに比しかなりの飛躍を見せてゐる。一九四〇年中に設立された新工業は

飛行機々體、同發動機、同プロペラ、キャンパス、綿ズツク、自轉車、アルミニウム板、ステンレス鋼板、電線、機械工具、タイヤ、化學用品、等

に及び、今次大戦前、オーストラリア内で軍需品生産に従事してゐるものは僅か二、五〇〇名であつたのが、一九四一年六月までには大體左の如く八〇、〇〇〇名に達する豫想である。

ニュー・サウス・ウェールズ州	二五、〇〇〇
ヴィクトリア州	二五、〇〇〇
南オーストラリア州	一八、〇〇〇
タインズランド州	一〇、〇〇〇
西オーストラリア州	一、〇〇〇
タスマニア州	一、〇〇〇

デリー會議に報告 スエズ以東及び以南東半球における英植民地、自治領等十一を網羅したデリー會議（印度の部参照）は一九四〇年十月二十五日からインド・デリーで開かれたが、列席し

たオーストラリア代表はオーストラリアにおける軍需工業躍進状況を左の如く述べた。

オーストラリアにおいて、目下克服さるべき障害の一は産業の調整並に工作機械の生産であるが、この缺陷も一年前においては不可能と見られた程度まで匡正されてゐる。國土防衛に必要な機械を製産する工場数も三から二八に増加、計器その他輕工業方面も八工場から八五工場に飛躍した。熟練工の數も養成計畫の進行に連れ次第に増加し、その技術にも見るべきものがリ、オーストラリアが自給し得ざる原料品については専ら蓄積に力める傍ら代用品生産に努力してゐる。要するに勞働力の總動員によつて防禦用、攻撃用の大部分の物資生産は正に可能の域に達してゐる。

五 參戰と戰時體制強化

ドイツのポーランド作戦開始と共に、オーストラリア政府は一九三九年九月三日、英佛の對獨宣戰に呼應し、同日宣戰を布告、二度目の對獨戰爭に突入した。

戰時内閣組織 政府は豫て次期大戦勃發の場合、前大戦當時とは異なりオーストラリア本土への攻撃必至として國防力増強に懸命の努力を續けて來たが一九三九年一月英航空使節團を迎へ、四月中旬ニューージーランドに太平洋防備會議を開き、更に同六月

シンガポールに開かれた英佛極東軍事專門會議にも代表者を派遣し、太平洋プロットの防備強化案を検討したが、宣戰布告後メンジース首相は九月十五日

我等の義務はオーストラリア本土の防衛に限られてゐると信ずるが如きは痴人の夢に等しく、オーストラリアの國軍はニューージーランドを始め太平洋上の英領各島嶼防衛の責を負ふのみならず、必要に應じてはシンガポールの救援も、歐洲の戰場への派兵も考慮せねばならぬ。今日、オーストラリアの戰備は前大戦當時に比し、比較にならぬ程度に完備してはゐるが、政府は國防豫算を更に増額すべく決意した。

- 首相 メンジース
- 外相 ガレット
- 需品相 ケーシー
- 國防相 ストリート
- 首相 マッククリー

爲替管理を實施 政府はこれに先つて全國民の登録を實施し八月二十八日には外國爲替管理令を公布し、通貨、金の輸出禁止銀行への爲替買却は一人一ヶ月五千ポンドを商業目的に限つて許可する旨を決定したが、九月四日には船舶管理委員會を設け、ウイリアムス海軍大佐を委員長に任命、同七日には利潤統制に乗出したまたコブランド教授を物價統制委員として取りあへず十八種の

商品指定、八月三十一日の價格を維持させた。次で適用商品の範圍を擴大すると共に九月二十九日戰時物價固定委員會を設け、物價委員に廣大な權限を賦與した。

續いて聯邦政府は戰争長期化に對應し、輸出統制を行ふに決し九月二十五日以後、オーストラリアよりの輸出を許可制とする旨二十三日發表した。羊毛については九月五日イギリス政府が羊毛全部並に餘剩食糧を買上ぐることになつたが、同十二日羊毛一切の輸出禁止が發表された。十月三日に至り、羊毛買上價格は一ポンドにつき十三ペンス四三七に定められたが、同シーズンの産毛豫定二百五十萬俵はイギリス本國が右價格を以て獨占的に買上げ自己消費以外をイギリス政府の裁量によつて輸出を許可するもので、轉賣の際、利益の半額は生産者に交付されることとなつた。また小麦は戰時中聯邦政府が買上げ、強制的に聯邦小麦プールの通じて販賣することとなつた。この他、バター、チーズ、鶏卵、肉類、砂糖、鉛、亜鉛、銅等の輸出剩餘分の買上も決定した。

増税五九〇萬ポンド 一九四〇年度豫算は一九三九年九月提出されたが、支出總額一〇一、九一六、〇〇〇ポンド、収入一〇一、九四〇、〇〇〇ポンドで、同時に所得税、販賣税、關稅及びガソリン、ビール、石油等を含む消費稅等の増徴が決定され、この見積り収入は五、九〇〇、〇〇〇ポンドと計上された。次で十一月三十日、右豫算中、國防費は三三、〇〇〇、〇〇〇ポンドから六二、〇〇〇、〇〇〇ポンドに増加を見た。

參戰と戰時體制強化

十月五日、聯邦緊急企業局が設立され、全産業部門を十六種に大別、各會社工場に對し生産内容の報告提出を求め、産業統制を強化すると共に、自動車製作獎勵金一、五〇〇、〇〇〇ポンド支出を決定する等、重工業の確立にいよゝ邁進することとなつた。

この間輸出入の統制は更に強化し、十一月十七日、スターリング・ブロック以外の第三國よりの輸入に對し、通商協定に基づくバスター制商品を除く一切の輸入商品に許可制を採用、十二月一日から實施した。適用商品四四〇品目に及び、我が國の綿毛布、ガラス、珪那鐵器、アルミニウム、自動車、ボタン等もこの内に含まれることとなつた。

貨、自動車部分品は七割五分、絹織物、ミシン等は半額を、いづれも輸入を制限し、更に十一月二十七日國內産業の需要に應ずるため英領諸國以外に屑鐵鋼の輸出を禁止した。

◇歐洲遠征軍の戦績

オーストラリア陸軍並に空軍の歐洲遠征軍は大戦勃發と共に編成に着手、特別志願兵二萬名の登録を行ひ、訓練の上一九四〇年早々に派遣された。兩軍はエジプト戦線に配屬され、伊軍との戦闘に参加したが、一九四〇年末から開始された伊領リビアのバルディア攻略に際しては二十日間餘の攻撃の結果、一九四一年一月五日これを陥落せしめ、伊軍將兵一萬五千餘を捕虜とした。オーストラリア軍の損害は死傷五百以下と報せられ、チャーチル英首相はオーストラリアに對し感謝のメッセージを送つた。なほスベンダー・オーストラリア陸軍は一九四〇年末からバルディア陥落にかけて戦線を観察、オーストラリア軍を激勵した。一九四一年一月十四日現在オーストラリア政府の發表によればオーストラリア遠征軍の死傷は總計二、九六二名となつてゐる。

六 總選舉及び内閣改造

政局安定に期待 下院の改選並に上院の半数改選は一九四〇年九月二十一日執行された。選挙直前の下院分野は

統一オーストラリア黨	二五
地方黨	一七
労働黨	二七
ラング派	五
で、單獨で多数を制する政黨は一もなく、政情は極めて不安定を示し、メンジース首相の率ゐる統一オーストラリア黨は労働黨に比し少数ながらキャメロン傘下の地方黨との聯立によつて辛くも過半数を制してゐたが、戦争遂行上遺憾の點多く、この總選挙によつて統一オーストラリア黨または労働黨のいづれか多数を占め政局の安定が速かに齎されることが一般から要望されてゐた。同國の選挙は比例代表制が採用されてゐるため得票計算にかなりの時日を要し、選挙直後の形勢では政府派の絶対優勢が確信されてゐたにも拘らず、計算終了を見るや労働黨の躍進著しく、新分野は左の形勢を示した。	
統一オーストラリア黨	二四
地方黨	一四
労働黨	三二
ラング派	四
與黨辛くも勝つ 政府黨即ち統一オーストラリア黨と地方黨とは労働黨及びラング派に比し、議長を別にして僅か一名の多数を有するに過ぎず、政局は選挙前にも増して不安定の相貌を示すに至つた。唯だ政府黨はニュー・サウス・ウェールズ州を除く五	

州で勝利を占め、メンジース首相はヴィクトリア州で十八萬票を獲得、前回一九三七年の總選挙當時の得票の十倍の數字を示し、労働黨々首カーチンは西オーストラリア州フリーマントルで統一オーストラリア黨のリースのため敗れる等番狂はせを演じた。また政府派は上院でも十九中十六議席を獲得、労働黨に比し得票も十二萬票多数を示した。

選挙戦に當つて、メンジース首相は

- 一、陸海空軍を極力強化しオーストラリア防衛に努め
- 二、姉妹國ニュージーランドの安全を支援し
- 三、イギリス本國への援助を強化す

を強調、労働黨と協力、戦時學國內閣組織の用意ある旨を説いたに對し、労働黨もまた

オーストラリアの政治活動には戦争遂行上の學國一致のほか何事も考慮の餘地なく、労働黨としても黨派的意識を念頭に置かず

と戦争遂行への協力を確認したが、メンジース首相の聯立内閣参加要請は拒絶した。

労働黨入閣拒絶 首相は十月七日カーチン(労働黨首)、キャメロン(地方黨首)、ビーズレイ(ラング派黨首)等と個別的に會見し重ねて協力を求めた。地方黨は直ちに學國內閣組織に賛したが労働黨内部には異論多く、なかんづくニュー・サウス・ウェールズ州支部の如きは第一黨たる労働黨が政局を擔當すること至當で

總選舉及び内閣改造

あるとし、メンジース首相を解任しカーチン黨首に組閣委囑方を總督に要請する旨の決議を行ふまでに至つたが、黨内は必ずしも一致せず、結局非協力的な孤立政策が選挙民に及ぼす影響を憂慮した結果、學國內閣参加は拒絶するも、執行力なき單なる諮問機關たる戦時諮問會議に参加することとなり、この旨政府に通告したためメンジース首相は十月二十七日内閣の改造を斷行、地方黨との聯立の下に左の顔觸れを決定した。(閣僚の所屬は特に指定なきは統一オーストラリア黨)	
首相、國防相、情報相	メンジース
蔵相	フアデン(地方黨)
検事總長、海相	ヒューズ
陸相	スペンダー
逓相	マクラー
航空相	マクイーウエン(地方黨)
内相	フォル
商相	ペーヂ(地方黨)
外相、社會保健相	スチュアート
軍需相	マクアライド
關稅相	ハリソン
労働相、國民僱用相	ホルト
補助大臣	コリンズ(地方黨)、アンソニー(同)、コレット、レキー

戦時諮問會議成る なほ戦時内閣並に労働黨代表の参加した

戦時諮問會議の構成も同日左の如く決定した。

戦時内閣 メンジース首相、ヒューズ海相、フアデン蔵相、ス

ベンダー陸相、マクイーウエン航空相、フオル内相

戦時諮問會議

▲政府代表 メンジース、ヒューズ、フアデン、スベンダー

▲労働黨代表 カーチン黨首、フオード副黨首、メーキン書

記長、ビーズレイ・ラング派黨首

新内閣と労働黨との關係は、戦時諮問會議へ労働黨の参加及び従來労働黨嫌ひとして知られてゐたキヤメロンが地方黨々首並に閣僚の椅子を去つたため、一先づ好調と見られ、政局は一應の安定を示した。ただ労働黨は戦時委員會参加に先立ち

黨代表をして全力を擧げて内閣を援助せしめ、第一黨としての力を利用して戦争遂行を妨害するが如き態度は取らざる代り、政府としても労働黨の政策、特に失業問題、小麦對策、社會年金、住宅問題等に善處を希望す

と條件を附してをり、同黨が戦時舉國內閣乃至執行力ある戦時委員會に参加を拒んだのは、萬一参加の場合、選挙運動中同黨が公約した諸社會政策が、戦争遂行を第一義とし、社會政策の如き對内問題を後廻しにせんとするメンジース首相等一黨の壓力により空手形に終り選挙民の失望を買ふことを恐れたためと見られてゐるだけ、今後の政局は戦争遂行と内政問題との調和によつて左右

されるものと見られてゐる。

政局不安増大す

一九四一年度豫算の審議に當つても、政府側が豫め豫算案を労働黨側に提示しなかつたため、労働黨の不満強く、政府に對し戦時諮問會議の活用を迫ると共に、兵士給料、養老年金の増額、小麦耕作者への貸附、少額所得者への課税額再檢討等を要求、内政問題に關する政局の脆弱性を露呈した。

なほ前回大戦の場合と同じく、ロンドンにおける帝國内閣にオーストラリア代表を入閣させ、オーストラリアと本國との緊密迅速な連絡を計らんとする空氣が戦時内閣出現と共に濃厚となつてゐる。

七 對米關係の緊密化

公使交換を實施

太平洋國家群の一として、オーストラリアとアメリカとの提携は地理的に見るも、人種的に見るも、當然の勢であるが、兩國間の貿易が年々著しくオーストラリアに不利であつたため一九三五年頃まではオーストラリアの對米感情も比較的冷淡であつたが、太平洋集團保障規約の空文化、歐洲情勢の緊張、我が國の躍進、特に南進政策に怯えて、英米間の緊密化は必然にオーストラリアの對米接近となり、一九三五年春、早くも、『北方よりの脅威に具へるため』アメリカと提携して大空軍樹立の計畫が進められたが、一九三九年四月メンジース内閣成立と共に

に、オーストラリア最初の在外公使館を東京と同時にワシントン

に設置し、同年末太平洋における熱心な英米提携論者であり排獨論者であるケーシー蔵相を初代公使に任命した。以後ケーシー公使はその保持する政策實現のため活動を續け、一九四〇年六月には飛行機を主體とする總計一、二五〇、〇〇〇ポンドに上る武器の對豫輸出が發表され、同七月には汎米航空會社のサンフランシスコ・ニュージールランド線が開始され、ニュージールランド經由

米濠間空路連絡の途が開かれるに至つた。同九月三日大西洋における英領諸島と米驅逐艦との交換が實現の前夜よりケーシー公使ロシアン駐米イギリス大使とルーズヴェルト大統領、ハル國務長官等との會見が頻々と行はれ、同六日にはオーストラリア、ニュージールランド、カナダとアメリカ間の仲裁條約の締結を見、更にシンガポール共同使用、太平洋上の英領島嶼のアメリカへの提供等を内容とする米濠太平洋協定締結が噂されるに至り十月にはアメリカよりタイ國へ積出した飛行機多數がマニラ揚陸後オーストラリア空軍へ賣渡された。オーストラリア政府は一九四一年に入ると共にアメリカよりオーストラリアへの軍需品供給はいよゝ活潑なるべしとしてクレディット確保に懸命の努力を拂つた。

ル大統領三選歓迎

ルーズヴェルト大統領三選決定と共にメ

ンジース首相は、アメリカ史上最初の三選こそ、從來の如何なる大統領にも増して偉大なる力をル氏に與へるものである

として祝意を表し、またオーストラリア諸紙の論調も

光榮ある三選はル大統領をして、英語民族により成就さるべき新民主主義のチャムピオンとするものでありアメリカの對英援助のテンポを速め最後の勝利を確保し、當面の影響としては日本の太平洋における行動とヴィシー政府のドイツ追隨政策を牽制しよう

と、一齊に三選を歓迎した。

基地の共同使用

三選後のルーズヴェルト大統領は十二月二十九日の爐邊閣議、一九四一年一月六日の豫算教書において、對英援助の強化と全體主義國への攻勢を強調したが、これとともに太平洋における所謂對日馬蹄型攻圍陣に對しても着々増強態勢を取り、大洋洲水域のサモア島の軍事施設費として一月八日發表の新豫算で二五〇、〇〇〇ドル、次で二月十二日提出の追加豫算で八、一〇〇、〇〇〇ドルを計上した。一方南太平洋の英領フェニックス群島中カントン、エンダベリー兩島の共同管理も結局米濠共同防衛の有力な基地と變り、右新豫算討論の米下院外交委員會ではキング議員の提案になる南太平洋英領島嶼及びオーストラリア、ニュージールランドの各基地、シンガポール等の共同使用等が討議され、更にダーウィン(濠)、モレスビー(濠領ニュー・ギニア)ヌメア(佛領ニュー・カレドニア)等は何れもアメリカとシンガポールとの連絡上の要衝としてオーストラリア政府に對し防備増強を要請したと傳へられた。

なほメンジース首相は戦争遂行上の諸問題の打合せを行ふためアメリカ經由英本國へ赴く旨一月十三日發表、注目を惹いたが、ケーシー駐米公使はこの直後十八日、ボストンにおける演説でアメリカが太平洋において戦に捲きこまれる場合、オーストラリアは全力を擧げて協力する用意を有すと述べてゐる。

◆濠毛貯蔵協定

オーストラリア政府は一九三九年九月、羊毛の輸出を原則として禁止したが、一九四〇年十月來、英米兩國間に戦時必需品としてオーストラリア羊毛のアメリカ國內貯蔵を折衝中の處、アメリカ國防諮問委員会の要望もあり十二月十日協定成立を見二五、〇〇〇、〇〇〇ポンドの濠毛を米國內に貯蔵することに決定した。この貯蔵羊毛は必要に應じイギリス本國またはその屬領に提供され、イギリスの工業活動不能の場合はアメリカで製品として提供することになつてをり、要するに戦時必需品の共同保管であり英米經濟關係發展に示唆を與へた。なほ一九四一年一月ジョーンズ米商相の發表によれば右濠毛は同年六月末までにアメリカに輸送し終るべく、アメリカ國防資材供給會社と諸汽船會社との間に契約が締結された。

◆海軍武官交換

ストラリア政府は比較的讓歩的態度を示し、支那事變突發直後、支那への道義的援助を採擇した國際聯盟の決議には參加したものの、オーストラリア單獨の行動によつて日本の反感を挑發するが如きは極力避け、一九三八年一月シドニー埠頭入夫の日本向層鐵積込荷役ボイコット、同十一月のケンブラ埠頭入夫の同鉄積込荷役ボイコット等に對しても彈壓政策で臨むと共に、新聞雜誌の反日的言論も封する等慎重な態度を示し、一九三八年七月一日の鐵積石輸出禁止が日本鑛業のヤンビ鐵鑛への莫大な投資を一時にして失はしめた事實に對しても、國內産業の需要に應ずる以外他意なしと極力日本への刺戟を控えてゐたが、同國新聞紙の極東記事は悉くロンドンを經由する關係上、極東の真相は常に極端に歪曲されて報道される結果、對日感情は次第に悪化し、滿洲事變勃發當時日本に對し異常な好意を示した有力紙シドニー・モーニング・ヘラルドの如きも今事變に當つては終始わが國を誹謗してゐる。

一般の恐怖感高まる メンジース首相は一九三九年組閣と共に、東京に公使館設置を發表、相共に太平洋國家群の一員として日濠間の友誼促進に力むる旨を強調し、知日家として知られ、去る昭和九年親善特使として來朝した高等法院長サー・ジョン・レィサムを初代駐日公使として任命、同公使は一九四〇年十二月來任した。

この間、海南島占領、新南群島領有、蘭印現狀維持聲明、佛印進駐等は所謂わが南進政策への恐怖に拍車をかけ、特に一九四〇

支那事變と對日關係

一九四一年一月八日、アメリカ海軍當局は、アメリカはオーストラリアとの防衛上の緊密を期するため海軍武官を交換するに決した旨發表した。

◆アメリカ駐濠公使更迭

一九四一年二月六日、ガウス駐濠公使は駐支大使に轉じ、後任には駐支大使ネルソン・ジョンソンが任命された。

◆ダーウインに米海軍顧問常置

一九四一年二月十日、アメリカ海軍當局は、ダーウインにアメリカ海軍顧問を常置する旨發表、初代顧問に退役海軍大佐マーンヤル・コリンズを任命した。アメリカの太平洋作戦におけるダーウイン軍港の重要性を裏書するもので、同軍港の英米共同使用も全く現實の問題となつた。

八 支那事變と對日關係

慎重な對日態度 白濠主義を固執するオーストラリアの對日感情は、常に希望と恐怖とが交錯、特に支那事變勃發後はわが南進政策への誤解から反日的感情が著しく濃化した。ただ一九三六年の兩國通商破局が同年末日濠第一次通商取極により解決を見るや、その後の海運協定更新、二回に互る通商取極更新に對しオ

年四月蘭印現狀維持聲明直後には、米濠軍事同盟締結論が濠有力紙に取上げられ、南太平洋の要衝フェニックス群島中のカントン、エンダベリー兩島の米への租借許容以上に、オーストラリア地域内に米海軍基地設定を認めんとする論議も散見するに至つた。

日獨伊三國同盟成立に對しては、當時の外相マクタイウエンは三國同盟締結によつて、日本はもし極東において第三國の妨害を受ければ、われ等のいま戦ひつゝある敵と合流するに至るべく、たとへばアメリカが介入する處ありとしても日本はその方針を變更するが如きは爲さぬであらう

とし、オーストラリアとしては單に舉國一致、如何なる事態に對しても敢然當るの他なしと聲明したが、一般新聞紙の論調は本條約の主たる目的は、極東における日本の政策遂行に際し豫想されるアメリカの干渉を排除するにあるとして、オーストラリアに取つて重大關係ありと見てゐる。

國交調整を聲明 メンジース改造内閣の外相に就任したスチュアートは一九四〇年十一月二十八日、下院外交演説において特に極東情勢に言及、オーストラリア政府は日ソ關係の進展に重大關心を拂ふと共に、日本との國交調整に努力せんとするものであると、大體左の如く述べた。

政府は、日ソの關係がオーストラリアに對し重大影響を與へるものと考へるので、この兩國の外交政策に對し深甚の注目を拂

つてゐる。しかしわが國の立場は東亞並に太平洋の事態安定に重大關係を持つものであるが、日本との國交はレーサム公使の派遣によつて相互尊重と好意により十分調整の餘地ありと確信する。

なほ、わが國の初代駐濠公使は前外務省情報部長河相達夫公使を起用するに決し、一九四一年一月八日附を以て發令された。これに對しステュアート外相は直ちに、河相公使任命を歓迎する旨述べたが、更に一月十七日

オーストラリアは今次戦争によつて貿易財政上、種々制限を餘儀なくされてゐるが、日濠間の友好關係には何等變りなしと重ねて聲明、またスベンダー陸相は同十二日、エジプト戰線視察よりの歸途シンガポールで放送演説を試み

オーストラリアは太平洋がその名の如く常に太平であることを切望する。オーストラリアは日本と争ふべき何ものをも有せず日濠友好は双方の利益であることを確信すると親善を強調した。

◇蔣政權と公使交換

わが駐濠初代公使として河相公使の決定を見るや重慶蔣政權もオーストラリアと公使交換を策し、一九四一年一月より折衝を開始し、オーストラリアは七月六日フレデリック・エグルストンを駐重慶初代公使に起用、重慶では八月外交部次長徐謨を駐濠公使

に任命、兩政府の外交關係が開かれた。

九 經濟情勢と老大豫算

公債發行高激増 一九三五年頃から國防費累増に伴ふ豫算膨脹は次第に甚だしく、歳入補填公債の發行も激増し、一九三九年七月一日現在公債發行高は一、二九五、〇二二、九七三ポンド、國民一人當り一八六ポンド一〇ペンスの巨額に上り、一方所得稅消費稅、販賣稅等の増徴も頻々と行はれ一九三九年度の聯邦及び州課稅總額は一二四、五六五、一八〇ポンド、一人當り一七〇ポンド一九三九年八月現在二四五、五八六、七三六ポンド、一人當り三五ポンド五シリング七ペンスである。聯邦政府は對獨宣戰後直ちに物價騰貴抑制に乘出すと共に、ガソリンその他輸入品の消費規正、代用品の生産、使用獎勵に努め、關稅増徴と共に不急不要品の輸入を制限または禁止し、羊毛、小麦、屠鐵を始め主要原料の輸出を禁止した結果、船腹の不足と相俟つて一九三六―七年を絶頂とした輸出は次第に減退を辿つてゐる。ただイギリス本國は戰爭繼續中一億ポンドの物資をオーストラリアより買入れることとなり、同時に東半球ブロックへの軍需品、食料の輸出は比較的活潑に行はれてゐる。

小麦未曾有の凶作 産物の大宗たる羊毛は一九三九―四〇年

度に四八六、〇〇〇噸、價格六四、七〇〇、〇〇〇ポンドと相當な數字を示したが、小麦は未曾有の旱魃のため大被害を受け、九千萬ブッシェル弱と、前年の二億一千万ブッシェルの半作にも満たぬ慘狀で政府は對策に腐心してゐたが一九四〇年十一月十三日作付反別割當を含む小麦生産者許可制を骨子とする小麦安定計畫を發表、同時に價格騰落調整を目的とす補償資金を創設、取りあへず業者安定のため國家安全補償法に基き、一袋當り各港レール渡し三シリング六ペンスの補償をなすこととなつた。また聯邦政府は各州政府に對し旱害地方の直接救済資金として九十五萬ポンドを貸付けると共に、不適地における小麦作禁止その他恒久的對策に乘出すこととなつた。

老四一一年度豫算 一九四〇―四一一年度豫算は一九四〇年十一月二十一日下院に提出された。フアデン藏相の説明によれば

歳入 一五〇、〇〇〇、〇〇〇ポンド
歳出 一五〇、七三〇、〇〇〇ポンド

で、前年度に比し歳入出において各々約四千万ポンドを増加した。

歳入は、前年度の課稅標準をそのまま適用するとすれば總計一八九、〇〇〇、〇〇〇ポンドに過ぎないため、所得稅その他の増稅によつて、三二、〇〇〇、〇〇〇ポンドを捻出することとなつた。即ち

個人所得稅増徴 一七、七〇〇、〇〇〇ポンド

經濟情勢と老大豫算

法人同 五、八〇〇、〇〇〇ポンド
販賣稅同 三、四〇〇、〇〇〇ポンド
關稅、消費稅同 四、二〇〇、〇〇〇ポンド

で、これにより個人所得稅免稅點は二五〇ポンドから一五〇ポンドに引下げられ、累進率も著しく、最高は所得一ポンドにつき稅額一四シリングに達し、一方、基礎賃金生活者も當年度下半年期において所得一ポンドに下つき一シリングを負担することとなつた。法人に對しては戰時特別利得稅を課した他、免稅點を撤廢し、販賣稅は從來の免稅品に五分を課した上、更に一般稅率を引上げ、不急品と見られるものに一割五分を課し、關稅、消費稅については奢侈品に新稅を設けることとなつた。

軍事費の膨脹著し 前年度の軍事費支出額は總計五五、〇〇〇、〇〇〇ポンドで、總豫算の五割強に達したが、新年度では一躍その三倍餘の一八六、〇〇〇、〇〇〇ポンドと見積られ、一般歳入を遙かに突破した。月割にして一五、〇〇〇、〇〇〇ポンドに上るこの軍事豫算の内、海外遠征軍の費用は四三、〇〇〇、〇〇〇ポンド、他はオーストラリア國防に當てられてゐる。財源として一般歳入より繰入れられる分は六五、〇〇〇、〇〇〇ポンドで殘餘はすべて公債及び借入金で賄はれることとなつた。

一般歳出では前年の旱魃による小麦の被害に鑑み、旱魃救済資金として二、七七〇、〇〇〇ポンドの公債を募り州政府に交付する他、小麦買上價格を一ブッシェルFOB三シリング十ペンスと定

め、かつ農家負債整理のため五〇〇、〇〇〇ポンドを支出することゝなつた。

十 濠洲水域における

ドイツ艦艇の行動

ナウル島砲撃 前大戦當時太平洋、インド洋方面に活躍した獨逸艦隊、ゼー・アドラー等の先例を追つて、今次大戦においても南太平洋上に獨逸艦が行動してゐる事實は一九四〇年夏以來、大體確認され、オーストラリア水域でイギリス並びに中立國商船は頻々と失はれてゐたが、十一月七日にはメルボルン港沖でアメリカ汽船シテイ・オブ・レーヴイル號が機雷に觸れて爆沈したためオーストラリア政府はバス海峡の航行を禁止し掃海を行つた結果、ドイツ製と見られる機雷を多量発見、更に同二十二日にはインド洋上で英船ポート・ブリスベーン號が撃沈され、歐運連絡航路の危険が増大した折柄、十二月二十七日未明、問題の獨逸艦はイギリス委任統治領ナウル島に現はれ、豫め同島無線局に對し無電の使用を禁止した後、埠頭施設、倉庫、石油タンク等を砲撃、多大の損害を與へた。しかもこの獨逸艦はオーストラリア政府の發表によれば、砲撃開始の直前まで日章旗を掲げ且つ日本語で艦名を表示してゐたと言はれ、各方面に反響を呼び起した。

被害商船十隻 右に對しドイツ軍司令部は、日章旗掲揚云々

はイギリス側の宣傳であるとして一蹴太平洋方面に活躍中の一軍艦よりの報告によれば、同艦は現在までにイギリス商船十隻合計六四、一五五トン撃沈した。なほ同艦により救助された右商船の乗員生存者は南洋群島の一島に無事揚陸されてゐる。

オーストラリア及びニュージーランド政府の發表によれば、被害船は英七隻、佛二隻、ノルウェー一隻、合計十隻で、その船客、乗組員等五百名は英海軍の手によつて同十二月二十六日エミラウ島(舊獨逸領、オーストラリア委任統治領ビスマーク群島の一島)より無事救出された旨發表した。

英紙の報道によれば、オーストラリア水域において行動しつゝあるドイツ艦隊は、ナルグイク號、東京丸、南洋丸の三艦で前二者は八インチ砲を搭載してをり、トン数は約一萬トン、南洋丸は補給船で、五千トン程度としてゐる。なほ前二者中の一艦は一九四〇年四月ドイツがデンマークを占領した際、ほぼ完成に近づいてゐたグレン汽船會社の快速船グレンガリー號を接收、武装を施したものと見られてゐる。また一艦はハインケル急降下爆撃機ほか飛行機約五機を搭載してゐるといはれ、一九四一年一月三日ニュージーランド政府の發表によれば、同國空軍兵士等二十名が十名づつ別箇に獨逸艦の捕虜となつてゐるところから空中戦も行はれたものと想像される。

濠洲軍必死の捜査

エミラウ島から救出された船員等の言を綜合すれば、獨逸艦隊の司令官は前大戦當時のゼー・アドラー號の艦長フオン・ルックナー伯と信ぜられる。ルックナー伯は當時の經驗に加へて、一九三八年にもヨットを仕立て、オーストラリアを始め南太平洋に親善航海を試みてをり、南太平洋上に散在する島嶼の地理に通曉してゐるだけ、英海軍の必死の捜査にも拘らず発見は困難を傳へられてゐる。オーストラリア政府は一九四一年早々、アメリカから同海軍の制式哨戒飛行艇を購入、獨逸発見に懸命の努力を試みんとしてゐる。

〔ナウル島〕

砲撃を受けたナウル島は舊獨逸領でシドニーより北方三、五〇〇キロ、わが委任統治領マーシャル群島の南方、赤道の南四二キロに横はり前大戦の後、イギリスの委任統治領となり、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドが交代に統治に當ることとなり、現在はオーストラリアから知事が派遣され、燐礦石の産地として太平洋諸島中、首位を占めてゐる。

ニュージーランド

一 建國百年祭と大戦

一九三九年九月三日、ニュージーランドは英本國及びフランスと相呼應して對獨宣戰を布告した。恰もこの年は一八四〇年土民マオリ族との協定によつてニュージーランドの主權が英女皇ヴィクトリアに歸して第百年に當り、一九三六年中に設立された百年式典委員會の手によつて、建國百年記念博覽會が一九三九年十一月から翌年四月に互つてウェリントンで開催されたのを中心に、種々の行事が全國に展開されたが、奇しくもこの記念すべき年を機に、この若き國は創建以來最も多端、多難な局面に際會することとなつた。

一九三九年九月末現在人口は土人八八、〇〇〇を加へて一、六三二、八一〇、一九三八年の人口一人當り輸出入額は五六ポンド一シリリングで世界第一位、自動車數はアメリカに次で第二位といはれ、一九四〇年度豫算は七六、〇〇〇、〇〇〇ポンド、課税額は一九三八—九年度に一人當り二三ポンド八シリング九ペンス、公債發行高は一九三九年三月末現在三〇三、九七〇、二七二ポンド、一人當り一八七ポンド一シリリング一〇ペ

ンス、預金高は一四二、〇二九、九五九ポンド、一人當り八七ポンド八シリリング四ペンスである。

二 労働黨内閣の施政

フレージャー内閣成る 一九三五年十一月の總選舉に、労働黨は下院八〇の議席中五三を獲得、第一黨となり、黨首サヴェージを首班として最初の單獨内閣を組織した。次で一九三八年十一月の改選にも議席五四を占め引續き政局を擔當したがサヴェージ首相は一九四〇年三月二十七日死去し、文相ビーター・フレージャーが代つて首相となり、サヴェージ前首相が兼務してゐた外相には土地相ラングストーンを起用した。

ロンドン基金減 労働黨内閣は政策として、國民生活水準の一般的向上と産業全般の能率的な社會化とを掲げ、この具體策として、中央金融組織の改善、農産物價格の保證、最低賃金確立國民健康保險開始、養老年金等擴充を始め社會施設の充實を計ると共に、對外政策としては、國際聯盟規約の尊重と聯盟機構運用による平和保持に努め、一九三八年八月には廣汎な社會立法たるソシアル・セキユリテイ法を議會に提出、一九三九年四月から實施した。同法による給付は養老、老年、寡婦、孤兒、扶養家族、不具發疾、鑛夫、疾病、失業等各部門に互り、この實施によつて從來とも世界一と言はれた社會施設はいよゝく擴充されることとなり、一方公共土木事業の實施により失業者數は急激に減少し一

般の購買力も増大、輸出入とも旺盛となつたが、同法實施の財源の一助として行はれた増税は勢ひ資本の海外逃避を生み労働黨内閣が成立した一九三五年十一月には四八、〇〇〇、〇〇〇ポンド内外を擁して諸國羨望の的となつてゐたロンドンにおける在外基金は急激に減少を來し、一九三八年五月の二八、一〇〇、〇〇〇ポンドから同年十一月末には僅々八、〇〇〇、〇〇〇ポンドを殘すのみとなり、輸入増加、公共事業費激増等から財政状態は悪化の一路を辿るのみとなつた。

輸入品制限表
(1939年下半期)

輸入品目	英本國及 他諸國	その他諸國	諸外國
衣服	100%	100%	100%
メリヤス	0	100	100
帽子	100	100	100
リボン	40	100	100
各種織物	0	5	55
羅紗	33½	100	100
(ズツク共)	0	25	100
靴	0	50	100
雜貨	0	60	100
製雜貨	0	100	100
卓用磁器類	0	100	100
化粧用品	50	75	80
金物類	50	75	75

労働黨内閣の施政

よつて政府は同年十二月六日、突如として總督令を公布、爲替統制を實施し、無爲替輸出を禁止すると共に、輸入制限をも斷行必需品乃至ニュージーランド國內で生産不能または著しく困難なるものに限り輸入を許可することとした。この輸入許可制適用品目は全輸入品目九七中二六三に及び、一九三八年の輸入実績に徴し全額乃至三割を制限することとした。この中、特に我が國に關係ある品目を挙げれば別表の通りで、第三國よりの輸入は殆ど全面的に禁止の状態となつた。

窮余の内外債募集 労働黨政府は從來、公債は累を後代に及ぼすとして絶對に起債せずと豪語してゐたが、財政悪化の現状の前には遂に節を屈し、一九三九年五月公共事業費として四、〇〇〇、〇〇〇ポンドの内債を募集し、一方ナッシュ蔵相はこの募債と前後して在外基金減少の對策と一九四〇年一月を以て満期となる一七、〇〇〇、〇〇〇ポンドの公債借換のため訪英、右の借換と九、〇〇〇、〇〇〇ポンドの新借款に成功した。

一九三九—四〇年度の豫算は歳出總計六二、〇〇〇、〇〇〇ポンドに上り、重要項目は左の如くである。

公債利子 一〇、〇二二、四〇〇ポンド
 軍事費 五、四〇〇、〇〇〇
 公共事業費 二三、九一七、〇〇〇
 ソシアル・セキユリテイ費 一二、〇六三、一二五
 前年度に比し六、〇〇〇、〇〇〇ポンドを増加し、歳入増加を計

るため二、五〇〇、〇〇〇ポンドの増税を断行した。その内譯は所得税一、〇〇〇、〇〇〇ポンド、ガソリン税一、〇〇〇、〇〇〇ポンド、相續税二〇〇、〇〇〇ポンド、ビール税三〇〇、〇〇〇ポンドである。

三 國防政策と軍備増強

國防方針の一變 聯盟思想の影響を受けた労働黨は、強大な軍備は戦争を誘發するものとして、在野時代から軍事費の増額には常に異議を唱へ、シンガポール要塞建設に對する負擔金支出にも反對を續けてゐた。第一次大戦後、軍事費は漸減の傾向を辿り、強制兵役訓練の如きも、一般不況も原因の一となり一九三〇年來廢止され、軍事費總額は一九三一、二年には六〇〇、〇〇〇ポンドに留まつた。

一九三五年、労働黨が政権を獲得すると共に、その在野時代の主張に照してこの傾向は更に拍車をかけるものと一般に信ぜられたが、歐洲並に極東の急迫した情勢はこれを許さなくなり、一九三四―五年度に初めて一、〇〇〇、〇〇〇ポンドを突破した軍事費は爾後毎年増大するに至つた。最初、ニュージールランドはオーストラリアと同じく、國防については全く英本國の海軍力に依存する意向であつたが、歐洲における情勢が急迫の度を加へ大戦氣構へが濃厚となると共に、英本國が參戰の場合太平洋水面まで餘力

ニュージールランド國防費 (單位ポンド)

年度	海軍	陸軍	空軍	公共事業 基金入 共基入	總計	一 人 當 り
1931-2	444,674		183,089		627,763	0 8 3
1933-4	497,384		264,724		762,108	0 9 11
1934-5	537,840	321,563	143,669		1,003,072	0 12 11
1935-6	562,245	378,181	173,944		1,114,370	0 14 3
1936-7	632,062	427,635	132,382		1,192,079	0 15 1
1937-8	760,529	529,632	313,652	98,265	1,702,078	1 1 4
1938-9	835,331	706,753	557,205	368,720	2,468,009	1 10 8

を伸ばし得ない形勢に鑑み、ニュージールランド經濟の基本をなす通商線の確保を期すると共に、豫想される外敵の攻撃に抵抗し得る保證として、從來の方針を一變、ニュージールランド独自の見地から、また東半球英帝國國の一員としての立場から國防強化に全力を注ぐこととなつた。
(太平洋防備會議に
ついてはオーストラ
リアの部参照)
〔陸軍〕 サグエー
ジ首相は一九三九年
四月労働黨大會の席
上

軍人たり得る年齢にあるすべての國民はニュージールランド國防のため、その肉體を訓練に捧ぐる義務を有すと演説を試み、徵募範圍の擴張と『デモクラチックな陸軍』建設を強調したが、更に同年五月二十五日の放送演説で、義勇軍の増強と國民豫備軍の創設を聲明した。

一九三九年六月現在陸軍の組織は左の通りである。

- 一、正規軍
 - 士官 一〇〇
 - 士官候補生 一五
 - 兵士 四七八
- 二、義勇軍
 - 士官 一、一五八
 - 兵士 一四、七三九

沿岸防備の要塞軍と野戦軍に分れ、平時は要塞軍に重點を置き、有事の際は野戦軍を歩兵、騎兵、砲兵の三單位に改編する

三、義勇豫備軍
義勇軍に三年間勤務し、年齢四十一歳以下の既教育兵で編成

四、國民豫備軍
二十歳乃至五十五歳までの志願兵で組織し、年齢及び兵役の経験に應じ三部に分ち、有事の際は義勇軍、要塞軍、その他に配屬され、あるひは國內の警備に當ることになつてゐる。

〔海軍〕 イギリス海軍より借用した巡洋艦レアンダー(七、二七〇トン)アキレス(七、〇三〇トン) 共六時砲八門搭載 及び護送艦ウエリントン、リース、掃海船ワカトラ號等より成り

一九三九年三月現在の兵員は

- 一、正規軍(英本國海軍在籍者を除く)
 - 士官 七
 - 水兵 六七二
- 二、海軍義勇軍
 - 士官 一四
 - 水兵 一七二
- 三、海軍義勇豫備軍
 - 士官 七八
 - 水兵 六一〇

政府は一九三七年以來、アキレス級艦を容れ得るやうカリオーブ船渠を擴張した他、三年計畫によるオークランド基地増強、修理施設擴充等を進め、將來はニュージールランド独自の海軍保有を目標としてゐる。

〔空軍〕 ニュージールランド空軍は一九二三年陸軍の一部門として編成されたが、一九三七年四月に至つて初めて獨立した。同時にその前年來訪した英空軍代表の調査報告に基き、常備空軍擴充計畫が樹立され、北島に飛行基地建設、飛行學校一個建設、地上勤務員養成學校四個設置等が決定された。これと共に労働黨政府は、ニュージールランドの地理的特殊情勢に基き、政府としても陸、海兩軍に比し空軍に對し、多額の經費を投すべき旨を聲明した。

一九三九年八月現在の内容は左の通り

- 一、正規空軍 長距離用の新鋭機を中心とし四部隊より成る
- 士 官 七九
- 英空軍士官 六
- 教育中の士官 四二
- 航空兵 六六一
- 二、義勇空軍 四部隊より成り志願制度で有事の際を目標とし訓練を行ひ、オークランド、ウェリントン、クライストチャーチ、ダネディンの四ヶ所に設置する
- 三、豫備空軍 士官及び航空兵の二部に分れ、危急の場合正規空軍に編入される。

航空機自給を目標 ニューゼーランド国内における飛行機自給も切に要望されてゐたが、デ・ハヴィランド航空機会社は一九三九年六月ロンドンゴタイに工場を建設、直ちに政府より百機の注文を受け、二ヶ月に十二機づつの割合で製作を開始した。同工場は當分部品を英本國より輸入して組立のみを行つてゐるが、將來は機關、特殊金屬等を除き材料も自給する方針である。

海外航空路擴充 アメリカとの空路連絡については、一九三七年三月汎米航空會社がクリップパー機を使用しサンフランシスコ—ホノルル—キングマン・リーフ—パゴパゴ—オークランド間に試験飛行を行ひ成功を収めた結果、オークランド港の設備完成を待つて一九三八年一月から定期航空を開始したが、ニ

ューゼーランド行一番機が同月十一日米領サモア附近で墜落、乗員全部惨死した事故を生んだため一時中止され、新鋭機の完成を待つてコースもホノルル—カントン島—ヌメア（佛領ニューカレドニア）—オークランドと改め、一九四〇年七月から定期航空を開始した。

またオーストラリア並に英本國との連絡については、政府は一九三七年十二月英本國ニューゼーランド連絡飛行完成後、英本國並にオーストラリア政府と協議の上、三者共同出資で、タスマン・エムパイア・エア・ウェイズ會社を創設、一九三九年末からシドニー・オークランド間に開設した。ショート・エムパイア機を使用して所要時間七時間二十分である。かくてシドニーよりシンガポール經由で英本國と空路連絡の途が拓けた。

四 宣戦と戦時體制強化

一九三九年九月三日、英佛の對獨宣戦と共にニューゼーランドも宣戦を布告した。翌四日、物資動員に備へて需品省を新設、産業相サリヴァンをして兼務せしめると共に戦時緊急法を發布、着々戦時體制強化に進んだ。軍費支出の財源として所得税一割五分の増課を始め、ビール、ガソリン、煙草等の消費税を引上げ、準備銀行の割引歩合を三分に引下げ、準備銀行修正法を規定し、大蔵大臣に廣汎な統制權を與へ、一方ではガソリン消費制限も公

布した。フレージャー首相代理は戦争遂行上の打合せを遂げるため訪英、重要協議を行ひ、羊毛、食料等の英本國一手買上も決定した。なほ前大戦當時と同じく遠征軍を募集編成、本國を救援することに決定、司令官にフレイバーク少將を起用した。一方ニューゼーランド海軍の巡洋艦アキレス號は英海軍のアジャックス號、エクゼター號等と共に南大西洋に出動、通商線擁護に従事した。

英本國政府のニューゼーランドよりの買上物資は、羊毛（買上價格一ポンドにつき一二ペンス）肉類、バター及びチーズの四種で、いづれもニューゼーランドの國內需要以外の全量を買上る方針で、一九三九—四〇年度において、バターの買上量は一一五、〇〇〇トン、チーズは八四、〇〇〇トンと決定した。またニューゼーランド政府は、果實の海外市場喪失に備へ、林産及び梨の一九三九—四〇年度産額の全部を購入と決定した。買上價格は國內向一ブッシュェルにつき四シリング一〇ペンス、輸出向同五シリング二ペンスで、船腹の餘剰ある限り政府の手で輸出を試みることもなつた。

〔南太平洋における獨艦の行動に関してはオーストラリアの部参照〕

五 支那事變と輿論の動向

事變前の友好 我が國とニューゼーランドとの關係は地理的

支那事變と輿論の動向

の遠隔に加へ、直航々路も設けられず、更に同國の輸出品として羊毛、肉類、酪製品以外に見るべきものがなく、わが方の雜品輸出も極めて少額で密接な通商關係は期待されなかつたが、一九二八年の通商條約締結以來漸く重視されるに至り、一九三五年には出淵大使が親善使節として訪問、日本への認識をある程度まで深めさせることに成功した。同年大阪商船と日本郵船が直航船を配置し、兩國間の貿易が活況を呈し始めた矢先、一九三六年我が國とオーストラリアとの通商破局により、從來殆どオーストラリアの羊毛に依存してゐた我が國が分散買付を開始するに及び、ニューゼーランド羊毛の買付量も激増し、この結果同年及び翌年に互つてニューゼーランドの對日輸出は未曾有の數字を示し他方、労働黨政府の新政策は一般の購買力を高め、従つて我が綿布人絹類を始め雜品類の輸入も躍進、對日感情も比較的良好で、一九三七年には日本ニューゼーランド協會が設立され、一九三八年一月にはウェリントンにわが總領事館が開設された。

労働者の對日反感 支那事變の勃發を見るや、聯盟的平和論を信奉する労働黨政府はその所謂「日本の侵略の對象となつた支那」への同情とわが聖戰目的への猜疑から、ジュネーヴにおける國際聯盟代表は事毎に對日制裁を主張、英本國並にオーストラリアに比し極めて強硬な態度を示した。また事變の經過をロンドン經由のイギリス製ニュースのみによつて判断するを餘儀なくされる國民、特に労働者の對日反感は事變の進展と共に高まり、一方

在留支那人の宣傳も手傳ひ一九三七年九月オーストラリア、ウェリントン、ダネディンの三港で埠頭人夫の日本向屑鐵荷役ボイコットが開始され、また日本品の不買運動も行はれた。政府は労働同盟側の頻々たる要請に屈し、遂に同年十月八日屑鐵の輸出を全面的に禁止するに至つた。政府はわが抗議に對し屑鐵の禁輸は單に日本のみを目標とするものでなく、すべての國に適用されるものであり、目的とする所は國內製鐵業の助成に他ならない。

と、わが抗議を理由なきものとした。支那事變に對しても、聯盟代表の態度はともかく、労働者以外の一般感情は、ニュージージーランド自體にとつて關係薄き事柄として、支那への同情は別としても局面的進展に比較的冷淡であつたが、廣東占領、海南島進駐、新南群島領有宣言等を見るに及びわが南進策への誤解から對日恐怖の度を増し、事變に對して取つた英本國の態度を微温に過ぐるとし、なかつく、一九三九年七月、有田・クレギーの日英會談が、イギリス側の「支那における新事態の確認と利敵行爲の抑制」に終るや、特に労働黨内に不満高まり、これを以て極東のミンヘン協定に比し或は「ニュージージーランド及びオーストラリアの利害が著しく脅威さる」とし、「或は英帝國の分裂を招來し、戦争へ誘導する」「日本の實力を強化し、わが國防費の徒らな増加を來すのみ」等の異論が表明された。

英・豪と協力量針 しかしながら、ドイツの動向を繞つて歐洲の情勢がいよいよ緊迫を告げ、英本國の立場が著しく困難を加へて來た事實は、わが南進策以上にニュージージーランド國民の關心を集め、事變のその後の推移とも脱み合せて何時までも労働黨の獨善的態度を續けるを許さなくなり、労働黨政府も、聯盟規約尊重に對外政策の基礎を置きつゝも、太平洋における英帝國國防備に對し英本國並にオーストラリアとの全面的協力の必要を認めるとに至り、今次大戦勃發の直前、一九三九年八月フレージャー首相代理は「國防政策に關しイギリス政府との間に完全な諒解が成立してゐる」旨を聲明した。

六 アメリカとの協調方針

なほ今次大戦に際しわが國が中立を聲明した事實は、ニュージージーランド國民に著しく安堵感を與へ、わが南進策への恐怖はやや緩和されたかに見えたが、その後のアメリカの對日強硬態度に引きずられ對日感情は穩かならぬ空氣を孕んでゐる。

の論議が散見した。日英會談直後にも労働黨内の領袖ライオンは政府は單獨に、または英本國と共にアメリカに對し積極的接近を試み、太平洋における英語民族間に完全な防備のリンクを形成すべきものと思考するとし、またフレージャー首相代理も

政府はアメリカと緊密な協力を取るため、あらゆる努力を續けてをり、ニュージージーランド議會の全議席からもアメリカに對しては友誼以外の何ものも表明されぬであらうと協調方針を明かにした。

三選後のルーズヴェルト大統領が對英援助の強化を計りつゝ、太平洋においては對日馬蹄型包圍陣型を整備してゐる事實に照し、南方連絡線の一翼をなすニュージージーランドの對米接近はいよいよ緊密化するのを疑を容れない。なほ一九四〇年九月六日、ニュージージーランド政府はロシアン駐米イギリス大使を代表として、カナダ、オーストラリアと共にアメリカとの間に仲裁條約を締結した。

七 輸入統制と海外貿易

一九三八年來實施された輸入制限は最初より各方面の反對があり、その後も依然として強烈な反對が續けられてゐたが、實施半年間の結果を見れば、制限が餘りに廣範圍に互つてゐたため産業

輸入統制と海外貿易

ニュージージーランドの貿易
(十月末現在一年間 單位ポンド)

	1938年	1939年
輸出	58,787,942	59,456,643
輸入	55,429,388	53,002,370
出超	3,358,554	6,454,273

原料の輸入も圓滑を缺き、政府が二次的に企圖してゐた製造工業の進展も期し得ず、また一方では、労働力維持の必要もあり、原料品の輸入は大分緩和せざるを得ないこととなり、この方面では制限の効果はさして擧らず、且ロンドンにおける基金も、この

原料品輸入、既約品輸入代金支拂等の他、羊毛、バター、チーズ等の價格低廉等の理由により、この半年間に約一、〇〇〇、〇〇〇ポンドを増したのみで、政府の努力も大して報いられぬ形であつた。一九三九年十月末を以て終る一年間の貿易統計は別表の如く、輸出においては前年同期に比して七一〇、〇〇〇ポンド弱を増したに對し、輸入においては、三、四〇〇、〇〇〇ポンド強に減じ總體的

に見れば貿易統制の効果を示してゐる。なほ一九四〇年三月に終る一年間の貿易高は

輸出 五九、六四三、三三九ポンド
輸入 四五、五七一、七七四

差引出超 一四、〇七一、五六五
と引續き出超を記録した。ただ同期の對日貿易は左の如く日本側の出超を示した。(單位ポンド)

對日輸出 一四、三八六
主要品目 羊毛九、九五二、カゼイン二、一四八
日本より輸入 一三六、六〇六
主要品目 絹、人絹織物四四、八〇六、綿布二三、七〇九
木材一一、一七二、靴下八、九一〇

チモール

南太平洋の國際航空戰

航空日本の南進とともに、南太平洋のチモール島は俄然、時代の花形として世界の關心を集めるに至つた。横濱と南洋委任統治領との間に定期般空路を確立した大日本航空會社では、パラオから赤道を越えてポルトガル領チモールのデリー間二五、〇〇〇キロに航空路を開拓することとなり、昭和十五年秋、わが政府とポルトガル政府間に友好的な折衝を行つた結果、取りあはず六回の試験連絡飛行を実施することに協定が成立、同年十月、十二月の二回に次いで、昭和十六年一月二十三日、同二月二十八日、相次いで試験飛行を行ひ、いづれも好成績を収めた。

チモール島は蘭領東インドの小スンダ列島の東端にあり、面積三五、〇〇〇平方キロその西半はオランダ領、東半一九、〇〇〇平方キロはポルトガル領で、デリーを首都としてゐる。ポルトガル領チモールは人口約五〇〇、〇〇〇、農牧を主としてゐるが、石油、マンガンの鑛物資源は有望とされてゐる。しかし、チモールの重要性は、むしろその戰略的地位にある。即ちオーストラリアとシンガポールを結ぶ濠洲地中海の中心を扼するとともに、ア

メリカの所謂對日馬蹄型包圍陣型の南方線を遮断する位置を占めてゐる。
従つて、この大日本航空の計畫はイギリス及びアメリカを少からず刺戟したものと如く、イギリスは一九四〇年(昭和十五年)十二月二十九日、オーストラリアの要港ダーウインよりデリーを経て蘭印の首都バタヴィアに至る二、六〇〇キロの區間に試験飛行を行ひ、一九四一年早々、BOAC會社をして月二回の定期航空を実施するに至つた。従來英濠線はシンガポールよりオランダ領チモールのクイーバンを経て毎週一回ダーウインに連絡してゐたがデリー經由線實施と同時に、クイーバン經由線を放棄し、その運輸はすべてオランダのKLM社に一任してゐる事實を見ても、イギリスの意圖は察するに難くなく、更に使用飛行線を歐州方面の他の線に融通する必要から、シンガポールよりダーウイン線をアメリカの汎米航空會社へ肩代りする意向も有するかの如くで、南太平洋における日本對英米の對立は航空路を通じても尖鋭化する情勢にある。

佛領太平洋諸島

ウイシー政府に背叛

佛領太平洋諸島は、佛領オセニアと呼ばれるソサイエテイ群島（主島タヒチ）、マルケーザス群島の他、ニューカレドニア及び英佛共管のニューヘブリデス島を包容し、佛領インド支那とともに、東洋におけるフランスの植民地を形成してゐる。これら諸島は本國フランスの對獨降伏とともに、ウイシー政府に背叛し、あくまで對獨抗戦を叫んでロンドンに別個の政府を樹立したド・ゴール政權の傘下へ走り、オーストラリア及びニュージールランドの支援の下に抗戰繼續を聲明してゐる點で佛印と態度を異にしてゐる。

要衝ニューカレドニア この諸島の中、政治的に、經濟的に、軍事的に重視すべきはオーストラリアの東一、一〇〇キロ、ニュージールランドの西北で、七〇〇キロの洋上に横はるニューカレドニア島（面積二一、八八三平方キロ、人口五三、〇〇〇）でカナダと共に世界の全需要を満たすニッケルの産地として、またクロームその他礦物の埋藏量多き點において著名であり、その首都ヌメアはアメリカ、ニュージールランド定期航空路の寄港地に當

り、同島の敵性の有無はオーストラリア及びニュージールランドの國防上重大關係を有し、一九三九年春ニュージールランドで開かれた太平洋防備會議においても、同島問題が秘かに討議されたと傳へられてゐる。

一九四〇年六月十七日、ベタン政府のドイツ降伏に次いでド・ゴール將軍がロンドンに別個の政權を樹立するや、ニューヘブリデス島駐在フランス側辨務官アンリ・ソトは逸早くド・ゴール政權支持を表明、同時にニューカレドニア議會もイギリスとの提携、ド・ゴール政權支援に傾き、ベタン政權への服従を聲明したベリシエ知事と相對立するに至つた。

首都のクーデター ベリシエ知事は形勢の悪化を見て八月末タヒチよりスループ艦デュモン・デュルヴィル號をヌメア港に回航させたが、同艦乗組水兵は擧つてド・ゴール政權へ走り、ベタン政府派の艦長及び上級士官を逐ひ、ヌメアの空気がいよいよ險惡化し、八月十八日には知事官邸に爆彈投入事件が勃發した。この間、オーストラリア政府特使バラードはヌメアに乘込み暗躍を續け、遂にニューカレドニア議會は八月二十八日ベリシエ知事に對し、ベタン政府との即時斷交を議員總辭職の威嚇を以て要求、知事は事態拾收を不可能と見てベタン政府に對し辭任を電請するに至つたが、ベタン政府はその辭任を容れ翌二十九日、軍司令官ドニ大佐を後任知事に任命した。この任命に對し一般の不満は更に昂まり、翌三十日、イギリス西太平洋高等辨務官兼フイジ

イ總督ハリ・ルークが官船に乘じヌメアに入港するや、市民は英佛兩國旗を掲げて熱狂的歡迎を行つた。

これより先、オーストラリアとの通商不調に伴ふ島内の物資不足は人心不安に拍車を加へつゝある情勢を見て、ドニ知事は經濟對策樹立を以て民心を緩和せんとしたが、時既に遅く、遂に九月十八日全島に戒嚴令を施行した。恰も當日ニューヘブリデス辨務官ソトはオーストラリア軍艦に投じヌメアに入港、碇泊中のデュモン・デュルヴィル號の威嚇下に上陸、クーデターを敢行してドニ知事を逐ひ、自ら知事官邸に入り自由フランスの國旗を掲揚、ド・ゴール政權はソトを西太平洋弁務官に任命した。一方タヒチ島もまた九月上旬全島民の一般投票を行つた結果壓倒的多数でド・ゴール政權支持を決定した。

濠政府の支援 オーストラリア政府はこれに先立つてニューカレドニアの食料品供給の代償として、七月中早くもニッケル、クロームの輸入を確保し、政變に當つてもド・ゴール派に對し終始露骨な援助を試みたが、メルボン駐在フランス總領事ジャン・トレムレが、ニューカレドニアにおけるド・ゴール派要人を屬倒し、かつ「同島が他よりの干渉を受けなかつたならば眞のフランス政府へ忠實な國民となつたであらう、ウイシー政府に反對した一部の人は多く個人的利害に出發してゐる……」との聲明を發表したに對し、マクドナルド外相は十月七日

英佛兩國の最初からの共同目的たる自由への戦ひに敢然邁進し

ウイシー政府に背叛

つゝあるフランス植民地國民の勇氣に敬意を表する

旨のステートメントを發表すると共に、オーストラリアはニューカレドニアに對し領土的野心を有せずと聲明した。なほオーストラリア内にあるフランス人は概ねド・ゴール政權を支持し、各地に後援團體を設け、西オーストラリア州バースに本部を置き同政權への武器購入基金並びに義勇兵募集を開始した。

オーストラリア政府と同じく、ニュージールランド政府もこの政變を支持し、フレージャー首相はタヒチ島バベートに代表者を送りソト辨務官と交驛せしめ、今後の協力方法に關し協議を遂げ首相は十月二日

ニュージールランド政府は、ニューカレドニアの最も近き隣國として緊密な接觸を維持せんとするものであると聲明した。

わが領事館開設 わが國としてはニューカレドニアにニッケル採掘を目的とする大洋鑛業並びに鐵鑛採掘のヌーヴェル・カレドニー鑛業の二會社を有し、邦人の居住者も約一、五〇〇名に及び原料國策上重大な役割を演じてゐるので、昭和十五年三月ヌメアに領事館を開設したが、支那事變勃發以來邦人への壓迫が加重されてゐる折とて、今政變による右兩會社への影響は重視されてゐる。

ソヴェト聯邦

一 歐洲大戰と國內態勢

中立政策と同伴主義 一九四〇年九月廿七日、日獨伊三國同盟が締結され三國の目指す世界新秩序建設の目標が闡明された時歐洲大戰の圏外に立つソ聯邦の地位に如何なる變革を齎すか、交戦國たる否とを問はず視聽を集中したのであるが、同年十一月のモロトフ外務人民委員のベルリン訪問といひ、あるひは同じく六日ソ聯革命記念日祝賀會におけるカリーニン最高會議幹部會議長の演説に見る如くソ聯の平和及び中立政策に關する限り、目下のところは何等變更を齎らさないやうである。しかし大戰勃發以來のソ聯の中立政策は單なる傍觀主義ではなく、戦火防止の見地から、その隣接地域に對する膨脹政策を伴ふものであつた。この點の解釋において民主主義國側は非常な誤斷を繰り返し、遂にその本質を理解し得なかつたやうである。一方樞軸國に對しては、大戰には不参加であるが世界の舊秩序を破壊して新秩序の樹立には賛成であつて、所謂同伴政策を採つて來た譯である。この兩政策の操縦如何が、やゝもすれば矛盾乃至衝突の懼れを生ぜしめ延いては獨り衝突の危機の感をすら抱かしめたのであるが、これ

もモロトフ、ヒットラー會談及びデカノゾフ外務人民委員の駐獨大使兼任によつて解消したやうである。即ちソ聯の外交方針は以上の兩政策を巧妙に操縦して、英米等の民主主義國を牽制し、一方樞軸國との同伴によつて大戰の長期化を企て、大國をして疲弊のドン底に顛落せしめ、自國の強大化を圖り、赤化を促進せしめて世界政策を導かんとするものである。

宛ら帝政末期の相貌 この深慮遠謀ともいふべき對外政策に對處するため國內では戰時體制を益々強化し、高度國防國家へ邁進するため、あらゆる施設、機關を總動員し、經濟、行政、國防に極端なる改革を斷行して、宛ら帝政末期の壓制時代を髣髴たらしむる現狀である。

ソ聯邦の歴史上畫期的な第一回最高會議が一九三七年一月開催されて以來、一九四一年の二月までに既に第八次會期を召集したが、各會期を通じて内政、外交ともに驚異すべき決定または、法令を矢繼早に公布し、殊に大戰以後の會期においてはモロトフ外務人民委員は外交の成功を謳歌すると共に、國民にソ聯邦の地位の重大性の自覺を求め、所謂公益優先の觀念を強調して國民の團結、政治、經濟、統制の強化を甘受せしめたのである。

特に國家機能の中樞たる行政組織の改廢は著しく一九三九年以降從來の聯邦輕工業、國防工業、食品工業、重工業、各人民委員部を一舉十七部に分割改組して國防産業の戰時體制化に相應せしめたが一九四〇年には更に聯邦林業人民委員部が林業とセルロイズ

及び製糸工業の二人民委員部に、また發電所及び電氣工業人民委員部がそれ々々分割された外、國家統制人民委員部が創設された。

國家統制委員部新設 この國家統制人民委員部創設の意義こそソ聯邦が動きつゝある戰時體制への現下において看過し得ない重大性を有してゐるのである。その目的とするは國家、協同組合、その他の公共團體、營造物及び企業の所管に屬する國家資金及び資材の計算及び支出に對して嚴重な監督を行ひ、かつ政府決定、命令の實施の檢査を勵行するもので、從來聯邦人民委員會議に附屬したソヴェト統制及び中央軍事統制委員會を改組したものである。政府機關が三十九人民委員部に分れ、やゝもすれば濫設、摩擦の怖れがある現在の機構において政府決定の不履行、資材金錢の非經濟的支出は國防國家への途上に重大な障礙となるは必然であり、かつ政治委員の廢止による黨、軍の一體化に對する目附役の役割をも演ずることになるので、かゝる監督機關の設置及び初代人民委員として赤軍政治部長メフリスの拔擢は今後の黨、政府、國軍の連關に於て將來注目すべきものがある。

また一九四一年に入つてゲ・ベ・ウの總本山内務人民委員部を二分して内務人民委員部と國家保安人民委員部とすることになつたが、いづれも防諜並に國內異分子に對する監視の役割を、現在の情勢に即應して強化したものである。

なほ四十二人民委員部及びその他の經濟關係委員會を統轄する經濟會議として冶金、化學會議、機械製作會議、國防工業、燃料

電氣事業會議、生活必需品會議、農業調達會議が四月十八日創設された。

重工業躍進著し 更に社會主義建設途上における産業は、實際情勢の急展によつて資材、勞力の不足に伴ひ未曾有の難關に逢着したが、一九四〇年十一月六日、第二十三周年革命記念日祝賀會におけるカリーニン最高會議幹部會議長の演説、並びに一九四一年二月の第十八回全ソ聯邦共產黨會議におけるマレンコフ黨書記、ウオズネセンスキー國家計畫委員會議長の報告を綜合すると、工業及び運輸は堅實な發展を示した。工業の生産額は急速に増大し、一九三八年度一〇六、八三四、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、一九三九年度一二三、九一五、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、一九四〇年度一三七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、即ち一九四〇年度は前年に比し一一％増大した。またこの部門の資本投資額も漸次増大し、一九三八年度二二、三四一、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、一九三九年度二五、〇三七、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、一九四〇年度三七、七二八、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、更に一九三八年度の貨物運輸量を一九四〇年度に比較すると鐵道運輸において一〇・三％、河川運輸において二〇・八％、沿岸運輸において一五・一％の増加を示してゐる。

工業及び運輸は、第三次五箇年計畫の影響を受け、新技術の習得、陸海軍の國防器材の必要に基く軍事産業の振興により、飛躍的な發展を遂げたが、製材、水産、建設材料の各部門等では若干

不成績を示したとマレンコフ書記はその欠陥を指摘してゐる。

農業ではコルホーズ政策の強化により、春季の氣候が不順であつたにも拘らず、七十億プードの穀物の收穫があつたが、一九四一年一月更に生産力擴充政策を農業方面にまで及ぼし、ソ聯農業政策に一大轉換を行ひ、改良増産を試みることになつた。

農産獎勵と割増配當

即ちスターリン書記長及びモロトフ議長は一月一日、ソ聯の穀倉といはれるウクライナ共和国の重要農産物に關する法令に署名したが、同法はコルホーズ農民に對してその最低生産責任額を規定すると同時に、その超過生産部分に對して割増配當を附せるもので、現行ではコルホーズ農民がその労働日數に應じて利益分配を受けてゐたが、これを一轉して獎勵金と割増配當制によつて農産及び畜産の飛躍的増大を圖らんとする點に意義がある。即ち割當額を超過して生産した突撃隊に對して超過穀物生産額の四分の一、大豆、向日葵種子、麻、菜種は三分の一、馬鈴薯、野菜は五分の一の割増配當を行ひ、甜菜類及び棉花は從價の五割を支給する。しかしてコルホーズ農民に對し甜菜麻、大麻、棉花の生産には百二十日以上、その他の農産物生産には、百日以上を労働日數に對して獎勵金を與へる。また最低責任額は全穀物に對し一ヘクターにつき一、四〇〇キログラムを最低限度とし、この新標準は畜産部門にも適用され例へば一匹の牛からの搾乳標準量をはじめ、屠殺せずに残す食用犂牛の比率並に犂牛の一日平均の體量増加率をも規定した外、鶏、家鴨、七面鳥の各

一羽一ケ年の標準産卵數を九十、五十、卅五とそれ／＼決定、コルホーズ指導者に對する獎勵金は二五ルーブル乃至四〇〇ルーブルを與へられることになつてゐる。

ドイツの食糧援助

この農産物増産獎勵方策はマレンコフ書記の強調せる如く、今後の黨活動は農業部門の完成より、工業運輸部門へ移行せられ、今次の大戦におけるドイツの作戦行動に對して重要な物質的援助を與へることになり、數次に互るモロトフ、カリーニン兩首腦の誇示せる演説と共に重視されるべきであり、また大戦を利用して、内政、外交共に最大の成功を獲得したものとひび得よう。更に第十八回黨會議における經濟十五箇年計畫の發表は今次大戦の世界的長期戦に擴大する前提の下に、アメリカの生産力を目標として今後十五箇年で追いつき、國防充實、經濟獨立へ世界第一等國を現出せんとするもので、この意味において、新十五箇年計畫の推移に十分注意すべきものがある。

國勢調査に見る人的資源

青壯年壓制的に多し

國內態勢の強化につき、戦時労働總動員計畫と密接な關聯を持つ労働資源の調査を目標に、一九三七年の國勢調査を無効とし、改めて一九三九年一月十七日ソ聯全體に互つて行はれた。その結果を一九四〇年四月ゴスプラン國民經濟中央統計局が發表したところによると、ソ聯の總人口は、新附の領域を除いて一六九、五一九、二七名で、内ロシア人は九九、

聯邦首腦部の構成

一九四一年七月現在におけるソ聯最高國家權力機關及び行政機關は次の通りである。

ソ聯最高會議には民族、聯邦兩會議があり、原則として年二回召集される。しかして最高會議閉會中は幹部會が最高の權力機關となり、從來の中央執行委員會の役割を勤める。聯邦人民委員會は國家權力の最高執行及び行政機關で、各國の内閣に相當し、現在四十二に分割されてゐる。また聯邦人民委員會附屬經濟會議は一九三九年十一月創設されたが、一九四〇年これを擴大改組して部門別に六會議が設けられた。

ソ聯人口統計 1939年6月國家計畫委員會發表

	計	女	男
1939年1月	170,467,186	88,802,205	81,664,981
1926年12月	147,027,915	75,984,563	71,043,352
39年人口の26年人口に對する比	115.9%	116.9%	115%

最高會議幹部會議長

カリーニン

聯邦人民委員會會議長

スターリン

同議長代理

ミコヤン、ブルガーニン、ウオズネセンスキー、ウオロシロフ、ウイシンスキー、ゼムリヤチカ、マルイシヨフ、コシギン、ペルーヒン、ベリ

〇一九、九二九(全人口の五八・四一%)ウクライナ人二八、〇七〇、四〇四(同一六・五六%)で兩者を合し全人口の約七五%を占め、また全人口中労働者は五四、五六六、二八三(三三・一九%)勤務員二九、七三八、四八四(一七・五四%)コルホーズ員七五、六一六、三三八(四四・六一%)で個人農は三、〇一八、〇五〇(一・七八%)である。また年齢別に見ると七歳以下は三一、四二二、二三二(全人口の一八・六%)で最も多く、これに次ぐものは二十歳から二十九歳までの三〇、六三九、〇四一(一八・〇%)三十歳から三十九歳までの二五、三三三、九九三(一四・九%)で、幼児並に青、壯年の壓制的多數はソ聯の人口増殖を反映するものとして注目すべきである。またソ聯の文化政策として最も重視する文盲退治の結果が次の如く表はれてゐる。即ち讀書能力あるものは男子九〇・八%、女子七二・六%、平均八一・七%であり、教育程度は中等教育男子八八・六%、女子六七・八%、平均七八・〇%で高等教育を受けたもの男子九・〇%、女子四・〇%、平均六・五%となつてゐる。

總人口二億に迫る

しかしてその後編入したポーランド東半の一〇、二七五、六〇〇人、エストニア一、一三一、二五〇人、リトアニア二、八七九、〇八〇人、ラトヴィア一、九五二、二〇〇人、ベッサラビア三、一〇〇、〇〇〇人、フィンランドの一部等を合すれば一九三、〇〇〇、〇〇〇人で、帝政時代の一八二、〇〇〇、〇〇〇人に比し一千百萬人を増加した老大な人口を有することとなり加盟共和国もモルダヴィアを加へて十六となつた。

ヤ、メフリリス、カガノヴィツチ

▼全聯邦人民委員部

- 國防人民委員 スターリン
- 海軍 クズネツツオフ
- 外務 モロトフ
- 外國貿易 ミコヤン
- 交通 エル・カガノヴィツチ
- 通信
- 海洋船舶 ドウケーリスキ
- 河川船舶 シヤシコフ
- 化學工業 チエニツフ
- 製鐵 テヴォシヤン
- 非鐵金屬 ロマコ
- 航空工業 シヤフリーン
- 造船工業 ノセンコ
- 彈藥 ゴレムイスキン
- 兵器 ウスチーノフ
- 重機械製作 リバチヨフ
- 中機械製作
- 一般機械製作
- 調達 ドンスコイ
- 漁業 イシニコフ

肉類及び酪農工業 スミルノフ

- 織維工業 アキーモフ
- 建設 ギンスブルグ
- 石炭工業 ワフルーシエフ
- 石油工業 セーデン
- セルローズ製紙工業 チエボタリヨフ
- 發電所 レトコフ
- 電気工業 ボガツウイリヨフ
- ゴム工業 ミドロヒン
- 工作機械製作 ニフレーモフ
- ▼聯邦及び構成共和國人民委員部
- 食料品工業 ゴートフ
- 輕工業 ルキーン
- 建設材料工業 ソースニン
- 林業 セルゲーエフ
- 農業 ベネダイクトフ
- 穀物畜産ソフホーズ ロバーノフ
- 財務 スヴェリヨフ
- 商業 リユビーモフ
- 内務 ベリヤ
- 司法 ルイチニコフ
- 保健 ミチエリヨフ
- 國家統制 メフリリス

▼人民委員部附屬機關

- 國防委員會議長 ウオロシーロフ
- 高等教育委員會議長 カフターノフ
- 藝術委員會議長 フラプチエンコ
- 國立銀行理事會(總裁) ソコロフ
- 國家計畫委員會議長 サヴロフ
- ▼人民委員部附屬經濟會議
- 冶金及び化學會議議長 プルガニン
- 機械製作會議議長 マルイシヨフ
- 國防工業會議議長 ヴオズネセンスキ
- 燃料及び電氣事業會議議長 ベルーヒン
- 一般消費財會議議長 コスイギン
- 農業及び調達會議議長 任命なし。

二 國防態勢確立と労働問題

國防第一主義 一九四〇年十一月六日第二十三周年革命記念日祝賀會においてカリニン幹部會議長は社會主義遂行の成功的段階を謳歌して『複雑なる國際情勢は吾人をして無關心なる觀察者たらしめず、吾人の第一義務は社會主義祖國の經濟及び國防力の強化にある』と演説した。また翌七日革命記念日にはチモシエンコ國防人民委員は赤色廣場の閱兵式において、『赤軍及び全労働

國防態勢確立と労働問題

者は成功に眩惑されることなく、國際情勢の緊迫が各種突發事件の危機を包蔵することを銘記し、最大限の警戒心を發揮し、祖國の經濟及び國防力を一層強化し、我が國境を窺ふものあれば、これに即時殲滅的打撃を與ふる動員態勢にあることを要す』と叫んでゐる。即ちソ聯の總動員態勢は、既に今日において國防を前提とするものであり、所謂『資本主義の四周にある』危險を常に感じ、戦時たると平時たるとを問はず、國防第一主義にすべての機能を動員してゐるのである。

一九三九年三月開かれた第十八回全聯邦共產黨大會において、スターリンをして『侵略者に斷乎抗爭し、戰爭挑發者にソ聯を紛争に捲き込む機會を與へず、國防の充實を圖り……』と演説せしめたのもこのためである。

國防費の累増 ソ聯の國防方針は第一に接壤國に對し、侵入作戰により即戰即決を期し得る兵力を保持し、第二に近代戰の特色として、無宣戰のまま、戰爭状態に入ることを以て、常備軍を強大にし、平素より、戰時態勢を採用する。第三は、近代戰の性質上、裝備特に航空、機械化、ガスの裝備優越を確保する。第四に東西兩面における獨力作戰の可能實現。第五に將來戰は全國民、國內全部門の總力戰であるから、強靱な産業力の後盾を必要とする見地から第一、二、三次五箇年計畫を通じて國防強化に力を注ぐ等が擧げられてゐる。従つて國防費は累年増加の一途を辿り、一九三二年の第一次五箇年計畫終了當時には一、二九六、〇

〇〇、〇〇〇ルーブルが、一九四〇年は五七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルに達し、歳出豫算總額の三割一分を占める状態となつてゐる。しかして國防強化のためには軍政關係において左の如く多くの改革を斷行した。

一、赤軍の軍事宣誓式 一九三九年二月赤軍二十一周年記念日に、ソ聯當局が各軍人の軍事意識と責任感を昂揚するため、從來の團體代表宣誓を廢して個々の將兵が個人的手續により宣誓するのである。

二、人民兵役法 一九三九年最高會議第四會期で可決された新兵役法は、下士官の在營年限を二年から三年に延長し、召集年齢は從來毎年一月一日現在で滿十九歳に達した者であつたが、新法は當該年度中に滿十九歳に達するものと改正した。その他召集延期條件を嚴重にし、學校生徒に對する初等軍事訓練及び召集前の訓練施行、宗教上の理由による兵役免除條項の削除等を規定してゐる。

赤軍の轉換期來る 更に一九四〇年に至り、赤軍は重大なる轉換期に達した。即ちソ芬戰爭の教訓で、同年の軍政改革は實にソ聯建國以來の畫期的なものだつた。

ソ聯最高會議幹部會は對フィンランド戰爭終了直後五月七日附で最高軍事指導機關として聯邦人民委員會附屬國防委員會を創設し、一九二五年以來十五箇年に亙りソ聯軍の總帥であつたウオロシロフ國防人民委員を議長に任命し、その後任はキエフ特別

軍管區司令官のチモンコ元帥が襲つた。この更迭と同時に、外國同様の將軍、提督制が復活し陸海軍各少將、中將、大將、上級大將の四階級が設けられ、六月四日には各將軍、提督を任命して陸海軍首腦の陣容を整備した。

政治委員制度止 更に軍制上の重大改革は八月十二日附で政治委員制を廢止したものである。ソ聯建國後の軍隊には、なほ帝政露國時代の將校が多數參畫してゐたので、これが目附役として黨を代表する政治委員を配屬せしめて、その指揮監督を行ひ、一方兵士の政治意識を向上せしめる必要があつたがその後、革命の洗禮を受けた將兵が續々と養成されるに及んで、將兵の行動に對して危懼の念を減じ、その存在は稀薄性を帯びるに至つた。併してハチエフスキー元帥以下七將校の軍事獨裁陰謀事件發覺と共に赤軍の肅清工作に再び重要な地位に浮び上つたが、ソ芬戰爭における軍、政の二元統帥は、作戰上に重大蹉跌を生じ、少からず苦汁を喫した經驗に鑑み、政治委員を廢し、單に政治部代理を置くに止めて、指揮官に對して軍統帥上の一切の權力を賦與し責任を有せしめることによつて、一元化を實現したのである。

また十月十二日新赤軍懲罰令が發布された。これは從來の戰闘經驗に鑑み、軍隊の教練及び養成の根本的建直しを計るもので、軍規の嚴格化を教へ、指揮官及び隊長に絕對服従せしめて階級觀念を植ゑつけ、不服従または反抗者に對しては銃殺をも辭せず、

しかも指揮官は責任を負はないのみならず却つて、命令履行の場合に決斷力を示さず、適當な手段を講じなかつた場合は、軍法會議に附せられることになつてゐる。

東西同時作戰を目標 以上の如くソ聯軍部の機構再編成は、その方針に示されてゐる如く、東西同時作戰を最終目標として、常備軍の擴充を急いでゐるが、既に一九三六、九年の二回に亙り各一年宛の徵集年齢を低下してゐるので、一九四〇年の總兵力はおよそ二、二五〇、〇〇〇を突破するものと見られ、一九三九年末の主なる編成は、狙撃師團一〇、騎兵師團三五、飛行機、戰車各八、〇〇〇といはれる。

一方海軍は一九四〇年七月クズネツォフ海軍人民委員の演説によると一九三九年の新艦艇は水雷艇を含み一一二隻、一九四〇年は一六八隻に達してをり、前年に比し五〇%の増加を示してゐる。現有勢力は別表の如くで、

ソ聯の海軍力

艦種	隻數	トン數
主力艦	3	70,000
航空母艦	1	9,000
洋行巡洋艦	4	30,000
洋行巡洋艦	9	37,000
水雷艦	34	52,000
潜水艦	225	130,000

なほ建造中及び未起工數は約六六隻(一八二、〇〇〇トン)である。

赤色空軍の現有勢力は一九四〇年現在では五〇〇中

國防態勢確立と労働問題

隊、航空旅團六〇個旅團に達し、その機數は一〇、〇〇〇機と稱せらる。その内第一線機は六、〇〇〇機、極東方面配備機二、〇〇〇機、殘餘は豫備品であると云ふ。

労働強化の法令續發 かゝる高度國防國家完成への國內態勢の強化において、ソ聯の最も重要視するものは労働問題である。一九三八年の労働法の改正、並びに労働手帳制の實施以來、一九四〇年には八時間労働制の移行及び無斷退職禁止令、職長の權限増進令、あるひは品質、規格責任令、國家労働豫備軍編成令、技術員及び熟練工の轉勤強指令等、次々に労働強化の法令を公布してゐる。特に注目すべき事は八時間労働制の採用である。ソ聯が過去二十餘年以來の労働保護の原則を一擲し、憲法違反の所爲を敢てしたことは、生産力擴充へ今次の歐洲大戰が如何に深刻に反映してゐるかを立證するものである。次に簡単にその要領を摘記しよう。

労働法の改正 労働法の改正は一九三八年十二月十九日發令された。その要旨は(一)正當の理由なき缺勤者及び労働法規の濫用者は免職乃至解雇、時間を嚴守せざる者及び作業中の怠慢者は譴責又は減俸に處す。なほ右の處置を怠りたる企業乃至營造物當局は職務剝奪且刑法上の處罰を受く。(二)退職希望者の退職豫告期間を一律に一箇月とす(従前は七日間)。(三)労働法の規定せる二週間の年次休暇は同一の企業乃至營造物において連續十一箇月以上勤務せる者のみに與ふ(従前は五箇月)。(四)妊娠せる婦人

労働者に對する産前産後の休暇は産前三十五日、産後二十八日とし、なほ右の休暇は同一企業乃至營造物に七箇月以上勤続の者に對してのみ與ふ（従前は産前産後は各五十六日）等である。

労働手帳制實施 労働手帳制の實施は、労働力の流動を阻止し、労働規律を導入して生産能率の全般的向上を圖る目的を以て一九三八年十二月二十一日附決定したので、翌年一月十五日以降國營及び組合企業及び官廳の労働者並びに勤務者に對して實施された。

無断退職を禁止 八時間労働制の移行及び無断退職禁止令は労働規律の振肅、労働者の流動防止或は意業的氣分の労働者が善良なる労働者に及ぼす影響等を考慮して、一九四〇年六月二十五日全聯邦職業組合、中央會議第九回總會において採擇されたもので、所謂六・二六労働綱紀振肅會と稱される畫期的な労働立法である。即ち一九二九年一月制定の七時間労働制による労働時間を一時間延長したもので、また企業及び官廳における労働者の無断退職を禁止し、かつ正常の事由なき缺勤者及び過怠者を嚴罰に處する旨規定してゐる。その要旨は（一）一日七時間労働制企業は八時間（二）危険を伴ふ職業を除き（聯邦人民委員會議の承認せるもの）六時間制工場は七時間（三）官廳勤務員の勤務時間は六時間より八時間（四）十六歳に達せる者の労働時間は六時間より八時間（五）一切の企業及び官廳の六日一週制を廢し七日週制を採用し第七日を以て休息日とす（六）企業及び官廳よりの任意退職並びに

企業間及び官廳間の任意移動を禁止し、退職または移動は當該長官のみ許可することを得（七）工場長及び官廳長官の退職許可の權利義務として、病氣または發疾により従來の労働に従事し得ずまたは養老扶助費支給者が退職を欲する場合、並びに労働者または勤勞員が高等または中等専門學校に入學を許可せられた場合、妊娠出産の場合に限らる（八）任意退職は裁判に付し、二箇月以上四箇月の禁錮に處す。相當の理由なく缺勤した者は裁判の判決により、その労働場所において六箇月以内の矯正労働に付せられ、かつ賃銀の二五%以内の額に付きその支給を停止する（九）任意退職または正當の理由なき缺勤者の告發を回避せる長官も裁判により處罰さる（十）現行の一日賃銀率または計算率及び月給額はこれを變更せずといふのであるが、七月廿六日のブラウダ紙一箇月の施行狀況報告によると、モスクワで裁判に付せられた刑事事件は二〇〇件、内有罪は一八八で、大多數は飲酒、落つかさること、解職せらるゝため故意に轉勤する者であつた。

職長の權限増進 職長の權限増進令は一九四〇年五月二十八日附で聯邦人民委員會議及び黨中央委員會が決定したもので、重機械製作工場の職長がその受持職場において労働者の配置及び労働者の賞罰に關與せず、かつ大多數の工場上層部が職長の役割に對し輕視的態度を採つてゐる現状、並びに職長の賃銀定額が、熟練工賃銀より少額なる點に鑑み、職長の役割を増進するための規定である。この決定によつて職長は受持部所的全權的指導權が與

へられ、一切の責任を負ひ労働規律違反者に對し制裁權を有し労働者の任免を職場長の認定の下に行ふ。また職長は労働者の配置適時の機具原料資材支給の義務を負ふことになつてゐる。

品質及び規格責任令は一九四〇年七月十日附で聯邦最高會議幹部會令を以て公布された。これは工業企業生産品の品質不良、定數不足、義務規格不履行に對する責任を規定せるもので、かゝる生産は『破壞行為に等しき反國家的犯罪』と定め、その違反生産に對しては、工業企業長の、技師長、技術部長を起訴し判決を以て五年以上八年以下の禁錮に處すとある。しかし七月十日以降違反生産のため起訴せられた工場は自動車、發電、製紙等各方面に互り、甚しきは農業機械管理局直轄工場一八〇種の農業用機械が全部規格外品であつたとソ聯各紙は警告してゐる。

労働豫備軍編成 國家労働豫備軍の編成は聯邦人民委員會議附屬労働豫備軍總管理局が一九四〇年十月二日附最高會議幹部會令及び同日附人民委員會議決定に本つき發令したもので、國家が都市及びコルホーズ青年を以て新労働者を組織的に養成し、産業のため必要な労働豫備軍を創設するものである。即ち組織的徵募より強制的に轉換したものとひ得る。この豫備軍編成令の要旨は（一）毎年八〇萬乃至一〇〇萬人の豫備軍を産業へ移讓するため都市及びコルホーズ青年を徒弟學校、鐵道學校及び工場實習學校で一定の生産職業を習得せしめる。しかし徒弟學校、鐵道學校には十四歳より十五歳、工場實習學校では十六歳より十七歳ま

聯邦豫算の膨脹

での青年男子を前二者は二箇年、後者は六箇月修練し、その期間國家の支給を受け、各コルホーズ議長及び都市労働者代表員は召集男子派遣の義務を負つてゐる。この労働豫備軍は人民委員會議に直屬するもので、政府では労働豫備軍總管理局を設置し、局長にベ・ゲ・モスカトフを任命、三學校の維持、設備費として一九四〇年度において十億ルーブルを支出した。毎年九月一日より授業を開始することになつてゐるが、一九四〇年のみは十二月一日開始され、十一月二十八日發表された召集數は三學校總數は一、五〇〇校、徒弟學校三〇七、九六二、鐵道學校三六、五八九、工場實習學校二五六、八二七總計六〇一、三七八名であつた。

三 聯邦豫算の膨脹

ソ聯の豫算は國家豫算と地方豫算とに分れ、國家豫算は聯邦及び共和國の豫算で、國民經濟にとり重大な意義を有し、地方豫

算は地方團體の局地的少額豫算で國民經濟に大なる影響を及ぼさず、構成共和國豫算と聯邦豫算とを合したものを一般國家豫算と稱するのである。

四一年度豫算發表 一九四一年二月二十五日開催された第八回最高ソヴェト會議において、ズヴェリヨフ財務人民委員は、第三次五箇年計畫の過去三箇年における社會主義建設に對する國家豫算の投資額は四五〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルを越え、經濟力及び軍事力は頗る増大したと前提し、次の如く一九四一年度國家豫算案を報告した。

ソ聯邦 1940 年度決定豫算 (單位百萬ルーブル)

歳入	税	108,349.0
取引	税金	22,367.9
收益	社会保険	9,136.0
國營社	資	2,623.4
M T S	收	11,171.0
國	入	9,703.8
個	債	20,603.5
そ	税	
	他	
總計		183,954.6
歳出	經濟費	57,117.5
國	費	42,875.4
民	文化施設	57,066.2
文	海軍人民委員部費	7,045.4
化	内務人民委員部費	7,100.2
施	行政及び司法機關費	2,480.0
設	國債費(利子及び増金)	5,011.0
費	聯邦及び構成共和國人民委員部豫備金	1,157.6
部	その他	
費		
員		
部		
費		
司		
法		
機		
關		
費		
總計		179,913.3

出總額は二一六、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、歳入超過額は三四〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルである。これを一九四〇年度豫算案に比較すると歳入は三二、八九〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、即ち一八%弱の増加を示してゐる。歳入内譯の概算を示すと國營並びに協同組合經營企業に對する所得税一二四、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、收益税三一、二五九、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、國營社會保險資金九、九九八、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、機械トラクター配給所收入二、六〇三、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、國債一三、三三〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、個人税その他二二、四五〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルである。

右の如く歳入の増加は企業收益の増大によるものである。一九四一年度における工業總生産額は前年度に比し一七・八%増加して一六二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルに達する豫定でありまた國營及び協同組合經營商業組織の小賣高は前年度の一七四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルより一九七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルに飛躍するはずである。國債並びに貯蓄銀行預金からの歳入は、前年度中に總額九、四三三、〇〇〇、〇〇〇ルーブルに達する國債を賣却し、貯蓄銀行預金もまた七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルに達してゐる。

國防費の膨脹 次一九四一年度の歳出の中、國民經濟投資總額は七二、八七五、〇〇〇、〇〇〇ルーブルで、その概算内譯は、工業三九、一八一、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、農業一三、四五五、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、交通並びに通信六、五七六、〇〇〇、〇〇〇ルーブル

國防費の膨脹 (單位10億ルーブル)

年 度	國防費總額	歳出總額に對する比%
1936	14.8	17.1
1937	17.5	17.0
1938	27.0	20.6
1939	40.8	26.2
1940	57.0	31.7
1941	70.6	32.6

國防費に關しては、ソ芬戰爭以來、祖國防衛の重要性が強調され、一九四〇年度には五七、〇六六、〇〇〇、〇〇〇ルーブルを計上したが一九四一年度には七〇、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルといふ膨脹を示し、前年に比し一三、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルの増加である。近年の國防費の増嵩振りを歳出總額と比較して見ると別表の通りである。

四 第三次五箇年計畫の進行

工業生産を約倍化 第三次五箇年計畫(一九三八—四二年)は一九三九年三月開催された第十八回全聯邦共產黨大會で確認され一九四一年は既に第四計畫年度に入った。確認された同計畫の大意は次の通りである。

生産増加計畫としては、最終年度たる一九四二年のソ聯全工業生産高を三七年度の九五、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルに對し、一八四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルと定める。即ち第三次五箇年計畫中における工業生産品の増加率を九二%とする。第三次五箇年計畫中におけるソ聯工業生産品の年平均増加率は一五・七%消費物件の年平均増加率を二・五%と定める。しかしして一九四二年度における工業主要部門の生産高を次の通り定める。

建設方面の特徴 次に第三次五箇年計畫に表示された生産並びに建設的方面の特徴は次の通りである。
一、新企業建設が地方に分散化したこと、即ちモスクワ、レニングラード、キエフ等、従来の工業地帯には、今後新企業が抑制され、工業建設資源開發を中央集權主義より地方分散主義に轉換した。このことは黨大會に先だつ一月三十日公表されたテレーゼにも、不合理なかつ極度の遠距離輸送を清算し、また過去において經濟的に立遅れてゐたソ聯全地方に互る新建設の配置

第三次五箇年計畫の目標

	1942年	對1937年 百分比
工業全體(1926-27年度の價格に依る)	184(10億留)	192
その内		
生産手段の生産	114.5(%)	207
消費物件の生産	69.5(%)	172
機械製作及(1926-27年度の價格による)	63(%)	229
金屬加工		
幹線用(假にニ型及びニ型に換算)	2,340(臺)	148
機關車		
貨車	120(千臺)	203
自動車	400(%)	200
電力	76(10億留)	206
石炭	243(百萬トン)	190
原油(ガスを含む)	54(%)	177
泥炭	49(%)	206
鉄塊	22(%)	152
鋼塊	28(%)	158
鋼材	21(%)	162
特殊鋼	5(%)	199
化學工業(1926-27年度の價格による)	14(10億留)	237
灰	11(百萬トン)	202
洋灰		
木の炭	200(百萬立方米)	180
製紙	45(%)	156
紙	1,500(千トン)	180
織物	4,900(百萬米)	142
靴	177(百萬米)	167
糖	258(百萬足)	143
糖詰	3,500(千トン)	144
罐頭	1,800(百萬個)	206
金屬	900(千トン)	161

に際しては、工業を原料根據地並に消費地區に接近せしむることから出發せねばならぬとある。

二、新企業建設の短期化及び可及的即時操業開始を圖るため、従来の巨大建設方針より移行せることである。即ち従来の『巨大』主義より中小企業建設を重視せるものである。

三、工業建設及び資源開發の東漸に重點を置いた。即ち極東建

設を重視せるもので、これは第二次五箇年計畫でも考慮されてゐたが、戦時に際して奥地開發を考慮に入れる時には、必然的に東漸政策となるのである。

四、特殊鋼に重點 第三次五箇年計畫は『特殊鋼五箇年計畫である』と聲明したことである。即ちモロトフ議長は計畫案の報告演説において化學工業を國民經濟及び國防の要求を完全に充

し得る指導的工業部門の一たらしめねばならぬ、故に化學工業の生産高を二・四倍に増大すべしと決議し、更に製鐵業の領域では、壓延鋼の生産を二倍に増加し、硬質合金、不銹性合金耐酸及び耐火合金、工具製作用合金等の如き特殊鋼の生産の著しき増加を保障すべきであると決議してゐると述べてゐる。

五、現地需給については遠距離輸送、遠地間需給を避けるため生産財、消費財とも産地並に近距離需給を主要目的として企業を新設すること。

六、燃料、電力、ある種の國防工業、運輸方面で大なる國家餘力を創設すること。

五、北水洋航路の完成を圖る外、鐵道輸送の圓滑を期するためシベリア、極東、中央アジア方面に機關車及び車輛の修繕基地を擴充する

六、東亞方面の資源調査、なかんづく石油産地の地質調査

七、漁業は一般に海洋漁船の増加を圖る外、コムソリスク、ハバロフスクの漁業綜合企業、ソウガワニ、ベトロパワロフスクの冷蔵工場、極東地方における二〇〇の小規模冷蔵工場、ニコライエフスク、ベトロパワロフスクにおける造船所の建設。

本計畫中の東亞開發 第三次五箇年計畫によれば、新企業、基本的事業は主要經濟地方では抑制し、未發達地方の開發目的を主として、これをソ聯東方及び極東地方に起し、これ等地方における機械、化學、石油加工、冶金の諸工業の發達を圖り、以て東方地方における石炭、製鐵、セメント、機械製作の自給自足政策を確立せんとしてゐる。その具體的のものを擧げると

一、石炭 中央アジア四・四倍、極東二・五倍の増産を予定

二、製鐵 新設熔鐵爐の四分の三を東方地方に集中し、本地方の製鐵高をソ聯全生産高の二八%より三五%に増加

三、極東地方にセメント工業を起し、歐露からの移入を不必要ならしむ

四、中央アジア産の棉花を原料とする紡績工業基地を創設する

四一年度の豫定 かくて第三次五箇年計畫の四年度である一九四一年度の豫定として、一九四一年二月の共產黨會議は工業總生産額一六二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、生産手段の生産高二三・五%増、消費物資の生産高九%増、鉄塊一八、〇〇〇、〇〇〇トン、鋼鐵二二、四〇〇、〇〇〇トン、壓延鐵鋼一五、八〇〇、〇〇〇トン、探炭一九一、〇〇〇、〇〇〇トン、石油及び瓦斯三八、〇〇〇、〇〇〇トン、泥炭三九、〇〇〇、〇〇〇トン機械生産高二六%増、總發電力一、七五〇、〇〇〇キロワット増紡績工業は紡錘八五〇、〇〇〇増、穀物總收穫高八%増、鐵道運輸は運轉車輛一日につき一〇三、〇〇〇輛、國營小賣商業及び協同組合諸機關取引總計一九七、〇〇〇、〇〇〇ルーブル、工業及び建設工事の労働力は一二%擴充へ、工業生産費は三・七%引下げ以て工業における總額七、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇ルーブルの追加蓄積を保障すること等を決議して、別表の如き一九四二年度

完成へ邁進せんとしてゐる。

しかし、注目すべきは今次黨大會において、最も成績不良であり、計畫未遂行の重要産業部門の責任者たる人民委員が、黨中央委員除名または譴責處分に附せられたことである。即ちエム・カガノウイチ(元國防工業)、デニソフ(化學工業)、セルゲーエフ(彈藥)、ドウケリスキー(海上運輸)、シャシコフ(河川運輸)、イシニコフ(漁業)、ボガツイリヨフ(電氣工業)等は今後の黨並に政府より委任されたる事業の遂行成績如何によつては、それ／＼その地位を剝奪されることになつたのであるが、これによつて見るも、第三次五箇年計畫建設途上、果して第三年度までの実績が豫定計畫に達せるものや否や、甚だ疑問が生ずる譯であり、一九四二年度の最終年度にける完遂も危険視されるのである。

十五箇年經濟計畫立案　しかるに一九四一年二月二十二日、全聯邦共產黨中央委員會並に聯邦人民會議は、國家計畫委員會(ゴスプラン)に對し、人口一人當り鉄鐵、鋼鐵、燃料電力、機械その他の生産手段、消費財の生産において主なる資本主義諸國を凌駕するを目的とする十五箇年一般經濟計畫の立案を命じた。これは一九三九年の共產黨大會の決議を基礎とし、第三次五箇年計畫が一九四二年に終了するや、直に實行し得るやう立案されるもので、その目的とする點は次の通りである。

一、ソ聯の經濟的獨立と國防力の充實を保障すべく、經濟の社會主義體制を更に強化する

一、工業關係人民委員部の分化によつて、錯雜化する國民經濟の各部門の連絡を圖り、その發達の正しき均衡を保障する
一、各種計畫遂行の統制
一、労働の計畫化と幹部の養成並に労働力逃避の問題は特に注意する

これについて今次の黨大會において、ウオズネセンスキー國家計畫委員會議長はアメリカと比較して「一九二九年の總生産高を一〇〇とすれば、一九四〇年にはアメリカの總生産高は一一一ソ聯は五三四に達してゐる。かくの如き飛躍的發展にも拘らず、一人當りの生産高は、鋼鐵、石炭、電力等においてソ聯はアメリカより三、四倍遅れてゐる」と報告してゐる。即ちアメリカ産業を目標として、所謂スターリンの「先進資本主義國家に追いつけ追ひ越せ」を實踐するものであり、今次黨大會における、先例を破つて沈黙した「モロトフの外交報告」に代る「新十五箇年經濟計畫」案は、今後のソ聯經濟の發展に重要な暗示を與へるものとして注目されるべきである。

五 歐洲大戰と外交方針

外交政策の轉換　ソ聯外交の特筆すべきものは一九三九年八月の獨ソ不侵略條約の締結である。即ちソ聯が常に口頭宣傳の材料とした「資本主義諸國によつて圍繞されたる社會主義國」が、

忽然として従来の外交政策を轉換して、仇敵視してゐたナチ・ドイツと握手したることである。この一事は歐洲大戰勃發の時期を早め、舊體制の歐洲諸國を相次で地圖から抹消せし一因ともなつたと解される。ソ聯は大戰と同時に逸早く中立性を強調し、戦火の國土に波及するの危機を回避したのであるが、その抱持する信念は、依然デモクラシーの擁護であつた。一方において西方における領土不安を解消せるのみならず、更に革命によつて喪失した隣接各國を着々と回復し、他方英米等とはなほ一連の不即不離の關係を取りつゝ、國土防衛、國防國家建設へ邁進し、將來の世界政策に準備しつゝある。

歐洲の風雲やうやく急なる時一九三九年三月ドイツのチェコ併合は民主主義國陣營を愕然たらしめた。イギリスは、フランスを誘ひ、ポーランド、ルーマニア、ギリシア、トルコ等を自己陣營に引入れドイツ包圍陣を結成、更にソ聯の抱込みに狂奔しつゝある際獨ソ新通商協定は八月十九日ベルリンで正式調印を終了、引續き二十三日クレムリンではスターリン黨書記長、シユースレー獨大使列席の下にモロトフ外務人民委員とリツペントロフ獨外相により獨ソ不侵略條約に正式調印を終了して世界を震撼せしめたのである。

英佛の矛盾政策　元來、民主主義を擁護し全體主義を仇敵視して來たソ聯が、何故にイギリス、フランスを尻目に、ドイツと提携しなければならなかつたか。八月廿八日から開催されたソ聯

最高會議第四臨時會議において、モロトフ外務人民委員は次の如く説明してゐる。

即ち、英佛ソ交渉は歐洲の侵略を防止する相互援助條約を目標としたのであるに拘らず英佛側の提案は原則的前提たる相互主義及び平等義務の主義を無視したものであつた。侵略に對し相互援助條約を締結することは、英、佛、ソ聯が侵略國の攻撃に對する一定の軍事的措置につき締結する場合においてのみ意義がある。しかし軍事交渉は、三國が共同保障すべきポーランドがソ聯の援助を拒絶してゐるのみならずイギリスがポーランドのこの反對を抑制し得ず、却つて支持してゐるが如き態度が見えた——即ちモロトフ外務人民委員の指摘するところは英佛兩國がソ聯に對し相互援助條約締結を希望しながら、その態度が徹頭徹尾、矛盾を示してゐた。一方においては英佛はポーランドのために侵略に對する軍事援助をソ聯に求め、ソ聯は自國のため英佛より適當の援助を受けることを條件としてこれに應ずる用意を有してゐた。しかし英佛は一方において間接の侵略については自國側の援助を骨抜きとなし得るが如き留保を付し、應援義務を免れんがため、これに形式的法理的根據を與へ、かつ侵略者の面前にソ聯を孤立の狀態に置かんとしたのである。更に派遣した英佛の軍事使節は二流的人物で軍事協定を調印する權利を有してゐなかつた。即ち兩國の交渉態度の矛盾の根源は相互援助條約締結の結果、却つてソ聯を強化せしむる危懼の念を禁じ得ず、英佛自身の強化を前提に置

いてのみ相互援助條約締結の希望があつたので、ソ聯の強化は決して快しとしかつたのである。

獨ソの利害一致 モロトフ外務人民委員は「ソ聯は平和を保障し獨ソ兩國間における戦争の脅威を除去すべき他の方途に關する問題を提起せざるを得なかつた。またドイツの對外政策においてソ聯との善隣關係の方向への轉換が起ることが必要であつた。この第二の條件が存在し、一方ドイツ政府においてその對外政策を對ソ關係の改善に變更することを希望してゐることが明確となつた時に初めて獨ソ不侵略條約締結に對する基礎が見出された」と説明してゐる。

即ちドイツの東南歐政策としてはヒットラーのマイン・カンフに見る如くまづウクライナの穀倉を掌握することがその一に數へられ、既にその計畫が着々と準備されてゐると英米佛等の諸新聞が傳へてゐたので、ソ聯當局としても、内心は十分に脅威を感じまたその宥和策に汲々としてゐた事は蔽ひ得なかつた事實であり同年三月の第十八回共產黨大會において、スターリンはその對外政策において、「他人の手にて火を掻き出すことに慣れた戦争挑發者をして、ソ聯を戦争に惹き入れさせるやうなことがあつてはならない。英佛の政策はドイツに對してソ聯を憤激せしめ、毒された雰圍氣を醸し、明かな根據なくして對獨衝突を挑發せんとする魂膽である」と西歐政治家の好意を非難してゐる。要するにソ聯のドイツの強大化に對する恐怖と、ドイツの歐洲圏内より孤

立に陥らんとする状態との双方の利害が時を同じうして一致し、一方またソ聯も歐洲大戰勃發の不可避なる運命を察し、強國同志を咬み合せることによつて強國を弱体化せしめんとするソ聯の二重三重に及ぶ魂膽が不侵略條約を急速に纏め上げしめたともいひ得るであらう。

米の對ソ宥和策 アメリカとはフィンランド戦争當時ルーズヴェルト大統領の憤激を買ひ、飛行機及び航空用機具並にその資材モリブデン、アルミニウム、航空用ガソリン生産用に必要な設計及び工場並に製造の技術的權利及び情報の道義的禁輸が行はれたのであるが、一九四一年一月二十一日アメリカは突如この禁輸の中止を發表した。

恰かも松岡外相の外交演説に示された對ソ政策並に日ソ漁業暫定協定成立によつて、日ソ國交調整の機運が見え、またソ聯紙もこれを歓迎する大々的報道を行つたことがアメリカ政府の神經を必要以上に刺激し、その焦燥が對日對抗策として、かゝる必要を探らしめたといはれてゐる。この事實はアメリカの對ソ宥和策とも見られるが、モロトフ外務人民委員が一九四〇年八月の最高會議において「對米關係については餘り言及しないから」といふのはこれについて餘り良いことを述べ得ないからである」と述べたことは、ソ聯の現に採りつゝある對樞輔態度を反映して當分この方針は變化を示さないであらう。

イギリスとの關係は、既に大戰勃發前の英佛ソ三國交渉におい

て示された如く、ソ聯にとつては、甚だ不快な印象を與へ、かつ今日の獨ソ同盟によつて、これ以上改善の途は打開し得ないやうである。勿論イギリスはフリリツプス大使を正式に任命して改善の希望を繋いでゐる。

對獨經濟援助擴大

ドイツとの關係は既に衆知の如く、不侵略條約締結以後は著しく改善され、アメリカの對英援助強化と正比例してドイツへの經濟的援助が擴大されてゐる。一九四〇年十一月のモロトフ外務人民委員のベルリン訪問は、ソ聯首相の國外旅行として最初のものであり、従つてその使命も重大性を帯びてゐたが、果して一九四一年一月十日獨ソ新友好協定がモスクワで調印された。勿論モロトフの使命は單にこの協定のみでないことは想像に難くはない。この協定は單に經濟、國境、住民交換を内容とするものであるが、その政治的意義は頗る大きい。即ち經濟協定は一九三九年二月十日の經濟協定を擴大延長したもので一九四二年八月一日まで有効で、かつて締結された如何なる經濟協定よりも重要であるとドイツのD.N.B通信が報道してゐる。從來の協定に比し輸出入數量の飛躍的増大を規定し、貿易額は數十億マールに達するといはれ、最も主要なことは大量の穀物をソ聯が提供を約したことである。即ちソ聯が七十億プードの收穫を得たことがこの取引を可能ならしめたものであり、その外工業原料品、石油並にその精製品、棉花等も供給し、ドイツからは機械類を輸入すること等によつて、ドイツの戦争能力が一段と強化されるわ

けである。

國境紛争を斷つ

更に國境協定はバルチック海からイゴルカ河に至る境界を畫定するもので、新國境線をかつてのリトアニアポーランドの國境及び一九二八年一月及び一九三九年三月の二回に互るドイツ・リトアニア間の國境協定に從つて規定するものであり住民交換協定はバルト三國に居住するドイツ人をドイツ側に轉住せしめ、ドイツ側に住むロシア人及びバルト三國人をそれぞれ故國に移住せしむるもので、調印後二箇月半以内に交換を終るのである。この兩協定は將來或は可能を豫期される如き領土及び住民に關する紛争を除去し、友好親善の強化を意味し、獨ソ關係は更に一步前進したものとひ得たのであつた。

一九三九年二月の獨ソ通商協定の骨子は(一)ソ聯はドイツより二億マルク、期限七箇年五分利のクレジットを受け、協定調印の日より二年間に互りドイツ商品(主として工作機械その他の生産設備)を購入する、(二)ドイツもソ聯より一億八千萬マルクの商品を購入する旨タス通信は發表したが、二十八日發表された細目によると、(三)ドイツは總額二億マルクの對ソ・クレジット中第一年目に一億二千萬マルクを供與する、(四)ドイツはソ聯に對し工作機械、石炭、化學、電氣各事業の設備を供給し、またドイツ人技師をソ聯に派遣する、(五)ソ聯はドイツに對し木材製品、原料及び半製品ななづく石油製品を供給する、(六)對ソ・クレジットによる物資の交易は獨ソ間の現行貿易額に追加するものとす

とあり、従つて獨ソ間の貿易總額はクレジットによる交易額だけ増加を見るわけである。

イタリアとも接近 イタリアとの關係は、獨ソ友好關係によつて必然的に接近することは豫想される。兩國の經濟並に通商關係は一九三九年十月以來停止され、兩國間に締結されてゐた通商協定も一九三九年十二月満期となつてゐるが、今後樞軸とソ聯との關係が新たな發展に向ふべきものは、伊ソ兩國間に確立されるべき經濟並に通商關係に關する協定成立であると、ローマ駐留の外交官邊では觀測してゐる。

日ソ關係は一九四一年一月二十一日松岡外相の演説の如く、兩國の國交調整の機運は進捗し、特に建川大使の赴任後は、専ら滿蒙國境、漁業、北樺太利權問題等につき交渉が行はれ、特に國交調整の問題中の最大難關と目される漁業問題は本條約改訂のため日ソ混合委員會の設置並に本年度漁業に關する暫定取極めにつき合意を見、我が方よりは西公使、ソ聯側はロソフスキー外務人民委員代理を委員長として混合委員會を設置し本條約改訂の根本的討議を續行することとなつてゐる。

六 相次ぐ領土擴張

◇ポーランド東半を奪取

英佛救援阻まる 獨ソ不侵略條約によつて最大の衝擊を受け

領土の分割につき重要折衝を開始した。リツベントロツツ獨外相は九月二十七日モスクワに飛び、モロトフ議長と三日間に互り會談を行つた結果、二十九日遂に獨ソ友好並に國境畫定に關する條約に署名した。

本條約の附屬議定書により獨ソ兩國の新國境線は「リトアニア最南端國境を起點として西に延びアウグストウを経て東プロシア國境に至る。次で現在東プロシア國境を形成するビシヤ河に沿ひつゝ再び舊ポーランドに入り、オストロンカに至り、更にブーグ河に沿ひて南下し、クリスチノボルに達する。こゝから國境線は西方に折れルグホフ市(レンベルグ市)西北のラワルスカ北方を通過し、ルバチヨウを経てサン河に出で、そのまゝ同河に沿ひてハンガリー國境に至る」こととなつた。

ソ聯領域に編入 こゝにソ聯に復歸した地域はその面積において歐洲の大國家の領域に等しく、即ち西白ロシアの面積は一〇八、〇〇〇平方軒に達し、人口四、八〇〇、〇〇〇人、西ウクライナの地域は八八、〇〇〇平方軒、人口八、〇〇〇、〇〇〇人で總面積一九六、〇〇〇平方軒、その人口一三、〇〇〇、〇〇〇人となつてゐる。かくて、同年十月三十一日から開かれた第一回聯邦最高會議臨時第五會期において、西ウクライナのウクライナ共和國へ、西白露の白露共和國への編入が確認された。

◇バルチック三國制壓

相次ぐ領土擴張

たのはポーランドである。ポーランドは英佛の救援を恃み、益々反ソ的態度を濃厚にして來たが、不侵略條約が獨ソ間に締結された結果、英佛の救援は甚だ望み薄となつたのである。

ドイツ軍のポーランド進撃以來、ソ聯政府の態度は世界の注目するところとなつてゐるが、九月九日タス通信を通じて、國防強化のため豫備兵の部分的動員を行つた旨を發表、次で十六日夜、ソ聯政府はモスクワのポーランド大使館に對して「十七日午前六時を期し、自國權益を擁護し白ロシア及び西ウクライナの少數民族保護のため、北はプロスタラフより南はカメネツに至る間に於いてポーランド領に進駐を決定した」旨を通告、直に赤軍はドイツ軍に劣らざる迅速さを以て全戰線に互り進軍を開始し、各地の要衝を占領した。十七日モロトフ人民委員會議長はラジオを通じて「ポーランドは今や崩壊した。ポーランド在住の白ロシア人及びウクライナ人に對し、同胞としての援助の手を差し伸べることはソ聯の義務である。ソ聯政府はポーランド國民を彼等の指導者の失敗によつて投げ込まれた窮狀から救助せんと希望するものである」と進駐の目的を明かにした。

ドイツと國境畫定 かくてソ聯軍の破竹の進撃は既に翌十八日、かつて歐洲第一次大戰の際、一九一八年單獨講和を締結したブレストリトウスクにおいてドイツ軍と歴史的交驛を行ひ、兩軍首腦部は行動圏及び進駐の限界につき直に具體的協定を纏め更にこれと併行して獨總統大本營と駐獨ソ大使館との間にポーランド

三國制壓の必然性 バルチック三國、即ちエストニア、ラトヴィア、リトアニア三國をその制壓下に置くことは、歴史的地理的過程から見てもソ聯にとつて自然的な現象であつた。即ちボルシェヴィキ革命によつて失つた地域を奪還せんとする宿願に加へて、海洋へ勢力を伸張せんとするには、バルチック海を自國の湖水たらしめ、安全性を確保することが絶對的に必要な問題であつた。況んやドイツと不侵略條約締結に成功せるにおいてをやである。勿論、バルト三國の保障問題は、それ以前に、英佛ソ三國交渉においても論議せられたのであるが、バルト三國は外部の援助を欲せず、かつ英佛としても、その欲せざることを三國に強要する勇氣も抱いてゐなかつた。ソ聯當局としては、英佛の不誠意に對し甚だ不快な感を懷いてゐた矢先、偶々一九三九年九月一日、即ち獨軍がポーランド進撃に先立ち、グジニア港を脱出したポーランド潜水艦がエストニアのタリン港に進入し、その後間もなく同港を脱出したが、この脱出をエストニア政府が黙認したといふ疑ひを以て、ソ聯はエストニア政府へ抗議を發したのである。この事件が端緒となり、ソ聯のバルチック工作が積極的性質を帯びるに至つたもので、二十四日モスクワを訪問したセルター外相に對し、相互援助條約並に通商協定締結を要求、二十九日遂にこれを受諾せしめた。

三國つひに消滅 エストニア制壓に成功したソ聯は、更に十月三日ラトヴィアのムンテルス外相をモスクワに招致、一方リト

アニアに對しても同様ウルブンス外相を招致し、前者は五日、後者は十日に相互援助條約に調印を了した。

かくてバルチック三國との相互援助條約に成功したソ聯は、着着三國のソ聯邦化を畫策してゐたが、リトアニアが一九四〇年初頭以來、駐ソ聯軍兵士を拘禁、拷問の上、ソ聯の國家秘密を探り出した上殺害し、またソ聯駐屯軍兵舎建築に従事するリトアニア人を捕縛した事實は、相互援助條約に背反するとなし、かつ同條約締結直後、ラトヴィア、エストニア兩國と軍事同盟を締結、所謂バルチック協商を結成したのは、直接ソ聯を目標とするものとして、責任者の處罰、内閣の更迭、リトアニア領要衝に對するソ聯軍の自由進駐權を要求したので、リトアニア政府は六月十五日承認の已むなきに至り、一方エストニア、ラトヴィア兩國も亦同様の要求によつてあへなく屈服し、こゝに三國は親ソ政府を組織し、七月二十一日ソ聯編入を可決、ソ聯政府もまた八月の最高會議第七會期において確認、それ／＼國名をエストニア、ラトヴィア、リトアニア社會主義ソヴェト共和國と改稱し、バルチック三國は世界史上から獨立國としての名稱を失つた。

◇カレリア編入とソ芬戰の苦杯

バルチック三國に軍事的基地を要求し、相互援助條約を締結した餘勢に乗じてソ聯はフィンランドに對し威壓を加へた。即ち一九三九年十月、フィンランド政府に對し、兩國の政治經濟の諸問

題につき協議すべく代表をモスクワに派遣するやう懇請した。

領土割取の慮 ソ聯政府は、この招請狀を發する以前、既にフィンランドの領土割取の事は十分に決してゐたもので、この招請を受けたフィンランド政府はスウェーデン駐劄公使パーシキヴィを主席代表に任命し同月十二、十四兩日會談を行つたが、ソ聯政府の要求は、フィンランドとしては餘りに重大なため急遽歸國してしまつた。

ソ聯政府の要求は、十月三十一日の第五次最高會議におけるモロトフ外相の説明によると、最初ソ芬相互援助條約を提議したが、フィンランド政府は絕對中立政策に背反すると主張したので、レニングラード防衛に關する具體的問題を提議した。即ちソ聯にとつてレニングラードはモスクワに次ぐ重要都市で、フィンランド國境から僅か三十二キロ、近代長距離砲の射程内にある。更にフィンランドはフィンランド灣北岸及び同灣中央の全島嶼を完全に領有してをり、外國勢力のレニングラードへの接近を許すか否かは一にフィンランドがソ聯に敵對するか否かによつて決せられるといふのである。

過大な要求提示 従つてフィンランドに要求せる内容は(一)レニングラード北方地峽の國境を數十キロソ聯に讓渡し、その代償として、これに二倍するソ聯領カレリアをフィンランドに讓渡する、(二)フィンランド灣入口に軍事的根據地を一定期間租借する、(三)フィンランド灣内の島嶼、ルイパチー、スレドニの各

半島の一部をこれに二倍するソ聯領カレリアと交換する、といふのであり、更にソ聯はカレリア地方の防備撤廢を提議すると共にソ芬不侵略條約に相互保障追加を希望したのであるが、十二月十一日附でフィンランド政府が發表したソ聯の要求は更に廣汎なものであつた。即ち(一)ハンゲ港にソ聯海軍基地を建設する目的でハンゲ港及びその接壤地域の三十年間租借、(二)ハンゲ港にソ聯空軍三個聯隊及び五、〇〇〇を越えざる陸軍部隊の駐屯、(三)ソ聯艦隊の碇泊地としてラドデシア灣の使用、(四)ホグランド、セイスカル、ラヴァンサリ、チャルサリ、ユイヴィスト諸島を含むレニングラード西方及び西北方に位する全島嶼並にライボラ村落カラスト、ジャザレント西方を含むカレリヤ地方の一部をソ聯領に併合し、これに對しソ聯政府も、若干の領土をフィンランドに讓渡す、といふのである。

フィンランド政府はこの要求を發表すると同時に、會談内容を嚴秘に附する旨約束せらるに拘らず、モロトフ外相が最高會議で報告したことに對し抗議的反應を加へたが、いづれにしてもソ聯の要求は、フィンランド政府としては國家の獨立と中立を維持する根本方針から、到底容認し得ないところであり、フィンランド代表再三のモスクワ訪問も水泡に歸し、十一月十三日歸國したのである。

芬蘭の對戰準備 フィンランド政府は、既に前途の危險性を洞察し、國難來ると全國民に非常警戒準備を放送し、十一月

七日には國防緊急令を發布して、外國郵便、電報、電話の禁止、外國人の國內居住許可制限、特定地域の立入禁止、反國家的文書の頒布禁止等を行ひ、戰時體制に一段の強化を加へた。交渉決裂と前後して十月二十五、六日頃からソ芬國境地帯各所に兩軍の衝突事件が突發したので、廿六日ソ聯は嚴重に抗議し、フィンランド兵にカレリア地方國境より二〇キロ乃至二五キロ即時撤退を要求したが、フィンランド政府は自國軍隊に發砲の事實はなく、撤兵は兩國の協議によつて一定の距離を定むべく、また同事件の共同調査を行ふ、といふ反駁的回應をしたので、ソ聯政府は憤激し二十八日レニングラード軍管區司令部に對し、今後挑發的行動があつた場合には即時砲火を交へて應戰すべしとの命令を發した。と同時にモスクワ駐劄フィンランド公使コスキネンに對し、去る一九三二年締結したソ芬不侵略條約廢棄通牒を手交し、二十九日フィンランド政府の回答到着と同時にソ聯政府は國交斷絶に決し翌三十日モロトフ外相はその旨ラジオ演説を行つて、遂にソ芬兩國は戰鬪行爲に入つた。

ソ聯軍が占領した國境近きカレリア地峽のテリオキでは十二月一日フィンランド叛亂軍人及び左翼労働者がオット・クーンシネンを擁立して新政權を組織した。この新政權は『フィンランド民主主義共和國人民委員會政府』と稱し、親ソ政策を根本方針としたもので、ソ聯政府は同日正式承認し、翌二日修好並に相互援助條約を締結した。

ソ聯軍がマンネルハイム要塞線を突破してウイブリ市の郊外に迫り、兩軍の戦闘が酣ならんとしたとき、一九四〇年二月二十五日、スウェーデン政府のイニシアチヴによつて、ソ聯の和平真意を打診し、フィンランド政府もこれを承諾して、三月六日よりモスクワにおいて兩國代表の講和會議が極秘の裡に行はれ、遂に同月十二日夜講和成立、翌十三日兩國軍隊は軍事行動を停止した。

赤軍の改編強化 ここにソ聯は終結を見たがこの事件によつてソ聯は國際聯盟より除名された。即ちフィンランド政府がソ聯の侵略に對し十二月三日聯盟事務總長に對し、理事會及び總會の招集を要請し、十四日の總會において、アルゼンチン代表の強硬要求により、ソ聯除名決議案並にソ聯糾弾決議案が採擇され、更に理事會で可決し、ソ聯除名は最終的に決定したのである。

しかし、ソ芬戰爭において見逃すことの出来ない事實は、北歐の一小國の軍隊が、世界最強の國防軍として威力を誇るソ聯赤軍に對し意外の抵抗を示したことである。開戰當初の世界の輿論は、ソ聯の總攻撃によつて、忽ちフィンランド軍は敗退を見るであらうと豫想したが、約半ヶ年の間、ソ領附近の一部分を占領されたのみで、よく國防線を守備し、かつ和平案もソ聯側より提議されたといふ事實は、ソ聯當局をして少からず異怖せしむるものがあった。モロトフ外相が、ソ芬講和成立後間もなき最高會議第六會期の演説において、ソ聯赤軍はフィンランドの他、英、米、佛、伊等の聯合勢力を破つたと誇示してゐるがソ聯軍の拂つた多大の

犠牲並に苦き經驗は、大なる教訓を與へ軍の内部組織の再編成、即ち上下級指揮官の權威増大、軍律の強化、各部隊指揮官による一元統制の確立と政治部員の權限弱体化、戰闘訓練の建直し等の末曾有の國防軍改革となつて表はれてゐる。

しかして併合した舊フィンランド領は一九四〇年三月の最高會議第六會期において聯邦構成カレロフィン共和國に改編、採擇された。

◇ベツサラビア問題解決

國境下ナウヘ 一九一八年、赤軍の劣勢に乗じて、ルーマニアが武力を以てロシアから奪取したベツサラビア地方は、その後ソ羅兩國國交の痛となつてゐた。爾來、ソ聯は隣接諸國とは不侵略條約または相互援助條約を締結してゐたが、唯ルーマニアとは不侵略條約を有してゐなかつた。即ちソ聯は常にベツサラビアの復歸を希望し、従つてルーマニアによる併合を承認したことがなかつたのである。しかしソ聯はバルチック三國を制壓した勢ひを以て、即時解決せんとしてウクライナに隣る北部ブコヴィナ地方を割讓することが、ベツサラビア地方において二十二年におたりソ聯及びベツサラビア住民に與へた莫大な損害を賠償する手段であるとの理由で、兩地方の割讓を要求したのである。この要求は、六月二十八日の協定によつて實現し、直にソ聯軍は兩地方の重要地點に進駐を完了し、ソ聯國境は西方に移動してドナウ河に

達し、歐洲重要交通路に到達した。

モルダヴィア共和國創設 かくてソ聯の領土はベツサラビアの併合により面積四四五、〇〇〇平方軒、人口三、二〇〇、〇〇〇人を、北ブコヴィナの併合により面積六、〇〇〇平方軒、人口五〇〇、〇〇〇人以上を増大した。ソ聯政府は八月一日より開催の最高會議第七會期において、同地方にモルダヴィア・ソヴェト社會主義共和國を創設し、北部ブコヴィナ及びベツサラビアのホティン、アツケルマン、イズマイルの三郡をウクライナ共和國へ編入することを可決した。

七 滿ソ國境紛争と漁業交渉

ノモンハン紛争 日ソ兩軍の衝突により最も危機を招いたのは滿蒙國境ノモンハン事件である。由來、日ソ間の衝突は次第に惡質を帯び、昭和十二年の黑龍江の乾岔島事件、同十三年七月の張鼓峰事件等を勃發せしめたが、俄然十四年五月には外蒙ソ聯軍の滿洲國への不法侵入事件が起り、日滿軍は五箇月に互り滿蒙國境ハルハ河畔において激戦を展開した。

しかも、最近の衝突事件は、常に五、六、七月の候を選んで毎年惹起されてゐるが、ノモンハン事件の如く、彼我の損害を出したことはなかつた。當時我が軍は兵力を増強して九月を期して最後の攻勢を斷行すべく着々準備を進めつゝあつた際、偶々歐洲

大戦が勃發し、ソ聯をして、極東における紛争に患念することの不利を覺らしめ、事件を外交交渉で解消せしむる決意を生ぜしめるに至り、遂に九月十五日の停戰協定となつたのである。即ち外務省の發表によれば、東郷駐ソ大使はモロトフ外相と交渉の結果(一)日滿軍及びソ蒙軍は九月十六日午前二時(モスクワ時間)を期し一切の軍事行動を停止す、(二)日滿軍及びソ蒙軍は九月十五日午後一時(モスクワ時間)その占めたる線に止まるものとす、(三)現地における双方軍代表は直に本合意(一)及び(二)の實行に着手する、(四)双方の捕虜及び死體は交換せらるべく、右につき現地における双方軍代表者は直に相互に協定し實行に着手することと決し、ソ蒙代表、日滿蒙代表二名より成る委員會を組織することに合意成立したのであつた。

國境確定委員會不調 その結果、臨時滿蒙國境確定委員會を前半をチタ、後半を哈爾濱で開催することになり、チタ會談は十二月七日から二十五日まで八回開催、順調に進行し、十五年一月七日より同三十日まで哈爾濱で續行、前後十六回に互り國境確定問題につき協議したが、遂に合意を得るに至らず、同委員會は閉會した。

しかしその後國境委員會とは別個に滿ソ、滿蒙の全面的國境確定、紛争防止及び平和的處理に關する委員會設置について、大體意見が一致してゐたので、その後、東郷大使に代る建川大使によつて日ソ國交調整問題の一つとして兩國間に交渉が行はれてゐる

る。

第六次暫定協定　日ソ國交調整のバロメーターと看做される漁業問題は、單なる經濟問題のみでなく實に我が國の歴史上看過し得ない問題である。従つてこの問題の取扱如何は、直に我が國民の感情を刺戟して一般國交問題に微妙なる關係を興ふると常としてゐる。

日獨伊防共協定締結以來、ソ聯はその報復手段として新漁業條約締結を『國內手續未了』の理由を以て調印を拒否し、僅かに一箇年の暫定協定によつて無條約狀態の出現を免れてゐた状態であつたので、漁區經營の安定を欠き我が國の不利は蔽ふべくもなかつた。かゝる暫定協定を繰返すこと五回、一九三九年十二月三十一日、東郷大使とモロトフ外務人民委員との間に締結された第五回目の暫定協定は漁業問題と何等關係なき北鐵代償金最終割賦金六百萬圓支拂問題に關するソ聯側の主張に讓歩して、この問題を解決し、その代償として一九四〇年中に本漁業條約を締結するといふことによつて成立したもので、本來一九四〇年中に長期新漁業條約が締結されるべきはずであつた。東郷、建川兩大使は一九四〇年來この目的のためモスクワ當局と折衝を重ねて來たが、遂に本條約並に暫定協定すら妥結を見るに至らず、漸く一九四一年一月二十日モロトフ首相兼外相との間に第六次暫定協定が成立したのである。

本條約締結へ邁進

情報局發表によると「一現行漁業條約を

そのまゝ一九四一年末まで延長する、(二)暫定取極は一九四一年中に締結せられるべき新漁業條約によつて置き換へらる。なほ右暫定取極は客年末交渉の際には、ソ聯邦から借區料等の支拂方法につき、漁業者の負担を極度に加重する如き提案があつたため成立しなかつたが、今回はソ聯邦側において右提案を一應撤回することに同意し、本年度は漁區の借區料及び抵貸税の二割に相當する追加支拂ひをなすことを以て妥結したものである。

従つて一九四一年は右協定により愈々本條約交渉へ本格的に進むことになり、モスクワに設置される日ソ特別混合委員會は日本側代表委員長西春彦公使、委員宮川船夫駐ソ大使館參事官、齋藤輝宇良一等書記官、廣岡任、間庭秀文各通譯官、ソ聯側代表委員長ロソフスキー外務人民委員代理、ツアラブキン外務人民委員部第二東方部長、パウロフ法律部長、クムイキン外國貿易人民委員部東方部長、ズロビン財務人民委員部貨幣部長、パウルイチエフ外務人民委員部極東部長代理で組織することになつた。

第二部 支那事變

帝國の事變對策

國民政府南京遷都を契機として支那事變は興亞建設の新態勢によつて軍事的破壊工作から經濟的建設過程へと歩みを進めた。帝國の目的とするところは蔣政權を中心とする抗日支那を膺懲するにあつて領土侵略の意は毫も存せざること、再三の帝國聲明によつても明かなところであつた。しかるに頭目蔣介石の無益なる抗戦は遂に事變を今日まで結末に到達せしめず早くも五周年を閲しその戦果は占領地面積一六〇萬平方キロ、戦線延長は三、六〇〇キロを超え二、九〇〇哩の全支海岸、揚子江八〇〇哩の水路完封は皇軍の佛印進駐、ビルマ・ルートの遮断、西北ルートの爆撃と共に抗日戦線に對する大鐵槌となり世界戦史に未曾有の戦果をおさめつゝある。一方護生二年目を迎へた國民政府は帝國政府協力の下に堅實なる發展を遂げ過般の日支新條約の締結と同時に滿支相互間も承認を了し日滿支一體となつて産業、文化兩方面に着着と地歩を固めつゝある。

汪精衛を首班とし同憂具眼の士の提唱する和平救國論に對する支那民衆の支持は日を迫うて昂まり蔣政權の動搖は今や覆ふべくもなく、重慶内部の和戦兩派の對立のみならず抗日の共同目標に向つて協力抗戦を續け來つた中共との相剋も激化し來つてゐる。

事變處理の國策確立

しかし英、米、ソの極東政策は飽くまで對蔣援助を行ふことによつて帝國の意圖する事變目的の達成を阻害せんとして居り、加ふるに國際情勢の紛糾は支那事變の前途を樂觀せしめざる現狀に置いてゐる。この複雑なる情勢のもとにあつて帝國政府のとり來つた事變對處策を軍事、政治、經濟上より検討することとする。

一 事變處理の國策確立

第一次近衛内閣の事變對策 昭和十三年七月六日、近衛首相は事變滿一周年を迎ふるに當り、帝國政府の事變處理方針並に直面せる内外諸問題に關し所信を闡明し、事變の解決は何處までも日支間の直接交渉によつて是を付けるべきことを主張し、帝國の不擴大方針が破れた以上既定方針により當初の目的貫徹に邁進する旨を強調した。しかして同年一月十一日の御前會議において決定した帝國不動の方針に基き、同十五日大本營、政府間の連絡會議により最後の決定を翌十六日發表された「爾後國民政府を對手とせず」との聲明に對する種々なる臆測風説に關し

五相會議が本年一月御前會議で決定した事變處理方針に就き再検討を加へると云ふことに就き世間に色々の説を生んでゐるが、一月に決定した根本方針は毫も變らぬ。たゞ今日まで半歳以上を経過してゐるので情勢の變化に應じた對策に就いて新しく考へようといふのであつて、根本方針には變りはない。蔣介

石を相手にせずとの方針に就て最近その徹底を缺いてゐないかといふ風に見られてゐるが、この蔣介石を相手にせずとの方針は毫も變つてゐない。去る一月の我が政府の聲明では國民政府を相手にせずとなつてゐるが、これは堂々たる帝國政府が蔣介石を對象として相手にしないといふのは大人氣ないので「國民政府を相手にせず」といつたのである。國民政府を相手にしないのは國民政府が容共抗日政策をとつてゐるからである。従つて國民政府が共產黨と手を切り共産分子を排除し、また抗日政策を放棄するならば、即ち同政府が組織を改組し容共抗日政策を捨てたらば國民政府は容共抗日の國民政府でなくなるのだからこれを相手にすることも考へられる譯である。これは國民政府を相手にせずといふことを理論的に見た場合である。しかし實際は國民政府の中心人物は蔣介石であり、蔣介石が容共政策に出でゐる以上、彼が中心の國民政府を相手として如何なる話も進め得ない譯である。日本と眞に提携する誠意を持つた他の有力な人物が國民政府部内に立つて日本との講和を希望した場合はあるとしてもその場合蔣介石なき國民政府はこれを支那の中央政府として取扱ふことは出来ぬ。事實上現に北支には臨時政府があり、中支には維新政府があるから、これに國民政府が合流して支那に新しい中央政府が出来た場合はその中央政府を相手にすることは考へられる。

と述べ長期抗戦もまた止むを得ずとて國民の忍苦を要望した。し

かして對第三國關係については在支第三國權益は飽くまで尊重するが、第三國の對蔣援助は十分に警戒し、確固不動の決意により彼等に覺醒を促すべきを説いた。翌七日、事變一周年に當り畏くも天皇陛下におかせられては勅語を賜はつたのである。これに對し率り板垣陸軍、米内海軍兩大臣は、粉骨碎心聖旨に副ひ奉ることを誓ふと共に、それぞれ決意の程を表明し「事變の解決は今後幾年を要するとも帝國の進むべき途は唯一つ、飽く迄所期の目的を達成し東亞永遠の平和を圖るのみである」ことを主張し、永年の日支紛争の痛の徹底的剔抉によつて事變の解決を圖るべきことを闡明した。

對支最高方針確立す これよりさき、政府は六月十日の定例閣議において、首相、大藏、外務、陸軍、海軍の五相會議開設を決定、定例閣議とは別個に事變處理に萬全を期すべく最も緊密なる關係を有する五相會議を隨時開き、對支國策の完備を期すこととなり、六月十七日第一回會議を開催してより續開すること十七回、事變處理の最高方針、軍事行動の進展と並行しての政治、經濟上の指導要綱等を討議、八月初め完全なる意見の一致を見たので同九日の閣議において宇垣外相より正式に報告、正式承認を得たのち、直に定例參議會に附議して諒解を得、即日風見書記官長談の形式をもつてその経緯を發表した。

しかして漢口攻略を目前に控へ新段階に處し外交方策の萬全を期するため政府は外交顧問を設置することとし、九月九日の閣議

において決定、直に上奏、御裁可を仰ぎ、翌十日附官報をもつて外交顧問設置勅令を公布、支那事變に關する外交上の職務に參畫せしむるため臨時に外務省に外交顧問を置くことを發表、佐藤尙武、有田八郎兩名が任命されたのであるが對支中央機關設置問題を挾んでの意見の相違は九月二十九日宇垣外相の辭職となり、翌三十日近衛首相兼攝として即日四相會議を開き一頓挫せる對支中央機關設置の根本方針を決し翌十月一日臨時閣議に附議決定、興亞院の誕生となつた。

對支中央機關設置決定と共に、武漢三鎮の陥落は益々對支政策の重大性を加へ、專任外相の決定を必要とするに至つたので急速にその銓衡を進めた結果、外交顧問有田八郎を起用するに決し十月二十九日その親任式を擧行した。

東亞新秩序建設宣言 廣東攻略に相次ぐ武漢の陥落は今時事變に一段階を畫した。

臨時、維新兩政府の健實なる歩みにつれて帝國の對支一方的建設工作のみによる東亞新秩序建設では不十分となり、日滿支を樞軸とする東亞民族の協同體を確立し、東亞永遠の平和を樹立するの急務たることが明白となつたので帝國政府は十一月三日明治節の住き日、帝國政府聲明を公表したのである。政府はこの聲明において若し國民政府が従來の容共抗日の指導政策を捨て人的構成を一新し新秩序の建設に協力するは敢てこれを拒否せざるも、抗日容共政策を固執する限りにおいては斷じて矛を收めざることを

明確にした。しかして帝國としても政治、經濟、思想、文化等全般に互り革新を斷行、重大時局突破のための國力の増強を圖ることとの必要なる事を強調したのである。この聲明と同時に近衛首相はマイクを通じて政府聲明の内容を敷衍し、時難克服の牢固たる決意を表明、また國民の向ふべき道を闡明した。

帝國政府聲明（昭和十三年十一月三日）

今や陛下の御稜威に依り帝國陸海軍は、克く廣東、武漢三鎮を攻略して支那の要域を戡定したり。國民政府は既に地方の政權に過ぎず。然れども尙同政府にして抗日容共政策を固執する限り、これが潰滅を見るまで帝國は斷じて矛を收むることなし。

帝國の冀求するところは、東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設に在り、今次征戰究極の目的亦此に存す。

この新秩序の建設は日滿支三國相携へ、政治、經濟、文化等各般に互り互助運環の關係を樹立するを以て根幹とし、東亞に於ける國際正義の確立、共同防共の達成、新文化の創造、經濟結合の實現を期するにあり、是れ實に東亞を安定し、世界の運進に寄與する所以なり。

帝國が支那に望む所は、この東亞新秩序建設の任務を分擔せんことにあり、帝國は支那國民が能く我が眞意を理解し、以て帝國の協力に應へむことを期待す。固より國民政府と雖も従來の指導政策を一擲し、その人的構成を改替して更生の實を擧げ、

新秩序の建設に來り參するに於ては敢て之を拒否するものにあらず。

帝國は列國も亦帝國の意圖を正確に認識し、東亞の新情勢に適應すべきを信じて疑はず。就中、盟邦諸國從來の厚誼に對しては深くこれを多とするものである。

惟ふに東亞に於ける新秩序の建設は我が華國の精神に淵源し、これを完成するは現代日本國民に課せられたる光榮ある責務なり。帝國は必要なる國內諸般の改新を斷行して、愈々國家總力の擴充を圖り、萬難を排して斯業の達成に邁進せざるべからず。茲に政府は帝國不動の方針と決意とを聲明す。

この帝國政府の聲明及び近衛首相の放送に對し、蔣政権代辯者は

日本政府の聲明は却つて支那民衆を驅つて抗戰繼續の決意を固めしめた。日本軍の稱する支那領土の半ば占領も單なる地點確保に過ぎず。支那領土の四分の三は今なほ蔣政権の支配下にあり、支那國民は蔣介石指導の下に徹底抗戰の決意のもとに結束してゐる。

と述べ、香港大公報の社説は今次の聲明は一月十六日の聲明と原則上に差異ありと論じた。

しかるに該聲明は所謂新秩序建設の根本策を樹立したに過ぎずその具體的内容の決定にまでは至らなかつたので、その具體的方針に關し鋭意検討を續けた結果十一月二十五日の五相會議におい

て結論に到達、二十八日の閣議に諮つた上、日支國交調整に關する最高國策を決定し御前會議を奏請することとなり、即日風見書記官長談の形式を以て『本日閣議に於ては先般來五相會議に於て準備中なりし東亞新秩序建設に關する日支關係調整の根本方針を附議決定せり』と發表され、直に同三十日、宮中において今次事變對策決定第二回目の御前會議は、天皇陛下親臨のもとに開かれ更生新支那との國交調整方針を可決した。

陸軍、軍需生産業者懇談 帝國政府の東亞新秩序建設の根本方針は御前會議において具體的の最高國策を決定、『對支院』の設置を決定した。かくて建設への新しき一步を踏み出した政府は、長期戦に對處するため軍需生産力の飛躍的擴充、國家總動員體制強化のため十一月二十八日陸軍關係軍需工業主の參集を求め板垣陸相、東條次官より事變目的達成に對處する軍の決意を披瀝帝國國防の新目標を示し協力を求めたことは、從來例をみざるもので、その席上東條次官は『蔣政権は廣東、武漢の相次ぐ陥落にも拘らず西南西北地方に退避して執拗なる抗戰を繼續しつゝありそのよつて來るところは西南においては英佛より、西北においてはソ聯より物心兩面の支援を受けるに存すること明白であり英佛ソの支援は愈々積極的に繼續されるであらう』と説き『その支援の存續する限り蔣の抗日政策は依然繼續強化されるであらう。この間ソ聯は鋭意その企圖する軍備充實、産業擴充、國內肅清を斷行し國家總力戰の準備し、兩國聯合し東亞の破局を招來すべきこと

あるは豫期せねばならぬ』と東亞の情勢の危機を説き

過去に於ける我が軍備充實計畫を檢討するに該計畫は昭和十一年ソ軍が雄大なる規模を以て極東兵備の増大を開始したるに對し我が國防の安全を期するを目的とせるものなり。しかして當時支那に對して必要の兵力を考慮したるは勿論なるも、今日以降においてはその欲すると欲せざるに拘らずソ支二正面の武力同時作戰を準備するの必要に當面したるを以て、こゝに人馬資材の整備に全力を傾倒して新軍備を建設せざるべからず。即ち軍は今次事變の處理を完遂すると共に將來のためソ支二正面戰爭を準備し、しかして後初めて支那事變の根本的解決を求め、東亞永遠の平和を招來し得るであらう。今後當分繼續的にあらゆる障害を排除して軍備の充實、軍需生産の擴大、基礎生産力の擴充に邁進せん事を期す。

と軍需工業者の積極的協力を要望、その目的達成のためには軍自體も業者に對し援助を吝まざる旨を約し、軍需工業職員以下の勤務の本義に就ても意見を開陳、牢固たる決意を以て義勇奉公の實を發揮し帝國未曾有の飛躍に貢獻すべきを強調し注目を惹いた。

二 興亞院の創設

軍部、外務の主張對立 對支國策統一の重要性に關しては軍

興亞院の創設

部方面において對支中央機關設置問題を第七十三議會において既に具體化したのであつたが、外務當局は外交一元化の建前からこれに眞向から反對し廣田外相の辭職となり、近衛首相も事態の紛糾をおそれ一先づ同問題を解消し五相會議によつて對支根本策を決定することとした。しかるに對支方策が單に抗日政權に對する武力彈壓のみならず、興亞建設への段階へ一步を進めたるに伴ひ對支政策の統一機關の設置が再び強く要望されるに至り、昭和十三年九月六日の五相會議において陸海軍部一致の案が提出され、軍部方面の對支中央機關設置の積極論と外務省の同省現機構擴充案との検討を行つたのである。現地方の意向は強力にして綜合性のある對支機關の設置を要望し、屢次五相會議は開かれ二十三日の會議において難點の多い現地機關の問題は暫定的のものとして、専ら中央機關に關して陸海兩省の原案に基いて法制局が成案した基礎案により意見の交換を遂げたが、原案を支持する陸海兩相と宇垣外相との意見は遂に纏らず、五相會議散會後陸軍側は板垣陸相、東條次官、影佐軍務課長等が參集、飽くまで原案支持と急速なる決定を近衛首相に要求する意向をもつて進むこととなつた。一方外務當局側も同夜首腦部會議を開き軍部案を中心に外務當局の態度につき協議したが、外務省としては外務省官制第一條を基礎とする外交の一元化と、國務を司るべき中央機關總裁の輔弼の責任に關する憲法上の疑義の二點から、軍部案に直に賛成し得ぬ旨決定した。相對立せる軍部、外務兩當局の主張は大要左の

通りであつた。

軍部案 對支時局問題の處理を目的として内閣に對支中央機關を設置す。しかして總裁は總理大臣これに當り副總裁は親任官とす。

對支中央機關は、對支諸政策の樹立、支那における政治、經濟に關する諸事項の調査計畫をなすと共にこれが實施に當り、支那における新政權と協力して政治的、經濟的諸問題の處理に當り各廳對支行政を統一す。

前記の諸事項の中重要なものは五相會議と連絡處理す。對支中央機關に對應して現地には經濟處理機關を置き、これを對支中央機關の直屬となす。

外務案 對支中央機關として現行の五相會議が十分その使命を果しつゝある現状において大規模の中央機關設置は屋上屋を架する嫌あり事務の錯綜を來す。従つて對支機關は對支事務局程度のものとし、第一には五相會議の方針を現地機關に傳達するの事務を管掌する。

外交の綜合性に鑑み對支外交の企畫のみを中央機關が管掌するの案には絶對反對する。

軍部當局は戦局の急進展に伴ひ、對支中央機關の設置は急を要し形式的反對論を排し問題の急速なる解決を要望するに至つた。こゝに於て近衛首相は二十四日、軍部、外務兩當局の意向を聴取した結果、大局的見地より軍部案を基礎とした政治、經濟、文

化の三部を含む對支院案を外務省において作成する事に意見の一致を見た。外務省では直に協議をつゞけ軍部案に大して修正を加へることを避けて立案を進め、同機關が暫定的性質を有するものなる事を何等かの形において現はすほか、二、三の字句の修正を行つて二十六日一應成案を得たので二十七日の五相會議に提出した。

しかるに宇垣外相の提示した外務當局案は、軍部案が『對支諸政策の樹立に關する事務』の管掌を基本としてゐるに反し、占據地域における對支政治、經濟並に文化に關する事務に局限し、然も現在の占領地區に對する對支根本國策の樹立、決定についてのみ五相會議に委ねる旨を規定してゐる點が軍部案と相違し、しかも實質的に責任の所在が明かならぬため事務當局の間に更に折衝をすることになつて同日も決定に至らなかつた。

こゝにおいて更に陸海外三省の間に折衝を重ねた結果『占據地域』の代りに『支那事變處理のため』の字句を使用し、對支最高方針は五相會議で決定するとの件に關しては閣議の諒解事項として覺書程度に止めることに意見の一致を見、二十八日宇垣外相に提示したところ外相は依然最初の方針を固執し、二十九日省議を開き檢討を加へたが外相と事務當局との懸隔は依然解けず、そのまゝ省議を終了したものの、外相は直に近衛首相を訪ひ、『對支院の設置は外務大臣の外交權限の干犯となるから自分としては絶對に反對である』として辭表を提出した。これに對し陸軍側では佐

藤陸軍省報道部長談をもつて『外相が反對するのは單に行政機關の理窟の問題でなく、他にあるといふ様な印象をうける』と發表した。かくて對支中央機關問題はさきに廣田外相、今また宇垣外相の二人まで射ち止めたのであつた。

對支院案成る かくて外相辭任による四相會議は十月一日開催され、更に臨時閣議において愈々大綱を決し法制局に命じて官制案を作成し可及的速に樞府御諮詢奏請の手續きをとることにになり、本問題は一應解決を告げた。臨時閣議において決定した同案要綱及び閣議諒解事項は左の通りであつた。

對支院官制要綱

- 一、支那事變中首相を總裁、外務、大藏、陸軍、海軍四大臣を副總裁とする對支中央機關を設置し、對支院と稱す
- 一、本機關の管掌すべき事項は左の如し、但し涉外事項を除く
- (イ)支那事變に當り支那において處理を要する政治、經濟、文化に關する事務
- (ロ)前號の事項に關する政策樹立に關する事務
- (ハ)支那において事業をなすを目的とする特別法律により設立されたる會社の業務の監督並に支那において事業を爲すを目的とする會社の業務統制に關する事務
- (ニ)各廳の支那に關係ある行政事務の統一保持に關する事務

一、前項の事務に關し重要な事項を關係各廳と連絡處理せしむるため連絡委員會を附置す

興亞院の創設

- 一、對支院の現地機關として支局を所要の地に設置す
- 一、總裁の諮問に應じ前項に屬する事務中重要事項を審議し總裁に所要の建議を行はしむるため對支委員會を設く、本委員に民間の有能達識の士を披擲し國民の輿論を達せしむ
- 一、對支院に總裁一人、副總裁四人、總務長官一人勅任(親任待遇)部長三人勅任を設く
- 一、對支院に左の三部を置く總務部、經濟部、文化部
- 諒解事項**
- 一、中央機關設置と同時に現地機關を設く
- 一、現地機關は對支院の設置と共に對支院の管掌事務、政治、經濟、文化全部に互りその事務を行ふ
- 但し軍特務部その他の機關は右現地機關の設置と共にこれ等事務を一括して現地機關に移すものとす
- 一、治安維持に關しては現地陸海軍と相諮り特別の考慮をなす
- 一、對支院管掌事項中涉外事項關係のものに就ては總裁は外務大臣に事前に協議なすものとす

興亞院成立す

對支院官制の法文化に關しては法制局を中心陸、海、外三省事務局の間において審議作成を急ぎ、總務長官の人選についてもこれと併行的にその銓衡をなした結果、九日柳川平助中將の内諾を得、更に十六日關係各省官制との關涉事項並に豫算關係等と睨み合はせて成文化を進めた結果漸く成案を得る運びとなつたので、翌十七日を以て事務當局間の協議を一應打ち

り、十八日の定例閣議に附議決定、名稱は現地方面の意向も入れ
て『興亞院』とし、當初の『支局』または『支廳』の名稱は『連
絡部』とすることとし、近衛首相は宮中に参内、右勅令案に就き
上奏御裁可を仰ぎ樞密院への御諮詢の手續きを執り、對支中央機
關設置問題は解決したのであつた。

しかして着々開設準備をすすめた結果十二月十三日の閣議で官
制、人事共に本極りとなり、十六日官報を以て興亞院官制、同連
絡部官制その他關係官制を公布、柳川總務長官以下の人事をも發
令、舊貴族院内の假應舎において事變の大理想達成に向つて輝か
しき事業を開始した。

興亞院官制案の概要左の如し。

興亞院官制

- 第一條、支那事變中内閣總理大臣の管理の下に興亞院を置き、左の事務を掌らしむ。但し外交に關するものはこれを除く
 - (一)支那事變に當り支那において處理を要する政治、經濟及び文化に關する事務
 - (二)前號に掲ぐる事項に關する諸政策の樹立に關する事務
 - (三)支那において事業を爲すを目的として特別の法律により設立せられたる會社の業務の監督及び支那において事業をなす者の支那における業務の統制に關する事務
 - (四)各廳の支那に關係する行政事務の統一保持に關する事務
- 第二條、興亞院に左の職員を置く

- 總裁 一名
 - 副總裁 四名
 - 總務長官 一名
 - 部長 三名
- 以下略

第三條 略

第四條、興亞院に總裁官房及び左の三部を置く

政務部、經濟部、文化部

興亞院に別に技術部を置くことを得、これを置きたる場合に
おいてその部の長は勅任技師を以てこれに充つ

總裁官房及び各部の事務分掌は内閣總理大臣之を定む

第五條、第一條の事務に關する重要事項に付關係各廳間におけ
る事務連絡處理のため連絡委員會を附置す(以下略)

第六條、總裁は内閣總理大臣を以てこれに充つ、院務を統理し
所部の職員を統督し列任官の進退を專行す

第七條、副總裁は外務大臣、大藏大臣、陸軍大臣及び海軍大臣
を以て之に充て、總裁を補佐す

(中略)

第二十條、興亞院には別に定むるところにより必要の地に連絡
部を置く

興亞院連絡部官制

第一條、興亞院連絡部は支那における興亞院の事務の連絡を掌

る、
連絡部を置く地並に各連絡部の名稱及び擔任區域は内閣總理大
臣これを定む

(中略)

第七條、内閣總理大臣は必要の地に連絡部の出張所を置くこと
を得

第八條、連絡部長官及び出張所の長は軍事及び警備に關係を有
する事項に就ては各其の地方に於ける陸軍及び海軍の最高指揮
官の區處を受く

尙興亞院では對支政策樹立上の最高諮問機關として興亞委員會
を設置することに決定、同時に左記官制を發表した。

興亞委員會官制

第一條、興亞委員會は内閣總理大臣の監督に屬し、興亞院總裁
の諮問に應じ興亞院の權限に屬する事務中重要事項を調査審議
す

興亞委員會は前項に關し興亞院總裁に建議することを得
第二條、興亞委員會は委員長及び委員五十名以内を以てこれを
組織す

委員長は興亞院總裁を以てこれに充て委員は内閣總理大臣の奏
請に依り關係各廳高等官及び學識經驗ある者の中より内閣にお
いてこれを命ず
かくて興亞院の職務は對支純外交を除く對支政治、經濟、文化

興亞院の創設

を處理し、あるひは新政權との協力問題、あるひは北支開發、
中支振興兩會社の監督、あるひは支那の民生に關する事務等を管
掌する事になつた譯である。
こゝにおいて興亞院と内閣、殊に正、副總裁を以てなされる五
相會議との連絡調整を如何にすべきかとの點に就て種々協議をな
した結果、陸相は五相會議の幹事として

(一)支那事變處理方針に關する限り従来の五相會議に代つて興
亞院會議を開き近衛總裁に有田、池田、板垣、米内四副總裁に
柳川總務長官を加へその最高方針を協議決定する

(二)興亞院所管事項外の一般外交問題其の他に關しては従來通
り五相會議において取扱ふ

ことに意見の一致をみたのであつた。決定した主なる人事左の如
し。

- 總務長官 陸軍中將 柳川 平助
- 政務部長 陸軍少將 鈴木 貞一
- 經濟部長 總領事 日高信六郎
- 技術部長 内務技師兼軍大教授 宮本武之輔
- 文化部長 柳川長官兼務のち千葉醫大教授 松村 謙
- 華北連絡部長官 陸軍中將 喜々 誠一
- 華中 陸軍中將 津田 靜枝
- 蒙疆 陸軍少將 酒井 隆
- 厦門 海軍少將 水戸 春造

尙同日近衛首相は興亞院設置に關し左の如き談話を發表した。
 本日こゝに興亞院官制及びこれに伴ふ關係勅令の公布を見、東亞建設の使命を擔ふ可き行政機關の整備を見たことは、今や支那事變が既に建設に着手すべき段階にまで進展して来た際において眞に意義あることと考へる。今次事變の終局の目的が武力的勝利のみに非ずして、支那の更生及びこれに伴ふ日滿支三國間の提携の上に立つ新東亞體制の確立に在ることは政府のさきに天下に宣明した所であるが、これが爲には優越なる武力に訴へて抗日容共の政權を覆滅せしむると共にその成果を援用し、支那民衆をして眞に日支提携の合理性と正義性を自覺せしめ、政治、經濟、文化の各般に互りて互助連環の實を擧げねばならぬ。しかしてこの事業たるや洵に至難複雑でありその手段もまた廣汎多岐に互る。畢竟國內各般の力を綜合使用して行くに非ざればその成果を期する事は難い。今日設置を見た新機關は正にこの要求に副はんとするものであつて、内には支那事變處理に關する國內諸般の力の綜合調整を圖り、外には連絡部を通じて支那現地との連絡を採り、眞に對支政策の樹立及び經營の中樞として活動することとなる。政府はこの新機關の整備に伴ひ一段と充實強化された態勢の下に東亞建設の企畫運営に萬全の努力を致し、以て一層力強く本事變究極の目的達成に邁進する決心である。

三 日支國交調整の根本方針

近衛三原則の宣言 帝國政府の東亞新秩序建設の具體的方策は十一月三十日の御前會議において最後の決定をみたのであるが、第三國方面には尙かつ我が關明せる東亞安定策が所謂門戸開放、機會均等主義に抵觸するかの感を懐くものあり依然として誤謬より脱出し得ざる状態にあつたので、政府としても従に所信關明を遷延するを許さず、一方國內に對しても國民の事變處理に對する心構へを徹底せしめる必要上、近衛首相は十二月十一日の大阪における講演會においてラジオを通じて帝國の所信を明かにする豫定のところ病氣のため中止したため諸般の情勢を考慮のうへ同二十二日午後九時二十分、近衛首相談話の形式をもつて日支國交調整に關する帝國政府の根本方針に就き重大聲明を發表した。同聲明は東亞新秩序建設は共同の目的に繋る日滿支三國の結合によつて達成されるものであることを明確にし、支那において帝國の眞意を理解してこれに協力せんとする具眼の士とは相共に携へて目標に向つて邁進するの帝國の態度を明示した。しかし帝國は支那に對して領土の割讓、職費の賠償を要求するものに非ず、帝國としては支那の主權を尊重するは勿論、支那の獨立完成のために必要なる治外法權、租界の返還に對しても積極的考慮を拂ふものである旨を率直に聲明した點畫期的重要性を有してゐるものである。

る。

近衛聲明（昭和十三年十二月二十二日）

政府は本年再度の聲明に於て明かにしたる如く、終始一貫抗日國民政府の徹底的武力掃蕩を期すると共に、支那における同憂具眼の士と相携へ、東亞新秩序の建設に向つて邁進せんとするものである。今や支那各地においては、更生の勢ひ澎湃として起り建設の氣運愈々昂まれるを感得せしむるものがある。ここにおいて政府は更新新支那との關係を調整すべき根本方針を中外に闡明し、以て帝國の眞意徹底を期するのである。日滿支三國は東亞新秩序の建設を共同の目的として結合し、相互に善隣友好、共同防共、經濟提携の實を擧げんとするものである。これがためには支那は先づ何よりも舊來の偏狹なる觀念を清算して、抗日の愚と滿洲國に對する拘泥の情とを一擲することが必要である。即ち日本は進んで支那が滿洲國と完全なる國交を修めんことを率直に要望するものである。

次に東亞の天地には『コメンテルン』勢力の存在を許すべからざるが故に、日本は日獨伊防共協定の精神に則り日支防共協定の締結を以つて日支國交調整上喫緊の要件とするものである。しかし支那に現存する實情に鑑みての防共の目的に對する十分なる保障を擧げるためには同協定繼續期間中特定地點に日本軍の防共駐屯を認むること及び内蒙地方を特殊防共地域となすべきことを要求するものである。

日支國交調整の根本方針

日支經濟關係については日本は何等支那において經濟的獨占を行はんとするに非ず、また新しき東亞を理解し、これに即應して行動せんとする善意の第三國の利益を制限するが如きことを支那に求むるものにも非ず。唯飽まで日支の提携と合作とをして實效あらしめんことを期するものである。即ち日支平等の原則に立つて、支那は帝國臣民に支那内地における居住營業の自由を容認して日支兩國國民の經濟的利益を促進し、且つ日支間の歴史的、經濟的關係に鑑み特に北支及び内蒙地域においては、その資源の開発利用上日本に對して積極的に便宜を與ふることを要求するものである。日本が敢て大軍を動かせる眞意に徹するならば、日本の支那に求むるものが區々たる領土にあらず、また戰費の賠償に非ざることは自ら明白である。日本は實に支那が新秩序建設の分擔者としての職能を實行するに必要な最小限度の保障を要求せんとするものである。日本は支那の主權を尊重するは固より進んで支那の獨立完成の爲に必要とする治外法權を撤廢し、且つ租界の返還に對して積極的なる考慮を拂ふに吝かならざるものである。これよりさき嚴重なる監視網をくゞつて重慶を脱出、ハノイの隠れ家にあつた汪精衛は、近衛聲明に相呼應して二十九日『日支和平勸告』の宣言を中外に發表すると共に、蔣介石並に國民黨中

央政治會議、中央執行委員會らに宛て電送したのであつた。

有田外相の敷衍説明 對支中央機關設置問題に關する意見の相違から遂に辭職した宇垣外相の後任として十月二十九日就任した有田外務大臣は、同年十二月二十九日、在京外人記者團との會見に先立つて、十一月三日發表された帝國聲明に就て、これをより明確に具體化する意味において左の如きステートメントを發表した。それは帝國の意圖する東亞新秩序建設が日滿支三國の政治、經濟、文化の各般に互る互助連環の關係を樹立するにあり、帝國主義的搾取を企圖するものに非ざる旨を明白にし、この遂行に當つての帝國の不退轉の決意を披瀝したものである。

外相ステートメント

十一月三日の帝國政府聲明により中外にこれを闡明したることく日本の冀求するところは東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設にしてこの新秩序の建設とは日滿支三國相携へ政治、經濟文化等各般に互り互助連環の關係を樹立することなり日滿支三國が緊密なる連絡體を作ることの必然性は政治的には赤化の魔手に對する自己防衛並に東洋文明の擁護の必要によりまた經濟的には世界一般に廣く行はるる關稅障壁の傾向並に經濟的的手段を政治目的に使用せんとする傾向に對し自衛手段を講ずるの必要に依り説明せらるべし。支那を半植民地的地位より完全なる現代國家にまで引上げ行くことは支那國民自體のみならず東亞全體の利益なり。しかして新秩序の建設即日滿支三國互助連

環の關係は日滿支三國が各自の獨立を維持し各自の個性を充分に生かしつゝ東亞保全の共同使命の下に固き結合をなすことに外ならず。日本はこの新秩序の建設が國際正義に適ひ、また東亞の平和に資するものなりとの固き信念を有するものにして從つてこれが遂行に對しては確固たる決意を有するものなり。政治文化方面における互助連環の關係に就いてはこれを後日の機會に譲りこゝは經濟方面に於けるそれに就て一言せんとす。新體制の經濟的方面は世界に自給自足の強大なる經濟單位の存するに對して日滿支の三國が經濟的方面における相互連環關係を結成し密接なる經濟的單位を強化せんとするに外ならず。かゝる關係は屢々經濟「ブロック」なる言葉によりて呼ばるゝことあるもこの場合の經濟「ブロック」は決して System of closed trade を意味するものに非ず。若しこの言葉にして關係國以外のものを全然排斥すとの意を含むものとせばかゝる言葉の使用は不適當なりと云ふべし。近來動もすれば所謂日滿支經濟「ブロック」結成の結果日本は外國の企業、資本貿易等凡ゆる經濟活動を東亞より排除せんことを考慮しをれりと解釋する向すくなしとせず。歐米における新聞雜誌の批評が多くこの如きものなることは遺憾なり。元來商業上の機會均等は從來日本の世界に向つて強く主張し來りたる所なるが事實は必ずしも日本の主張通りには行かず良質廉價の日本品は到る處差別待遇を與へられたり。日本は今日においても商業上の機會均等が各國の

繁榮と世界の繁榮とを來すものなりと信じをり。日本の經濟活動が世界の何れの部分においても原則として自由なる可きを主張するものなり。從て東亞よりして歐米各國の經濟活動を全然排除せんとは考へをらざるのみならず、かくの如きは不可能事なりとさへ考へをるものなり。しかし乍ら資源の少き日本、マーケットをその國內に持たざる日本を、また經濟的に力弱き支那としては相倚り相助けて必要物資の自給自足政策に必要な生産の確保を計り萬一の場合におけるマーケットの確保を期することはその存立上不可缺と認むるものにしてその範圍において東亞以外の外國の經濟活動の制限さるゝことはこれを認めざるを得ず。換言すれば將來支那における第三國の經濟活動は新體制によつて結合さるゝ三國の國防及び經濟的自主達成に必要な制限を受くべきものにして且政治的特權を伴ふものならざることを必要とする次第なるが、この種制限は各國何れもその必要を認めをるものにして英帝國、米國何れも同様なりと思考す。しかしてこの種制限が加へらるゝも尙廣汎なる商業的經濟的活動の分野が列國に開かれをるなり。日滿支におけるが如く或程度緊密なる相互關係に立つ經濟集團が存在し組織されたりとするもこれと他國との貿易は決して減少するものにあらず却てこれがため増加するものなり。この機會に一言し置きたきはよく人は滿洲國の場合につき列國がこれより閉出されたりと云ふことなり。右は非常なる誤謬にして今これを統計に見るに滿洲國

日支國交調整の根本方針

の總貿易は獨立後累年増加し獨立前後一九三〇年において一〇六、〇〇〇萬元たりしものが一九三七年には一五三、〇〇〇萬元となれり。しかして一九三七年度における英、米、佛三國よりの滿洲國の輸入額と獨立前のそれとを比較するにイギリスは三五・三パーセント、アメリカは九八・九パーセント、フランスは三三・二パーセントの激増を示しをりこゝ等三國の貿易は滿洲國の獨立により著く増進せられたるものと云ふを得べし。尙かゝる滿洲國の輸入の増大は機械、工具、車輛、金屬製品、木材等の建設材料において特に顯著して今後滿洲における經濟建設の進捗によりこれが需要は更に増加すべし。また統計表に現はれ居らざるもこれ等第三國より日本經由行はるゝ貿易をも考慮するの要あり。更にまた滿洲對米佛屬領との貿易額も累年増加しをることを注意するの要あり。要するに帝國の企圖する東亞新秩序の建設により東亞の天地は初めて恒久的安定性を與へられその結果列國の東亞における經濟活動も却つて確實なる基礎の上に置かるゝに至るべきことは余の確信して疑はざるところなり。

平沼内閣も近衛聲明を踏襲 支那事變も長期建設の段階に入り聖戰第三年を迎へた昭和十四年一月四日、近衛首相は今後の時局を收拾し新段階に處するためには新鮮鞏固なる舉國一致の新内閣を結成時局を擔當すべき最善の策とし關係各方面とも十分協議を遂げた上、緊急閣議を開き總辭職を決議するに至つた理由に

程につき説明「政府としては汪、王、梁氏をして新政権を成立せしめんとする支那民衆の興奮に信頼し、新政権の獨立自主性をあくまで尊重せんとするが、事變下過度の事態に鑑み新政権の要求あるにおいては積極的にこれが成立を支援し、四圍の妨害工作はこれを徹底的に排除し政戦兩路をつくして新政権の成立に協力すべきである」との意見を一致をみ、帝國政府の態度はこゝに決定した。

こゝにおいて決定された帝國の具體策は大要左の通りである。

- (一)帝國政府は汪精衛を中心とする新中央政府の成立準備を全面的に支持し、その速やかなる成立を期待する
- (二)新中央政府の成立に當つては、帝國は支那の主權を尊重する見地から支那自身の自主獨立の發展を期待するものである
- (三)しかし支那事變の續行中にそれにより誕生せんとする新支那の政治的機構、特に新中央政府の構成内容に關しては日本は重大なる關心を寄せてゐるものであつて、特に北支及び内蒙の特殊性の實現についてはこれを嚴に要望するものである
- (四)新中央政府成立の曉にはこれが國際法上の正式中央政府として直にこれが國際法上の承認をなし、久しく中絶してゐる特命全權大使を派遣する用意あること
- (五)帝國は新中央政府を交渉の正式相手方とし、事變處理をはじめ日支の全面的國交調整をなす、即ち今後遂行せんとする政

治、經濟、文化上諸種の事變處理方策は凡て新中央政府との間に締結し、國交調整を行ふものである

(一)支那の内政、文化、教育等に關しては帝國は、飽くまで新中央政府の自主獨立の政策を希望するも、必要なる援助、協力を與ふるに吝でない。しかしながら新中央政府に對しては政治顧問等を派遣するなど支那の内政に干渉するが如き印象を與へる援助は絶対排除する。但し中央政府の基礎確立に最も重大なる條件をなす財政金融上の點に關しては、新中央政府の希望ある場合は財政顧問を派遣する用意あり

(二)日支の經濟提携に關しては近衛聲明に示された如く日滿支三國の經濟結合を緊密ならしめるため、例へば現在北支臨時政府との間に實行しつゝあるが如き日支經濟協議會を兩國の共通機關として設置し、互惠平等の經濟提携を爲すの用意あること

日支國交調整基本事項の非公式交渉 以上の根本方針を基礎として汪側との間に日支關係を規正すべき非公式交渉が開始され昭和十四年末、解決點に到達、昭和十五年一月八日の臨時閣議で最後の決定をみ、新政府樹立に對する帝國政府の方針は全く定まり、經緯に關し即日內閣書記官長談をもつて公表、翌九日阿部首相は天皇陛下に拜謁仰付けられ奏曲奏上した。

內閣書記官長談

事變處理に關する帝國の方途に就ては果次中外に聲明せられたる所にして特に昭和十三年十一月三日の政府の聲明、次いで同

年十二月二十二日の近衛元總理大臣の談話においては征戰究極の目的を明かにせられ、爾來政戦兩略一貫してこの目的追求に努力し來りし次第なるが、この間支那における同憂異眼の士にして帝國の意圖に響應するもの逐次増加し來り、遂に昨年春季に入り國民黨の指導的地位にある汪精衛(汪兆銘)氏及びその同志は公然反共親日、和平救國を主張し帝國との協力的活動を開始し、爾來日々その努力を加へ最近に至り新なる中央政府を樹立するの氣運となれり、しかしてその志す所を詳察するに時局收拾の方向は概ね帝國の企圖する所に合致するものあるにより帝國としては今後凡ゆる努力を傾注してこれが成立發展を支援することゝなしたり

米内内閣も新政権育成に協力 第七十四議會も再會明けを迎へんとする昭和十五年一月十四日、阿部内閣は成立後僅か四箇月半で總辭職を執行した。阿部首相は議會開院式當日有志代議士會において決議された不信任表明に對しても強引の押しの手でもつて進む意向を持ち、已むを得ざる場合には解散をも辭せぬ積りでゐたところ、一月六日吉田海相より示された解散反對の海軍側の態度と畑陸相より

- 一、政府と議會勢力との現在の如き對立は事變處理の遂行に重大任務を有する陸軍として一日も黙過し得ず
- 二、特に百億豫算の成立をまつて新國防計畫の完遂を期する陸軍としては議會における政治的混亂のため豫算審議の上に支障

新中央政府樹立工作の進展

を來すが如き状態が惹起することを斷じて許容し得ず

三、政府はかゝる情勢の惹起を未然に防ぐため速かに適當該切なる處置に出るべきである

との見解を陸軍の總意として首相に進言し善處を要望したため、遂に阿部首相も十二日各閣僚に對し決意を示し諒解を求めると共に十四日「既定の方策を具現するに當り國務遂行の方法に就て意見の渾一を期し得ざる虞れがあり、目下進行過程の第一段階に入れる事變處理に不測の影響を及ぼしては輔弼の重責を全ふし得ざる結果ともなるのでこの際總辭職すべきである」として、その事情を奏上して骸骨を乞ひ奉り閣下に辭表を捧呈した。

再び蹶起を促された近衛公は出馬の意志なく畑陸相、池田成彬荒木大將に對しては陸軍部内に有力な反對があり政局收拾工作は異狀な困難に逢着したが、軍部、財界、前官禮遇者等各方面の意見を聴取した湯淺内府は軍事參議官、米内光政海軍大將を推すことに決意し西園寺公の意見を徴し十四日夕刻天皇陛下に拜謁仰付けられ同夜米内大將に大命は降下した。と同時に畑陸相に對して米内大將に協力すべき旨の優詔を拜したのであつた。陸軍では同夜

- 一、事變處理の建前より新内閣はこれを極力支持し前内閣において決定した支那新政府樹立に對する帝國の基本方針に則り着着これを實行に移すべく新内閣に協力する
- 一、新内閣によつて決定された明年度國防豫算を承認し國防の

完璧を期すると共に國內革新政策を遂行して戦時國內體制の確立を期し、戦後國民生活安定のための献身的努力を要望する旨を明かにした。組閣に着手した米内大將は十六日午前零時半組閣を完了し、同朝十時親任式を舉行、畑陸軍、吉田海軍兩軍部大臣は留任して米内内閣は成立した。議會再會明けを目前に控へ、新内閣は先づ十日間の休會延長を申入れ、政策の検討を急いだ。事變處理の目的達成を政策遂行の樞軸とせることは我國策が既に牢固として確定してをり、過去三代の戦時内閣と大差なきことが想像され、また當然と思はれたが、刻々と急變する國際情勢は同内閣の前途に多難を思はせるものがあつた。

米内首相は現地における中央政權樹立運動の展開に伴ふ現地事情に關し成立早々の一月十九日米内内閣初の興亞院會議を開き、事變處理の展開に關する詳細なる報告を聴取、前内閣の既定方針を踏襲して新中央政府の樹立育成に全幅の協力を與へる事に決定した。

かくて米内内閣は二月一日、第七十五議會に臨んだ。

衆議院の聖戰貫徹決議 二月一日再開された第七十五議會での米内首相の施政方針演説は組閣後初の施政方針の闡明として注目された。首相は

事變處理方針に就ては、不動の根本方針に基づき積極的努力を傾注し時局の解決を期し、正に成立せんとする汪精衛氏の新中央政府には全幅の支持と協力を與へると共に、歐洲戦争以來復

雑化した國際情勢に關し帝國はこれに介入せず、専ら支那事變處理に邁進、自主的立場に立つて國交の調整を圖る、東亞新秩序建設の使命達成のためには國家の總力を集中して國防力の強化を圖ることが喫緊の要務で、このため軍備の充實、經濟力の發展及び戦時國民生活の確保に努める

旨を述べたが、重大時局にあつて敢然國策遂行の大任にあたる斷乎たる氣魄を窺ふに足るものなき形式的なものであつた。しかるに第二日の二月二日登壇した齋藤隆夫議員が事變處理對策に就ての糾明に起つや同氏平素の假借なき論法より注目的となつた。

果然その論鋒は辛辣を極め、支那事變處理に關する不動の原則となつてゐる近衛聲明に對し疑義を提起し、所謂東亞新秩序建設の具體的内容に就て剔抉的質問を發したため、舉國一致邁進しつつある事變處理の根本原則に誤解を生ずるとして齋藤議員舌禍問題の紛糾は一箇月間に及び、同議員の除名處分によつて一應同問題は片附いたものゝ、恰も支那事變處理に關し國論分裂の如き感を懷かせ内外に及ぼした悪影響は少からずとして、三月九日町田民政黨總裁は衆議院本會議において朝野一致協力して聖戰目的貫徹に向つて努力すべき旨を闡明衆議院の態度を明かにした。

支那事變に對する帝國の方針は嚴として堅く炳として昭なり、衆議院は益々協力一體聖戰の貫徹に邁進し以て華國の大理想を顯現せんことを期す

右決議す

この決議に對して米内首相は特に發言を求めて近衛三原則を踏襲することに何等の變更もなき旨を明かにし、汪を中心とする新中央政府に對し帝國政府は速かにこれを承認し、支援協力を與へる旨を率直に確言した。

米内首相の歴史的聲明 一方更生新支那においては汪精衛領導の下に新政權樹立の工作は着々と進み、青島會議によつて最後の協議を終へ既成臨時、維新兩政府支援の下に還都準備も整ひ中央政府樹立の大綱を決する中央政治會議は三月二十日から開かれたのであるが、同會議開催を前に昭和十五年三月十二日、汪精衛は重大聲明を發表したので、帝國政府も間髪を入れず翌十三日米内首相談の形式をもつてこれに應へ、帝國の所信を明かにしたのであつた。

米内首相談

對立抗争の世を矯め仁愛光被の平和を顯現するはこれ我が華國の精神たる八紘一宇の大理想であり、東亞新秩序建設の理念もまた實にここに淵源する。宜しく各國家それぞれ安住の處を得て、近隣相携へて各々その本然の特質を尊重し相共に興隆發展し得るの道に就くべきである。しかしして斯くの如き東亞再建の聖業を進むるに當り、先づ成す可きは、日滿支三國間に道義に基く新關係を創造確立することである。いふまでもなくこの新關係は必ずや如上の精神に基づく東亞新秩序建設の理念に即す

新中央政府樹立工作の進展

べきものであり、さきに近衛聲明を以て善隣友好、共同防共、經濟提携の三原則を提唱せる所以である。嚮ふ所は既に炳々として瞭かである。帝國と新支那中央政府とが共に建設せんとする新秩序の具體方策もまた右近衛聲明に則るものであり、相互に國家民族の本然を尊重して相提携し互助敦睦の好誼を厚くし、相戒めて唯物赤化の侵襲を防ぎ、以て東亞の平和を確立し互恵の經濟を建設して長短相補有無相通の實を擧げんとするに外ならないのである。もとより帝國が支那の獨立の自由を尊重するものなることは累次の聲明において既に瞭かであり、事態の鎮靜に伴ひ事實がこれを證明するであらう。日支兩國は目下干戈に相見ゆと雖も、側隱と寛容とは其裡に存すべきである。ただ戰の永きに從ひ東亞の犠牲は愈々多いであらう。しかれども犠牲の多きを以てまた年月の久しきを以て永遠の天業を廢すべきに非ざること固よりである。今や帝國朝野の決意愈々固く、その國力は事變以來計畫的躍進を遂げ、容共抗日政權の迷夢醒めざる限り、如何なる長期の戦をも敢て辭するものではない。支那四億洵に人は多い。決して首者のみではない。先覺の士は既に久しく和平救國を唱へ、全民衆をその窮乏より救はんが爲め義を見て進み身を挺して仁をなしつつある。これ東亞の全局を顧念するもので正に志を同ふし道を俱にするものである。何人と雖もその志を壯とし其の道を尙しとせざるはない。何人にも汪精衛氏は其の己み難き愛國的情熱の發露より重慶政府

の抗戰建國が徒らに人民を塗炭の苦しみ陥れ、究極するところ支那赤化の途を急ぎつつあるの實狀を默視するに忍びず反共和平による救國を唱へ、重慶側のあらゆる壓迫と戦ひつゝ敢然其の信ずる所に従つて蹶起し、去就に迷へる民衆に對し光明の炬火を掲げ翕然として天下の信を聚めたのである。同氏の和平救國運動並新中央政府樹立工作が客年八月末上海に於て開催せられたる中國國民黨第六次全國代表大會以後急速に進展し今や愈々中央政治會議を開催し各既成政權、各黨各派及社會に聲望ある人士等一致の支持協力の下に近く中央政府の樹立を見んとするに至つたことは東亞和平再建の爲め帝國として誠に欣快に堪へぬ所であつて、滿幅の支援を惜まぬは勿論その樹立に伴ひ速にこれを承認するの用意を有するものである。しかして過去二年餘難局に處して一意民生の復興安定に力を傾倒し來れる各既成政權首腦に於ても汪氏とその根本理念を一にし協力して和平建國に邁進しつゝあるは深く感銘する所である。

今や將に中央政府の樹立せられんとするに方り汪精衛氏始め先覺具眼の人士が一致協力し速かに東亞の大業に邁進せんことを祈念して止まない。その眞摯なる努力は必ずや廣く、中外の協力支援を得て今次事變の齎らせる禍を轉じて永遠の福たらしむべきことを確信して疑はざるものである。

五 局部和平より全面和平へ

新中央政府の誕生 中央政治會議を了し準備全く成つた新中央政府は昭和十五年三月三十日、南京に華々しく遷都の式典を舉行、正統派國民政府として輝かしき第一歩を出すと共に新政府こそ新生支那を背負つて立つ合法的中央政府なる旨の宣言を發した。これに對し帝國政府でも直に左の聲明を中外に發表、全幅的支持を與ふる旨を表明すると共に、前首相阿部信行大將を特命全權大使に任命、日支國交調整のスタートを切つたのである。阿部、汪兩代表の間の日支交渉は七月五日の第一次會談より回を重ねること十五回、昭和十五年十一月三十日、世界注目の中に日支條約の締結をみたのであつた。

帝國政府聲明 (昭和十五年三月三十日)

それ生命は不斷に發展し事象は時時に變化す。國際の秩序又これに違ふ。帝國は常にこの内にありて國際正義の昂揚と人類平和の確立とに力をいたすものなり。今や支那新中央政府樹立せられ更生新支那の建設その緒につく。帝國政府はその成立を慶賀すると共にその發展に對しては屢次の聲明に基き全幅の協力と支援とを與へんとす。帝國は列國がまた克くこの嚴然たる事實を確認し速かに東亞の和平建設に寄與せん事を期待す。帝國が支那に希求するところは支那がよく道義に立脚して眞にそ

の獨立と自由とを完整し帝國と互に相携へて東亞新秩序の建設に邁進しその興隆を共にせんことに存す。帝國が東亞諸邦と共にその生存を確保せんがため特に支那資源の開發利用に關聯し特殊の關心と要求とを有するは固よりその所なり。しかれども帝國は東亞新事態に即する第三國の和平的經濟活動に對しては敢てこれを排除せざるのみならず、進んでこれ等諸邦と協力し共に國際外交の副利を享受せんとするものにして帝國がその作戰繼續中の異常事態にもかゝはらず多大の不便を忍び列國の在支權益の擁護に努力し來たれるの意實にここに存す。更生支那またその方途を一にすべきは帝國政府の確信する所なり。ここに更生支那の發足を見、東亞の情勢將に一轉期を畫せん。帝國は殘存容共抗日勢力にして迷夢尙覺めざる限りこれに對し斷じて矛を戟めることなきは勿論今後生ずる事あるべき一切の障礙に對し確固たる決意と不動の用意とを以てこれを克服突破し、よつて以て聖戰目的の完遂を期するものなり。

日支基本條約締結さる

近衛樞密院議長の新政治體制確立のための樞相辭任は同運動に對する各方面の動きに拍車をかけ、陸軍の態度は最も注目されてゐたが七月十六日畑陸相は米内首相と會見、新政治體制運動に對する軍の意向を傳へ、辭表を提出した。米内首相は辭意を決し同日夕刻葉山御用邸に伺候、辭表を捧呈した。成立當初において陸軍方面と施政方針において一致せざるものあり齟齬問題、外相放送問題等のつまづきは遂に米内内閣の

局部和平より全面和平へ

生命を奪つた。東亞新秩序建設完遂のため的高度國防國家の完成、外交の刷新、新政治體制の確立を實現すべき重大責務と、陸軍の出馬要望によつて翌十七日再び近衛公に大命は降下したのであつた。二十二日組閣を完了した近衛公は同日夕刻參内、直に親任式は舉行せられ、進行途上にあつた日支新關係の重大時局を負つて立つた近衛首相は日支條約締結に全力を注いだのであるが、十一月三十日歴史的日支條約締結の調印を了すると同時に左の如き聲明を發し帝國の責務の重大なるを強調した。

帝國は曩に更生新支那との關係を調整すべき根本方針を中外に闡明し支那に對し東亞新秩序建設の任務を分擔せんことを提唱せり。爾來年を閲すること二年、この間我が提唱に共鳴せる人士により樹立せられたる新政府は、皇軍武威の宣揚に伴ひ着着其の歩を固め來り今ここに、日、滿、支三國間の關係を律すべき締盟の成立を見るに至れり。抑も本條約の意義たるや世界を擧げて新舊秩序相交流する一大混亂期に方り、眞に人類相愛の大道に立脚し天與の分を守り有無相通じ共存共榮の世界新秩序建設の先驅たるを明かにするものにして東亞民族の欣懷これに過ぐるものなからん。しかりと雖も締盟の成立はことの初動に屬す其實效を收むるは今後に在り。のみならず支那には今尙ほ民族協和の大道を覺らず救國の大事を抗戰の一途に求め民を驅りて新秩序建設の前途を擁塞するの走狗たらしむる勢力の殘存するあり。他方世界混亂の結果による列國の功利的策動亦熾

烈を加へ、ために抗戦勢力をして益々その迷蒙を深からしめつ
つあり。東亞新秩序建設の前途尙ほ事滋きを覺悟せざるべから
ず。これに處する各般の對策準備は一に我が國民の聰明と努力
とに存す。由來光榮の存する處責務これに伴ふ。帝國はその責
務の愈々重大なるに省み萬難を排して東亞新秩序建設の大業に
邁進せざるべからず。

しかしして使命果して歸國した阿部大使に代つて條約締結後初の
駐支大使として本多熊太郎を起用、國交回復に着々成果を收め
つゝある。

重慶と直接交渉せず 支那事變勃發以來五年目、國際情勢緊
迫下の第七十六議會は一月二十一日再開された。休會明け第一

日、近衛首相は施政方針演説において大東亞新秩序建設の前途な
ほ多難を想はれるが政府は初期の目的貫徹に向つて邁進する旨を
闡明議會の協力を求め、翼贊議會はスタートしたのだつた。

外、陸、海相から最近の國際情勢と支那事變とに關聯してそれ
ぞれ説明あつたが、二十六日の豫算總會において中島彌次議員
の『支那事變は如何になるか』の質問に對して松岡外相は『蔣の
反省を求めた實質は南京政府と合流させると云ふことが根本であ
つた。遺憾ながらそれは成功しなかつた。今日は南京政府を承認
したのであるから、これを支那の中央政府として援助すると共に
今後も蔣介石に對し合流せよとすゝめる方針である。根本は全面
的に事變を終息せしめるにある』と述べ、更に東條陸相からも、

『新政府の育成については政府の方針に従つて強化して行く。重
慶政府をして反省せしめるためには彈壓を加へる。それによつて
考へ直すことがあると思ふ』と蔣政權の南京政府合流は必ずしも
不可能でないことを答へた。

更に三十日豫算總會において松岡外相は左の如く事變處理と和
平問題について對重慶直接工作は行はざることを明言した。

(一)近衛聲明の國民政府を對手とせずと云ふのは昭和十三年一
月の聲明だつたと思ふが十一月頃重慶政府が續然非を改めて日
本の方針に共鳴し來るならば對手とすると云ふやうになつた。

その變更された方針によつて、重慶政府とも現内閣が出来る前
に色々話し合ひに努めた形跡がある。現内閣になつてからも彼
に反省を求めた。その反省の眼目は主として汪精衛を首班とし
た南京政府と合流し、その基礎の上に我が政府と全面和平の商
議を遂げないかと云ふ考へだつたが、過日私が言明したやうに
なかなか反省しないのでたうとうその反省を待つて居れないか
ら實は南京政府を支那の中央政府として日支條約の締結によつ
て認めた次第である。これからどうなるかといへば既に南京政
府を中央政府として認めた以上もう一度反省して南京政府と合
流しないかと云ふ時期があればと期待してゐるが今度は同じ話
し合ひをするにしても南京政府を認めて居らなかつた時代の話
し合ひとはその點において重點の置き所が非常に變つて來ると
云ふこと、且未だ今はその時期でないと申上げて置く、重ねて

反省の手段は取つて居らない。(一)我が方としては一日も速か
に事變を終息せしめたいのであるから我々は若し重慶政府の人
々が反省して汪精衛政府と合流させることが出来ればと努めて
ゐるだけである。汪精衛は日本國政府によつて承認される以前
から極力重慶政府の人達を諭してこれと合作したいといふ希望
を持ち日本との全面和平が成立するならば死すとも可なりとい
ふやうな通電すら出してゐる。若し汪精衛氏が南京政府の首班
であることが日支間の一日も速かな和平を妨げるものなら進ん
で亡命するもその地位を去るもよし死するとも悔いがない。か
らういふ氣持であると承知してゐる。我が政府が南京政府を國民政
府として承認した後にも何時でも自分は重慶政府が反省さへす
るならば合流するに吝かでないといふ意思を明かにしてゐる。

對支機關一元化を考慮 外交の一元化を繞つて興亞院の存續
か、廢止かは注目的となつてゐたが昭和十六年二月十七日の衆
議院決算委員會において福田關次郎議員より『汪政權確立して南
京政府成立した今日、日本の支那關係行政機關が外務省、興亞院
と分立して對支工作を行ふ事は繁雜で、外務省に一元化する意思
はないか』との質問に對し大橋外務次官は

『政府及び外務當局において對支の機關が分立してゐることは
今日の支那の新情勢に對して十分検討されねばならぬ問題と痛
感してゐるので各關係當局が目下協議して各機關の一元的統合
について協議中である。しかしながら南京政府が確立しても目

下作戦中でもあるので、これに鑑み直に興亞院各機關を廢止し
て外務省に一元化出来るかどうか明言出来ぬが、こゝ數箇月中
に具體策を發表出来ると思ふ』
旨を確言した。

民間興亞諸團體の再編成 民間の興亞諸團體は興亞院の指導

の下に昭和十五年十一月興亞團體聯合會を組織し政府の興亞政策
に呼應して活動を續けてゐたが、事業團體と思想團體の兩者が雜
然として強力な國民運動としては未だしの感があつたので、これ
が再編成の必要を痛感した興亞院では職能別に再編成をなすこと
となり昭和十六年一月上旬より慎重考究中であつたが十四日の閣
議において政府は興亞團體の指導方針として

一、諸團體の行動は昭和十五年十一月三十日の日滿華共同宣言
において闡明せる趣旨に基くべきもので、巷間主張される大東
亞國內の國家聯合論の如きは斷じて許されず
二、國內における右の思想運動は大政翼賛會をしてこれに當ら
しむることに定め、興亞諸團體は翼賛會の指導下に新秩序建設
の運動を起すべきである

と指示したのであつた。これにより興亞院當局では政府決定に従
つて民間の興亞全體を悉く解體せしめ、打つて一九とし統一的
にしてかつ眞に強力な大興亞團體を新に組織し、しかもこれを大
政翼賛會の外郭團體としての性格をも持たしめ、支那民衆に對
してわが潑刺にしてかつ迫力ある大國民運動を展開せしめること

になつたのである。しかして一月十六日興亞院に興亞團體聯合會役員會を開き、新興亞團體の統一、結成方針に關し討議を重ねた結果、對支醫療を主とする事業團體と事業的性格から分離した思想文化團體とに二分し、翼賛會東亞部の傘下に統合することに決し、表面の華かさを排し、興亞、肇國の精神を凝結した興亞國民運動の實踐を目標として推進せしむることに決定した。

しかして聯合會側では同二十五日興亞院に常任幹事會を開き具體策を協議した結果、統合整理に關する左の申合せを決定した。

- 一、大東亞新秩序建設に關する啓蒙的思想團體を統一し、大政翼賛會が外郭團體として新に設立する大東亞建設協會(假稱)に協力す
- 二、經濟及び文化に關する事業團體はその事業内容を強化し、團體中同一種類のものは同一經營體內に統合す
- 三、大東亞建設協會(假稱)の職能、構成および大政翼賛會との關係、團體の統合要領は關係團體で協議するものとす
- 四、興亞團體聯合會は差し當り現在のまゝとし、將來實情に應じて改廢を行ふ

現存する興亞團體は三百有餘を算してゐるが、日支關係は聖戰第五年目を迎へ、しかも新國民政府の成立によつて戰爭と建設の交錯せる複雑化に對し、各種團體の性格も當然新段階に進むべく要求されて居り、昭和十三年十一月三日の帝國政府聲明によつて再宣言された趣旨の下に國民運動を展開することになつた譯であ

る。

戰局の進展

全面的和平尙遠し 事變は第五年目に入つた。聖戰三年有半赫々たる皇軍の戰果は戰線の延長四、六〇〇キロ、占據面積一六〇萬平方キロ、我が全土の二倍半、占據地以外の支那本土の半を超え、二、九〇〇哩の全支海岸、八〇〇哩の揚子江水路は我が海軍の完封するところとなつた。敵に與へた損害は、私の目撃せる遺棄死體のみにも二〇萬を越え、死傷、逃亡、歸順等を計上する時は總計三五〇萬以上と推算され、世界戰史未曾有の戰果を收めた。

皇軍は陸、海軍の密接なる協力の下に支那の中原を制して敵を僻地に壓し、常にその蠢動の機先を制してこれを粉砕した。昭和十五年における敵軍抗戰の特色は極めて消極退嬰的であつたことである。昭和十四年においては敵は數回に亙つて自主的反攻を企てたが、十五年に入つてからは前年末より引續き行はれた冬季攻勢の外、全面的に反撃したことは一度もなく、僅に八月北支において共產軍が稍々活潑に出撃したのみで、それも極めて局部的なものに過ぎず、蔣直系傍系軍は専ら防勢に終始しその戦力の低下を如實に證明してゐる。これに對し皇軍は敵の冬季攻勢の粉砕に

引續き各方面に寧日なき積極的作戰を實施し、更にその戦力を粉砕した。特に宜昌攻略並に陸海協同の連續奧地爆撃及び佛印進駐或は敵補給路の遮斷等その敵に與へた打撃は甚大であつた。

東條陸相は昭和十六年一月二十一日貴衆兩院において支那事變の現況につき説明した後進んで事變の見通しにつき陸軍の見解を闡明し「支那事變の前途に對しては赫々たる光明を確認してゐる。しかし東亞における全面和平の日は近き將來遽かに豫期し得ない」旨を確言し、統後國民の一層の奮起を要望した。陸相が再開議會の劈頭に行ふ戰況の説明は、事變以來の憤ひであるが、かくの如く事變そのもの、前途について陸軍としての見通しと所信を述べたことは今回初めてで、その理由として具體的に左の事由をあげてゐる。

敵軍の戦力低下 敵軍の戦力低下の状況については昭和十五年年度において敵の全面的反攻が殆ど皆無であつたが、更に敵の戦力を詳細に觀察すれば敵側軍隊の精神力の低下は最近著しいものがある。それは近時の各作戦に如實に示されてゐるところで、例へば交戦力に比して遺棄死體が減少し、逆に俘虜及び歸順兵が著しく増加して居ることもその現象の一つである。またその空軍は目下約二百機に過ぎず、ひたすら我が空軍との戦闘を避けてゐる状況であつて、その他裝備の不良、給養の悪化は甚だしきものがある。次に重慶の内部情勢につきみるに、我が中原制覇と全支に互る封鎖の強行により敵の困窮は日に甚だしきものありと判断さ

れてゐる。

經濟的窮乏 敵側財政は歳入の主體たる關稅、鹽稅、統稅の八乃至九割を失ひ、ために公債及び紙幣の増發の結果法幣は戦前の四分の一程度に下落し物價指數は戦前の一〇〇に比して昭和十五年一月には三三五であつたが十一月には一舉八五〇を示してゐる有様である。

國共相剋の激化 共產軍は十四年度より却てその勢力を擴大し、ために國共關係は十四年春以降兩者の暗闘深刻化し一時兩者首腦部間に一應の協定を見たやうであつたが、最近再び兩者の關係は悪化せんとしてゐる。

抗戰に驅るもの 以上の如く困窮の一路を辿りつゝある蔣政権が依然として抗戰を持續しつゝある所以については、幾多の原因あるべきは固よりであるが、その主なるものの第一は、第三國の援蔣政策を過大に評價しかつこれが將來の發展強化に大なる期待を懸けてゐることである。周知の通り米國よりは一億ドル、英國よりは一千万ポンドの借款を得たのであるが、本借款は從來の經濟的借款と趣を異にし多分に政治的意味を有するものであつて實際的效果は我が輸入路の封鎖強化等より見て多くを期待し得ないことは一般の觀測の一致するところである。第二は、我が國體及び國民性に對する認識不足より區々たる我が國內現象を見て今にも政治的乃至經濟的に破綻を來すやに判断して居ることである。かくの如く蔣側をして我が國を誤斷せしめて居ることは我々

としても大いに考ふべき點であらう。蔣側の現状は大體以上の通りであるが、今日なほ二百六十個師約二百萬の軍隊は依然として蔣の命を奉じ、彼の政治力また未だ權威を失つて居らず國際情勢また樂觀を許さざるものがあるから東亞における全面的平和の日は近き將來速かにこれを豫期し得ざるものがある。

一 昭和十三年の戦果

支那事變勃發以來昭和十三年末までの一年有半の間に、皇軍の精銳は東洋平和建設と暴戾なる抗日政權膺懲の聖戰に従ひ、曠古の大捷を博して我が武威を中外に宣揚し、赫々たる戦果を収め、その占領地域は我が全土の二倍を越え、敵に與へた損害は無慮二百萬に達し、その陸空軍共にこれが早急の再建は至難と觀らるゝに至つた。

十三年における主要なる作戦は徐州會戰、漢口、廣東の兩作戦であつた。我が軍は三月下旬より衆敵を蘇北、魯南地區に誘致抑留しこれを徐州附近に包圍殲滅して北支、中支にある我が軍の陸上連絡に成功し、兩者の統一運用により戰略上の地位を著しく高めたのみならず、隴海線の支配權確立及び津浦線の貫通は政戰兩略上における我が勢力の一大進展を遂げしめた。

徐州會戰に敗れた敵は主力を京漢鐵道沿線地區に退避して敗軍の再建に着手すると共に我が軍の武漢攻略を必至と豫想してこれが防備に全力を傾注した。我が軍は徐州會戰に引き続き逐次準備を

進め武漢攻略の基礎配置に移り、三方面より敵を壓縮して十月二十五日遂に漢口を占領したが、本作戦はその規模の大なる點において南京、徐州兩會戰を凌ぎ、作戦遂行上の困難もまた甚大であつた。就中作戦地は大別山系と揚子江とを境として三地區に分斷せられ、軍の協同聯絡上幾多の困難を生じたのみならず、戰場到處險峻なる山岳と、その間無數に散在する大小様々の湖泊とは防者のため堅固なる支障點を形成するに反し、攻者に對してはその行動を著しく阻害した。しかし我が軍はこれらのあらゆる不利不便を克服し巧妙なる統率の下に陸海協力、全軍一體、連日連夜勇戰奮闘して遂に曠古の大成果を獲得し、敵は約十五萬五千の死體を遺棄し、各種火砲その他莫大の資材を我が軍の手に委して潰走するに至つた。

この間我が南支部隊は陸海軍の協力の下に、十月十二日未明突如バイアス灣に奇襲上陸、旬日ならずして一六〇キロを突破して同二十一日早くも廣東を攻略して、敵の武器輸入の主脈を切斷したが、これが敵軍に與へた精神的打撃は極めて大きく、ために中支戦線の敵をして全面的に後退の已むなきに至らしめ、武漢もまた豫想より早く我が掌中に落ちるに至つた。

かゝる全面的慘敗にも拘らず、蔣政權は依然として長期抗戰を豪語し、舉國抗戰體制の完成を宣傳してゐるが、その内部に伏在する主戰和平兩派並に容共反共兩派の確執は漸次表面化し、十二月下旬遂に汪精衛一派の重慶脱出により從來鬱積してゐた内部の

弱點が曝露し、和平問題を繞つて國共の相剋暗闘は更に激化するに至つた。しかし蔣政權はなほ統制を保ちつゝ抗戰繼續に全力を傾倒し、ひたすら列國の援助を恃んで情勢の好轉を期待した。

漢口作戦

徐州會戰に敗れた敵は爾後京漢線沿線地區に主力を退避して敗戦の建直しに着手すると共に、我が軍の武漢攻略を必至と豫想してこれが準備に着手した。

武漢の地は名にし負ふ揚子江、大別山々系、廬山々系を始め江西、湖北、湖南の省境は群聳する高山峻嶺に圍繞せられ、漢口附近は更に無數の湖泊が散在して天然の要害を形成してゐる。蔣介石はこの天險に直系の精銳軍を始め、各地の部隊を總動員して百數十萬の大兵を配備した。しかも本作戦の發起點たる長江下流及び淮河より漢口に至る直線距離は六五〇キロに達しかのナポレオンのモスクワ遠征に比すべき稀有の長距離戦であり、鐵道の末端よりの距離は實に五〇〇キロに及び歐洲近代戰術の思想をもつてすれば殆ど不可能事と危懼の念をもつて迎へられたのであるが、我が軍は徐州會戰に引き続き逐次準備を進め、武漢攻略の基礎配置に移り六月十二日我が軍は陸海空軍の協同作戦により揚子江中流の敵據點安慶を占領し、ここに

武漢攻略戦の序幕 が切つて落された。即ち陸軍の揚子江水路作戦の高橋、佐藤兩部隊は海軍陸戰隊、江上艦隊と協力して上流へ上流へと進撃、六月二十七日馬頭鎮を、七月四日には鄱陽湖

と揚子江の交流する要地湖口を奪取し、目覺しき進撃振りを示した。この水陸空の長江作戦は世界戦史にも未曾有のことで陸軍部隊は山岳と泥土の中を、全線に互る敵の堅陣と五つの要塞とを突破して進撃、これに協力する海軍部隊は敵の長江封鎖による機雷、防材を排除しつゝ、遡江し、その悪戦苦闘は實に皇軍のみの堪へ得るところであつた。湖口を占領して敵の重要據點たる九江の總攻撃準備を整へた我が軍は十四日九江防守の堅壘と頼む獅子山砲臺及び梅花州陣地を奪取し二十三日鄱陽湖畔に敵前上陸を敢行して腹背より九江に迫り二十六日拂曉これを占領して一大前進據點を獲得した。水路作戦部隊の遡江進撃と相呼應して中野、長谷川佐野、原田等の北岸部隊は六月初旬廬州を進發して同十三日早くも桐城を抜き、悪天候と泥濘膝を没する悪路を突破南進を續け、月餘に亘り大別山々系の南麓周邊を繞つて各地に轉戦し七月二十六日大湖縣城を占領し、八月一日湖北省に進入して長谷川部隊は宿松を屠り、佐野、若松、原田の各部隊は二日界嶺を抜き、敵が六個師を集結し漢口防衛の第一線と頼み堅陣を構築せる黃梅を占領した。黃梅は漢口を距る一五〇キロ、揚子江を隔て、九江と相對し、この兩要衝の占領は我が武漢攻略作戦上一大轉期を畫するもので、長江南、北軍ともそれぞれ戦果を擴大しつゝ、本格的武漢攻略の態勢を整へて行つた。

當時敵は江北方面においては六安、霍山、廣濟附近を第一線とし約二〇個師十數萬の兵を配して白崇禧これを指揮し、また江南

方面においては、大冶、陽新、德安附近を據點として約四〇個師二十數萬の兵を備へ陳誠これが指揮をとり、更に、武漢には、直轄として一〇個師を留めたのであるが、その後この兵力は逐次増加して江北約五十五個師、江南約七四一五個師に達し

總兵力一三〇個師 七十數萬を算するに至つた。

かゝる敵状の下においてかねて贛州方面に待機中であつた我が優勢なる部隊は揚子江南岸地區における友軍の進撃に呼應して八月下旬、俄然行動を起し、太田、西大條、福榮、毛利の各部隊は二十八日一擧に六安を抜き、兩角、里見、添田、倉林の各部隊はその西南三〇キロの霍山を屠り大別山々系の東北側の敵の兩據點を確保した我が軍は酷熱の下、交通路は悉く戰車壕と地雷の連続であり、橋梁はすべて破壊されてあるといふ惡條件を克服して大別山山系の北側に巨歩を進め、六安占領部隊は浠河を渡つて西北に向ひ九月七日固始を占領、霍山占領部隊は西進、史河を強行渡河し敵が商城防衛陣地として大別山脈の北麓葉家集西方の山岳地帯に十二個師の大兵を配備し全山トーチカ陣地と化せる富金山、花烟山一帯の高地に對し九月三日より總攻撃を開始したが、敵は天險に據りて頑強に抵抗し激戰實に十日、遂に敵は我が軍の猛攻に支へきれず死體五、〇〇〇を残して商城方面に潰走した。この戰闘中北方より呼應した我が軍の有力なる末永、加藤、岡、中川、横山、大村等の快速部隊は同十六日大別山脈北正面の作戰據點たる商城を占領し敗敵を急追して西南進、大別山中央の要地沙窩を奪取

し、古來天險をもつて聞えた大別山脈も日章旗の下に蹂躪された。他方固始を占領した各部隊は曲河を渡つて西進を續け九月十七日夜大別山北麓河南省内の一大要衝たる光州を屠つて更に西進し京漢線の最大要地信陽の東側地區は我が軍の奪取するところとなつたので、同方面の守備に當れる敵中央第一軍長胡宗南は大いに狼狽しその麾下の精銳八個師を率ゐて信陽東方の五里店附近に皇軍を邀撃し、死力を盡して信陽街道の防禦に當りこゝに數日間互る激戰が展開されたが十六日夜我が先遣部隊は信陽南方五里の柳林驛を急襲して京漢線を遮斷し北轉して信陽に迫り、一方本隊も九日遂に五里店を陥れて

信陽城を包圍し

十二日朝完全にこれを占領し更に敗敵を西方に急追して漢口防衛の北面たる武勝關の西方平靖關に進出、大別山脈の分水嶺を突破し應山を攻略して絕對優勢の敵部隊に向ひ終始攻勢に出で大別山北麓に沿ひ一擧に三百キロの大躍進を行ひ一路漢口の側背に迫つた。

他方揚子江々岸及び江南の戰局は七月二十六日九江を占領した水路作戰軍の高橋、佐藤兩部隊、八月二日黄梅を陥落した佐野、若松、中野、長谷川各部隊は兩地を占領するや時を移さず戰果を擴大して行つた。蔣介石はこの江南方面の防禦を最も重視して、北は大別山脈の南麓から九江、瑞昌、德安、隘口街、星子方面に中央軍を主力とする五、六〇個師の大軍を配し、その後各地より増援して終には一〇〇個師以上に達した。江南の戰況についてみ

れば九江占領軍の一部は直に八月八日對岸小池口を占領して黄梅方面の友軍との聯絡を確保し、主力平田、石本、中島、松田等の諸部隊は同十九日九江を進發して西進し二十四日敵が三個師をもつて頑強に抵抗する瑞昌を陥れて武漢攻略の重要據點を奪取した。これより先南潯鐵道に沿うて蘆山西麓地區を進撃中の田中、木島、市川、園田、飯野等の諸部隊は約五個師の敵を逐次壓迫しつゝ南下し八月四日頃には大天山、馬鞍山の北麓鈔帽山南方の線に進出し、また飯塚、津田等の各部隊は海軍陸戰隊及び空軍と協力して同十四日鄱陽湖西岸に上陸、蘆山々系東南の要地星子を占領して揚子江々岸及び江南における我が軍は武漢攻略の態勢を整ふるに至り、作戰發起に際して長江下流附近にある兵團をもつて大別山脈、長江に區分せられたる長遠なる地區を敵と戦ひつゝ前進し極めて困難なる

三面包圍の態勢 の形成に成功した。この時に當り敵の虛を衝いて開始された廣東攻略戰は敵の統帥を全く錯亂せしめ武漢方面全防衛線の動搖を來すに至つた。

瑞昌、陽新、江南部隊の作戰地域は峻嶒なる山岳に據る無限の山地戰であるため困難を極めた。しかも敵は中央軍の精銳三〇個師に餘る絕對優勢の兵力をもつてこれに據つたのであるが、我が軍は巧みにこの山地を利用し戰闘と機動とを自在に編合し、牽制、包圍、迂回、奇襲、強襲、突破等あらゆる戰術の妙味を發揮した。即ち瑞昌占領後到着せる新銳部隊の一部藤岡、寺垣等の諸部隊は、

南進して八月三十日瑞昌德安街道の岷山を抜き、九江より南潯鐵道に沿うて一〇個師の敵を壓迫しつゝ南進中の園田、市川、木島、宇賀等の各部隊と呼應し遺憾なく作戰の妙を發揮して敵を南潯鐵道の要衝馬廻嶺に挾撃してこれを占領した。瑞昌より西進せる主力部隊は猛攻力闘、隨所に敵を撃破して九月二十日遂に江西省より湖北省に突入、その一部をもつて揚子江岸富池口の敵を攻撃し主力は陽新南方の木石港を屠りて西進し十月二日排市を、十八日武漢防衛の敵軍司令部の在りし陽新を占領、二十日大冶を攻略して戰況は著しく進展した。他方九月十六日瑞昌附近から新に攻撃前進した、我が有力なる部隊は江南の敵大縱深陣地を西南方に向け突破すること六〇キロ、十月五日未明忽然として著溪に現れ一撃の下にこれを屠り、武漢と南昌方面との敵の聯絡線を遮斷し江南戰局に一新局面を展開し、その一翼は富水を敵前渡河し十月十七日三溪口を占領し更に西進して粵漢鐵道に重壓を加ふるに至つた。

遡江作戰

先に九江占領に協力した海軍陸戰隊土師部隊は連日長江の濁流に沈められた幾百の機雷を掃除し、江岸の敵砲臺を制壓しつづ真に血をもつて水路を啓開して遡江を續け、瑞昌より西北方へ進撃せる陸軍の水井部隊と協力して九月十四日揚子江南岸の要衝馬頭嶺を占領、次いで海軍陸戰隊の續木部隊は十七日未明武穴下流に敵前上陸を敢行してこれを陥れ、陸軍の末次、秋富、秋元等の諸部隊と協力して八日間に互る激戰の後廿四月富池口を占領して遡江作戰は大いに進展したが、二十九日に到り北岸の最

各部隊も廣東々郊に肉薄した。わが軍は主力を廣東郊外に留め一部をもつて潰走する敵を追撃、一部をもつて市内の掃蕩に任じ日夜完全に廣東を占領し、上陸以來僅に十日

戰史空前の快速 をもつて世界の驚嘆裡に輝かしき凱歌を擧げた。廣東進撃は武漢攻略に相呼應すべきことは戰略常識を有する者の當然判断すべかりしところなるにも拘らず、蒋介石は全力を當面の武漢三鎮防衛に注ぎ、各地の軍隊をこの一戦に集中し、廣東廣西の正規軍もこの方面に動員せられ、廣東方面に約六箇師の兵を配置してゐたがわが奇襲上陸に驚愕なすところを知らず、戰意全く喪失して北方に退却するに至つたものである。虚を衝かれた蔣政権は周章狼狽して廣東省、市政府を北部の翁源に移すと共に第四戰區總司令何應欽を李濟琛に更迭し、繆培南を前敵總指揮に任命し、廣西軍二箇師、江西軍四箇師を廣東省へ出動せしめ懸命の防衛策を講じたが、廣東の防務余漢謀はわが空軍の猛爆と地上部隊の急進に對處するの暇なく、惠州、增城の守を失ふや十七日夜軍政各長官を招集して廣東防衛に對する中央の無能無責任を痛罵し、廣東放棄の外なきを述べて豫め國民の非難に答へ、省長吳鐵城らと共に蒼惶として逃亡し、廣東北方百キロの英德、翁源、龍門の線に敗兵を收容した。敵は退却に當り市内の重要公共施設建築物を悉く爆破して焦土抗戰の舉に出で、また敗殘兵暴民の放火掠奪によつて廣東市内は一時混亂に陥つたが皇軍の入城によつて漸次秩序回復し避難民も次第に復歸して、我が威武に服するに至つた。

軍需工業力に乏しき蔣政権はその補給の大部分を外國に待たねばならなかつたが廣東の陥落により日量九、〇〇〇トンの輸送力を誇つた粵漢線はその機能を喪失し、今やその補給は主として僅に日量一五〇トンの輸送力を有するにすぎない瀕越線に待たざるを得ざるに至り、到底百萬の大軍を養ふに足らず僅に遊撃戰における小銃、彈藥その他の輕資材を補充し得るのみでその抗戰力は激減するに至つた。

この偉大なる戰果を收めた南支方面軍最高指揮官は古莊幹郎中將、海軍部隊の最高指揮官は鹽澤幸一中將であり、また畏くも秩父宮殿下も南支方面派遣大本營幕僚として本作戰開始當初より戰陣にありて帷幄に御參畫遊ばされたる旨二十二日發表あり、戰線後の感激は更に昂つた。

廣東占領後、我が軍は更に戰果を擴大し、陸海軍の精銳部隊は緊密なる協力の下に二十二日珠江口に進入し、片野、渡邊、鈴木中村の諸部隊は二十三日三虎島、大角頭島を掃蕩し、同日夕海軍艦艇並に飛行隊の掩護の下に虎門要塞の全砲臺を占領し、直に溯江作戰に移り、江岸の敵を制壓し機雷群を排除しつゝ進撃を続け、二十五日蓮花臺を、二十八日長洲要塞を奪取し二十九日朝珠江四五ノットを突破して海軍部隊も廣東に入城し、また潭州水道を溯江せる部隊は二十六日要衝佛山、三水を占領し廣西よりの敵の増援を遮斷した。一方惠州の上流二〇キロの橫瀝壩において東

江を渡り山岳地帯を強行軍して深く敵の背後を衝いた長野、村田、山崎、片山の迂回諸部隊は二十三日廣東北方五六キロの從化に進出し廣東の背後を確保した。

優渥なる御言葉を賜はる

【大本營陸海軍部二十四日午後五時公表】
大元帥陛下には本日午後二時參謀總長宮殿下並に軍令部次長を宮中に召させられ左の如き優渥なる御言葉を賜はりたり。

御言葉

今次ノ南支作戰ニ方リ陸海軍諸部隊カ緊密ナル協同ノ下ニ周到ナル準備ト果敢ナル行動トヲ以テ速ニ廣東一帯ヲ攻略セルハ戰局ニ寄與スルトコロ大ナルモノト認メ深ク満足ニ思フ此旨將兵ニ申傳ヘヨ

漢口・廣東作戰の戰果

漢口、廣東作戰の戰果につき十一月五日大本營陸軍報道部より左の如く發表された。

漢口作戰々果

中支方面の諸部隊は約百三十箇師八十萬の敵を撃破し、引續き各方面とも敵を追撃中なり、目下判明せる彼我の損害（八月以降）左の如し

- 一、敵の死傷三五萬を下らず（日撃せる遺棄死體のみにて）
一九、〇〇〇、俘虜 三、二〇〇

戰局の進展

- 鹵獲品 自動車九〇、火炮三〇四（重砲六六、野山砲一二〇）
その他は歩兵砲、對戰車砲、高射砲、迫撃砲等）機關銃二二三、輕機關銃一、〇四四、各種砲彈八、〇二八、手榴彈八、七一五、地雷二六〇、小銃及び小銃彈無數、彈藥庫二棟（彈藥充實あり）

二、我が損害 戰死 六、一五二
廣東作戰々果 南支方面の諸部隊は今や廣東附近一帶の諸要衝を概ね占領せり、目下判明せる戰果左の如し

- 一、敵の死傷二〇、〇〇〇を下らず（遺棄死體のみにて）
三七〇、
俘虜 二六六
鹵獲品 戰車三六、自動車一五〇、火炮一六三（要塞砲八一、野山砲三八、その他は歩兵砲、高射砲、迫撃砲、對戰車砲等）

漢口、廣東作戰後における敵の情勢

開戰當初一九五箇師約二〇〇萬と稱せられた敵は屢次補充を行つたにも拘らず、師團數こそ激増して二一〇箇師餘を算するに至つたが兵力は約九〇萬に半減し、素質もまた低下し裝備も著しく劣悪化したものと判断されるに至つた。敵軍の配備は次の如くである。

- 一、五原、寧夏方面第八戰區——三箇師約三〇、〇〇〇
二、山西方面第二戰區——三一箇師約一三〇、〇〇〇

- 三、洛陽、鄭州方面第一戰區——二四箇師約一〇〇、〇〇〇
- 四、桐柏以南漢水方面第五戰區——四三箇師約一七〇、〇〇〇
- 五、長沙、南昌方面第九戰區——七四箇師約三〇〇、〇〇〇
- 六、湖口、蕪湖、杭州方面第三戰區——一九箇師

約一〇、〇〇〇
七、南支方面第四戰區——一〇箇師約九〇、〇〇〇

八、四川方面——四川軍六箇師約五〇、〇〇〇
なほ我が軍占領地域内においても主要都市、主要交通線を除いては各地に共產黨或は蔣政權使喚下の匪團が蠢動を續け、その兵力は北支においては津浦、京漢兩線中間の一〇萬を始め各地のものを含し約三〇萬、中支において約一五萬計四五萬と算せらる。

北、中支最高指揮官更迭

北支方面最高指揮官寺内壽一大將は軍事參議官に親補せられ、その後任として軍事參議官たりし杉山元大將が親補せられた旨十二月九日附で公表された。また中支方面最高指揮官畑俊六大將は十四年五月軍事參議官に親補せられ、その後任として現地某要職にありし山田乙三中將が親補せられた。

聖戰一年有半の戦績

綜合戦果 昭和十三年末期における皇軍の占領地域と蔣政權勢力範圍の地域との比較、支那全土との比率は次の如し。

- 一、日本軍占領地域と蔣政權地域との比率
- イ、面積 四七對一〇〇

ロ、人口 六八對一〇〇

二、日本軍占領地域と支那本土

イ、面積 三二對一〇〇

ロ、人口 四〇對一〇〇

三、日本軍占領地域と支那全土との比率

イ、面積 一五對一〇〇

ロ、人口 三九對一〇〇

四、支那軍の戦力

イ、戦前の總兵力 約二〇〇萬

ロ、現在の兵力推測 約九〇萬

陸軍の總戦果

支那事變發生以來一年有半、皇軍は支那各地において赫々たる戦果を収めてゐるが昭和十三年十一月末における北中支方面における戦線は實に全長二、九七五キロに及び、これを歐洲大戰當時數個の大國が參加した西部戦線約七九〇キロに比すると約四倍に達してゐる。南支方面は四二五キロで日露戦役における奉天附近の戦線二三〇キロに比較し遙に廣大である。占領地域も察哈爾、綏遠、河北、山東、山西、安徽、江蘇及び河南の大部、浙江、江西、廣東の一部に及び、その面積は一、五一五、六九六平方キロでわが全土の二倍強に上り、占領地以外の支那本土(三、二〇四、五八八平方キロ)との比は四割七分に達し、その人口は一六九、五〇九、〇〇〇人で占領地以外支那本土の人口

(二四八、三七二、〇〇〇人)との比は六八%に及び、わが戦績の偉大なるに列國はただ驚嘆してゐるのみである。十三年十一月末までの總戦果に關し大本營陸軍部では同十二月二十六日左の通り發表した。

敵の遺棄死體

中支方面

一、上海會戰當初より十月末日迄八一、〇〇〇

一、湖東會戰(太湖附近一帯、自十一月月上旬至同下旬) 五三、〇〇〇

一、南京攻略(自十二月月上旬至同下旬) 八三、〇〇〇

一、掃蕩期間(一月中旬、一五〇▲主として津浦南段方面二月

中九、五〇〇▲主として太湖西方南方討伐三月一三、二五

〇▲四、五、六月三、〇〇〇

一、安慶作戦(淮南作戦及び安慶) 六月二、六四七

北支方面

一、北支作戦前期(京津、津浦、京漢及び正太線方面)當初より十一月月上旬まで五三、四七〇

一、作戦後期及び掃蕩期間二月六、〇〇〇▲三月一七、五〇〇

▲四月二〇、九三七▲五月五、六五五

一、徐州會戰 自三月下旬至十一月二十四日一二三、〇〇〇

一、徐州會戰後黃河以南會戰(蘭封附近及び黃河以南一帯)自

五月下旬至六月五、三〇〇

戦局の進展

蒙疆方面

一、察哈爾作戦(内蒙方面)當初より十一月月上旬まで二二、五〇〇

一、掃蕩期間▲主として河曲作戦三月三、六〇〇▲主として陰山作戦四月一、五一〇▲主として和林方面五月一、七九〇▲

清水河偏關方面六月十五日まで一、三〇〇

北支方面(蒙疆を含む)

不斷の掃蕩戦(管内各地)自七月至十一月九九、七三八

中支方面

一、武漢作戦 自七月至十一月一九五、五六四

一、其他の掃蕩戦(管内各地)九、九四八

南支方面

一、廣東攻略其他(バイアス灣—廣東附近—珠江附近)自十月

十二日至十月末五、二〇三

一、戦果擴張及び掃蕩戦(廣東の四圍一帯の地域)自十月二十

三日至十一月末二、七三四

敵遺棄死體合計

八三三、二九六

なほ本表は判明せる遺棄死體のみにして敵に與へたる損害總計は少くも二百萬と判断せらる

我が方戦死者 合計

四七、一三三

鹵獲品

▲小銃(自動小銃を含む)二〇八、〇一七▲輕機關銃七、九八
 ▲機關銃(高射機關銃を含む)三、三六八▲拳銃七三〇▲青
 龍刀一二、一〇四▲銃劍五、六五二▲槍六〇五▲擲彈筒二七
 ▲重砲三三〇▲野、騎、山砲(十五種級野銃砲を含む)六八六▲
 ▲迫撃砲一、二一一▲機關砲二▲步兵砲一〇八▲高射砲九九▲對
 ▲戰車砲一九八▲戰車、裝甲自動車、自動車、自動貨車五六一▲
 ▲飛行機三▲機關車八九▲客車(貨車)二、二一九▲探照燈二▲
 ▲裝甲列車八▲無線器一七▲小銃彈(MGLG彈を含む)一三、
 五九六、一九二▲ダムダム彈二〇、〇〇〇▲手榴彈二、三〇四、
 〇三九▲砲彈八一七、九二一▲ガス彈四箱▲拳銃實包三七、一
 七〇▲擲彈筒榴彈六、〇二七▲鉛彈七、〇〇〇▲投下爆彈九▲
 ▲筒擲彈一〇一▲迫撃砲彈一、七一八、一七三▲地雷一五二▲機
 ▲械水雷六〇▲防毒面四、四三〇▲架橋材料二個中隊分▲馬一、
 七四三▲ガソリン四、〇〇〇▲大型民船三〇

陸空軍の活躍 陸軍航空隊活躍の跡を諸種の統計から見れば
 事變勃發より昭和十三年十一月半に至る陸軍航空隊の活躍延機
 数は約〇萬機、總飛行時間〇萬〇千時間、投下爆彈量〇千トンで
 特に飛行時間の多いのは、地上部隊に協力のための勞苦を物語
 るものである。しかしてその一部で行つた敵航空機撃滅でも十
 三年十一月半までに敵機撃滅數二〇〇機、地上撃破數百機を遙に
 超えてゐる。陸軍航空隊は支那大陸の大作戰に参加して前記の
 やうな大活躍をしてゐる一方、滿洲に有力なる一部が嚴存してソ

グエト空軍に對してこれが野望を封止しつゝ國土防空に任じてゐ
 ることを忘れてはならぬ。
 海軍の總戰果 帝國海軍は支那事變勃發するや(一)支那沿岸
 の交通遮斷に(二)沿岸要地の占領に(三)揚子江遼江作戰に(四)武
 漢、廣東攻略戰等に參加すると共に海軍航空隊また敵艦を撃破す
 ること九〇〇機に及び驚嘆すべき戰果を挙げつゝあるがこれが經
 過並に戰果に關し我が大本營海軍報道部は昭和十三年十二月三十
 日左の如く發表した。

聖戰第二年の海軍作戰の經過並に成果の概要左の如し。

一、支那船舶の交通遮斷並に制海權の確保 我が艦艇は前年
 に引續き北は渤海より南は南支那海に至る蜿蜒二千數百哩の支那
 沿岸において寒暑風濤と闘ひ具に辛酸を嘗めつゝ黙々として封鎖
 作戰に従事し、支那船舶の交通を遮斷すると共に我が海上交通を
 保護し在支作戰部隊をしていささかも後顧の憂なからしめたり。
 二、航空部隊による制空權の獲得並に陸戰協力 我が海軍航
 空部隊は前年に引續き陸上及び海上より支那全土に互る要地の空
 襲を行ひ、蔣政府が昭和七年以來營々として建設せし空軍並に各
 種軍事施設を潰滅して、全支の制空權を確保し、また水陸各方面
 における海軍部隊の作戰に協力する一方、我が陸軍部隊の作戰に
 協力し、敵陸軍に甚大なる損害を與へたり。
 三、支那沿岸要地の占領 海上封鎖作戰と關聯しこれを強化
 するため支那沿岸の要地を占領せり。即ち年頭一月十日先づ青島

港を占領して山東の敵の咽喉を抑へ、續いて芝罘、威海衛を占領
 して北支における敵軍需品の出入を封じ、五月初旬には南支有數
 の貿易港、華僑の港廈門島を攻略、同月下旬に北轉し隴海線の香
 吐口連雲港を占領し、北支の主要海港を全く我が手に收めたり。
 次いで六月には再び南轉、南澳島を攻略して汕頭港口を扼せり。
 その他中南支諸港の沖に位する諸島嶼を占領し、これらは目下海
 上並に内陸に對する作戰の據點として海軍部隊をもつて確保利用
 しつゝあり。

四、揚子江遼江作戰及び漢口、廣東攻略戰 海軍江上部隊は
 十三年六月上旬より武漢攻略に向ふ陸軍部隊に呼應し、蕪湖上流
 に向つて遼江作戰を開始し、江岸の敵陣地砲臺、江上の機雷沈船
 防材による閉塞線等あらゆる障礙困難を排除突破し、十月二十七
 日海陸軍協同武漢三鎮を完全占領し、更に江上部隊は遼江を繼續
 して十一月十二日岳陽に達せり。目下揚子江においては江陰より
 岳陽に至る六〇〇哩餘の江上の機雷清掃、江岸の殘敵掃蕩に従事
 しつゝあり。一方海軍南支方面部隊は陸軍部隊と協同して十月十
 二日バイアスに敵前上陸を敢行し僅か一旬にして十月二十一日廣
 東を攻略し、次いで海軍部隊の一部は珠江を遼江して廣東に達し
 同地下流の珠江を制扼せり。かくて敵の南方よりする最重要なる
 交通線を遮斷せり。
 五、以上作戰において我が海軍部隊により敵艦艇飛行機に與へ
 たる損害及び處分せる敵機雷數左表の通り。

(イ)支那軍艦船に與へたる損害(昭和十三年度)

艦名	噸數	被害狀況	被害地
永績	八六〇	擱坐、一月十八日我が海軍にて捕獲	揚子江
中山	七八〇	沈没、艦長以下多數戰死	同
楚泰	七四五	大破、浸水辛じて沈没を免る	閩江
楚石	七四五	沈没	揚子江
成寧	四一八	同	同
江貞	五五〇	擱坐、一月十六日我が海軍にて捕獲	同
民生	五一〇	同	同
總隻七	總噸數 四、六〇八		
小砲艦			
義勝	三五〇	沈没	揚子江
勇勝	二八〇	同	同
公勝	二八〇	同	同
仁勝	二六〇	同	同
威勝	二五〇	大破	同
肅勝	二五〇	沈没	閩江
撫勝	一八〇	同	同
正勝	三〇〇	同	同
海勝	二〇〇	同	揚子江
崇勝	三五〇	同	同

支那事變

長壽 三〇〇 同
綏芬 一八〇 同
總隻數 一二 總トン數 三、一八〇
(備考) 總計十九隻、七、七八トンにして内三隻は我が海軍の手にて捕獲せり、右の外兩江流域にて廣東海軍に屬せる小砲艦三隻を砲撃々沈せしめたるもその艦名不明なり
(ロ) 敵飛行機に與へたる損害

十二年 確實 不確實 累計
七月末迄 五二六 五二 五七八
八月末迄 七六七 一五八 九二五
九月末迄 一一九三 二一〇 一、五〇三
(備考) 我が方損害十二年 六三 十三年 五〇 計 一一三
(ハ) 敵機雷處分數
揚子江方面 二、三一二(内浮流機雷三三六)
バイアス灣及び珠江方面 四一七

我が海空軍の戰果 事變以來のわが海軍空軍の偉大なる戰果につき大本營海軍部は左の如く發表した。

支那全土の制空權獲得を目標とする我が海軍航空隊は昭和十三年夏以來漢口、廣東兩作戦に協同すると共に幾度か奥地敵航空基地を空襲、敵空軍撃滅に努め、十月末日遂に下表の如く敵機損害一、四〇〇機を突破するに至れり。この間我も亦一一一機の貴き犠牲を拂ひたりと雖も、今や支那全土を悉く我が爆撃園内に收む

るの偉業を完成せり。また廣東、漢口兩作戦においても海軍航空隊の協同は我が南支派遣軍をして破天荒の急進撃を實施せしめ、また德安西方においては我が陸軍と對峙せる敵を急襲して敵屍四萬山腹を覆ひ谷を埋むる空よりの殲滅戰を展開する等、上陸作戦溯江作戦、野戰、山岳戰に協力、制空威力を存分に發揮し、敵をして廣東、武漢の放棄に至らしめたる重要な原因を爲せり。既に敵空軍は漢口、孝感、廣東の主要基地を失ひ南昌潰滅し、前線航空基地衡陽また我が連日の空爆に死相を呈し來れり。今や敵空軍には事變當初連日連夜上海を空襲せる如き積極的意志なく、ひたすら我が空襲を免れんとして梁山、成都、昆明等奥地のみを流通しつゝ勢力保全に汲々たる情況に轉落せり。しかれども敵空軍今尙百數十機を保有し銳意第三次空軍建設に進まんとしつゝあるを以て我方また完全なる敵機撃滅を目標とし、更に邁進せんとするものなり。尙彼我飛行機損害比較數左の如し。

Table with columns for dates (e.g., 六月末迄, 七月末迄), actual counts (確實), estimated counts (不確實), total counts (累計), and damage (我損害). It includes a sub-section for '地上爆破' (ground bombing).

一 昭和十四年の戰果

支那事變勃發以來二年有半、我が軍の占領地域は帝國全土の二倍半に餘り、抗日支那軍に與へた損害は實に無慮三〇〇萬に達した。武漢、廣東失陷後は敵軍の戦力も開戦當初に比較すると四分の一以下に激減したものと推定されたが、蔣政權は陸空兩軍の全面的再建を呼號し十四年末に至りそれが整編完備したと豪語してゐる。しかし實際の戦力においては累次の戦績の示す如く到底皇軍に敵すべくもないが、敵は内軍民の士氣を鼓舞し、外援將國家群に抗日軍の健在を誇示宣傳せんとする政略的目的を主として、四月、七月、九月と三回に互り攻勢を企圖したが、その實質はやや大なる遊撃戰の域を脱せずして所在の我が軍の猛反撃を受けて何れも潰滅し去つた。しかし所謂冬季攻撃はその規模及び企圖が相當積極的なもので蔣政權が十四年六月以來實施した第二期編成がほぼ完成し、これが成果に對する過信、新中央政權樹立運動の進展と六中全會前後より表面化する重慶政權内部における和平氣運の醗酵、抗戰前途に對する危懼の瀰漫、列國の援蔣冷却却その客觀的情勢は逐次悪化の傾向を高めつゝあるため、重慶はこれが類勢挽回のため、この冬季攻勢に大なる期待をかけ、北中南支各方面一齊に出撃を開始したものである。蔣介石は冬季攻勢開始に當り、日本軍は進攻能力既に消磨した、これに反し黨軍の再建完成せりとなし、守を轉じ攻となす絶好の機會なりと激勵訓示し

戦局の進展

た。しかし敵軍の兵力配置、資材の準備等より推斷して、冬季攻勢も敵の畫期的總反攻作戦とは認め得られず、蔣介石の期待に反して各方面とも我が猛反撃を受け、多大の損害を蒙つて敗退し、その企圖ははかなく挫折するに至つた。一方ソ聯は皇軍の徐州、漢口作戦を牽制すべく、五月北滿國境ノモンハンに激戰を展開した。事件は五月十一日ソ蒙軍が國境守備の滿軍に對し不法攻撃を行ひたるに端を發し、爾來僻遠不毛の地方ではあるが關東軍は國境防衛の絶對的要求から數次のソ蒙軍の攻撃を撃退し遂に七、八月兩月に互り「ハルハ」河畔において大部隊をもつて激戰を交ふるに至つたのである。しかし九月に入り停戰の氣運を見、同十六日遂に停戰協定の締結を見るに至り爾後現地交渉は圓滿に進捗し同方面は平穩に経過した。しかし國境確定については相當の困難を豫想せられたのみならず國境の他の部分におけるソ聯側の不法行為は依然としてその跡を絶たずノモンハン停戰協定成立後においても既に數十件を算へて居た状況であるから我が方の對ソ蒙監視は依然として些の弛緩を許さず關東軍は嚴然たる態度をもつて引續き國境警備の重任に邁進した。海南島攻略戰 廣東を占領して海南島を攻略せざるは畫龍點睛を缺く憾みありとは全國民の聲であつたが、こゝに機熟して斷乎海南島の要地を占據して南支封鎖作戦を一層強化し、敵の武器輸入路たる安南海灣の監視を更に嚴にすべく、二月十日午前三時我が陸海軍の精銳

部隊は緊密なる協同の下に海南島の北岸澄邁灣を奇襲無血上陸に成功した。敵は狼狽して大した抵抗も試みず南山方面に逃走した。我が上陸部隊は約くが如き炎天下を猛進同十時早くも瓊山を屠り正午頃同島の最大都市海口を完全に占領した。澄邁灣において陸軍部隊の上陸を援護した海軍各艦艇は引續き午前八時海口灣に突入し朝霧と複雑な海口港の水路を巧みに征服して海岸深く迫り秀英砲臺に猛烈な砲火を浴せて沈黙せしめ水路を啓開し午後二時半海口に突入した。同島北部の戦果擴大と共に海軍部隊は同十四日周密作戦の下に同島南部三亞港附近の奇襲上陸に成功し陸軍部隊は炎熱を冒して猛進を續け正午榆林を陥れ、同夜半崖縣城を占領した。爾來陸海軍部隊は協力して隨所に敵を撃退し、その據點を占據して討伐戦は大いに進捗し、四月中旬をもつて全島は我が軍の制壓下に置かるゝに至つた。

海州作戦

前年五月徐州會戦に敗退した敵の一部は江蘇北部において漸次態勢を整理し、于學忠を總司令に韓德勤、繆徵誠の率ゐる五、六箇師並に保安隊二萬をもつて魯蘇(山東、江蘇)戰區を形成し海州を本據として我が治安工作を亂し、北支、中支兩政權の連絡を遮断すべく策動するに至つた。我が軍は二月初旬より開始された京漢線、津浦線中間地區の匪賊大掃蕩戦に引續き、同二十五日より海州を目標とする包圍作戦を開始した。即ち沂州を進發した山本部隊は二縱隊となり所在に敵を撃破しつゝ、沂州、海州街道を東南

に向つて進撃し、中島部隊は新安鎮より隴海線に沿ふ地區において于學忠直轄の一箇師の敵を撃破して東進、澤田部隊は省遷より東進して沐陽附近の頑敵を掃蕩し敵の退路を遮断した。一方海上を航行した平野部隊は二十六日安東衛附近に敵前上陸を敢行し優勢なる敵の壓迫を排しつゝ南進し、生島部隊も亦海軍の協力の下に三月一日海州東南の灌河々口に敵前上陸を決行、附近の半永久陣地を攻略した後水陸兩路を西進して南方より海州に對する包圍陣を形成し、一部を更に西方に分進せしめ敵の退路遮断に力め、連雲港の我が海軍もまた密接に本作戦に協力した。かくて二月末より三月二、三日にかけて我が包圍圈は愈々壓縮せられ四日遂に抗日の牙城、遊撃の根據地海州は我が軍の占領するところとなつた。なほ本作戦に策應した堀井、立古兩部隊は運河に沿ふ地區を前進し二月二十八日泗陽を陥れ、三月二日韓德勤軍の本據淮陰、淮安を奪取し更にその南方に向つて戦果を擴張した。本作戦により海州鹽を確保すると共に徐州と連雲港との連絡が回復せられ、隴海線も我が軍によつて修復せられ十月三十一日開通した。

安陸作戦

我が武漢攻略戦により撃破せられた李宗仁軍は漢水の線に敗退し第五戰區として頽勢を整備しつゝあつたので、武漢を中心とする地區を掃蕩中であつた我が軍は德安、應城、京市の第一線警備線より漢水に向つてする作戦を開始し、山田部隊は二月廿三日早市より西南進して同日夕漢水北岸の要衝岳口鎮を陥れ、佐久間、

加藤等の快速部隊は西進して二十四日百廟集を抜き、二十六日雁門口南北に互る高地線に據る約三箇師の敵を撃破して漢水河畔に進出し、三月二日舊口鎮より北方に轉進、五日第五戰區副司令張自忠の本據安陸に肉薄した。南部々隊は二十五日應城を進發、京山西方及び官橋鎮附近の最新式ヲ聯型の堅固な陣地に據る約二箇師の敵に對して夜暗を利用する兵力轉用によりその背後を衝いてこれを攻略し、五日午前五時半安陸に突入占領した。一方德安、應城より西進した近藤、北島兩部隊は二十六日六房嘴に進出、その西方山地一帯に堅固な陣地を占領せる約二箇師の敵を撃破し、五日長壽店に進出、安陸方面より北方に向つて退却中の敵の退路を遮断した。三月六日までの戦果は敵の遺棄死體一、七五〇、俘虜八五、我が戦死者四名である。

南昌作戦

武漢作戦の末期德安、善溪方面において敵を撃破した我が軍は洞庭湖、鄱陽湖を結ぶ修水の線に進出して對岸の敵と對峙した。敵は第十九集團軍長羅卓英の指揮する十七、八箇師をもつて武寧以東の地區に堅固なる數線陣地を構築して我に抵抗を策しつゝあつた。三月十八日我が一小部隊は永修下流において敵前渡河を決行し續いて廿日未明永修及びその上流において一齊に敵前上陸を敢行、修水河南岸の敵陣地に突入果敢なる追撃戦に移つたが、就中戦車隊の急進物凄く奉新に進入して敵の退路を遮断した。この間の戦果は遺棄死體五〇〇、兩獲品火炮三九門、自動車一〇、馬匹

五〇〇に上つた。第一線歩兵部隊も敵を追撃して二十三日夕には奉新、萬家埠の線に、二十六日には贛江の線に進出、一部隊は贛江を強行渡河して浙贛鐵道を遮断し、主力部隊は二十六日贛江を渡河して續々南昌に肉薄し猛攻撃を加へて翌二十七日夕刻これを占領した。主力部隊の綜合戦果は、敵の遺棄死體八、七〇〇、俘虜二、八七〇、兩獲品重砲九、野山砲三八、迫撃砲三七、重機關銃八二、小銃二、一五〇、自動車一三、馬匹八〇〇等、我が損害死傷五〇〇名である。一方武寧方面においては、その東北方の山岳地帯一面に陣地を構築せる二五、〇〇〇の敵に對し、二十日以來包圍攻撃を加へ、天嶮と人爲の障礙を克服して二十九日午前七時武寧を構築した。また鄱陽湖方面に活動中の志摩部隊は海軍部隊との協同作戦の下に二十三日湖畔の吳城を占領した。本作戦に協力し杭州灣方面の我が軍は廿日夜半杭州西南方長沙島に敵前上陸を敢行し島内守備の敵に大打撃を與へた。

四月攻勢の撃挫

武漢の大敗戦以來敗殘の兵を整理し、軍隊の再編成に懸命の努

力を拂ひつゝあつた蔣介石政權は、汪精衛一派の和平運動の展開につれ重慶方面の民心の離叛は益々深刻となり、軍隊の士氣は愈々感阻喪するに至つたので、對外的にもソ聯英米佛等の對蔣援助強化の一策として蔣政權軍の意氣を誇示するため、四月初旬を期して北は綏遠方面より南は廣東方面に互り全面的攻撃に轉じ日本軍を一擧に撃破せんとする無謀なる計畫を進めた。

我が軍は敵の機先を制し事前にその企圖を破潰するに決し、蒙疆、山西、漢水、南昌、從化、花縣方面において二、三月の候、進攻作戦を敢行し、特に『四月攻勢』の主攻戦區たる南昌、長沙の第九戦區に對し徹底的打撃を與へ、敵の攻撃計畫を全く水泡に歸せしめた。即ち蒙疆包頭方面においては、傅作義の系統に屬する石寶山、馬來仁の遊撃隊、門炳岳の第二路軍等によつて京包線の奪回を企圖しつゝあつたのに對して、我が軍はその機先を制して十日行動を開始し快速を利用して疾風迅雷陰山々脈を抜いて後套の要地安北城を奇襲して十一日夕これを占領し敵の企圖を粉碎した。

北部山西においては河曲より寧武方面に進出し來れる何柱國、趙承綬軍に對し、我が太田部隊は十日突如五寨を急襲して敵の企圖を破潰した。南部山西においては九日夜半より十日朝にかけ不統一ながら全線に互り來襲したが、各地とも待構へた我が軍のために撃退された。開封方面においても十二日朝約一千の敵開封城に襲來、迫撃砲を亂射したが我が軍はこれを邀撃、激戦數刻の後これを撃退して更に西方に壓迫した。漢水方面においては二月下旬我が

が作戦開始さるゝや蔣介石は襄陽にある李宗仁に對し日本軍の右側背に對し大洪山方面より攻勢に轉ずべく命令し逐次東南方に進出中であつたので、我が軍は四月七日以來應山西方の山岳地帯において攻撃を繼續し十二日遂に敵の抵抗を撃破した。

江南においては南昌、武寧攻略後もなほ追撃の手を弛めず隨所に敵を撃破して南進、十一日西衝市漢街及び高安を占領し敵の南昌、長沙守備陣を破壊した。南支方面においても廣東地區に蠢動中の敵に對し我が軍は雨期明けを待つて大討伐戦を開始し、敵は機先を制せられ多大の損害を受けた。この間氣息奄々たる敵空軍は健氣にも本攻勢に参加し十一日七機をもつて虔郷上空に飛來し爆弾を投下したが我が軍に損害なく却つて我が空軍のために基地を爆砕されてしまつた。

本作戦の綜合戦果は、交戦した敵の延兵數約二六〇、〇〇〇、主なる交戦回數四〇〇回、敵の遺棄死體四七、五〇〇、俘虜約三〇〇その他で、我が戦死者は四一八名であつた。

かくの如く四月攻勢の實績を検討すれば、蔣介石以下各將領とも意志堅固ならず且出動した部隊は殆ど雜軍のみであり、彼等もその勢力保持のため、上級指揮官に對する報告のため申譯的にその一部を進めたのみで、全部隊を擧げて出撃したものなく、彼等の豪語した『四月攻勢』は龍頭蛇尾に終り一として目的を達したもなく、徒に蔣政權の弱體を暴露しその没落のテンポを早めたにすぎなかつた。

襄東作戦

漢口西北方安陸方面を掃蕩、漢水の線に進出せる我が軍は、五月初めより更にその北方孝感方面山地一帯を占領し、われに抵抗せんとする敵に攻撃作戦を開始した。敵は第五戰區司令官李宗仁麾下の覃運芳、劉汝明、張自忠、劉鼎和等の率ゆる十數箇師であつたが、湯恩伯軍の増援により二十箇師を算するに至り、約半歳を費して數線に互り堅固なる陣地を構築してゐた。作戦地は大部分西部大別山中標高概ね一〇〇〇メートル内外の山岳重疊地帯、中支は既に初夏の候、大陸の炎暑は參加將兵の辛苦を倍加した。

五月一日應山西方浙河市を進發した高野、川侯、加藤、澄田等の諸部隊は、同地北方山地に堅固なる陣地を占める敵第一二三、第一七三師に對し攻撃を開始した。敵は湯恩伯軍主力の増援を得て頑強に抵抗したが、攻撃を續行すること六日、敵の第四線陣地を突破して八日江頭店に、十二日新城附近に到達した。信陽方面より西進せる鈴木部隊も九日小村店にて敵一四三師の一箇旅を撃破し進撃を續けて十二日西新集附近に進出した。これと呼應して安陸方面より前進を開始した柴田、山村、倉林及び古閑、南部、山田、近藤等の諸部隊は五日長壽店、周家集東西の線に陣地を占據せる敵を撃破追撃に移り八日には早くも孝感西方平坦地に、九日東方に轉じ孝感北方太平鎮に進出、敵主力の背後に殺到せるため敵の第一二二師、第一八一師、第九師、第一二七師の後方機關は潰滅的打撃を受け、十四日我が包圍陣を脱出せんとする敵第三

五師、第三六師、第八一師、第一二二師、第一二三師、第一二六師、第一二七師の大部隊を雙河鎮西方地區において潰亂に陥らしめ偉大なる戦果を收めた。別に安陸方面より續行中の加藤、綾部等の快速部隊は退路を遮斷するの企圖をもつて急進し九日唐河右岸に進出、十日更に白河を渡つて新甸舖に達した。かくて十一、

二日各部隊は西新集、三合店、雙河鎮、鄭庄の線に進出、敵を概ね包圍するの態勢を完了して大敵を捕捉殲滅し、また更に北方に迂回せる快速部隊は十二日泚源(唐縣)に達し逸脱せんとする敵を更に包圍して多大の戦果を收めた。本作戦は從來とはその趣を異にして要地占領を企圖するものではなく敵軍主力を捕捉殲滅するにあつたが作戦開始以來僅に二週間にして我が卓越せる統帥と將兵の果敢なる奮闘によつて完全にその目的を達したのである。

汕頭作戦

汕頭は由來支那六大港の一にして對外通商上重要な地位を占めてゐたが五大港が次々にわが軍に占領され蔣政權の對外重要輸血路が斷絶するや汕頭唯一の残された港として福建、江西、湖南廣東四省の廣大なる輿地を擁し蔣政權下にある全海港輸出入額の四割を占め、抗日支那の咽喉をなしてゐた。六月二十一日、上海、鼓浪嶼、天津等における租界問題が全世界の視聽を集めつつある時、恰もわが毅然たる決意を表明するかの如く、我が陸海軍の精銳部隊は曉霧を衝き極めて緊密なる協同の下に敵前上陸を敢行し、海軍部隊は午前五時半早くも敵の抵抗を排し汕頭港を扼

する諸島嶼を占領した。北岸新津港方面に上陸せる我が陸軍の主力の先頭部隊はトーチカ陣地による敵の監視部隊を急襲してこれを撃退し、南岸達濠島方面の敵前上陸に成功せる部隊は直に進撃して汕頭對岸の角石を占領した。市内を準備せる敵廣東軍獨立第九旅の一團及び保安隊一千は堅固なる防禦物に據り卑怯にも外國權益を利用して抵抗したが我が軍は午後三時外周の要點を占領して汕頭の死命を制し、一部隊は直に市内の掃蕩を開始した。また韓江分流を遡江せる部隊は午前九時蒼埠を占領し敵の北方退路を遮断した。なほ海軍部隊は午前八時半港内に進入を開始し、兩岸の敵を制壓しつつ、多數の機雷、水中障害物を排除し一路邁進し一時崎嶇砲臺に據る敵を撃滅し、午後三時全水域の掃蕩を完了した。

本作戦における戦果は、敵に與へたる損害、遺棄死體目撃せるものみにも六〇〇を下らず、俘虜九八、小銃一〇〇、迫撃砲一、彈藥六、〇〇〇發、我が損害戦死二二、戦傷四四名であつた。汕頭陥落によつて蔣政權はその最大の補給路を閉鎖されるのみならず、同地方はまた南洋華僑の主要なる出身地で二四〇萬人に及びその送金額は年一億に達するものと推定されてゐたので汕頭の占領は援蔣資金ルートの遮断を意味し輸出入貿易の閉塞と共に抗戦力の枯渇に拍車をかけるに至つた。

山西省南部潞安平地一帯は前年二月より四月に互る間にわが軍

ど將兵の辛苦は言語に絶するものがあつた。

南支沿岸封鎖の強化

帝國海軍は昭和十二年八月廿五日長谷川第三艦隊司令長官の名をもつて第一次航行遮断の宣言を發表して以來數次に互り遮断區域の擴張を宣言實施し來たり、北は山海關より南は海南島を繞り佛領印度支那との境界に至るまで實に二八五〇哩の全支沿岸の封鎖に任じ、風波と闘ひ酷寒炎熱を冒して海上の哨戒に、支那船舶の臨檢拿捕に、蔣政權の物資補給の道を斷つべく不斷の努力を傾注しつつあり、陸海軍の作戦の進捗につれて主要港は殆ど我が手に歸したがなほ南支に残された幾つかの海港のみは貿易の舞臺として第三國船が跳梁し種々の形で援蔣物資が輸入されてゐたので我が海軍は新作戦を計畫し六月廿一日の汕頭攻略に端を發し、我が封鎖部隊は更に艦艇及び航空部隊の援護の下に廿三日の早朝には舟山島の南部に敵前上陸を敢行、同日夕刻要衝定海を占領し更に一部隊は岱山島を占領した。舟山島は杭州灣及び揚子江口を扼し、鎮海、寧波、温州等の諸港と呼應して我が海軍の眼を掠めて援蔣物資の揚陸、浙贛鐵道により搬出された奥地物資の積出しに重要な役割を努め、錢塘江南岸の紹興、寧波を中心にこの地方一帯に集結してゐた蔣直系の大軍はこの外援の資材を得て絶えず錢塘江を渡つて杭州の治安を攪亂せんとしてゐたものであるから舟山島の占領は汕頭の攻略と相俟つて戰略的效果を大ならしめたものである。續いて二十七日には福州及び浙江省温州兩港の封鎖を

により一度掃蕩戦が實施せられたが、その後軍の撤退に伴ひ敵軍再び侵入して潞安を北支遊撃の據點として南方垣曲、孟縣附近より黄河を越えて洛陽方面に補給路をとり、衛立煌麾下の中央軍九五、〇〇〇は主として同蒲線東側山岳地帯に、共產軍四五、〇〇〇は總司令朱德潞安に位置し、遼縣、榆社、沁縣附近に、新編第五軍孫殿英軍五五、〇〇〇は潞安南方地方に蟠踞し同蒲、正太京漢各鐵道沿線に對し活潑なる遊撃を反覆し北支の治安を亂すに至つたので、我が軍は再びこれを掃蕩するため七月三日より炎暑を冒し峻嶮なる山地を踏破して果敢なる作戦を展開、參加各部隊は東西南北の各方面より相呼應して一齊に起ち、航空部隊またこれに密接に協力し連日の悪天候を克服して果敢なる空襲を試みた。正太線方面より行動を起した山崎、川崎、木村、佐々木の諸部隊は遼縣、沁縣を奪取し、十二日早くも敵の遊撃作戦地たる潞安を陥れ、清化鎮より北上した峰木、大井川等の諸部隊は八日朝より河南、山西省境に鐵條網を有する堅陣に據る鹿柄助の第四十軍の二箇師を攻撃して十一日それを突破して前進し十九日敵の最後の牙城澤州を占領した。同蒲線方面より進發せる室谷、藤村、藤室、木越各部隊は敵の退路を遮断してこれを包圍し殲滅的打撃を與へた。かくて作戦開始以來二旬にして敵の據點を覆滅し多大の戦果を収めたが、本作戦中頃稀有の豪雨に見舞はれ道路は破壊され泥濘腰を沒し、ために急進中の我が部隊は數日間後方との聯絡輸送社絶して友軍飛行機の食糧投下により補給せらるゝな

敢行し、七月十二日新開港場泉州、銅山、詔安(福建省)の閉塞作戦を施行し、十八日香港、汕頭の間中に位し兩港の仲繼港として沿岸貿易の中心地をなす汕尾港を、十九日興化(福建省)を、二十一日三都澳、羅源、沙埕の諸港を閉塞し、かくて全支沿岸の重要開港は勿論河川に至るまで悉く皇軍の制壓下に歸するに至つた。

支那派遣軍總司令部設置

時局に即應し支那事變處理の完遂を期するため九月十二日新に支那派遣軍總司令部が編成せられ、總司令官に西尾壽造大將、總參謀長に板垣征四郎中將が任命せられ、北支派遣軍最高指揮官は杉山元大將の後を承けて多田駿中將が同十八日着任した。

湖南作戦

岳州、南昌間の我が前線當面の敵は第九戰區司令代理薛岳の率ゐる中央軍約三十箇師、四川、雲南軍約十二、三箇師、舊東北軍約三箇師その他合計五十數箇師、兵力四〇萬に達し、標高千メートル内外の急峻なる山岳地帯に據り數線に互り堅固なる防禦陣地を構築し、我が軍の進攻を阻むと共に時々我が占領地域内に潜入蠢動し執拗なる後方遊撃治安攪亂を企圖してゐた。我が軍は襄東作戦と同じく敵主力を捕捉殲滅してその企圖を挫折封止し一大鐵槌を與ふべく九月中旬有力なる一部隊をもつて先づ十九日南昌方面より行動を開始し、瞬時の間に高安附近の敵要地を屠り、次いで同月下旬有力部隊をもつて新塘河——通城の線を進發、大舉して南下した。海軍遡江部隊またこれに呼應して陸軍部隊と密接な

る聯絡をとり敵の意表に出て洞庭湖の長水路を夜間突破、六線の機雷閉塞線を強行啓開して長驅涸水南岸敵の背後に急襲上陸を敢行して果敢突進し、爾來東西呼應陸空緊密なる協同の下に各方面とも隨所に頑敵を包圍して猛進撃を續け僅に旬日にして浙贛鐵道北側一帯の地區を席卷、この間涸水、修水兩河沿岸歸義、新市、長樂街、平江、長壽街、修水等の各要衝を我が掌中に收め狼狽して敗退彷徨中の殘敵を省境の山岳地帯に包圍殲滅し、ここに參加將兵の勇戦奮闘により輝かしき戦果を獲得したが、作戰の目的を完遂した我が軍は各方面とも反轉行動を開始し山岳地帯に蟄居潜伏する殘敵掃蕩を實施して敵軍將來の蠢動を完封し十月十五日をもつて概ね終末を告げた。本作戦において交戦せる敵師團数は二五箇師にしてその内潰滅的打撃を與へたるもの中央軍一〇箇師、その他四箇師、相當の打撃を與へたるもの中央軍三箇師その他三箇師、その他戰場に現出した敵の師團は一九を算するをもつて敵の參加師数は正に四四箇師に上り、敵將薛岳はその麾下第九戰區の全力を擧げて必死の抵抗を試みだものと判断される。十月二十二日大本營陸軍部では左の如く綜合戦果を發表した。

- (一)交戦せる敵の兵力二九箇師、遺棄死體三八、四〇〇▲俘虜三、七〇〇(二)主要鹵獲品▲野山砲六▲速射砲一▲迫撃砲一三▲重機關銃五〇▲輕機關銃二四〇▲小銃四、三一〇▲擲彈筒一▲野山砲九四、二五七▲迫撃砲五、一四〇▲重機關銃六三、〇〇〇▲輕機關銃五、七五〇▲小銃彈一、四〇九、〇〇〇

るため更に龍州作戦を敢行し我が快速部隊は難路を克服して遠く西進し十二月廿一日夕刻佛印國境の龍州、鎮南關に進撃、軍事施設を破壊し兵器、彈藥、ガソリンその他莫大なる軍需品を鹵獲してここに抗日支那最大の輸血路の遮断を完遂した。物心兩面に痛烈な打撃を受けた敵は南寧奪還を企圖し南寧より敗退した敵は南寧東方六〇乃至七〇キロの賓陽、永淳附近、北方八塘附近の高地に集結、桂林及び遠く衡陽方面よりの増援部隊を得て十二月初旬より執拗なる攻勢的態度に出で、中旬頃には久しく使用しなかつた戰車部隊、飛行部隊も加へて兵力實に二〇箇師に上り一部をもつて我が南寧補給線たる欽寧道方面に、主力をもつて南寧周邊に對し攻撃を反覆した。これに對し我が軍は一部をもつて大高峯隘及び九塘附近の地の利に據り敵十數箇師の大兵を邀へて奮戦、中村正雄中將(當時少將)は壯烈なる戦死を遂げたるもよく衆敵を牽引しつつ機の到るを待ち、我が增加兵團主力をもつて鬱江方面を迂回して疾風の如く敵の背後に迫り、遂に十五年二月一日以來敵主力部隊を完全に包圍して二日賓陽平地に進撃して敵に殲滅的打撃を與へた。この包圍戦における戦果は次の如く偉大なるものがある。

- 交戦せる敵の兵力約九箇軍三十五箇師、重砲五大隊、野山砲一〇大隊、對戰車砲一聯隊、(敵に與へた打撃)、敵の遺棄死體四六、八〇〇同戰傷推定八〇、〇〇〇を下らず、捕虜二、五〇〇(鹵獲品)野山砲二五、▲速射砲一六▲迫撃砲六八▲擲彈筒一二五▲

▲手榴彈一〇、六八〇▲馬七〇(中口徑砲の鹵獲數僅少數なるは武漢攻略戦後敵の該裝備とみに劣惡貧弱とされることを如實に示すものなり)(三)我が方の損害戦死七三、負傷二、六〇〇名

南寧作戦

敵が最後の恃みとする西南補給聯絡線を遮断して抗日蔣政權に一大鐵槌を加ふる目的をもつて作戰を開始し陸海軍の精銳部隊は十一月十五日未明荒天を冒し、極めて緊密なる協同の下に廣東省北海附近に壯烈なる奇襲上陸を敢行し敵の抵抗を排除し同日夕刻早くも防城を攻略した。他の有力なる部隊は荒天を衝いて龍門江を遡江し十五日夕龍門島附近に敵前上陸し、所在の敵を撃破して十七日大寺坪を占領、他の一部隊は十六日夕刻欽江河口に上陸を敢行して敵の重要據點たる欽州に迫り十七日これを攻略した。今次作戦方面の敵は張發奎の指揮する第四戰區の部隊にして附近の各要衝には廣西軍數箇師が警備に當つてゐたが、我が軍は全線一齊に猛進撃を續け隨所に敵の抵抗を撃破して二十二、三日の間に鬱江の線に進出、河岸の要線に據りて最後の抵抗を試みた敵に對し一舉殲滅的打撃を與へ欽州灣上陸以來僅々十日にして二十四日午後二時早くも先頭部隊は桂南の要衝南寧城に突入占領し、李宗仁、白崇禧等の抗日將領が宣傳に努めた廣西の焦土戦術も皇軍の神速破竹の進撃の前には全く策の施すところなかつた。南寧を占領せる我が軍は佛領印度支那方面よりする殘存補給路を遮断す

- 重機關銃一一〇▲高射機關銃二▲輕機關銃五四四▲小銃九、六六〇▲戰車一九▲輕裝甲車六▲自動車六三▲サイドカー八〇これに對し我が方の損害戦死約二〇五名、戦傷七八五名であつた。

『冬季攻勢』破挫

蔣介石政權は内軍民の士氣を鼓舞し外援蔣諸國に抗日軍健在を誇示宣傳せんとする政略的目的をもつて既に四月、七月、九月と三回に互り攻勢を企圖したが、その實質は稍々大なる遊撃戦の域を脱せずして所在に我が軍の猛撃を受け潰滅し去つた。しかし前年六月以來實施した蔣政權軍の第二期整備は十四年末に至りほぼ完成しこれが成果に對する過信と、新中央政府樹立運動の促進、六中全會前後より表面化せる重慶政權部内における和平氣運の醗酵抗戰前途に對する危惧の瀰漫、列國の援蔣冷却等その客觀的情勢の漸次悪化の傾向に向ひつゝあるに直面して頽勢挽回の要切實なるものがあるため、『冬季攻勢』を企圖し十月中旬頃より隱密裡に準備を進め、中支方面特に漢水 downstream 及び青陽附近を中心として十二月上旬より中旬に互り北中南支各方面概ね一齊に出撃を開始した。即ち蒙疆においては二十日朝一箇師の敵が包頭に來襲したが二、〇〇〇の死體を遺棄して潰走し、北支では反攻の氣勢を示した山西軍は却て我が方の猛撃を受けて大行山脈の山間に敗走した。中支では信陽方面二箇師、安陸北方地區、仙桃鎮方面各四箇師、岳州方面一箇師、通城、崇陽方面七箇師、靖安、奉新方面四箇師、蕪湖西南方青陽方面十餘萬の敵が來襲したが何れも我が猛反撃に

あひ潰走した。南支方面では十一月末頃より策動中の敵の攻勢に對し我が南支軍は大規模の反撃作戦を敢行し十二月二十四日粵漢鐵道沿線、從化及び増城の三方面より一齊に行動を開始し數日後には早くも翁源、三華鎮、英德附近の各要衝を覆滅して余漢謀軍主力に決定的打撃を與へ、殘敵に對し包圍殲滅戦を展開、敵が一年の日子を費して構築した堅固なる陣地及び軍事施設並に莫大なる軍需品を悉く潰滅鹵獲し僅に二週間にして赫々たる戦果を収め一月上旬本作戰を終了した。また南寧奪還を企圖した敵は別項の如く我が軍のために捕捉殲滅せられ、各方面とも我が猛反撃の鐵槌を受けて多大の損害を蒙り、ために攻撃力は逐次頓挫し、實質的には前數回に互る總攻勢の程度を出でず、敵軍兵力の配置、資材の準備等より推斷しても今次攻勢をもつて敵の所謂畫期的總反撃作戦とは認め得られなかつた。

陸軍航空部隊の活躍

聖戰開始以來陸軍航空部隊は地上部隊への直接協力に重點を置いて來たのであるが、武漢攻略後は地上部隊の廣大なる占據地域の確保に協力して各地の討伐戦に参加すると共に十四年に入るや精銳部隊をもつて航空撃滅戦及び政略攻撃を行ひ重慶、蘭州、西安、延安を始め敵の主要都市及び後方據點に連續的大爆撃を開始した。中にも二月の赤色ルートに對する猛爆はその規模と成果において壯絶を極め蘭州においては前後三回に互つて大空中戦を行ひ敵機百十を確實に撃墜し、地上の二十機を完全に爆破した。こ

の方面の爆撃は連續して行はれ隴海沿線は勿論河南、陝西、甘肅に互つて遠近を問はず、苟も軍事施設のあるところ我が爆撃を浴びざる所なく南方ルート完封後は赤色ルートを唯一の生命線と特み軍事施設の再建、各種の政治工作に狂奔を續けてゐただけに、我が陸軍の連續的猛爆に遭つて軍民共に生色なく動搖著しきものがある。なほ地上部隊との協力においては、北支方面では地上部隊の肅正工作に協力して山西、河北、綏遠の各一部山岳地帯に執拗に奮動する殘敵及び我が地上部隊の眼を掠めて北上せんとせる敵遊撃部隊を捕捉爆撃して多大の戦果を挙げ、中支においては武漢攻略戦、湖北作戰に協力し『四月攻勢』を企圖するや逸早く敵の據點を猛襲してその出鼻を挫き、次いで『夏季攻勢』『九月攻勢』には湖北、湖南、江西の敵主力の動向を監視しつゝ機を見てこれを撃砕し、また浙江、江蘇、安徽等の各省に轉戦して地上部隊の討伐戦に参加し、或は敵の虚を衝いて粵漢線方面に出動して輸送路を遮断する等寧日なき奮闘を續けた。また南支においては廣東、海南島、潮州、南寧方面に活動し地上部隊の作戦及び海軍の封鎖に協力し『冬季攻勢』を呼號する各方面の敵軍を撃砕する等地上の戦果の擧がるどころ必ず陸軍航空部隊の顯著なる功績ありといふも過言ではない。大本營陸軍部では十四年十二月二十九日その戦果につき左の通り發表した。

一、敵機に與へたる損害

（備考）、十四年の後半においては陸軍航空部隊の空襲に際し

て遺撃する敵機殆どなく、従つてこの期間航空撃滅戦の華々しきものなし

二、滿蒙國境においてソ聯機に與へたる損害

撃墜一、三四

○ 地上爆破三〇

三、右合計 一、八六〇機

四、事變勃發以來我が方の損害數 一一八機

海軍航空部隊の活躍

海軍航空部隊は各地攻略並に掃蕩戦に協力せる外、支那奥地の攻撃を敢行した。奥地攻撃の主要なるものは雲南省蒙自、昆明、四川省瀘州、成都、重慶、遂寧、陝西省西安及び甘肅省蘭州に對するものにして、敵空軍の再建を不能ならしむると共に諸軍事施設を徹底的に潰滅し特に抗戰首都重慶に對する攻撃は回を重ねること二十餘回に及び軍事機關を完膚なきまでに粉砕した。十四年十一月下旬及び十二月下旬には數回に互り酷暑を冒して反響蘭州を強襲し敵二十數機を撃破しその軍事施設を爆破して再建途上の敵空軍に潰滅的打撃を與へ、南支においては長驅瀘越鐵道に對する攻撃を反覆して佛領インド支那を通じて支那大陸に至る唯一の軍需品補給路に一大鐵槌を加へ、或は桂林、柳州、蒙自等敵軍據點に進攻して屢々果敢なる空中戦を決行し、十二月二十二日より十五年一月十日までの二旬の間に五五機を撃滅し、冬季攻勢に備へて南支方面に集中せる敵航空兵力に對して潰滅的打撃を與へ、沒落蔣政權の再建空軍はわが航空部隊の連日に互る猛攻によつて脆

くも潰え去つた。十四年十二月二十四日大本營海軍部の發表によれば敵空軍に與へたる損害は左の如くである。

撃破敵飛行機數

年	確實	不確實	計
十二年	五二六	五二	五七八
十三年	七六七	一五八	九二五
十四年	一一五	二五	一四〇
累 計	一、四〇八	二三五	一、六四三

（備考）我が損害十二年六三、十三年五〇、十四年二九計一四二

聖戰二箇年半の綜合戦果

陸軍部隊 皇軍は北支、中支及び南支の蜿蜒四、〇〇〇キロに互る長襲なる戦線において極めて執拗なる抗日支那軍の掃蕩に従事し、一面帝國全土の二倍半に餘る廣大なる占領地域内においてあらゆる困苦缺乏を克服して治安肅正に任じもつて蔣政權の覆滅と大陸建設の推進とに努力しつゝあるが、將兵の士氣は干戈久しきに互つて益々軒昂として殉國奉公の念に燃え一意聖戰の目的完遂に邁進中である。昭和十四年十二月二十八日大本營陸軍部より發表された聖戰二箇年半の綜合戦果の概要は左の如くである。

一、事變發生以來敵に與へたる損害

遺棄死體

十二年七月より十三年十一月迄	八二三、二九六
十三年十二月より十四年四月迄	一一三、〇三九

支那事變

十四年五月より同十一月迄

總計

二八二、一一七
一、二一八、四六二

敵の遺棄死體は私の目撃せるものだけである。しからざるものを計上する時は敵に與へたる損害は(死傷、逃亡、歸順等)總計少くも三〇〇萬と判断せらる。

二、鹵獲品(十二年七月より十四年十一月迄)

重砲、野砲、騎兵砲、山砲一、二九三▲洋砲二、七八五▲迫撃砲一、四二五▲機關砲、速射砲二二三▲高射砲九九▲重機關銃三、六四五▲輕機關銃八、八一八▲小銃二六六、七二一▲戰車、裝甲車、自動車、自動貨車六九二▲裝甲列車、機關車、客車二、三三一▲艦船一八五

右は判明せる主要なるものでこの他彈藥、器材、被服等なほ多數あり

三、武漢攻略後十四年十一月末迄滿蒙國境事件を除き我が軍の戦死者は二七、〇〇〇余名である

海軍部隊 帝國海軍在支作戰部隊は引續き陸軍部隊と緊密に協力してあらゆる障礙を意とせず聖戰の目的完遂のため勇戦奮闘を重ねつゝあり、海上部隊は寒暑風濤を凌いで全支沿岸の交通遮断に従事し、敵の物資補給を断絶し、江上部隊は揚子江岳州に至る八〇〇哩の水路その他大小幾多の江湖を制し、陸戦部隊をして毫も後顧の憂なからしめたのであるが、この間海南島を始めとして支那沿岸各要地並に諸島嶼を占據し、隨時隨所に益々精練なる

三 昭和十五年の戦果

支那事變第四年は前年の状況と比較して敵の抗戦力が著しく低下した點が先づ第一に指摘される。十四年度においては敵はなほ四回に互つて自主的反攻を試みたが、十五年度においては前年度の冬季攻撃の餘波として年初に若干の蠢動を見た以外敵の全面的反攻は全く見られなかつた。八月北支において共産軍が二回に互つて出撃して來たがこれも後方攪亂の程度を出でず、直に我が軍によつて撃退され、爾來全く鳴りを潜めてしまつた。

事變三周年に際し陸軍省報道部の發表による抗日支那軍の現勢は次の如くである。

抗日支那軍の現勢

蒋介石は武漢失陥後の一年乃至一年半を抗戰第二期の反攻準備期と稱して軍の再建に着手し、現在の兵力は二五〇箇師二〇〇萬と號してゐる。人的資源の豊富な敵は拉夫即ち強制徴集によつてその頭數だけは揃へ得たやうであるが、小銃、重輕機關銃、迫撃砲等の裝備は不完全なものたるを免れない。殊に山砲、野砲等の中口径以上の火砲の裝備に至つては極めて不完全であつて、遊撃戰を遂行し得る程度に過ぎない。言ふが如き「攻守所を代ふる」全面的總反攻などは、到底精銳なる皇軍に對して行ふべくもないことと言ふまでもない。

しかし揚子江南北の第五、第九兩戰區など敵が重要視してゐる部隊にあつては、その素質と裝備とは相當程度に充實し、特に中

戦局の進展

三四〇

海陸協同作戰の妙用を發揮した。帝國海軍は十四年後期において在支海軍作戰部隊の陣容を新にし、支那方面艦隊司令官及川大將の統率下に各方面に所要の部隊を配しもつて作戰目的完遂のため確固不動の態勢を確立して萬遺憾なきを期しつゝあつた。十四年十二月二十四日大本營海軍部發表による海軍作戰の戦果概要は左の如くである。

一、敵船舶交通遮断

(イ)全支沿岸 二、八五〇哩

揚子江(岳州迄) 八〇〇哩

(ロ)其他 珠江、太湖、鄱陽湖、射陽河、洞庭湖、浙江、高郵湖等多數の水路

二、航行遮断の強化

(イ)沿岸諸港灣の閉塞 温州、福州、泉州、銅山港、詔安、汕頭、興化、三都澳、沙埕港、海門、湄州

(ロ)沿岸主要地並に諸島嶼占領 海南島、汕頭、舟山叢島、中山縣、欽洲灣

三、處分敵機雷數

	揚子江方面	珠江、汕頭、バ	計
		イアス灣方面	
十三年	二、三一二	四一七	二、七二九
十四年	一、五二六	五〇四	二、〇三〇
累計	三、八三八	九二一	四、七五九

央軍、殊に蔣の直系軍にあつては戦力の見るべきものがある。

同戰區には他戰區には見られぬ重砲、戰車、對戰車砲まで裝備して居り、殊に從來極めて稀しか見なかつた防毒面を追々裝備して來たことはわが方としても注意を要する點である。その他幹部に對する戰術、指揮技能の教育、兵員に對する精神教育等、軍の再建に對する熱意は相當に見るべきものがある。

空軍は事變當初において決定的の打撃を受け殆ど潰滅状態に陥つたが、營々としてその再建に努め、爾後奥地に分散逃避した敵空軍は、第一線に出動してわが若鷲の餌食となることを恐れてゐる。空軍の再建は重慶政權が最も力を注いでゐるところで、再建の目標は「第一線五〇〇機保有」にある。

機體は主としてソ聯に仰ぎ、ソ聯、米國及び英佛等から教官を招聘し、蘭州、重慶、成都、桂林等で數百名の航空學生を教育してゐる模様である。現在の保有機數は、第一戰機、三〇〇乃至四〇〇、第二線機二〇〇乃至三〇〇と稱してゐるが、實用に供し得る第一線機はその約三分の一で、三分の二は舊式の老朽機と見られる。操縦者の數は一〇〇〇人内外と言はれてゐる。

今日でも主力は奥地に分散逃避して、主要都市の防空に當つてゐるが、昭和十四年十月の再度の漢口攻撃、或は南寧方面の戦闘における對地攻撃等に幾分積極的活動を見せるやうになつて來たから、わが方としても敵空軍の遊撃的進攻に對して、事前これを破擯する用意を怠つてゐない。第一線機の中には相當の新鋭優

秀機も混つてゐるやうだが、最近ではソ聯の外に米國機の輸入を目論んでゐる模様である。

軍需品の補給状況 國外からの軍需品補給は、昭和十四年十一月のわが南寧作戦及び十五年夏の佛印援蔣ルートに遮断により致命的な打撃を受けた。推定輸送量月額四、〇〇〇トン、乃至六、〇〇〇トンに上つてゐた廣西公路は南寧攻略によつて遮断され、續いて月額一七、〇〇〇トンに達してゐた滇越鐵道が遮断された。

残るは英領ビルマを通ずる滇西公路と、ソ聯よりする赤色ルートで、敵は勿論これら兩路による輸送力の増強を圖るであらうが、一は嶮峻な山中を通ずる自動車路であり、一は七、〇〇〇キロに及ぶ長距離輸送である。重慶の外國よりの軍需品補給は、こゝに極めて重大な危機に直面してゐると斷じ得るのである。

奥地における軍需品製造の能力は如何といふに、奥地の兵工廠の生産擴充も漸くその緒に就き、新設または移轉して来た兵器工場も逐次操業を開始してゐるやうだが、せいゝ遊撃戦の小銃、彈藥、迫撃砲の製造修理の程度で、自動火器や大砲、その他の近代兵器の製造能力は極めて貧弱である。

一般軍需工業の奥地移轉も漸く再建の緒に就いた模様だが、原料、動力の不足、勞働力殊に熟練工の不足のため、近代工業の再建には日暮れて道遠しの感がある。航空機工業は修理を主とし、一部組立を實施してゐる程度である。彈藥なども遊撃戦に使用する

してゐない四川の奥地のことであり、原料となるべき資源はあつても、これを開發または加工すべき人的、物的資材の缺乏は如何ともしがたく、その実績は極めて微々たるものであると斷言し得る。

この現状をもつてしては戦時經濟の行詰りは必至であつて、これがため重慶側は最近では逆に新政府と日本の占領地經營の破壊に躍起となつてゐるのである。しかしこの特務工作もなか／＼意の如く進捗せぬと、特務工作員から重慶に報告してゐる事實がある。

ただ注意すべきは、支那が高度の近代資本主義國家ではないことである。資本主義的な大資本は倒壊しても、支那においては、昔から發達してゐる中小商工業がこれに代り得るのである。これが支那經濟の特質であつて、重慶側も中小商工業をして戦時經濟を擔當せしむるのに力を注いで居り、支那の經濟は我々の想像するやうに、しかく簡単に壊滅するものでないことは注意を要する。

占領地域内の兵匪 わが占領地域内にはなほ五、六〇萬の兵匪が潛入して居り、これに敵側の偽縣長、又は共產黨によつて指導される地方自警團を合算すれば、その數、一〇〇萬に達するものと思はれる。

畫期的な總攻撃を行ひ得ない重慶側としては、民衆武装による遊撃行動を潜行的に、執拗に行ふべきことは明白であつて、その戦闘力は勿論大したものではないが、政治匪として執拗な抗日闘

るものを辛じて自給自足するに過ぎないものやうである。要するに奥地軍需工業の再建は極めて遅々たるものであり、相當量の兵器の貯蔵はある模様だが、これは時日の経過と共に消費し盡されるものと豫想され、結局問題は殘存各ルートよりする第三國からの援蔣物資補給の如何にかゝつてゐるのである。

米ソ兩國の奥地軍需工業への積極的進出等が傳へられてゐる以上、敵軍需品の早急の缺乏、急激な戦力低下は、わが方としては期待すべきではないが、佛印ルートの遮断によつて重大な影響を蒙り、更に歐洲戰爭の進展による獨伊の壓倒的勝利は、援蔣諸國の後退となつて、重慶側が深刻な危地に陥るであらうことは豫想され得る。

經濟的抗戦力 武漢、廣東失陥以前の蔣政權の財政經濟政策は、金融中心主義、換言すれば法幣を維持するにあつた。武漢廣東の失陥以後、法幣の暴落によつて金融中心主義から貿易中心主義へと移行した。即ち物資の確保が政策の中心となつたのである。

しかも皇軍の主要都市占領、沿岸封鎖、占領地經營等によつて物資と金融の操作は益々窮迫を告ぐるに至つた。これが對策として重慶側は貿易の國營化と奥地經濟の建設とを計畫したが、廣西公路、滇越鐵路兩援蔣ルートの遮断によつて重慶側は開港の悉くを失つたわけで、貿易の國營は畫餅に歸したのである。残るは奥地の經濟建設だけであるが、周知の通り、交通の發達

手を續けるであらう。

皇軍不斷の掃蕩によつてこれら共匪も次第に減少し、殊に北支の治安回復は見るべきものがある。皇軍の眼を逃れて潜伏してゐる兵匪も軍需品の補給難によつて著しく戦力を喪失、最近では政治經濟部門の攪亂を目的とする特務工作に重點を置き、武力による抵抗を避けつゝあるもの如くである。

敵の必死の治安攪亂工作にも拘らず、占領地域内の治安回復は概ね順調な経過を辿り、新國民政府の地方行政組織は着々と整備され、縣公署の設置も進み、保甲制度、青年訓練所、愛路村等によつて治安状況は日一日と改善されつゝある。(下略)

五原作戦 舊冬以來包頭奪還を企圖する傅作義軍一萬は一月十九日北東地區より包頭に殺到し、その一部は城内に侵入し來たつたが、我が守備隊は寡兵よく防戦に努めてこれを撃退した。出動中の我が主力部隊は急報に接し直に反轉し、敵の退路を遮断してこれに殲滅的打撃を與へ、敵は一、九三六の死體を遺棄して西北方に潰走した。

我が方も小林大佐以下一三〇の戦死傷者を出した。敵は馬占山、何柱國軍の増援を得てなほも執拗に包頭奪還を企圖する氣配を示したので、我が軍は斷乎これを殲滅すると共に敵の本據五原を攻略すべく一月下旬より行動を開始して先づオルドス平原に壯烈なる掃蕩戦を展開、次いで同月末より後套地區の殲滅戦に移り、二月三日五原の根據地を覆滅して敵に一大痛棒を加へたが、軍が

作戰の目的を完遂して同方面から兵を撤するや、敵は三月二十一日未明突如五原を襲撃した。五原特務機關長桑原中佐は同地警備の蒙古軍を指揮して我に数十倍せる衆敵に對して防戦に努め桑原中佐以下これに戦死した。包頭の我が軍は直に出動してこれを撃破し、同二十六日再び五原に入城し、敵軍再び蠢動する時は直に出動殲滅する旨を聲明して同三十日原駐地に歸還した。本作戦における敵の交戦兵力約五萬、遺棄死體一、三〇〇、俘虜二〇〇、鹵獲品山砲、迫撃砲、機關銃、小銃、羊毛、毛皮等多數に上り、我が方の戦死は五二名。

寶陽作戦

十四年十二月初め我が南寧方面軍司令官は李宗仁、白崇禧に書を致して、兩將軍が世界の大事を洞察し誠意を披瀝して我と提携するか、しからずんば五〇萬の大軍を提げて南寧奪回の舉に出づべきかを懲慙した。爾來南寧軍はこれに答へて十二月中旬以來白崇禧麾下の廣西軍、中央軍、四川軍等をもつてその數實に二十數箇師に達し、更にこれに祕藏の飛行隊及び戰車隊をも協力せしめ南寧奪回の舉に出た。これをもつて見ても蔣介石が如何に抗戦繼續のため必須の補給路たる廣西の要衝南寧の喪失を苦慮し、眞面目にこれが奪回を企圖したかが分る。我が軍は好餌とばかりに待ち構へこれに應戦し、数十倍に達する敵軍に對し九塘大高峰隘附近を守備し、克く敵の猛攻撃をわが陣地前に頓挫せしめ、その數個師を完全に潰滅せしめ、遺棄死體だけでも三〇、〇〇〇を超える

大損害を與へる等無敵精銳振りを發揮したのである。しかるに蔣介石はその豪語宣傳した所の冬季攻勢が悉く失敗に歸し、廣東北方地區においても亦完膚なき迄に惨敗を喫し、加ふるに内外の情勢がまた悉く悲境なるに焦慮の餘り局面を糊塗し、民衆及び天下を瞞着せんとし更に各方面より兵力を抽出し集め得る最大の兵力を増加し、督戦これ努め執拗にも反復南寧奪回の企圖に出たものである。ここにおいてか我が軍はこの機會において一大鐵槌を加へ敵軍隊を補捉撃滅しその本據を覆滅しもつて敵の企圖を根柢より挫折せしむるため行動を開始した。

我が軍は其の企圖を豫期し南寧占領當時より一部の兵力を九塘方面に派遣、その作戦の據點としたが蔣軍は果してこれに對し集攻撃し來り、更に兩側山岳地帯の我が後方連絡線にも出沒するに至り、その上南寧奪回の虚偽宣傳をも行ふに至つた。これに對し隱忍好機の到來を待つてゐた我が軍は、一月二十八日から一舉に總攻撃を開始し、その結果南寧軍三十餘箇師に徹底的打撃を與へ蔣軍の企圖は完全に挫折するに至つた。しかし我が軍は固より地帯、地域の占領擴大の意圖は全くなく、南寧の如き敵補給路を遮断するに必要な地帯は絶対に確保するが、その他にあつては支那軍撃滅のため必要な地域に進撃はするが、都邑の占領は必要とせずまた希望もしてゐないのである。我が軍は寶陽、武鳴平野は固より附近一帯に集結の敵を潰滅し、全く敵影を認めずこの上駐兵の必要なきをもつて山岳地帯の殘敵を掃蕩し、鹵獲品を收集

凱旋の途に就いた。

なほ南支派遣軍當局では今次の南寧東北地區における歴史的殲滅戰の戦果に鑑み、蔣介石、陳誠、白崇禧、張發奎を始め蔡廷楷、徐庭搖等の各集團軍總司令に對し二月十三日長文の通告を發し、敵作戦の拙劣なるを指摘すると共に深甚なる反省を促し、敵に對して再び我に對して反撃來攻するの意あらば何時にても之と一戰を交ふるの用意ある旨を明かにした。

浙東掃蕩戰

長江下流の三角地帯は蔣政權が浙贛援蔣ルート確保のため顧祝同麾下の精銳をもつて常に我が軍の建設工作を妨害し治安を攪亂しつゝあつたので、我が軍はその掃蕩を決意し一月二十二日折柄の吹雪を衝いて海軍と密接なる協力の下に杭州附近數箇所の地點で錢塘江の敵前渡河を敢行し、『日軍百萬浙東南岸上陸』のアドバールンを揚げて敵膽を寒からしめた。我が軍は所在に敵を撃破して進撃、要衝蕭山を占領し敗敵を急追してこれを潰滅し浙贛、滬杭角鐵道を遮断し、蕭山より義橋鎮、臨浦鎮を結ぶ錢塘江南岸の浙東地區一帯の敵を完全に掃蕩した。顧祝同は蕭山の奪還を企圖し第一七師四千の兵を増援し蕭山に來襲したが、敵の意圖を察知した我が軍は一支隊を敵の背後に迂回せしめて退路を断ちこれを包圍して殲滅的打撃を與へた。

第二次掃蕩戰

敵は輸血路確保のために再び蕭山奪回を策し七箇師を集結し、我が方の手薄に乗じて出撃し來つたので我が軍

はこれに對し一大鐵槌を下すべく敵の機先を制して二月十四日夕行動を開始した。即ち佐々木、眞田、森田、島田の各部隊は同日午後五時蕭山、臨浦鎮間のデルタ地帯に潜伏し軍備なほ整はざるに先んじてこれを捕捉殲滅する作戦の下に錢塘江上流浦陽江南岸に果敢なる敵前上陸を敢行、左翼部隊は敵の右側背後に迂回、十六日右翼部隊との聯繫なり爰に包圍態勢を形成して一齊に猛攻撃を開始、空軍の協力の下に徹底的痛撃を加へてこれを潰走せしめ敵の浙東奪回の企圖を完全に挫折せしめた。敵の遺棄死體三、八〇一、俘虜四二二、鹵獲品山砲四、迫撃砲五、平射砲二等多數

海南島殘敵掃蕩

皇軍の海南島攻略以來滿一箇年、累次の討伐により沿周の要衝悉く我が手に歸し着々治安の確立を見つゝあるが、敵敗殘兵及び共匪は山中奥地に逃避し、正に窮鼠の足掻きに等しき遊撃戦法を用ひて我に抗し、あるひは良民を苦しめもつて治安を攪亂しつゝあつた。ここにおいて我が南支海軍部隊は新鋭部隊を加へ、海陸軍緊密なる連撃の下に三月四日を期し全島の掃蕩作戦を開始し、陸軍部隊またこれに協力し多大の戦果を收め、遂に極小部分の奥地僻陬の地域を除いて全島の治安は著しく改善された。即ち北西部隊は三月四日美臺を進發、五日加來市、二十一日和舍市、二十八日中松興市を確保し、また一支隊は錫の産地で西部地區の要衝那大に無血入城、八日大星市、十四日保平を占領し四月十六日敵の本據白沙縣を攻略した。西部方面では三月五日海頭港、九日和盛市を陥れ、海頭江上流に果敢なる進撃を續け

黃流を中心として掃蕩戦を展開し、同二十日奥地の要衝樂安を占領した。また東海岸馮家港に敵前上陸を敢行した部隊は龍江、交典市、石壁市を相繼いで陥れ全河中流地域を掃蕩し、拘虎山々岳に據る頑敵の撃滅に成功した。南部榆林、崖縣より進發した部隊は奥地深く討伐を續け西南部陸水の敵匪を殲滅した。

江南作戦

浙東作戦に呼應し池田、高品、大竹、吉野、山崎、細谷、横山塚本、北山の各部隊は空陸の密接なる協力と、周到なる計畫の下に二月十八日行動を開始し、一齊に火蓋を切り、敵第三戰區（浙江省、福建省、江西省、江蘇省一部地區、總司令顧祝同）に對し全面的強壓を加へこれに殲滅的大打撃を與へ、更に二十二日池田高品、細谷、北山の各部隊は猛進撃を續けて三洲山々系西北地區に進出して、磨盤山々系西北麓より進出せし山崎、大竹、吉野、村田の各部隊と相呼應し前記兩山系一帯の敵約二十萬を南渡鎮附近に包圍壓縮しこれに殲滅的大打撃を與へ、なほ旺盛なる攻撃力をもつて池田、前川、野田、薄田各部隊は更に挺身し、一舉深陽を占領し敵第六三師及び江南挺身隊、縣常備隊を粉碎した。

晋南作戦

山西省南部の豊富なる民間物資に依存し山間に逃避蠢動を續けてゐた北支唯一の中央軍衛立煌麾下の五箇師十八萬は蔣介石の密命を受けて五月反攻を企圖しつゝあつたので、我が軍は敵の機先を制して四月十七日突如行動を開始し、平陸、茅津渡の孫蔚如麾

下の第四集團軍を潰滅して黄河々畔一帯を制壓し、黄河を渡つて敵の本據西安を衝かんとする態勢を示した。衛立煌軍は我が軍の西安進撃を確信し、我が軍の背後を衝いて後方擾亂を企圖し山岳地帯より平原地區に進出して來たので、豫て待機してゐた我が軍は運城、臨汾、潞安等各地より一齊に出撃してこれを包圍し、敵の退路を遮断しつゝ黄河渡河地點を抑へて猛撃を加へ、東方より進撃せる部隊は二十三日大行山脈中の要衝陵川、西方よりの部隊は陽城の敵據點を占領し、二十五日敵の牙城澤州城を攻略し、五日にして忽ち敵の誇る中央軍の精銳を一舉に粉碎した。澤州に續いて周村鎮、南村、毛家村の敵據點を奪取してこゝに包圍戦を完了したが、敵中央軍一五箇師は殆ど殲滅され、戰場の遺棄死體のみでも二〇、〇〇〇を算し黄河で溺死したもの算なく、敵の損害は甚大であつた。

なほ本作戦中開封の我が軍の手薄なるを探知した敵第二二師、八一師の二、〇〇〇は突如開封を襲撃、二十三日未明その一部三〇〇は城内に侵入して我が守備隊と市街戦を演じ、死體一五〇を遺棄して潰走、我が軍はこれを急追し、空軍の協力の下にこれに殆ど全滅的打撃を與へ、敵第二二師長は戦死、その幕僚は俘虜となつた。敵は再舉を企て、五月一日開封奪回を策したが、我が方は機先を制して四月三十日敵の據點中牟縣城を攻略して敵の企圖を挫折せしめた。

晋南に大敗した衛立煌は澤州東方に兵力を集結して反攻を企て

つゝあつたが我が軍は四月二十九日進撃してこれを捕捉殲滅し、衛は僅に身をもつて逃れた。

江南掃蕩戦

江南各地に蟠踞する敵は數次の痛撃により急激にその戦力を低下したが新中央政府が南京に成立するに及びこれが發展を阻止すべく、顧祝同麾下の中央軍、共產軍新四軍が新に潜入して治安擾亂の蠢動次第に増加するに至つた。よつて我が軍は一舉にこれを掃蕩すべく、四月廿二日一部は蕪湖より南進、一部は安慶南岸地區より東進を開始し、南進部隊は二十四日早くも南陵に突入、二十五日繁昌を攻略し、敵の據點青陽の包圍圈を縮小して二十八日遂にこれを占領、敗敵を急追してこれを九華山脈中に潰滅した。

東部地區

敵の遺棄死體一、六〇八、俘虜一四一、鹵獲品機關銃一八八、迫撃砲八、地雷七四その他多數

西部地區

敵の遺棄死體二、七〇七、俘虜二四八、鹵獲品重機四、輕機八、迫撃砲二その他多數

夏口作戦

十四年十二月我が南支軍の精銳は廣東北部の山岳地帯に第四戰區司令張發奎麾下の大軍を粉碎して長驅翁源、英德を抜いたが爾

來半年敵は陣容の再整備を急ぎ四月以降從化に集結して再び廣東北邊に蟠踞するに至つたので我が山本、川口等の諸部隊は五月十三日より行動を起し、一部を良口墟附近に推進して敵狀を搜索せしむると共に敵主力の誘致に努めたところ、敵將余漢謀はその部下全部を率ゐて良口墟附近に蟠集して來たので我が軍は好機到れりとなし先づ分離せる敵二箇師を撃破したる後五月二十九日より有力部隊をもつて敵主力を一舉に包圍してこれを峻峻なる良口山系山麓に壓迫して敵六箇師を徹底的に撃滅した。敵は我が電撃的猛攻に全く潰亂し地形の峻険と相俟つて死傷無數、武器彈藥と多數の俘虜、投降者を我が手に委ねて潰滅するに至つた。

本作戦の劈頭における南陽圍殲滅戦は孫子の「奇を以て討つ」の好適例である。良口墟方面に進出した我が諸部隊に對し敵は側背より一舉に殲滅せんと企圖しつゝあるを察知した我が軍はこれを南陽圍盆地に誘致すべく五月二十一、二兩日にこの盆地附近の敵を撃滅した後二十三日一小部隊をして南陽圍部落を堅固に守備せしめ、主力は盆地東方の道路より良口墟に向つて前進し敵兵團をして我が側背並に殘置部隊に突進せしむべく圖つた。かくて主力部隊は同夜良口墟西側地區に一旦集結後夜間を利用して秘に風火嶺南方を迂回し再び南陽圍南方丘陵地帯に集結して敵を待つと共に敵の進出狀況を偵察してゐたところ、敵は豫想に違はず二十四日より逐次盆地内に入込み我が殘留部隊を攻撃して來たので我が主力部隊は二十五日敵が完全に南陽圍部落を包圍するを見計ひ、

機至れりと同夜四圍の山上に包圍網を張巡らし、二十六日朝より一齊に火蓋を切つて攻撃に移つた。敵はこの奇襲に周章狼狽した。盆地の内部は大部分水田で、水量増し泥深く、四圍の山は急峻で逃道なく右往左往して混亂するを山上より鈞瓶射ちに射ちまくられ、空軍より猛爆されて殆ど殲滅的大打撃を蒙つた。なほかくの如き殲滅戦が敵主力より數キロの地點で行はれたことは本戰團の大特色で、これ全く放膽にして果敢なる我が作戰の賜で、これ程はつきりした胸のすくやうな各個撃破は稀に見るところである。

宜昌攻略戦

襄東作戦 蒋介石が第二期整編の完成を俟つて企圖した冬季攻勢は我が軍の猛反撃に遭つて全面的惨敗に終つたので、三月下旬、重慶に軍事首腦會議を開いて第三期整編に着手した。我が軍は敵の陣容再建に先んじて敵が首都防禦の第一線として李宗仁を總指揮とし五〇箇師四七萬の大軍をもつて皇軍の進撃を阻止しつつある第五戰區を覆滅すべく、五月一日を期して突如行動を起した。我が軍は漢水沿岸に廣範圍に布陣せる敵に對し、先づ襄東地區において側背より襲撃潰滅せしめ、次いで右側背を確保しつゝ襄西地區に進出、漢水を渡河して一齊にこれを捕捉殲滅せんとしたのである。第一次作戦において信陽、隨縣、安陸の三方面より行動を開始した部隊は、折からの炎暑を冒し、地形の困難を克服して敵の頑強なる抵抗を排して同七、八日には早くも沔源、襄陽の線に進出し、旬日にして敵軍二〇箇師を襄陽東北地區に包圍殲

滅戦を完成、敵主力を撃滅した。この戰團で敵はいたく狼狽、軍長湯温伯の如きは恐れをなして北方に逃避し一途退却の弱體振りを暴露したが、この湯温伯軍と我が包圍網を逃れた一部が巧妙なる我が軍の作戦に引掛かり唐河の線に再び進出南下し來り、一方南方より張自忠軍十箇師が漢水を渡河自ら求めて網の中に出撃し來つた。これが地圖上で偶然我が軍を南北兩翼より包圍する形となつたため敵は盛んに戰勝のデマに利用したのであるが、我が軍は直に有力兵團をもつて反轉渡河し來つた敵を安陸、漢水間の三角地帯に捕捉撃滅し、敵五、六箇師は完全に潰滅し、我が軍の急追により軍長張自忠、第一八〇師長劉振三、第一七三師長鐘毅、幕僚共に戦死し、軍司令部は全滅するに至つた。

蒋介石は日本軍の最近の作戦は「速進速退」であるから、日本軍の裏をかくて退く所を待伏せて撃滅すべしと命令してゐたのでその裏をかけた譯である。

これが五月十九日より二十二日に互つた反撃作戦であるが、我が軍は同一戰場で二回の捕捉殲滅戦を行ひ豫期以上の戦果を收め二十一日は戰場の外には敵集團を認めず、敵は全く收拾すべからざる混亂に陥り、統制を失つた敵兵は戰場を彷徨して我が軍の好餌となつた。敵の遺棄死體は十七日までに既に一九、八三七に達したので第二次殲滅戦の分を加へれば敵の戦死は恐らく數萬に上つたであらう。

襄西作戦

襄東地區の第一期作戦に豫期以上の戦果を收めた

我が軍は、李宗仁自ら三九箇師三五〇、〇〇〇の大兵をもつて防禦せる襄西地區に對して進撃を開始した。五月三十一日夜我が北方兵團は敵の虛を衝いて漢水の無血渡河に成功、一日夕早くも襄陽を占領した。南方兵團も六月五日奇襲渡河し敵の抵抗を排して進撃を續け、八日漢口、宜昌間の要衝沙市を占領、敗敵を急追して十一日遂に宜昌を占領した。宜昌は漢口上流三八七マイル、重慶正面最後の防壁として敵が中央軍の精銳をもつて死守せんとしたものであるが、皇軍の一撃に遭つて脆くも陥落し、敵は周章狼狽し莫大なる軍需品を遺棄、潰走した、十二日までに判明した敵の遺棄死體一八、〇〇〇、俘虜三、五三一、火炮四四、機關銃一五〇、小銃二、八九五。

重慶政權は宜昌陥落の報に驚愕し、中央軍六、七箇師を増援して宜昌奪回を企圖した。我が軍は宜昌を撤退せんとする形勢を示して敵を誘導し、敵が出撃し來ると共に忽ち反轉し機動作戦の妙を發揮してこれを捕捉潰滅した。同二十四日大本營陸軍部情報部長發表によると襄東、襄西兩作戦を通じ、我が犠牲者一名に對し敵は實に一〇〇名の戦死者を出してゐる。敵遺棄死體五八、〇〇〇、俘虜四、五〇〇、鹵獲品大砲、機關銃五七〇、小銃一〇、二〇〇、彈藥一〇、二七三、〇〇〇、白米四三、〇二五俵その他多數

今次作戦の成果として從來と異つた點は

一、死傷者の數に比し捕虜が多く如何に我が追撃が急で敵の命令系統が混亂したかを示したこと

一、鹵獲品中野砲十數門外銃火器が多かつたこと

一、中央政府が成立して以來歸順兵が多くなつたこと

であらう。また今次作戦を獨軍の電撃と比較すれば、地域的にみて彼の獨軍が聯合軍を撃破したフランドル戰線は栃木縣と略ぼ同じ廣さであるに比し、襄東、襄西戰線は問題にならぬ位廣大である。またルクセンブルグからベルギー海岸までの線の距離は一五〇キロであるのに漢口、信陽間の距離は一七〇キロ、ベルギー國境ダンケルク間の二五〇キロに對し漢口、宜昌間三〇〇キロ、信陽、襄陽間二〇〇キロ襄陽、宜昌間一八〇キロといつた工合で如何に戰線が廣大であるかが窺はれよう。我が外翼兵團の如きは一箇月の間殆ど休みなしに八〇〇キロを踏破してゐる。これ實に佛獨國境より佛國を横斷しビスケ灣に達する距離に等しい。

しかも本作戦の戰場は標高七〇〇メートル前後の山地であり、加ふるに二〇度の炎熱の下に展開されたのであるから、歐洲大戰の地形、道路、氣温など到底支那の比でない。皇軍將兵の勞苦は蓋し思ひ半ばに過ぐるものがあらう。

第二次援蔣路遮断作戦

我が南支軍は十四年秋佛印よりの援蔣ルート遮断のため南寧作戦を斷行し、龍州、鎮南關に進撃して佛印よりの援蔣物資輸送路を遮断したが、同地が懸軍千里長期に互る皇軍の監視困難なるに乘じ佛印當局は秘に蔣政權に物資を補給しつゝあつたので、皇軍は屢々佛印當局に警告を發してその猛省を促したが誠意を示めざ

支那事變

なかつたので、南支軍は六月十七日行動を開始し、森本、高橋、田村各先遣部隊は一五〇度の炎熱を肩して進撃、二十五日思樂、綏遠を、二十七日寧明、明江を陥れ二十九日馮祥、鎮南關を占領、七月一日龍州を攻略して援蔣ルートを完全に遮断したが、なほ龍州周邊に戦果を擴大して寡兵をもつて三箇師の大敵を潰滅した。一支隊は更に西進して十三日平而關、二十五日佛印國境の水口關を占領し佛印國境を完封した。この間佛印當局は六月二十二日我が方の援蔣物資輸送禁止の要求を容れて監視團の派遣を承認したが、南支軍は既定方針に基き佛印當局の態度を監視するため斷乎作戦を遂行したものである。

聖戰三年の綜合戦果（昭和十二年七月より十五年六月中旬に至る）陸軍省情報部發表

敵の遺棄死體 一、五八七、六〇〇
上する時は敵に與へた損害（死傷、逃亡、歸順等）總計數くとも三五〇萬と判断せられる。
わが戦死 八五、〇〇〇
鹵獲品 一、三九八
重砲、野山砲 六、八三二
洋砲 一、八五九
迫撃砲 三五九
速射砲、高射砲等

三五〇

重機關銃 四、一五六
輕機關銃 一二、三五二
小銃 三五七、七〇一
戰車、裝甲車、自動貨車等 八九八
裝甲列車、機關車、客貨車等 二、三三一
艦船 三一〇
鹵獲品は判明せる主要なるもののみを示しこの外彈藥、器材、被服等枚舉に遑あらず。
わが戦線延長 約四、六〇〇キロ
占據面積 約一六〇萬平方キロ
わが全土の約二倍半弱（約二・四倍）
占據地以外の支那本土との比、約百分の五一
支那全土との比、約百分の一六
陸軍航空隊の綜合戦果
一、支那事變における敵機に與へた損害
撃墜 三九六機
地上爆破 一六八機
二、滿蒙國境においてソ聯機に與へた損害
撃墜 一、三四〇機
地上爆破 一、三七〇機
合計 一、九三四機
三、我が方の損害機數

支那事變

五七機

滿蒙國境

一三七機

合計

一九四機

皇軍佛印に進駐

佛印援蔣ルート監視委員長西原少將一行は六月二十九日河内着任以來カトルー佛印前總督並にドクー現總督とインド支那における軍事上の便宜給與方につき交渉を續けたが、八月現地における交渉は東京に移され松岡外相、アンリ駐日フランス大使會談の結果同月二十五日に至り漸く意見の一致を見、同三十日妥結した。更に右に基き日佛現地當局間において、九月初旬以來交渉を重ね同二十二日午後四時半（日本時間）に至り協定の成立を見たので我が陸海軍部隊は右協定に基き、二十三日佛印北部に平和的進駐を開始した。我が部隊の國境通過に當り一部において若干の紛争を見たが直に平定され、大なる支障なく進駐完了し、先に政治的交渉によつて遮断された佛印援蔣ルートはこゝに完全に閉鎖され重慶政權に對し一大痛棒を與へたが、同時に佛印の西方に介在するビルマよりの輸血路に對しても直接脱みをきかせるに至り、南方よりの二大援蔣ルートを斷たんとする帝國の政策はこゝに一大進展を見るに至つた。

浙江、福建沿岸封鎖の強化

香港、佛印、ビルマ等の援蔣ルートが相次いで遮断されたため、重慶政權は軍需品その他海外物資の獲得に狂奔し、その捌口を閩

戦局の進展

三五一

浙沿岸、殊に寧波附近に求め、浙語鐵道を利用し、寧波方面その他我が占領地區外から、あるひは第三國の船舶により、あるひはジャンクにより軍需品その他の輸入獲得にあらゆる手段を講ずるに至つたので、嶋田支那方面艦隊司令長官は、七月十五日蔣政權の抗戦力の根本塞源を期し斷乎たる決意をもつて浙江、福建兩省の四重要港灣、即ち（一）寧波、鎮海を中心とする杭州灣、象山浦海面（二）浙江省南方の温州港、樂清灣を含む海面（三）福州港及び附近海面（四）福州北方の三都澳、羅源灣を含む海面に第三國船舶を含む一切の船舶の入港を禁止し、右禁止に従はずして入港し、または入港せんとするものに對しては抑留し、これにより蒙ることあるべき一切の損害に對しては我が方において責を負はざる旨を宣言し、三浦上海總領事を通じて各國外交官憲及び海軍側に正式通告した。右宣言は十四年六月二十七日温州、同二十七日福州、同七月二十一日三都澳、同二十三日羅源その他十數箇所の要地、海域に對する封鎖を更に徹底的に強化したものである。

右宣言に基き十六日未明、艦艇、陸戰隊及び航空隊よりなる我が海軍部隊は杭州灣方面の作戦を開始し、十七日未明陸戰隊の一部を白鶴山砲臺に奇襲上陸せしめ同日午前十時完全にこれを占領また鎮海方面攻略部隊は十七日午前長跳嘴に上陸占領、十八日午前鎮海に突入し午後三時完全にこれを占領した。また他の有力なる一部隊は十六日の泉州攻略に呼應し、同地東北約四〇哩の興化灣を急襲し、敵の抵抗を排して灣内深く進入し閉塞を敢行して

福建省沿岸における有力なる援蔣ルートの遮断に成功した。二十一日早朝三都澳に敵前上陸を敢行した陸戦隊は所在の敵軍を撃破して首村を占領し敵軍事施設並に輸送機關を潰滅し、敵の再使用を不可能ならしめ陸戦隊揚陸作戦の目的を完全に達成したので、二十二日豫定計畫に従つて陸戦隊を撤収した。二十七日我が封鎖艦隊は香港、汕頭間の敵物資集積地たる汕尾及び媽宮を急襲して揚陸占領し、次いで八月五日温州港口沙頭水道北方の要衝崎頭、黃華村附近の軍事施設に砲撃を加へ、六、七日には敵軍事據點温州角、池潭村、坎門、王環縣城に猛攻を浴せ、一部は浙江沿岸の封鎖を徹底化するため台州灣、三門、松門に對し嚴重なる監視を加へ、第三國船の影を見ざるに至り、大いに封鎖の効果を擧げた。

湖南作戦

岳州—南昌間我が前線當面の敵第九戰區司令長官薛岳の指揮する約四十萬に對し、襄東作戦と同じくこれが捕捉殲滅を企圖して我が軍は九月中旬より行動を開始し、僅々旬日にして浙、鐵道北側一帯の地區を席卷し、狼狽彷徨する殘敵を江西、湖南兩省境の山岳地帯に包圍殲滅して偉大なる戰果を收め、同地方における敵の蠢動を完封して、崩壞の一途をたどる抗日支那の武力に對し痛撃を加へた。敵の遺棄死體三八、四〇〇、俘虜三、七〇〇、鹵獲品山砲六、速射砲一、迫撃砲一三、重機關銃五〇、輕機關銃二四〇、小銃四、三一〇、その他多數に上り、我が方戰死は七三二名。

北白川宮永久王殿下御戰死
陸軍砲兵大尉勳一等北白川宮永久王殿下には、昭和十五年三月以來軍參謀として御出征中のところ同年九月四日蒙蘇某地において、墜落機に觸れさせられ給ひ戰死遊ばされた。
右につき同五日午後一時宮内省、陸軍省より御戰死の旨發表、同時に四日附をもつて特に陸軍砲兵少佐に御進級遊ばされ、大勳位に敘し菊花大綬章を授けられた旨も發表された。
【陸軍省午後一時發表】陸軍砲兵大尉北白川宮永久王殿下は豫て軍參謀として御出征中のところ九月四日作戰任務遂行中蒙蘇〇〇において飛行機事故により戰死遊ばさる。
また東條陸相は五日殿下御戰死を悼み奉り左の如く謹んで語つた。

北白川宮永久王殿下におかせられましたは軍參謀として蒙蘇方面に御活躍中九月四日飛行機事故のため御戰死遊ばされましたことは寔に恐懼痛惜の至に堪へません。
畏くも殿下におかせられましたは金枝玉葉の御身を以て本年三月以來御出征、參謀として重要な作戰籌畫の任務に就かせられ軍陣匆忙の間幾度か砲煙彈雨の中を馳驅遊ばされ、具さに將兵と戰場の辛酸を共にせられ御武勳の数々は全軍をいたく感奮興起せしめたところでありませぬ。

昨夜殿下御戰死の報に接し午後十時卅分北白川宮邸に參入、親しく大妃殿下に謁を賜はりまして恐懼御慰問の御言葉を言上

申上げた次第であります、恭しく惟ひまするに御祖父宮能久親王におかせられては明治廿八年日清戰役の後、臺灣御征討の御御畏れ多くも瘴癘の地に御戰死遊ばされ、御父宮成久王には佛國御留學中異境に御客死遊ばされ、今また永久王殿下御戰死の報に接し御代々國事に盡させ給ふた御事跡を偲び、且は大妃殿下並に妃殿下の御心事を恐察し奉る時只々感窮つて申上ぐべき言葉すらも見出し得ぬ次第であります。

この上は益々全軍一體殿下の御志を體し一意事變の處理に邁進致す覺悟であります。

北白川宮殿下の御遺骸は六日夕空路東京御着、喪の御凱旋遊ばされたが、九日畏き邊りでは御勳功を思召され、功四級金鷄勳章を賜はり、御喪儀は十八日朝、東京市小石川區の豊島岡御墓所に於て嚴かに執り行はせられた。

南寧、欽縣撤收

皇軍の佛印進駐により南支方面の封鎖は完璧の域に達し、從來重慶輸血路の一つとして重視せられてゐた南寧は最早その戰略的價値を喪失したので、我が南寧駐屯部隊は十月二十八日堂々南寧撤收の宣言を發し、次で十一月十三日夜欽縣を撤去、十七日その最後尾部隊の乗船を終了し、航空部隊海軍の適切なる協力の下に遂に無血裡に完了した。敵は我が最後尾部隊と一日行程を離隔しつつ、戦々恟々として追尾して來たにすぎなかつた。この方面の撤

退は我が軍の作戰に基き自主的に行はれたものであつて、我が方はこの兵力を他に轉用した。しかるに重慶側は案の如く彼一流のデマ宣傳を開始し、我が軍と大激戦を交へこれを撃退して南寧を奪回したかの如く放送したが、當時南寧前面の敵は戰意極めて乏しく、張發奎、夏威、鄧龍光等は逐次南寧附近に進出して來れるも、我が行動に對して遂に眞面目の妨害をなし得ず、従つて我が方は文字通り一兵の損害もなかつた。蒋介石は十一月六日自ら柳州方面に出馬して諸將領を督勵した由であるが、その威令は遂に行はれず、當時我が方欽縣に一部隊を配置し、南寧撤收部隊の收容に任じたものに對しても、敵は何等積極的の妨害を行ひ得なかつた。重慶は先に宜昌方面の補給路を失ひ次いで佛印よりの輸血路を閉ざされ、頼みとするビルマ・ルートも再開早々我が海軍航空隊のためメコン、サルウィン兩鐵橋を爆破された。これらによる彼の物心兩方面の打撃は蓋し甚大なるものがあらう。重慶側は今回の撤收をもつて日本軍の南支より全面的撤退の端緒なり等と宣傳したが、これは勿論とるに足らぬデマであつて、皇軍は今後といへども飽くまで抗日政權に對する壓迫を強化し、その全面的反省若くは徹底的環滅を見る迄は如何なる長期戦をも敢へて辭するものではない。

參謀總長宮殿下御離任 (昭和十五年十月三日)

開院參謀總長宮殿下には去る昭和六年十二月廿三日以來滿八年十箇月の長きに亙り參謀總長の重責を擔はせらるゝと共に、帷幄

の大任に奉仕せられ、その間滿洲事變、支那事變と極めて多事多端なる際御高邁なる御識見と御經驗とをもつて機務を御處理遊ばされたが、この度陛下には更に重要な御職務を御遂行遊ばさるゝため現職を御離任遊ばされ今後専ら元帥府議長、軍事參議院議長に就かせられ軍務に御精勵あらせられることゝなつた。而して參謀總長の後任には軍事參議官杉山元大將が親補せられた。

聖戰三箇年半の綜合戰果

陸軍部隊（昭和十五年十二月二十九日大本營陸軍報告部發表）

敵抗戦力の低下 皇軍の武威燦として大陸に輝く裡に紀元二千六百年を送ることになつたが、十五年における支那事變の状況を昨年とそれと比較するに先づ目につくことは敵の抗戦力が著しく低下したと云ふことである。即ち十四年度支那軍は四月攻勢夏季攻勢、九月攻勢、冬季攻勢と四回に亙り全面的に自主的反攻を試み來つたのであるが十五年は前年末より行つた冬季攻勢の餘波として一月に若干の蠢動を見た以外敵が全面的に反攻して來たものは全くこれを見なかつたのみならず強ひて自主的的反攻と認めらるるものを求むれば僅に八月北支において共産軍の二回の出撃があり我が軍に依り直に撃退された例があるのみで、これを前年と比較すれば敵の作戦は極めて消極的であり、その戦力の低下を現實に物語るものと謂ふべきである。

經濟的逼迫甚し 我が中原の制覇と封鎖の強行及び空軍の猛烈により敵の困窮は益々甚だしく經濟逼迫狀況は隨所に現れつつ

ある。即ち蔣政権の財政は現在において既に關稅はその九〇パーセントを、鹽稅、統稅はその八〇パーセントを失ひ殘餘の微々たる財源をもつて戦費を支辨しあるの現状であつて、彼の窮乏は蓋し想像に餘るものがある。試みに支那奥地における物價の一端を述べれば事變前に比し燃料は約一三倍、衣類は約八倍、食糧は約四倍の暴騰振りである。一方物資の輸入はビルマ・ルート及びその他の方面よりする輸入を合して事變前の一〇パーセントと推定され今後如何に英米の醫援的援助があらうとも物資の不足は愈々拍車を加ふることと思はれる。

國共の軋轢激化 國共の軋轢は屢々傳へられてゐる所であるが共産軍は今時事變を好機として勢力の擴大を圖りその兵力は初め蔣介石の指定せる三箇師を遙に突破して今や三〇萬に垂んとし、その地盤も北部山西より北支全般に擴大し更に長江下流の富裕地域に進出してゐる。目下蔣介石は共産軍を我が軍占領地域内の物資貧弱なる地方に移駐せしめその自滅を圖らんとするに對し共産軍は飽迄これに應ぜざるの態度を示しその葛藤は逐次激化せんとする情況である。

英米の援助強化 赫々たる皇軍の戦果により愈々窮迫に瀕せる重慶政権が抗戦を持続しつゝあるは英米の援助を唯一の頼みとしてゐる結果であつて今後と雖も英米の援助が續く限り蔣政権の抗戦は續くものと覺悟すべきである。實に英米は支那民衆の犠牲において我が國力の消耗を圖らうとするものであり、この意

味で蔣政権が窮乏に向へば向ふ程英米の援助も強化される可能性があるが帝國はこの情勢を凌いで益々蔣政権に對する彈壓の手を強めねばならぬ。過般帝國が承認を敢行せる新政權が確乎たる地步の上に健全なる發育を遂げつゝあり、その前途塞に洋々たるものがあるとはいへ、今や支那事變は世界的規模にまで進展し、帝國の前途に對する客觀的情勢は容易ならざるものあるを思はしむる時軍は愈々責任の重大なるを痛感して今後更に不退轉の決意を以て一路事變完遂に邁進せんとするものである。

主なる作戦と敵の損害

十五年度における主なる作戦と敵に與へたる損害は左の通りである。

- 一、冬季攻勢の撃滅戰（昭和十四年十二月より十五年一月迄）
 - 交戦兵力約敵全軍△遺屍六三、〇〇〇△捕虜二、五〇〇△鹵獲品迫撃砲三三、重機關銃八三、輕機關銃四五四、小銃一四、四八九
- 二、五原作戦（蒙疆一月—三月）
 - 交戦兵力約五〇、〇〇〇△遺屍約一〇、〇〇〇、捕虜二〇〇△鹵獲品迫撃砲二四、重機關銃五、輕機關銃四五、小銃七三〇
- 三、襄陽撃滅戰（南寧支南東北方一月二十八日—二月八日）
 - 交戦兵力約四〇〇、〇〇〇萬（三五個師多數の重砲機械化部隊及び空軍參加）△遺屍四六、八〇〇△捕虜二、五〇〇△鹵獲品火砲四一、迫撃砲六八、重機關銃一一〇、輕機關銃五四四、小銃

- 九、六六〇、擲彈筒一二五、戰車裝甲自動車等八八
- 四、晋南、鄉寧作戦（北支山西省四月中旬—五月）
 - 交戦兵力約二〇〇、〇〇〇△遺屍二三、九〇〇△捕虜六四〇△鹵獲品重機關銃三一、輕機關銃一三五、小銃二、二八八
- 五、青陽作戦（中支四月二十日—五月上旬）
 - 交戦兵力約五〇、〇〇〇△遺屍四、八八〇（内溺死三〇〇）△捕虜三三九△鹵獲品迫撃砲一九、重機關銃九、輕機關銃二九、小銃五五七、拳銃一六、船（艦船その他）九〇一
- 六、夏口作戦（南支五月十日—六月十日）
 - 交戦兵力約四〇、〇〇〇△遺屍六、一〇〇△捕虜一六四△鹵獲品迫撃砲一、重機關銃六、輕機關銃一九、小銃三八二、拳銃二四
- 七、宜昌作戦（中支五月一日—七月十日）
 - 交戦兵力約四七〇、〇〇〇（五〇個師）△遺屍八八、八五〇△捕虜五、六九一△鹵獲品火砲二八、迫撃砲五五、重機關銃一四八、輕機關銃五七七、小銃一二、六九一、擲彈筒一〇九
- 八、江南作戦（中支浙東方面十月上旬—十月下旬）
 - 遺屍七、八〇三△捕虜五一四△鹵獲品迫撃砲二、重機關銃一五、輕機關銃七八、小銃一、四三四
- 九、漢水作戦（中支漢水近傍十一月下旬—十二月上旬）
 - 遺屍六、一九七△捕虜四七一△鹵獲品迫撃砲一、重機關銃一〇、輕機關銃三四、小銃九四八
- 十、第二期晋中作戦（北支山西省共産軍の剿滅十月中旬—十二月

上旬)

交戦力三五、〇〇〇△遺屍二、一四七△捕虜三三五△鹵獲品
山砲三、迫撃砲一、重機關銃一〇、輕機關銃一三、小銃二、一
八六、自動小銃三四

燒却せる敵軍事施設

司令部兵舎等五六棟△軍需工場倉庫等九〇箇所

(一)昭和十五年度において敵軍に與へたる損害(一月—十二月末迄)

敵の遺棄死體 五八九、八八八

敵捕虜 五五、一二七

鹵獲品

重、野、騎、山砲一三四、機關、連射、高射砲五三、迫撃砲
五四一、重機關銃七八〇、輕機關銃三、七〇八、小銃一三八、
四四四、洋砲一、二三〇、戰車自動車等七六七、裝甲列車
機關車、客車、貨車三三、舟艇等一四七

(二)事變以來の敵軍に與へたる損害(昭和十二年七月より昭和十
五年十一月下旬まで)

敵の遺棄死體 一、八〇八、三五〇

敵の遺棄死體は私の目撃せるもののみであり然らざるものを計
上するときは敵に與へたる損害(死傷、逃亡、歸順等)總計數も
三百五十萬と判断せらる。

鹵獲品

重、野、騎、山砲等一、四二七、機關、連射、高射砲等三七

五、迫撃砲一、九六六、重機關、銃四、四二五輕機關銃一三、
五二六、小銃四〇五、一六五、洋砲一四、〇一五、戰車、自
動車等一、四五九、裝甲列車、機關車、客車、貨車等二、三
六四、舟艇等三三二

鹵獲品は判明せる主要なるもののみを示しこの外彈藥、器材、被
服等枚舉に遑あらず。

我が損害

聖戦に殉ぜる我が尊き犠牲は左の通りである。(昭和十五年十一
月十四日調)

△昭和十五年度における戦死

一三、一三一名

△昭和十二年より十五年末迄の戦死(張鼓岐、ノモンハン事件
を含む)

一〇一、八九九名

敵機撃墜三千、事變來の陸軍戰果

我が陸軍航空部隊は以上の地上作戦に協力し偵察に連絡に寧日
なく、縦横に翔りその間に敵重要據點を猛撃その軍需施設を粉碎
して多大の戦果を挙げた。一方六、七月中には海軍航空部隊と協
力重慶に大空襲を敢行して殆ど起ち上る氣力を喪失せしめた。又
九月下旬佛印進駐部隊に協力して各援將ルート據點の偵察連絡に
任じた。一方敵空軍は事變以來約三千機に垂んとする飛行機が撃
墜されその後の補給もならず今ではその片影すら見られない様に
叩きのめされた。

支那事變彼我飛行機撃墜數

敵の損害	撃墜	爆破	計	自爆	計
昭和十四年十二 月二十五日まで	三三〇	一六〇	四九〇	五一	五一
昭和十五年十二 月五日まで	八二	一六	九八	九	九
合 計	四一二	一七六	五八八	六〇	六〇

ノモンハン事件彼我飛行機撃墜數

敵の損害	撃墜	爆破	計	自爆	計
一三三二	五七	一三八九	一三七	一三七	一三七

空軍基地を前進、本作戦の特色

我が空軍根據地の前進と敵の補給路遮断の政戦兩略の利を收
む。また我が部隊は約四十日間に無敵の堅陣に據る敵陣帯しかも
交通不便なる一、二〇〇キロを突破し、異常なる皇軍の突破力を
示せり。

海軍部隊(昭和十五年十二月二十四日 大本營海軍報道部發
表)

帝國海軍在支作戰部隊は十四年に引續き常時陸軍部隊と緊密な
る連繫を保持しつつあるはこれと協同しあるは單獨に廣大範
圍に互れる各種作戦を遂行して隨所に多大の戦果を収めたり。
海上封鎖部隊 特に海上封鎖部隊は事變以來連綿不斷に寒氣

風濤と闘ひつゝ、常に沿岸の要所を監視すると共に主要港灣を占據
閉塞して支那船舶の航行を遮断し密輸を封じ以て敵補給線の断絶
に努めつゝありしが七月十五日更にその強化を宣言して鎮海、泉
州興化灣、汕尾、三都澳、温州、海門等の諸港並に廣九鐵道沿線
を急襲し敵陣地を撃破して殘敵匪賊を掃蕩し、戎克、荷揚施設そ
の他の諸機關を潰滅し以て海上封鎖の完璧を期しつつあり。

北支部隊 北支部隊は二月上旬以來その艦艇陸隊及び航空
隊の全力を擧げて陸軍部隊の魯東作戦(山東半島の全面的掃蕩
戦)に協力奮戦し大いに治安肅正の實を挙げたるも六月以降更に
同様の作戦を繰返し、山東、江蘇沿岸並に射陽河、灌河河岸を日
夜哨戒して第三國船舶及び戎克の密輸を完封すると共に、屢々陸
隊を揚陸し或は陸軍部隊と協力して榮城、莒州、石友勝、三
山、石島その他沿岸各地に蠢動する敵遊撃隊及び共産匪を討伐し
治安肅正に寄與するところ甚大なるものありたり。

揚子江部隊 揚子江部隊は江口より岳州に至る蜿蜒八〇〇哩
に亘る本流を始めとし、大小幾多の支流湖上を制しあるは江岸
に來襲する殘敵を掃蕩すると共に、隨所に陸隊を揚陸して敵匪
の根據を衝き、あるは航行船舶を狙ひ敵移動砲兵を壊滅し、ま
た敵浮流機雷の搜索掃海に至つては連日連夜長江兵站線の確保に
必死の努力を傾注せり、六月以降においては洞庭湖、君山方面の
敵地を制壓し更に漢水、高郵湖その他における陸軍部隊の掃蕩戦
に協力しまた屢々陸隊を以て江岸奥地に進入し敵匪の巢窟を覆

滅せり。

珠江部隊 珠江部隊は又水路錯綜せる同流域において、揚子江部隊と同様錯雑不規なる作戦に従事して主要水路特に陳村水道西口下流沿岸の敵兵並に戎克を掃蕩すると共に、牛角山島並に大淋島を攻略する等珠江水域並に附近の治安肅正に任じ着々その成果を挙げつつあり。

海南島部隊 海南島部隊は三月上旬より陸戦隊を増強し、陸軍部隊の協力を得て徹底的掃蕩を開始し、忽ち全島を席巻、主要部落を我が掌中に収めたるも、その後依然餘喘を保ちて暗躍を続ける共産匪並に殘敵を撃滅し、なほ航空部隊は陸軍部隊と協力してその後巢窟を覆滅せり、特に石山、清瀾、峨嵋、石壁、陽江、嘉積、大成、樂安、感恩、和安、臨高、長坡その他百餘箇所において徹底的掃蕩を實施して漸次肅正の實を挙げ、今や明朗海南島を現出するに至れり。

航空部隊 この間海軍航空隊は全支に互り制空權を確保して縦横無盡の活躍を續け、凡そ、作戦の行はるる所陸上に海上に或は江上に我が海軍航空部隊の活躍を見ざるごとく、克く各種作戦に全幅の活躍を致せり、六月以降においては宜昌、安慶、湖口、漢水、武鳴、南寧方面の陸軍部隊の進撃または掃蕩戦に協力して頑敵の撃攘、敵堅壘の粉碎、敵敵の殲滅等作戦の進捗に寄與すること多大なるものありたり、また浙 鐵道その他全支水陸各種の交通機關軍需品貯藏庫並に軍事施設を爆砕し、あるひは四川雲

南省の邊陲に逃避屏息せる敵空軍を潰滅してその再建を封じ、更に敵首都重慶に對しては十二月二日迄に實に四十七回に互る連綿的大空襲を敢行してその軍事、政治上の重要機關を灰燼に歸せしめたり、十月十八日滇緬路の再開を見るや、我が海軍航空隊の精銳は機を失せず數次の連續爆撃を决行して同路の橋梁を次々に破壊し、殊に功果、惠通の二大橋梁の爆砕に依つて本輸送路を完全に遮断するに至れり、以上の作戦において江上艦艇の處分せる機雷並に海軍航空部隊の撃墜爆砕せる敵飛行機數左の如し。

一、處分敵機雷數

揚子江方面	珠江バイアス灣	計
十三年	二、三一二	二、七二九
十四年	一、五二六	五〇四
十五年	七五一	一〇八
果計	四、五八九	一、〇二九
		五、六一八

二、撃破敵飛行機數

	確實	不確實	計
十二年	五二六	五二	五七八
十三年	七六七	一五八	九二五
十四年	一一五	二五	一四〇
十五年	二六二	二三	二八五
果計	一、六七〇	二五八	一、九二八

我が損害十二年六三、十三年五〇、十四年二九、十五年一一
重慶連爆四十七回投擲量八千五百トン

海軍航空部隊の活躍については別項の如く公表されたが、この一年間に出勤した海軍機の延機數二〇、八一四機投擲量は八、五一九トンの多量に上つてゐる。六月以降の戦果を大別すると次の如くである。

△奧地攻撃 敵首都重慶並にその周邊に對する海軍航空部隊の奧地攻撃は五月以降熾烈を極め四川特有の惡天候を克服して六月以來重慶に對するものみにても三十八回の多きを數へ晝夜を分たず痛烈なる爆撃を敢行更に重慶を中心とする附近の要衝を始め、遠く貴陽、功峽等四川、西疆の要地軍事施設を屢々撃砕したその間戦闘機隊は世界空戦史上に畫期的記録を樹立した。また海軍航空部隊の一部は九月末より惡天候と天候を克服長驅雲南方面の攻撃を敢行すること十數回、同方面の軍事施設に甚大なる損害を與へた。

△滇緬路攻撃 十月十八日滇緬路再開するや海軍航空部隊は克く天候の障碍を排除、機を逸せず數回に互り果敢なる攻撃を實施滇緬公路上の重要な鐵橋を完全に爆破して抗日政權最後の命脈たる對外交通路の庶斷に成功しまた十月二十六日には天候を翔破して雲南省の西端ビルマ國境に接するローウインを攻撃、敵に殘存する最大飛行機工場を潰滅せしめたのである、効果橋の修理成るを見るや十二月再びこれを爆撃してこれを爆破遮断した。

陸軍作戦及び各地掃蕩に對する協力

(イ)本年五月より續行中の宜昌進撃作戦において海軍航空部隊は陸軍部隊の襄陽附近の渡河作戦に協力、次いで襄陽方面より南下する敵部隊並に宜昌より收退する敵大部隊に殲滅的追撃を敢行六月十一日友軍の宜昌占領後専ら周邊の敵據點の攻撃を實施、敵軍制壓の任にあたり十一月に入つては漢水方面における陸軍部隊の大掃蕩戦に協力した。

(ロ)更に海軍航空部隊の一部は揚子江流域各方面の掃蕩戦に呼應して附近の敵兵、陣地、據點等に反復爆撃を加へた。

沿岸密輸基地並に陸要衝の攻撃 (イ)海軍航空部隊は浙江、福建、廣東各省沿岸の港灣、戎克群、荷揚施設、倉庫群及び堆積軍需品を粉碎して密輸基地を潰滅した。(ロ)浙西線に對しては七月初旬以來猛攻撃を加へ敵の軍事輸送に大打撃を與ふると共に屢々内陸の要衝の軍事施設、倉庫、軍需品貯藏所、工場、戎克、車馬等を爆撃した。

封鎖作戦強化

在支帝國海軍は支那全岸五、〇〇〇哩に互る嚴密なる封鎖を一層強化して七月十五日支那方面艦隊司令長官は更に區域を擴大し旨宣言した。同十六日より鎮海作戦を強行し同月更に興化灣、三都澳、汕尾、八月温州灣、海門灣、下川島、興化灣、碣石灣等を急襲して敵の陸上施設を壊滅し無數の戎克を燒却した。

警備區域増大

在支海軍は一月以來揚子江岸に出没する敵に對し陸戰隊を揚陸し、あるひは砲撃攻撃を加へ附近陸軍の掃蕩戰に對しては常に相呼應し敵の蠢動を封ずると共に絶えず水路を掃蕩して敵機雷を處分した。北支方面においては威海衛及び青島にある陸上部隊は逐次出動して急進討伐を行ひ海上部隊は砲艇を分派して敵物資の密輸を防ぎ沿河地方の治安維持に萬全の策を講じた。中支方面にては揚子江の南北にある水澤地方に砲艇を派遣し水路の交通線を保すると共に舟山方面にては對岸より侵入する敵兵匪の掃蕩、治安の維持に全力を注いでゐる。南支方面においては珠江水域の水路治安の確保に對し陸軍と協力し屢々掃蕩戰を行つてゐる。海南島では各地陸戰隊が空軍と相呼應して積極的討伐を行ひ深く奥地を掃蕩して警備區域も次第に増大してゐる。

四 昭和十六年の戰果

河南掃蕩戰

わが中支軍は唐、白兩河上流地區に蝟集し來りし敵第五九五五第六八の三個軍を撃破し豫南方面における蔣軍の牙城南陽を覆滅すべく一月二十四日信陽より北進した中央部隊は、所在の敵を撃破し、敵の重要據點明港、確山、遂平等を陥落、左翼兵團は大別山系の峻峻なる山岳地帯に據る敵を攻撃し、三十日敵第十三軍の本據舞陽を奪取した。右翼兵團は正陽、汝南を攻略、二月一日は項城を占領した。津浦、隴海線方面にある我が兵團も本作戰に

呼應して何柱國、孫桐萱軍を攻撃してこれを新黃河口畔に壓迫し湯恩伯軍を東北方、南方の二方面より包圍、陸軍航空部隊の緊密果敢なる協力と相まち五個軍約十七萬の衆敵を粉砕潰亂せしめ特に蔣軍の中堅部隊に徹底的打撃を與へ本作戰の目的を完全に達成した。二月六日までに判明せる今次作戰の戰果概要左の如し。
目撃せる遺棄死體一六、三〇〇、俘虜一、一五〇、野砲四二、同彈藥九、五〇〇、重輕機關銃一五二、小銃三、七九一、同彈藥四六〇、〇〇〇、手榴彈七、一〇〇
最近における敵の戰意戦力の低下は本作戰の經過並に結果より見て敵の難い事實である。いまこれを主として蔣直系の最精銳部隊をもつて誇る湯恩伯軍に對し行はれた河南方面の作戰について觀察するに我と直接交戦した敵の總兵力は約二〇個師一七萬の多きを算しこれに對して我が軍は極めて僅少の兵力をもつてその行動區域は五〇〇キロ以上の長遠なる距離に及び敵中深く進攻し至るところ壯烈なる電撃戰を展開、意氣軒昂たるに反し大兵を擁する敵は終始追隨的であつて我が追撃の前には潰滅、分散、屈服、遁走の連續であつた。流石に中央直系軍だけあつて裝備そのものは優秀であつたがその威力を十分に發揮するに至らず徒らに我が軍に圍獲の好餌を提供するの結果となつた。
たと依然として威服に堪へないのは性懲りもなき敵側のデマ宣傳である。上蔡、舞陽地區で湯恩伯軍の主力を潰滅して我が確山西方地區に蝟集し來つた敵孫連仲軍の主力を更に包圍潰滅すべく

突如反轉西南進を開始するや敵報道機關は逸早く「敵軍全線に互り總退却、我が軍は猛烈にこれを追撃中」とまことに威勢のよい宣傳を始めたがその實當面の敵は全く解體状態に陥つてゐてその一部といへども我に追尾し來りたるものなく我は背後に何等の危險も感ぜず悠々として新行動に移り、泌陽、汛源附近の殲滅戰を遂行したのである。

今次作戰の實相は右の如くであるが之は單に敵の戦力低下の結果のみと思ふは大なる誤りであつて實に我が軍戦力の充實と將兵の熾烈なる戰鬪意識によるもの洵に大なるものあるを知るべきである。

新四軍掃蕩綜合戰果

一月中旬定遠西方地區に展開された新四軍に對する掃蕩戰をはじめ酷寒の淮南平原において縦横に活躍した我が精銳諸部隊の一月中における綜合戰果は左の如くである。

- 交戦回数四〇、敵兵力八、七〇〇、敵遺棄屍四六六、捕虜一四
- 五、輕機三、小銃八五、拳銃二その他武器彈藥多數
- 香韶ルート遮斷

わが南支軍は香港—韶關の援將ルート遮斷のため二月四日惠州東南岸に奇襲上陸し、無人の野を征く如く北進して同日午後三時早くも淡水、沙魚涌の兩要衝を扼し香韶ルート遮斷し、莫大なる軍需品を圍獲したが同十日までに判明せる主なるものは、ガソリン四、二〇〇罐、石油二四八罐、植物性油一、〇〇〇罐

タンダステン八トン、アンチモニー八〇〇罐、鉛二、五〇〇トン、鐵板一、五〇〇トン、錫八〇〇梱、木綿および羅紗一、八八〇梱、綿糸三二〇梱、木材三、〇〇〇トン、煙草三、六〇〇百萬元、白米三〇〇袋、鹽二五〇トン、砂糖二、〇〇〇斤、乾電池一〇〇個、自動車三輛、水筒二七〇、〇〇〇個その他武器彈藥、被服、糧秣、輸送材料多數

支那派遣軍總司令官更迭

支那事變處理を中心とする時局の新段階に對應して昭和十六年三月一日支那派遣軍總司令官の更迭が行はれ創設以來の初代總司令官たる西尾壽造大將が一箇年半に亘る赫々たる武功を残して總司令官として最初の凱旋をなし後任には部内の長老である畑俊六大將が再び第一線の重任に親補せられ時局の急迫に備へられた。

西南支封鎖戰

香韶ルート遮斷により雷州半島方面の援將物資の輸送が激増したためこれら輸血路を遮斷し敵物資を押収する目的をもつて我が方南支軍の有力部隊は陸海協同の妙を發揮し三月三日未明、澳門地區より東莞灣北海附近にわたる敵軍需輸送策源の主要衝へ一齊に奇襲上陸を敢行して悉くこれに成功、たちまちにして廣海案西、陽江、電白、水東、雷州、北海を占領し南支沿岸における對將封鎖の鐵壁を完成、さらに西江方面の進撃部隊ならびに航空部隊と呼應し戰果を擴張し各部隊は五日も泥濘をおかして占據地區の掃蕩を行ひ爾後の行動にはいつたが、西江右岸地區を進撃、なほ各

部隊は敗敵を驅逐しつゝ行動にうつり、同日午後廣海陸上陸部隊と臺山北方軍水口附近で握手、江門、新會臺山斗山墟を結ぶ新寧鐵道沿線約八十キロは皇軍の手中に歸した。

敵輸送策源減作戦は多大の戦果を収め所期の目的を達した我が軍は陽江、電白、水東、雷州、北海附近に駐兵の要を認めざるをもつて惣々部隊を撤去し、所要に應じ隨時この種作戦を反復し得べき期待の位置に集結、所定の地區において乗船を完了し惣々撤退を完了した旨九日前南支軍より發表された。

我が軍今次の作戦は四百キロの正面にわたる廣大なる南支沿岸の各處に緊密なる連繫を保ちつつ一齊に奇襲上陸を敢行し、忽ちにして重慶側輸送策源の全要衝を手中にをさめたのであつて、眞に戦史に類例のない大規模なる會心の大作戦である。そも重慶政權は兵器その他重要軍需品資材の大部を外國よりの輸入に依存しなければ抗戦の續行が不可能なる現状であつては抗日の重要手段であつた排日貨主義すらも放棄し「禁運日貨特准辦法」なるものを發布し、あらゆる策を盡して日貨の獲得に狂奔する如き一例をもつても資源の枯涸に喘ぐ重慶の様相が窺はれるのである。ことに佛印ルート失陥後のがきたるビルマ・ルートもわが空軍の爆撃によつて半身不隨の状態となり、その機能を發揮することができず、最後の輸血路と頼んだ香溜ルートもまた去月上旬わが軍のため完全に遮断され、あまつさへ莫大なる軍需品を鹵獲されて致命的の痛手を蒙るにいたり、最近の狼狽ぶり甚だしく、わが海軍

の沿岸封鎖や陸空軍の輸送路遮断に屈服しつゝ、なほも今次作戦地方に新ルートの開拓、物資の潜入輸送を畫策狂奔してゐたが、その矢先このたびの作戦により、その輸送策源の全要衝がわが軍の占領するところとなつたもので、まさに對將封鎖鐵壁の完成といふべきである。これにより重慶側抗戦物資の輸入が不可能なるのみならず、外貨獲得のための物資輸出もまたことごとく喪失し對米借款の如きも名實伴はぬことになり、この重慶の對外輸出入の斷絶こそ、とどめの一撃として重慶の没落瓦解を徹底的ならしめるものと觀られる。

赫々たる戰果

次の西南支那沿岸における一齊上陸作戦ならびにこれに呼應する西江右岸地區進撃作戦の五日正午までに判明せる綜合戦果は左の通り。

- (一) 敵に與へたる損害、確認せる遺棄死體三九三、捕虜一五六
 - (二) 鹵獲品、迫撃砲二、輕機一、小銃五二四、拳銃一四、彈藥多數
 - (三) 鹵獲せる敵軍需品石油、一、三六五罐、種油三、〇〇〇罐
 - (四) 一、〇〇〇貫、釘四〇〇貫、鐵一五ト、米九〇石、綿布二一六反自動車部分品七捆、麻繩六〇卷、その他木材、食料品多數
 - (四) わが方の損害戦死三、戦傷六
- なほ北海占領の高島、瀧本各部隊は占領と同時に同地海關長英人ガウラーに對して、同海關が保管中の蔣軍々需物資の引渡を要

求したところ同海關長はわが軍の正當なる要求を率直に認め、これを引渡すことになつた。

事變を繞る國際關係

一 事變と列國の動向

(1) 列國の動向概観

事變の多角的國際性 昭和十五年九月締結された日獨伊三國同盟は支那事變のもつ多角的な國際性を更に一段と高めた。國際關係が相關聯し、相錯綜してゐる今日では、地球の一角に發生した紛争も直に全世界に波及する。殊に支那は列國の半植民地として、その利害關係は極めて複雑に入亂れてゐるから、一國の支那との紛争は忽ちこれと深い利害關係をもつ列國を刺戟して新なる紛争を生み、かくて紛争は世界的に擴大して行く。支那事變は支那の多角的な國際關係から、その國際性は自ら高からざるを得ない。

支那事變の國際性は、事變に内在する二つの特異性によつて更に二重に複雑となる。その一つは支那事變の處理、東亞新秩序の建設は歐米列強の羈絆より支那を解放せんとする闘争であるから、

事變の遂行は必然に歐米列強の反抗を惹起し、事變の進展はますますこの反動を激化する。

第二は支那事變が赤化防止のための闘ひであるといふことである。支那にはソ聯に次いで有力な共產黨軍が支那赤化に活躍し、人民戦線を統一して對日抗戦を指導してゐる。支那事變は赤禍より支那を救出せんとする聖戦で、この一面において支那赤化を指導するソ聯と鋭く對立してゐる。

かくて日本は支那事變の遂行によつて、支那に利害關係をもつ歐米資本主義諸國並にソ聯との對立抗争を惹起したが、ヨーロッパにおける獨伊兩國による現状打破の運動は歐米列強の對日陣營を分裂せしめ世界は今や現状維持國家群と、現状打破國家群の二大陣營に分れて死闘を展開するに至つた。支那事變は東亞における現状打破の闘争であり、この意味において世界政局の縮圖である。東亞新秩序建設は世界新秩序建設の一分野として、支那事變は世界的問題の一環として處理されねばならなくなつた。

集團安全保障の失敗 事變が北支に限られてゐた間は、我が國を牽制するために逸早く支那と不侵略條約を結んだソ聯を除いて、列國は事件の不擴大を希望した。アメリカの國際條約尊重に關する聲明も極めて慎重であつた。ドイツも事變の擴大を危惧して嚴正中立を標榜した。

事變が上海に飛火し中支に擴大するに及んで初めて列國の干渉は積極化となり、國際聯盟及びブラッセル九國條約會議反日決議

となつたが、地中海の不安とイタリアの日本支持とは著しく反日
國家群の歩調を亂した。

事變は第二年に入つた。ヨーロッパではドイツのチエツコ併合
問題を繞つて戦雲が低く全歐の空を蔽うてゐた。

支那事變に對して全體主義諸國を除く世界の輿論は多く支那に
同情を寄せて、日本を侵略者として非難してゐたが、歐米列強も
文書による抗議、決議以上の行動に出でようとはしなかつた。各
國とも戦争の危険を冒したくなかつたし、またお互に他國の意向
が氣がかりでもあり、また國內問題や對外國問題に没頭して慎重に
極東に發展して行く事態を見守るの外なかつたのである。

歐米各國の行動を最も強く釘づけにしたのはヨーロッパの危局
であつた。スペインの内亂は第三年目に入つたが、それ以上に直
接的な脅威はドイツの積極的な行動によつてヨーロッパは極めて
緊迫した情勢を孕みつゝあつた。ドイツはオーストリアを併合し
て世界を震撼させた。次いでチエツコに對する要求が新なる危機
を生んだ。

集團的安全保障の制度と組織の上に政策の基礎を置いてゐたイ
ギリスもイデーデン外相の辭職によつて集團安全保障政策を放棄し
た。エチオピア問題で聯盟をしてイタリアの經濟封鎖を斷行せし
めたイギリスも、聯盟主義者イデーデン外相の退却によつてチエン
パレン、ハリファアツクスの現實に即した外交に轉換し、イタリアの
エチオピア併合の承認を含む英伊協定が成立し、次いで、英佛會

談となり佛伊交渉となり、列國の個別的折衝が相續いで行はれ、
集團的安全保障制度は急速に崩壊の一途を辿り、イギリスの外交
は現實主義の軌道に乗つて來た。

反日國家群の結成 イギリスの外交政策の轉換は反日國家群
の陣營を混亂に陥らしめた。イギリスの獨伊宥和はフランス、ソ聯
との協調を冷却せしめアメリカとの提携に龜裂を生ぜしめた。現
狀維持派の動搖、混亂は現狀打破國家群の活動を促してドイツの
チエツコ併合、イタリアのアルバニア合併、獨伊軍事同盟の成立
英佛ソ聯三國同盟交渉の停頓、中立法を繞るアメリカ國內政局の
紛糾等々相次いで生じた歐米政局の不安は英米佛の極東政策を
混亂せしめた。就中イギリスは獨伊の攻勢に壓迫されて、極東に
おいては我が國に對し和協的態度に出で日英東京會談の開催とな
り、支那に展開しつつある新事態を完全に承認する一般原則の諒
解が成立するに至つた。

しかしイギリスの對日屈服は強くアメリカを刺戟して、樞軸國
家群との抗争を決意せしめた。アメリカは日英原則協定成立の後
二日、突如日米通商條約の廢棄を通告してその決意を具體的に示
した。イギリスは忽ちこれに便乗して反日的態度に逆轉し、東京
會談を決裂せしめた。

日獨伊樞軸の進出は再び英米佛等の現狀維持國家群を結束せし
めた。東亞においては東亞新秩序建設の聲明により舊體制の崩壞
に怯えた英米佛が協力して、その國際的壓力によつて我が大陸進
出を阻止せんとした。イギリスは宥和政策を放棄してアメリカに
歩み寄り積極的に對蔣援助に乗出した。アメリカの第一次二五〇
〇萬ドル借款、米支銀協定の無期延期、イギリスの輸出保證制度
の擴張による對蔣五〇萬ポンドの借款供與となつた。ソ聯はミュ
ンヘン會議で縮出しを食つてからドイツに接近し始めたが、東洋
においては依然英米佛の反日政策に便乗して強硬態度に出で、ノ
モンハン事件を惹起した。

現狀維持派と現狀打破派との抗争は、そのキャスティング・ボ
ードを握るソ聯が現狀打破派に加擔し、昭和十四年八月獨ソ不侵
略條約を締結するに至つてその均衡が破れた。ドイツの攻勢は果
然積極的となり、ポーランド問題は遂に第二次ヨーロッパ戦争の
勃發となり、極東を顧みる餘裕を失つた英佛は、アメリカの極東
政策に追隨せざるを得なくなつた。ドイツもまた獨ソ不侵略條約
と對英佛戦争によつて、その極東政策もソ聯の制約を受けざるを
得なくなり、ここにアメリカとソ聯とが極東の國際政局に大きく
クローズ・アップされて來た。

米ソの比重増大 獨ソ不侵略條約の締結と歐洲戦争の勃發と
は極東に對する國際關係を編成替へした。英佛は米國の極東政策
に追隨し、ドイツはソ聯の掣肘を受けざるを得なくなり、英佛の
極東よりの退陣と共に米ソ聯との比重が俄に大きくなつて來ると
共に、事變以來反日陣營にあつた米ソの二國が夫々ドイツ及び英
佛の側に立つた結果として、その極東政策においてもまた對立す

るに至つた。即ちアメリカの反日政策の強化に反して、ソ聯はそ
の強硬政策を緩和してノモンハン停戰協定の成立となり滿ソ國境
を鎖した戦雲は一掃された。米ソの對立はまた抗日支那における
統一戦線に動搖を惹起しソ聯の指導する中國共產黨と、英米佛に
依存する蔣政體との相剋を激化する原因の一つとなつた。日獨伊
三國同盟の締結は更にかかる傾向を一層強めた。事變當初の國際
聯盟や九國條約會議の反日決議當時よりすると極東の國際政局は
畫期的な變化を遂げ、集團的安全保障の失敗より反日陣營の混亂、
分裂が激化し國際的壓力が低下しつゝ、ある間に支那の戦局は驚異
的發展を遂げ、我が國の東亞共榮圈における指導權は確立して搖
ぎなきものとなつた。

ヨーロッパ戦争は本質的には極東に影響せず、と重慶歐米派要
人は自慰的口吻を洩らしてゐたが、ひたすら外力に依存する重慶
にとつてヨーロッパ戦争の勃發は頼みの綱を絶たれたやうなもの
である。その失望、焦燥、懊惱は思ひ半ばに過ぐるものがあつた。
英佛の交戦國は固より、アメリカもまた英佛救援のために對蔣物
質的援助は著しく消極的となり、殊にドイツの歐洲大陸席巻によ
り重慶における歐米派の勢力失墜し、新に親獨派が擡頭して、重
慶外交路線の轉換が論議されるに至つた。

支那事變の世界的規模への發展 三國同盟の締結は我が外交
政策の一大轉換である。これを支那事變處理の觀點からのみ見て
もまた明かに一段階を畫するものである。三國同盟締結後におい

ても、我が國は支那事變處理を第一とし、必ずしもヨーロッパ戦争不介入方針を放棄したものではないが、情勢の變化に應じてヨーロッパ戦争または支那事變への新なる介入者に對して戦ふべきことを約定したものであるから、支那事變の國際的性格は愈々昂められ最早單に極東のみの問題として切離して考へることを得なくなつた。

獨伊との同盟は歐戰勃發以來の不介入方針に示された英米協調を基調とする事變處理方針を一擲して、獨伊との協力による世界新秩序建設の新たな構想の下に支那事變を處理せんとするものである。英米の敵性は事變以來次第に強まるのみであつた。我が國がいくらか新事態に順應し協力を求めても、その努力は却つて對日干渉と援將行爲の強化をもつて酬いられたにすぎなかつた。英米との協調による事變處理に絶望したことが三國同盟の成立を促進した第一の原因である。その第二は歐洲戦争の急進展はオランダ、ベルギーの抹殺となり、フランスの屈服となり、これら諸國が東洋に有する屬領が無主權状態となつて、こゝに東蘭領インド、佛領インド支那を繞つて英米と新なる對立を生むに至つた。英米の對日經濟壓迫は我が國を押しつめてこれら南洋諸國との經濟的關係の強化を圖らざるを得ざらしめた。英米は從來その南洋に扶殖せる有力なる政治的・經濟的勢力を一層強化して、對日攻撃の據點とせんとするに至つたので、東亞共榮圈の建設はおろか、支那事變の處理すら危ぶまれるに至り、不介入方針を一擲せざるを得なくなつたのである。

得なくなつたのである。

三國同盟を契機とする國際情勢の變化、就中英米合作の對日牽制の強化は、重慶政權の抗日態度を一層硬化せしめた。次いで十一月廿日の國民政府正式承認により重慶政權は全く取りつく手掛りを失つてしまつて、全面的和平の可能性は更に一段と稀薄となつた。事變處理の終極の目的である全面的和平はただ國民政府との協力により局部的和平を全面的和平に擴大する以外にはない。この意味において日支基本條約の締結は事變處理に一段階を畫したものである。

東亞新秩序の礎石成る 昭和十五年三月三十日新支那中央政府成立し帝國政府は直に新政府支援を聲明した。次いで有田外相は四月十五日蘭印現狀府持聲明を聲明し、五月十一日歐洲交戰國に對して蘭印の現狀維持を申入れた。軍需資材を第三國よりの供給に依存する重慶政權の命脈を絶つために援將輸血路を遮斷すべく六月十九日佛印に對して援將斷絶を要求し、翌二十日フランスはこれを受諾した。天津英租界問題もイギリスの讓歩によつて一年振りに解決、ビルマ・ルートも七月十八日より向ふ三箇月間閉鎖された。七月下旬成立せる第二次近衛内閣は八月一日基本的國策大綱を發表して大東亞新秩序建設を宣言した。九月二十二日日佛協定成立して翌二十三日皇軍の佛印進駐となり、同二十七日には日獨伊三國同盟成立して我が國外交の大方針確立し、十一月三十日支基本條約締結され、日本及び滿支相互の承認となり近衛

宣言の皇國を核心とし、日滿支の強固な結合を根幹とする大東亞の新秩序建設の基礎が定つた。昭和十六年三月のタイ佛印の調停成功は三國同盟によつて宣言された如く、東亞が實際に日本の政治的方針の下に支配されてゐることを事實をもつて立證したものであり、日本の東亞における新秩序建設を妨害するためアジアを不安定な状態に置かんとする反日國家群に對する日本の新しい勝利であり、東亞の政局に新段階を畫するものである。

英米合作の太平洋攻勢 松岡外相は十六年一月廿六日衆議院において『前内閣時代、あるひは前々内閣時代にも矢張りアメリカは日本を攻撃してゐるばかりではなく、何とか日本と諒解を遂げ親善關係を回復したいと考へて多少の努力をしたことはある。この點はハル國務長官の言明も事實に合してゐると認める。しかしそれは日本の大陸政策なり南方政策を投げうつとまでは考へてゐなかつたかもしれないが、平たくいふと半分位は後退りをするといふことが前提條件である。それはもう所詮日米の間に國交を改善することは絶望であるといふことを言明して置く。』

アメリカの極東政策は三國同盟をもつて新たな段階に突入した。アメリカは最早我が國と諒解を遂げ親善關係を回復しようといふ妥協的な考へをもつてゐない。アメリカは露骨に對日攻勢に轉じ、英國との合作を強化して對日壓迫を加重し來り、政治、經濟、軍事と三方面に互つて攻撃を加へつゝある。對日壓迫政策は更に一段と強化され、英米共同の太平洋攻勢は愈々本格的となつた。

事變を繞る國際關係

英米の對日攻勢は三つの線に沿つて進められてゐる。第一は重慶政權抗戰力の増強である。英米は各一、〇〇〇萬ポンド、一億ドルの借款を與へ、再開したビルマ・ルートを通じて武器彈藥を補給し奥地軍需工場、鐵道建設に對する援助を與へてゐる。第二は日本の南進妨害で、蘭印、佛印の日本接近を阻止し、タイに軍事協定を強要した。第三はイギリス極東軍司令部の創設、アメリカ太平洋定期航空路のマニラよりシンガポールへの延長、オーストラリア、ニュージラランド、海峽植民地、重慶を連ねる對日包圍陣の形成である。

英米の極東政策が一元化したこと、在支權益の擁護より支那事變處理に對する妨害となり更に進んで對日攻勢にまで積極化したことに注目しなければならない。蔣政權は今日英米を在支權益の擁護者としてよりも、その對日包圍陣の有力なる協力者として、日本を事變に釘づけにして、日本の南進を阻止せんとし、英米と重慶の軍事同盟の締結説さへ傳へらるゝに至り、英米陣營における重慶の重要性は愈々増大して來た。支那事變は世界戦争の一環として解決されなければならなくなつて、事變の解決は愈々複雑かつ困難となつた。

(2) アメリカの動向

アメリカ在支權益の實體 昭和十四年十月着任早々日米協會においてグルー・アメリカ大使は『支那における現實の事態では

アメリカ國民は新秩序の下においては、その歴史的權益を奪はれんとしてゐるのである。アメリカ國民はこれに對して反對してゐるのであり、アメリカの輿論は現に日本の軍事的行動の結果としてアメリカの正當なる在支權益に對して行はれつゝある爆撃、侮辱殺傷、干渉行爲に對し舉國一致憤懣を感じてゐるのである。またアメリカ國民は、日本はアジア大陸の廣大なる部分に對し支配權を確立し、日本一國の利益のために、領國的經濟機構を確立せんとしつゝあるものと信すべきあらゆる證據を有するものである。右のやうな事態及び理由によりアメリカの輿論は日本の支那における行動、特にアメリカの在支權益に對する行動に對し憤懣を抱いてゐるのである」として、アメリカ極東政策の基調が専ら在支權益の擁護、門戸開放、機會均等の原則堅持にあるかの如く説いてゐる。しかし「アメリカの在支權益は僅か戰艦二隻の價に過ぎない」(一四、一一、二三、デリー・ミラー紙)「極東におけるアメリカの利害關係は僅か一年間に消費するチウウインガム代にも足りない。米國人は全極東に投下された資本よりも更に多額の金を僅か一年間に理髮店、マニキエアに使つてゐる。しかも支那への投資は極東投資額七億乃至八億ドルの四分の一にすぎず、それはアメリカ人がフットボールその他のスポーツ見物のために毎年使つてゐる額よりも少いのである」(ウオーカー・マスチン、ノースアメリカン・レビュー)これがアメリカの在支權益の實體である。一年間のチウウインガム代、理髮料、スポーツ見物料を擁護

せんとするのがアメリカ極東政策の根柢では決してないはずである。

日本の南進に對する不安 アメリカは支那に領土、租借地、勢力範圍を持つてゐない。列國に遅れて支那に馳せつけたアメリカの權益はイギリスなどに較べると政治的にも、經濟的にも極めて輕小である。それ故に、我が國の軍事行動が北、中支に止つてゐる間は、その對日干渉も單に聲明の發表をもつて止り得たのである。しかし戦局が發展して皇軍が廣東を攻略し海南島に上陸するに及んで、その態度は俄然硬化した。我が方の南支への進出は直にアメリカの南方太平洋貿易ルートを脅威し、ゴム、錫、アンチモニー、タングステン等の軍需資材の輸入を不安ならしむるに至つたからである。前アメリカ、アジア艦隊司令官ヤネル大將は昭和十四年十一月十六日ニューヨーク・ポスト紙主催の對日政策討論會の席上「極東におけるアメリカの權益は、今や擧げて日本の脅威下に暴されるに至つた。日本は東亞新秩序建設を宣言してゐるが、それは日本の支配を東亞及び南西太平洋に擴大することを意味することに外ならない。今やこれらの地域からアメリカ市民放逐が開始されてゐる。アメリカはアメリカの權益に對する破壊行爲をどこまで、そしてどの程度まで黙視し得るかといふ差迫つた問題に直面してゐる」と、南西太平洋貿易ルートを確保し、日本の東亞における霸權確立の企圖を打破しなければならぬことを力説した。ルーズヴェルト大統領はかつてアメリカの國防第一

線はライン河にあると叫んだが、今日では更に擴大してヨーロッパにおいてはイギリス、ギリシアに、東洋においては重慶に擴大された。アメリカは西南支那への日本の進出をもつてアメリカの國防を犯すものとし、支那事變の遂行をもつてアメリカに對する挑戦と見做すに至り日米の關係はこゝに決定的に對立するに至つた。

「二十四時間政策」 滿洲事變以來のアメリカの極東政策は反日をもつて終始一貫してゐるのみならず、その反日的傾向は事變の進展につれ日を逐つて益々昂りつゝある。イギリスの極東政策が動搖低迷してゐるに反し、アメリカが反日的態度を持続し得たのはその在支政治的經濟的權益投資がイギリスに比して著しく少いこと、イギリスのやうに東洋に多くの植民地を有してゐないため、支那における民族解放運動の成功に對してさほど恐怖する必要がないこと、イギリスの極東防衛が劣弱であるのに反してアメリカは日本に對して經濟的に威壓し得る立場にあること、ヨーロッパ戦争以前においてもヨーロッパ政局の不安によりイギリスの如く直接牽制されなかつた等々の事情によるものである。

しかしアメリカの極東政策はその主義に關する限り傳統を墨守してゐるが、その運用においては滿洲事變におけるスチムソンと支那事變におけるハルトでは大分違ひがある。事變の當初においては國際聯盟の有力國たるイギリスが動かかなかつたので、アメリカも集團的行動に指導的役割をとることを回

避した。そしてアメリカは支那事變に對しても政治的介入を避け、在支アメリカ人の生命財産の保護、權益の擁護に努力を集中し、日本の行動を牽制するため大海軍建設に邁進した。中立、軍備強化そして注意深き形勢の觀望、二十四時間を單位として形勢の變化に對處するといふ所謂二十四時間政策がアメリカ外交の基調であつた。

アメリカの國際的孤立 支那事變に對し米國が公式に態度を明かにしたのは昭和十二年七月十六日のハル國務長官の聲明であるが「國際政局に關しアメリカは平和の維持、國際的自制を主張し、政策の遂行に武力を用ひ、他國の内政に干渉するを避け、條約の神聖を擁護し、全世界の安定及び經濟的安全を望み、軍縮を希望し他國との同盟は避くるが上述の原則を支持するために平和的協力を欲する」旨を説いたのみで日本の名をあげず、支那の領土保全にも觸れず、極めて抽象的表現にのみ限つた。しかし戦局が上海に波及するに及び、八月二十三日第二次の聲明を發表して「七月十六日の聲明は太平洋地帯にも適用されるものであり、該聲明書に述べた主義原則は廣汎かつ根本的であつて、ワシントン條約及び不戰條約も包含されてゐる。しかしアメリカ政府はこれらの根本的主義が強化されて太平洋地域に履行されんことを欲する」と述べて次第にその攻撃的目標を明確にして來た。

九月十二日支那が國際聯盟に集團的安全保障を訴願するに及んでアメリカの態度は更に明瞭となつた。聯盟の極東問題諮問委員

會の一員であるアメリカもこれに参加して、十月五日二つの報告書を決議した。一つは日本をもつて九國條約及び不戰條約の侵犯者であると認めたこと、その二は戰闘行爲によらずして協定に達するため九國條約締結國會議の開催を決定したものである。同日大統領はシカゴにおいて『平和を愛する國家は結束して戰爭を傳染病の如く隔離しなければならぬ』と演説し、ハル長官も國際聯盟の結論と同じ見解を有するものである旨を發表し、同月三十日ブラッセルに開催さるべき九國條約會議に参加を表明した。

當時英佛は獨、伊及びスペインの内亂に没頭して居り、九國條約締結國の中進んで日本に對し干渉的行動をとらうとせず、米國を先頭に押し立てんとする形勢であつたので、アメリカも尻込みして、會議の主催すらベルギーに押しつけ、會議の目的も『支那の現状を解決すべき方法を協議によつて探求する』ことに限定した程である。しかし事變以來第三國の介入を排撃してゐる日本が九國條約會議の招請に應ずる筈もないから、會議によつて和協の方法を發見し得ないのは當然で同會議が豫期の如く失敗に歸して以來アメリカは再び孤立の立場に立返らざるを得なかつた。

英米合作に危惧 アメリカの極東政策の硬化を制約したものはヨーロッパの情勢と共に國內の情勢であつた。昭和十三年のアメリカにとつての緊急の問題は外交問題ではなくて國內問題であつた。經濟恐慌、勞資の對立の尖鋭化、ルーズヴェルト政策に對する再檢討がアメリカ國民の最大の關心事であつた。議會では

行政機構改革法案、賃銀及び勞働時間法案、失業救済追加支出法案を繞つて論戰が續けられてゐた。緊迫した國內問題の轉換策として極東問題が取上げられた。

昭和十三年三月十七日ワシントンのナショナル・プレス・クラブにおいてハル國務長官はアメリカの極東政策に言及し『極東における危局に際し米國は終始他の諸國と提携し來つた。但し米國はこの協力に同盟といはるべき性質を與へず、またあらゆる意味において戰爭に捲込まれることを回避してゐる。米國の傳統的政策は他國との間に同盟を結ばず、また他國の問題に介入しないといふ點にあるが、我々は現在まで慎重な態度をもつてこの方針をとつて來たし、今後またこの方針によつて政策を進めて行くであらう。』

蘆溝橋事件の發生した十日目の七月十六日の聲明においてハル長官は、國際協定の忠實な履行、平和的折衝による國際間の諸問題の調整並にこれらの原則を支持するための平和的にして實際的な手段による協力一致といふアメリカがもつて國際間の準則と規定する原則を高調して、支那に對して同情を抱く諸國の共鳴を得たが、それだけでは極東における事態を改善することには役立たなかつた。

英米が協力して日本に對して經濟壓迫に乗出す場合ソ聯は確實に、フランスとオランダとは多分、追隨するであらうと考へられたが、イギリスが動きさうになかつた。

イギリスの極東政策は豫定の方針をもつてゐない。香港の不安在支權益に對する脅威、ヨーロッパ政情の險惡、イギリス極東軍備の未完成、ソ聯との提携に對する保守黨政府の嫌惡等々、かうした事情がイギリスの極東政策を常に日和見的たらしめた。

事變の進展につれて次第に集團的安全保障への傾向を高めたアメリカにとつて、イギリスが自國の利益を守るために支那を日本に賣渡しはしないかとの懸念があつた。滿洲國を否認した時イギリスも當然これを支持するものと期待してゐたが、イギリスは不干渉を聲明して事實上日本に協力した。その苦い記憶がアメリカをして集團保障のイニシアテイヴをとることに二の足を踏ませたのである。

政治的介入を回避 國際的協力に絶望したアメリカは獨力で在支權益の保護に努力した。事變當初支那各地に在住したアメリカ人は一萬に達したが、昭和十三年一月にはその半數を支那から引揚げさせた。この際とつた措置はスチムソン時代とは大部違つてゐた。スチムソンの場合にはアジア艦隊を上海に、全艦隊をホノルルに集結させたが、支那事變勃發後一年の間にアジア艦隊が上海に最も多く集結した時でも四四隻の中一三隻にすぎなかつた。しかもその中九隻までは河上砲艦であつた。昭和十二年末のバネー一號事件も穩便に解決された。アメリカは政治的介入を避けて専ら自國の在支權益保護を強硬に主張した。しかしこれは事變によつて蒙つたアメリカ人權益の賠償を要求するだけでなく、支那

この條約によるアメリカの權益を日本に認めしめこれによつて日本の將來の行動を拘束せんとするものであつたことは昭和十三年一月のルーズヴェルト大統領の言明を見ても明かである。曰く、『米國の極東、ヨーロッパ及びアメリカ大陸に有する關心はアメリカ人の在留數、投資額または貿易額の多寡によるものでなく、もつと廣汎にして根本的な問題に注がれてゐる。即ち國際關係に秩序ある方法がとられてゐるか否かである。特に極東の事態につきアメリカは平和的手段により秩序ある方法の維持獎勵に深い關心をもつ、それは眼前にある在支アメリカ人の休戚よりも重大である。』

精神的壓迫より實力干渉へ 事變第二年目の昭和十三年は一月のルーズヴェルト大統領のフアッシュヨ國排撃、軍備擴張教書をもつて始まり、二月大海軍の建造に上り飽まで對日優勢を保持するためエスカレーター條項を援用すべく、イギリスと共に建艦通告を行つた。四月米支銀協定成立、五月我が軍の廣東空爆開始に對し六月上院はビットマンの提議した空爆非難決議案を可決した。十月漢口作戦を牽制するため支那における門戸開放、機會均等を要求する強硬なる申入れを行つた。この時までのアメリカの態度は平和原則論、國際條約尊重を一枚看板とする一種の言論、通信攻撃で、なほ精神的壓迫に止まつてゐたが、廣東、武漢三鎮相次いで陥落し戰局の南支への擴大が不可避となり、十一月三日東亞新秩序建設に關する近衛聲明となるに及び俄に日本の南方進出に

不安を感じてアメリカの態度は果然硬化し、十二月第一次二五〇萬ドルの援蔣借款供給、米支銀協定の無期延期を公表し、英佛兩國と協議の上十二月三十一日東亞新秩序に絶対反対を表明せる抗議を提出した。十四年に入つて二月國務省の對日投資阻止言明、海南島占領に關する申入れ、三月アメリカ航空會社の援蔣借款成立、十四年二月の海南島占領、三月の新南群島の臺灣總督府管轄編入に對して四月對日示威のため海軍主力を太平洋に回航した。同月ピットマンの『九國條約違反國に對する貿易制限案』なる對日武器及び軍需品禁輸決議案の上院提出となり、七月には中立法を續つて對日制裁論が昂まり、遂に七月二十六日に至つて日米通商條約廢棄の通告となり、日本の行爲を糾弾する實行の第一歩に入つた。

對日攻勢に拍車 支那事變は第四年目を迎へて昭和十五年に入つた。一月をもつて日米通商條約は通告通り廢棄された。三月には第二次二、〇〇〇萬ドルの援蔣借款の供與、同月末の新支那中央政府の否認聲明、六月四日の『工作機械を含む特定の機械類』の輸出許可制の採用によつて事實上の對日禁輸を行ひ、七月二十五日には大統領令をもつて石油製品、鉛、鐵鋼、九月十三日には航空機關係の設計に對する許可制を發表し、汎アメリカ諸國及び英國以外の國家に對する事實上の輸出を禁止した。皇軍の佛印進駐と、三國同盟に對する報復として九月末には第三次二、五〇〇萬ドル借款を重慶政權に與へて蔣介石を激勵し、十一月三十日の日

支條約の成立に對する反撃として一億ドルの借款を供與し、昭和十五年度においては實に總額一四、五〇〇萬ドルの援蔣借款を許容して、重慶の命脈保持に努めた。更に大統領は十二月十日及び二十一日の再度に互つて鐵鋼、鐵鐵、合金鐵その他種々の鐵鋼製品及び特殊金屬、機械類の對日輸出に對して輸出許可制を擴大適用する旨を聲明した。

軍備と太平洋の武裝強化 滿洲事變の際は軍備劣弱のため日本の大陸進出を阻止することが出来なかつた苦杯を嘗めてゐるので、支那事變が勃發した翌昭和十三年八月第二次ヴァインソン案を樹立して條約量の二割を擴張し、歐洲戰爭の發生により一九四〇年第三次ヴァインソン案を立て、第二次ヴァインソン案の一分増強を計畫したが、その直後ドイツのオランダ、ベルギー席巻、フランスの單獨講和とヨーロッパ戰局の急展開により、これれまで日本を目標として來たアメリカは、イギリス海軍の前途に不安を感じ太平、大西兩洋艦隊の建造に着手し、第三次ヴァインソン案までの七割を新に増強して、三〇〇萬トン的大海軍を擁し兩洋同時作戰の可能な軍備大擴張に狂奔してゐる。

アメリカは十五年夏以來聯合艦隊をハワイ水域に集結して日本の南進を實力をもつて牽制せんとし、フィリピンに艦隊の一部及び空軍二個中隊を増派し、同島の軍備を強化しつゝある。また汎アメリカ航空會社のマニラーシンガポール航空路の新設計畫に續いて、ハワイよりシンガポールに至る中繼點であるハワイ西南

一、〇〇〇マイルのバルミラ島を海軍の管轄に移して航空基地としたことは、英米滯三國の太平洋共同防備に關する協定の具體化と觀られ、グワム島防備増強案も再び議會に提出せんとしてゐる。

英米重慶の對日包圍陣は北方アリユーシヤン列島よりハワイ、バルミラ島、グワム、フィリピン、蘭印、シンガポール、ビルマ、香港、重慶に繋がれてゐる。シンガポールが對日包圍の重要據點として英米の共同利用に供せらるゝことは既定の事實と見なければならぬ。

重慶の協力者 ドイツのヨーロッパ大陸席巻、イギリス軍の本國への敗退、フランスの單獨降伏とドイツの壓倒的勝利は更に日獨伊三國同盟、獨ソ會談によるドイツの軍事政治經濟各分野におけるヨーロッパ制覇の確立となつたので、これに對する英米の對抗的合作はルーズヴェルトの三選以來愈その緊密の度を加へ、今やアメリカは實質的にイギリス側に立つて參戰し、その對日壓迫政策は更に強化され、英米共同の太平洋攻勢はいよいよ本格的となつた。

アメリカ國防の第一線は極東においては重慶にある。援蔣一億ドル借款の議會上程に際しモーゲンソー財務長官は『日本の南進を阻止するものは蔣政權の抗日戰である。アメリカが蔣政權に對する物的並に財的援助を強化することはその抗戰力を強大にし、間接に日本の南進政策を牽制するものである。アメリカは異常の決心をもつて援蔣借款を決行すべきである』と述べたが、ハル國

務長官は『日本がフィリピン、蘭印、南太平洋の英領各地に行動を起すことは危機を招來するものである。日本が南進してアメリカ軍需資源獲得を妨害する場合、アメリカとしては武力を行使しても斷乎これを抑壓せねばならない。したがつてアメリカの對蔣援助強化はアメリカ國防上の利益にも合致し、ある意味で太平洋上の戰爭の危機を回避せしむるのである』と更に重慶の抗戰力のアメリカ國防上における効果を一段高く評價した。次いでルーズヴェルト大統領は十二月二十九日の爐邊講話において日獨伊三國をもつて、政治哲學の上から絶對的に英米と相容れず、これら二つの國家群は地球の表面において到底兩立し得ざるものと切言し、樞軸國家を太平、大西兩洋において隣人として持つことは、あたかも銃剣を咽喉に突きつけられたやうなものであると對日壓迫の加重を力説し翌三十日、鐵、鋼鐵製品の輸出を禁止し、極東における軍備を増強し、英國と合作し重慶を連ねて對日包圍陣の強化に狂奔しつゝある。

米露間の銀購入契約 アメリカ財務省は重慶政權との間に銀塊六〇〇萬オンスの購入を契約した旨昭和十三年八月八日確認したがその買入相場は右銀塊納入時における財務省の外國銀買入價格によることになつてゐるから當時の財務省外國銀買入價格一オンス三十五セントで評價すれば、二一〇萬ドル（當時の法幣相場百元につき八ドルで換算すれば二、六二五萬元）となる。しかし右購入取極めは約一箇月以前に成立したもので同年末滿期失効